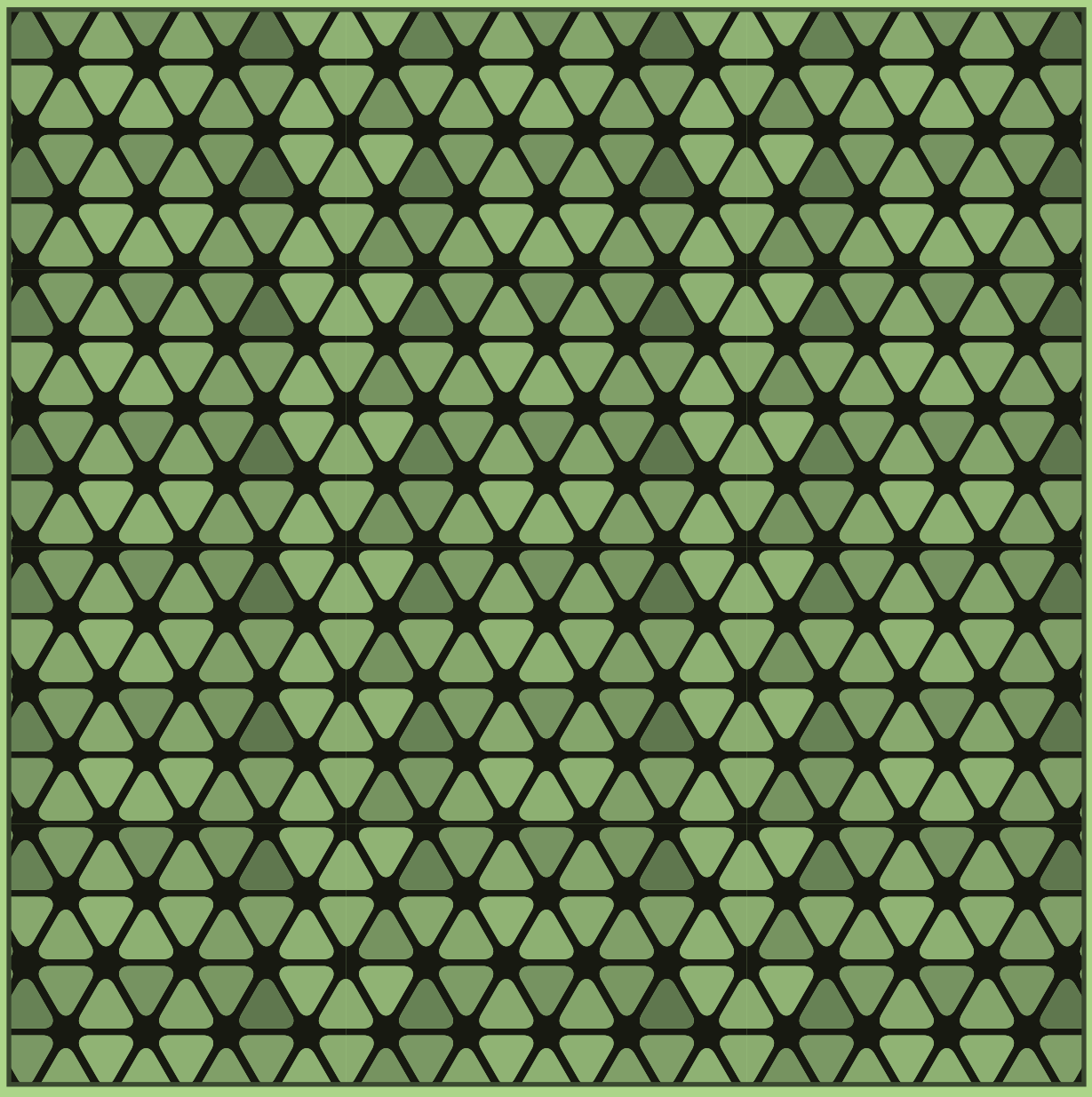
2018年度

シラバス

英語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

◆シラバスをよく読んで計画的な履修登録をしてください◆

【シラバスの見方】

1. 英語学科授業科目について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。
目次の科目は、授業科目表（学則別表）と同じ順序で掲載しています。
※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

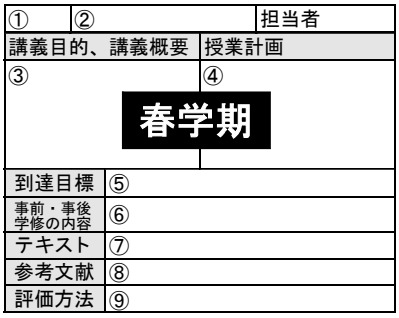
「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

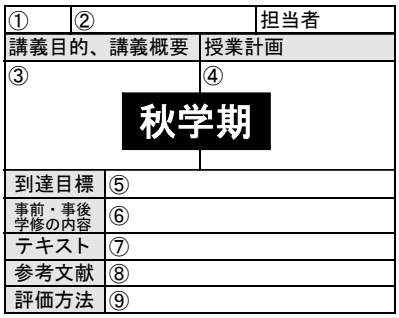
〈略称説明〉

外：外国語学部	養：国際教養学部	経：経済学部	法：法学部
独：ドイツ語学科		済：経済学科	律：法律学科
英：英語学科		営：経営学科	国：国際関係法学科
仏：フランス語学科		環：国際環境経済学科	総：総合政策学科
交：交流文化学科			免：2013年度以降入学の教職課程登録者
全：英語学科以外の全学部学科			

2. シラバスページの見方（右図参照）

①入学年度
②入学年度に対応した科目名
③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望
④学期の授業計画
各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。
授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。
⑤到達目標
⑥事前・事後学修の内容
⑦授業で使用するテキスト
⑧参考文献
⑨評価方法





3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は「授業時間割表」を参照してください。

③履修登録

オンライン登録、事前抽選、学期ごとに1回目の授業で選考または抽選を行う科目もあるので
必ずシラバス本文および「授業時間割表」で確認してください。

――― 目 次 ―――

2009～2018 年度入学者開設科目一覧表

学科基礎科目(再履修科目を含む)---------- 2
学科共通科目---------- 6
学科専門科目（16 年度以降）---------- 12
学科専門科目（15 年度以前）---------- 14

交流文化論開設科目一覧表---------- 16
外国語学部共通科目開設一覧表---------- 17
担当者別シラバス---------- 19

【参考資料】（英語レベル表）

2009 年度以降入学者				
レベル	TOEIC®	TOEFL®		実用英語技能検定
		PBT	iBT	
上級	800 点以上	520 点以上	68 点以上	準 1 級
中級	600 点以上	480 点以上	54 点以上	

履修条件で一定の英語レベルを必要とする科目は、学内で実施した TOEIC®LISTENING AND READING TEST のスコアが履修条件を満たしていれば登録可能です。
学内で実施した TOEIC® LISTENING AND READING TEST 以外のスコアを利用する場合は、既修条件を満たしていることを証明するコピーを教務課外国語学部係に提出してください。

英語学科　授業科目(2009～2018年度入学者用)

学科基礎科目

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
13年度以降	国際関係入門	金子　芳樹	春	水2	2	1	全	19
	国際関係入門	金子　芳樹	秋	水2	2	1	全	19
	国際関係入門	水本　義彦	春	火5	2	1	全	20
12年度以前	国際コミュニケーション入門	金子　芳樹	春	水2	2	1	全	19
	国際コミュニケーション入門	金子　芳樹	秋	水2	2	1	全	19
	国際コミュニケーション入門	水本　義彦	春	火5	2	1	全	20
16年度以降	メディア・コミュニケーション入門	佐々木　輝美	春	水2	2	1	全	21
	メディア・コミュニケーション入門	佐々木　輝美	秋	水2	2	1	全	21
	メディア・コミュニケーション入門	板場　良久	秋	水2	2	1	全	22
15年度以前	文化コミュニケーション入門	佐々木　輝美	春	水2	2	1	全	21
	文化コミュニケーション入門	佐々木　輝美	秋	水2	2	1	全	21
	文化コミュニケーション入門	板場　良久	秋	水2	2	1	全	22
(12年度以前 16年度以降)	英語圏の文学・文化入門	片山　亜紀	春	火2	2	1	全	23
	英語圏の文学・文化入門	上野　直子	春	木4	2	1	全	24
	英語圏の文学・文化入門	上野　直子	秋	木4	2	1	全	24
13～15年度	英語圏の文学文化入門	片山　亜紀	春	火2	2	1	全	23
	英語圏の文学文化入門	上野　直子	春	木4	2	1	全	24
	英語圏の文学文化入門	上野　直子	秋	木4	2	1	全	24
英語学入門		安井　美代子	春	火5	2	1	全	25
英語学入門		安井　美代子	秋	火5	2	1	全	25
英語学入門		小早川　暁	秋	火3	2	1	全	26
Lecture Workshop Ⅰ		各担当教員	春		2	1	全	27
Lecture Workshop Ⅱ		各担当教員	秋		2	1	全	27
Comprehensive English Ⅰ		D. ベイカー	春	火2/木5	2	1	全	28
Comprehensive English Ⅱ		D. ベイカー	秋	火2/木5	2	1	全	28
Comprehensive English Ⅰ		N. A. カナロス	春	火2/木1	2	1	全	29
Comprehensive English Ⅱ		N. A. カナロス	秋	火2/木1	2	1	全	29
Comprehensive English Ⅰ		K. エラ	春	火5/木5	2	1	全	30
Comprehensive English Ⅱ		K. エラ	秋	火5/木5	2	1	全	30
Comprehensive English Ⅰ		N. A. カナロス	春	火1/金2	2	1	全	31
Comprehensive English Ⅱ		N. A. カナロス	秋	火1/金2	2	1	全	31
Comprehensive English Ⅰ		D. M. ヴァンヴィーレン	春	月3/水3	2	1	全	32
Comprehensive English Ⅱ		D. M. ヴァンヴィーレン	秋	月3/水3	2	1	全	32
Comprehensive English Ⅰ		A. ジョーンズ	春	月4/木5	2	1	全	33
Comprehensive English Ⅱ		A. ジョーンズ	秋	月4/木5	2	1	全	33
Comprehensive English Ⅰ		J. スネール	春	火2/木1	2	1	全	34
Comprehensive English Ⅱ		J. スネール	秋	火2/木1	2	1	全	34
Comprehensive English Ⅰ		K. フォード	春	月2/金3	2	1	全	35
Comprehensive English Ⅱ		K. フォード	秋	月2/金3	2	1	全	35
Comprehensive English Ⅰ		D. M. ヴァンヴィーレン	春	火2/木5	2	1	全	36
Comprehensive English Ⅱ		D. M. ヴァンヴィーレン	秋	火2/木5	2	1	全	36
Comprehensive English Ⅰ		D. ベイカー	春	火1/木4	2	1	全	37
Comprehensive English Ⅱ		D. ベイカー	秋	火1/木4	2	1	全	37
Comprehensive English Ⅰ		C. 芦沢	春	水3/金3	2	1	全	38
Comprehensive English Ⅱ		C. 芦沢	秋	水3/金3	2	1	全	38
Comprehensive English Ⅰ		A. ジョーンズ	春	月3/木4	2	1	全	39
Comprehensive English Ⅱ		A. ジョーンズ	秋	月3/木4	2	1	全	39
Comprehensive English Ⅰ 再履修		M. L. ボイル	秋	水5/金1	2	1	全	40
Comprehensive English Ⅱ 再履修		M. L. ボイル	春	水5/金1	2	1	全	40

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

学科基礎科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Comprehensive English Ⅲ	未定	春	金1	1	2	全	41
Comprehensive English Ⅳ	未定	秋	金1	1	2	全	41
Comprehensive English Ⅲ	J. ハント	春	木5	1	2	全	42
Comprehensive English Ⅳ	J. ハント	秋	木5	1	2	全	42
Comprehensive English Ⅲ	A. マグズ	春	月4	1	2	全	43
Comprehensive English Ⅳ	A. マグズ	秋	月4	1	2	全	43
Comprehensive English Ⅲ	D. グライムズ	春	月3	1	2	全	44
Comprehensive English Ⅳ	D. グライムズ	秋	月3	1	2	全	44
Comprehensive English Ⅲ	R. ジョーンズ	春	水3	1	2	全	45
Comprehensive English Ⅳ	R. ジョーンズ	秋	水3	1	2	全	45
Comprehensive English Ⅲ	E. フランコ	春	水1	1	2	全	46
Comprehensive English Ⅳ	E. フランコ	秋	水1	1	2	全	46
Comprehensive English Ⅲ	R. ウィルコックス	春	火4	1	2	全	47
Comprehensive English Ⅳ	R. ウィルコックス	秋	火4	1	2	全	47
Comprehensive English Ⅲ	D. グライムズ	春	月4	1	2	全	48
Comprehensive English Ⅳ	D. グライムズ	秋	月4	1	2	全	48
Comprehensive English Ⅲ	R. ジョーンズ	春	水1	1	2	全	49
Comprehensive English Ⅳ	R. ジョーンズ	秋	水1	1	2	全	49
Comprehensive English Ⅲ	J. N. ウェンデル	春	月4	1	2	全	50
Comprehensive English Ⅳ	J. N. ウェンデル	秋	月4	1	2	全	50
Comprehensive English Ⅲ	P. マッケビリー	春	月4	1	2	全	51
Comprehensive English Ⅳ	P. マッケビリー	秋	月4	1	2	全	51
Comprehensive English Ⅲ	R. ダラム	春	木1	1	2	全	52
Comprehensive English Ⅳ	R. ダラム	秋	木1	1	2	全	52
Comprehensive English Ⅲ	B. D. タッチャー	春	火4	1	2	全	53
Comprehensive English Ⅳ	B. D. タッチャー	秋	火4	1	2	全	53
Comprehensive English Ⅲ	L. K. ハーキンス	春	月4	1	2	全	54
Comprehensive English Ⅳ	L. K. ハーキンス	秋	月4	1	2	全	54
Comprehensive English Ⅲ 再履修	L. K. ハーキンス	春	金1	1	2	全	55
Comprehensive English Ⅳ 再履修	L. K. ハーキンス	秋	金1	1	2	全	55
Reading Strategies Ⅰ	J. J. ダゲン	春	火3	1	1	全	56
Reading Strategies Ⅱ	J. J. ダゲン	秋	火3	1	1	全	56
Reading Strategies Ⅰ	J. N. ウェンデル	春	水1	1	1	全	57
Reading Strategies Ⅱ	J. N. ウェンデル	秋	水1	1	1	全	57
Reading Strategies Ⅰ	児嶋　一男	春	水1	1	1	全	58
Reading Strategies Ⅱ	児嶋　一男	秋	水1	1	1	全	58
Reading Strategies Ⅰ	工藤　和宏	春	水1	1	1	全	59
Reading Strategies Ⅱ	工藤　和宏	秋	水1	1	1	全	59
Reading Strategies Ⅰ	前沢　浩子	春	水1	1	1	全	60
Reading Strategies Ⅱ	前沢　浩子	秋	水1	1	1	全	60
Reading Strategies Ⅰ	青柳　真紀子	春	水1	1	1	全	61
Reading Strategies Ⅱ	青柳　真紀子	秋	水1	1	1	全	61
Reading Strategies Ⅰ	片山　亜紀	春	水1	1	1	全	62
Reading Strategies Ⅱ	片山　亜紀	秋	水1	1	1	全	62
Reading Strategies Ⅰ	佐野　康子	春	水1	1	1	全	63
Reading Strategies Ⅱ	佐野　康子	秋	水1	1	1	全	63
Reading Strategies Ⅰ	佐藤　唯行	春	水1	1	1	全	64
Reading Strategies Ⅱ	佐藤　唯行	秋	水1	1	1	全	64
Reading Strategies Ⅰ	佐々木　輝美	春	水1	1	1	全	65
Reading Strategies Ⅱ	佐々木　輝美	秋	水1	1	1	全	65
Reading Strategies Ⅰ	水本　義彦	春	水1	1	1	全	66
Reading Strategies Ⅱ	水本　義彦	秋	水1	1	1	全	66
Reading Strategies Ⅰ	浅岡　千利世	春	水1	1	1	全	67
Reading Strategies Ⅱ	浅岡　千利世	秋	水1	1	1	全	67
Reading Strategies Ⅰ 再履修	河原　宏之	春	土1	1	1	全	68
Reading Strategies Ⅰ 再履修	河原　宏之	秋	土2	1	1	全	68
Reading Strategies Ⅱ 再履修	河原　宏之	春	土2	1	1	全	69
Reading Strategies Ⅱ 再履修	河原　宏之	秋	土1	1	1	全	69

学科基礎科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Reading Strategies Ⅲ	J. J. ダゲン	春	水2	1	2	全	70
Reading Strategies Ⅳ	J. J. ダゲン	秋	水2	1	2	全	70
Reading Strategies Ⅲ	E. 本橋	春	水1	1	2	全	71
Reading Strategies Ⅳ	E. 本橋	秋	水1	1	2	全	71
Reading Strategies Ⅲ	A. ゾーリンジャー	春	水1	1	2	全	72
Reading Strategies Ⅳ	A. ゾーリンジャー	秋	水1	1	2	全	72
Reading Strategies Ⅲ	D. M. ヴァンヴィーレン	春	月4	1	2	全	73
Reading Strategies Ⅳ	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	月4	1	2	全	73
Reading Strategies Ⅲ	前沢　浩子	春	水2	1	2	全	74
Reading Strategies Ⅳ	前沢　浩子	秋	水2	1	2	全	74
Reading Strategies Ⅲ	工藤　和宏	春	水2	1	2	全	75
Reading Strategies Ⅳ	工藤　和宏	秋	水2	1	2	全	75
Reading Strategies Ⅲ	佐野　康子	春	水2	1	2	全	76
Reading Strategies Ⅳ	佐野　康子	秋	水2	1	2	全	76
Reading Strategies Ⅲ	C. 芦沢	春	水1	1	2	全	77
Reading Strategies Ⅳ	C. 芦沢	秋	水1	1	2	全	77
Reading Strategies Ⅲ	児嶋　一男	春	水2	1	2	全	78
Reading Strategies Ⅳ	児嶋　一男	秋	水2	1	2	全	78
Reading Strategies Ⅲ	上野　直子	春	水1	1	2	全	79
Reading Strategies Ⅳ	上野　直子	秋	水1	1	2	全	79
Reading Strategies Ⅲ	船越　健志	春	水1	1	2	全	80
Reading Strategies Ⅳ	船越　健志	秋	水1	1	2	全	80
Reading Strategies Ⅲ	片山　亜紀	春	水2	1	2	全	81
Reading Strategies Ⅳ	片山　亜紀	秋	水2	1	2	全	81
Reading Strategies Ⅲ	小早川　暁	春	水1	1	2	全	82
Reading Strategies Ⅳ	小早川　暁	秋	水1	1	2	全	82
Reading Strategies Ⅲ	杉山　晴信	春	水2	1	2	全	83
Reading Strategies Ⅳ	杉山　晴信	秋	水2	1	2	全	83
Reading Strategies Ⅲ 再履修	遠藤　朋之	春	木1	1	2	全	84
Reading Strategies Ⅳ 再履修	遠藤　朋之	秋	木1	1	2	全	84
Writing Skills Ⅰ	E. J. ナオウミ	春	水3	1	1	全	85
Writing Skills Ⅱ	E. J. ナオウミ	秋	水3	1	1	全	85
Writing Skills Ⅰ	E. ホフ	春	金2	1	1	全	86
Writing Skills Ⅱ	E. ホフ	秋	金2	1	1	全	86
Writing Skills Ⅰ	J. スネール	春	火1	1	1	全	87
Writing Skills Ⅱ	J. スネール	秋	火1	1	1	全	87
Writing Skills Ⅰ	J. E. マジャール	春	火2	1	1	全	88
Writing Skills Ⅱ	J. E. マジャール	秋	火2	1	1	全	88
Writing Skills Ⅰ	三吉　美加	春	月2	1	1	全	89
Writing Skills Ⅱ	三吉　美加	秋	月2	1	1	全	89
Writing Skills Ⅰ	J. スネール	春	火3	1	1	全	90
Writing Skills Ⅱ	J. スネール	秋	火3	1	1	全	90
Writing Skills Ⅰ	D. マッキー	春	木4	1	1	全	91
Writing Skills Ⅱ	D. マッキー	秋	木4	1	1	全	91
Writing Skills Ⅰ	D. マッキー	春	水4	1	1	全	92
Writing Skills Ⅱ	D. マッキー	秋	水4	1	1	全	92
Writing Skills Ⅰ	C. 芦沢	春	火2	1	1	全	93
Writing Skills Ⅱ	C. 芦沢	秋	火2	1	1	全	93
Writing Skills Ⅰ	K. ミーハン	春	月2	1	1	全	94
Writing Skills Ⅱ	K. ミーハン	秋	月2	1	1	全	94
Writing Skills Ⅰ	山中　章子	春	水3	1	1	全	95
Writing Skills Ⅱ	山中　章子	秋	水3	1	1	全	95
Writing Skills Ⅰ	D. マッキー	春	水3	1	1	全	96
Writing Skills Ⅱ	D. マッキー	秋	水3	1	1	全	96
Writing Skills Ⅰ	E. ホフ	春	金3	1	1	全	97
Writing Skills Ⅱ	E. ホフ	秋	金3	1	1	全	97
Writing Skills Ⅰ	J. E. マジャール	春	月3	1	1	全	98
Writing Skills Ⅱ	J. E. マジャール	秋	月3	1	1	全	98

学科基礎科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Writing Skills Ⅰ	P. マッケビリー	春	金2	1	1	全	99
Writing Skills Ⅱ	P. マッケビリー	秋	金2	1	1	全	99
Writing Skills Ⅰ	金谷　優子	春	火3	1	1	全	100
Writing Skills Ⅱ	金谷　優子	秋	火3	1	1	全	100
Writing Skills Ⅰ	L. K. ハーキンス	春	金2	1	1	全	101
Writing Skills Ⅱ	L. K. ハーキンス	秋	金2	1	1	全	101
Writing Skills Ⅰ	金谷　優子	春	火1	1	1	全	102
Writing Skills Ⅱ	金谷　優子	秋	火1	1	1	全	102
Writing Skills Ⅲ	K. エラ	春	木4	1	2	全	103
Writing Skills Ⅳ	K. エラ	秋	木4	1	2	全	103
Writing Skills Ⅲ	D. M. ヴァンヴィーレン	春	木4	1	2	全	104
Writing Skills Ⅳ	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	木4	1	2	全	104
Writing Skills Ⅲ	S. ペイン	春	木1	1	2	全	105
Writing Skills Ⅳ	S. ペイン	秋	木1	1	2	全	105
Writing Skills Ⅲ	S. ペイン	春	木4	1	2	全	106
Writing Skills Ⅳ	S. ペイン	秋	木4	1	2	全	106
Writing Skills Ⅲ	M. L. ボイル	春	水3	1	2	全	107
Writing Skills Ⅳ	M. L. ボイル	秋	水3	1	2	全	107
Writing Skills Ⅲ	M. L. ボイル	春	水4	1	2	全	108
Writing Skills Ⅳ	M. L. ボイル	秋	水4	1	2	全	108
Writing Skills Ⅲ	J. ハント	春	木4	1	2	全	109
Writing Skills Ⅳ	J. ハント	秋	木4	1	2	全	109
Writing Skills Ⅲ	B. D. タッチャー	春	木5	1	2	全	110
Writing Skills Ⅳ	B. D. タッチャー	秋	木5	1	2	全	110
Writing Skills Ⅲ	J. E. マジャール	春	月4	1	2	全	111
Writing Skills Ⅳ	J. E. マジャール	秋	月4	1	2	全	111
Writing Skills Ⅲ	K. ミーハン	春	月4	1	2	全	112
Writing Skills Ⅳ	K. ミーハン	秋	月4	1	2	全	112
Writing Skills Ⅲ	B. D. タッチャー	春	木4	1	2	全	113
Writing Skills Ⅳ	B. D. タッチャー	秋	木4	1	2	全	113
Writing Skills Ⅲ	E. フランコ	春	水2	1	2	全	114
Writing Skills Ⅳ	E. フランコ	秋	水2	1	2	全	114
Writing Skills Ⅲ	P. マッケビリー	春	月3	1	2	全	115
Writing Skills Ⅳ	P. マッケビリー	秋	月3	1	2	全	115
Writing Skills Ⅲ	A. マグズ	春	月3	1	2	全	116
Writing Skills Ⅳ	A. マグズ	秋	月3	1	2	全	116
Writing Skills Ⅲ	R. ジョーンズ	春	水2	1	2	全	117
Writing Skills Ⅳ	R. ジョーンズ	秋	水2	1	2	全	117
Writing Skills Ⅲ	T. ダニー	春	木5	1	2	全	118
Writing Skills Ⅳ	T. ダニー	秋	木5	1	2	全	118
Writing Skills Ⅲ	L. K. ハーキンス	春	月3	1	2	全	119
Writing Skills Ⅳ	L. K. ハーキンス	秋	月3	1	2	全	119
Writing Skills Ⅲ	A. G. ミルン	春	水5	1	2	全	120
Writing Skills Ⅳ	A. G. ミルン	秋	水5	1	2	全	120
Writing Skills Ⅲ	山中　章子	春	水4	1	2	全	121
Writing Skills Ⅳ	山中　章子	秋	水4	1	2	全	121
Writing Skills Ⅲ	A. G. ミルン	春	水4	1	2	全	122
Writing Skills Ⅳ	A. G. ミルン	秋	水4	1	2	全	122
Writing Skills Ⅲ	N. A. カナロス	春	水1	1	2	全	123
Writing Skills Ⅳ	N. A. カナロス	秋	水1	1	2	全	123
E-learning Ⅰ（1年1組～2組）	船越　健志	春	金5	1	1	全	124
E-learning Ⅱ（1年1組～2組）	船越　健志	秋	金5	1	1	全	124
E-learning Ⅰ（1年3組～12組）	安井　美代子	春	金5	1	1	全	125
E-learning Ⅱ（1年3組～12組）	安井　美代子	秋	金5	1	1	全	125
E-learning Ⅰ 再履修	安井　美代子	春	金4	1	1	全	126
E-learning Ⅱ 再履修	安井　美代子	秋	金4	1	1	全	126

学科共通科目「英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ」

科目名(副題)	担当者	開講区分	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (Cool Japan: 1900–1960 / Cool Japan: 1960–2016)	J. E. マジャール	春秋	月2	2	2	全	127
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (生成文法理論と英語統語論)	鈴木　英一	春秋	月2	2	2	全	128
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ (Readings on Japan Ⅰ / Readings on Japan Ⅱ)	N. H. ジョスト	春秋	月3	2	2	全	129
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (Exploring Language Teaching)	浅岡　千利世	春秋	月3	2	2	全	130
英語専門講読　Ⅱ (アメリカの広告概史)	板場　良久	秋	月4	2	2	全	131
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (ナーサリー・ライムズの世界)	大木　理恵子	春秋	月4	2	2	全	132
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ (戦後国際政治史)	永野　隆行	春秋	月4	2	2	全	133
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (イギリス児童文学)	前沢　浩子	春秋	月4	2	2	全	134
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (シンボルを読み解く / 表象文化のシンボルを読み解く)	三吉　美加	春秋	月4	2	2	全	135
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ (現代国際関係)	永野　隆行	春秋	月5	2	2	全	136
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む)	金谷　優子	春秋	火2	2	2	全	137
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (芝居の台本を読んで観る)	児嶋　一男	春秋	火2	2	2	全	138
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (SLA最前線)	羽山　恵	春秋	火2	2	2	全	139
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (言語研究のさまざまな知見を巡る)	青柳　真紀子	春秋	火3	2	2	全	140
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (異文化コミュニケーションの基礎 / 異文化コミュニケーションの理論)	瀬戸　千尋	春秋	火3	2	2	全	141
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (日英語の受動文の比較 / 動詞派生形容詞などについて)	安井　美代子	春秋	火3	2	2	全	142
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ (文法と文脈の関係)	大澤　舞	春秋	火4	2	2	全	143
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (現代東南アジアの政治・経済・社会)	金子　芳樹	春秋	火4	2	2	全	144
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ※ (アメリカ小説)	島田　啓一	春秋	火4	2	2	全	145
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (世界ブランドとグローバル社会)	竹田　いさみ	春秋	火4	2	2	全	146
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (比較統語論)	船越　健志	春秋	火4	2	2	全	147
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (映画『スターウォーズ』批評)	柿田　秀樹	春秋	火5	2	2	全	148
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (アジア太平洋地域の国際関係・政治経済)	金子　芳樹	春秋	水1	2	2	全	149
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (Japanese Language and Literature: Past, Present, and Future)	J. N. ウェンデル	春秋	水2	2	2	全	150
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (ディズニーと世界情勢)	竹田　いさみ	春秋	水2	2	2	全	151
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (アメリカ現代詩)	関根　路代	春秋	水3	2	2	全	152

※3・4年生対象(2年生は履修不可)

学科共通科目 「英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ」

科目名(副題)	担当者	開講区分	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (実践的な英語の聴解・発音教育)	中田 ひとみ	春秋	水4	2	2	全	153
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (国際関係論)	山越 裕太	春秋	水4	2	2	全	154
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (英国ユダヤ人史)	佐藤 唯行	春秋	木1	2	2	全	155
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ※ (Diplomacy and International Relations)	伊藤 兵馬	春秋	木2	2	2	全	156
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (国際関係)	佐野 康子	春秋	木2	2	2	全	157
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ※ (ハリウッド映画の社会学:初期からWW2まで / ハリウッド映画の社会学:20世紀後半から現在まで)	山口 誠	春秋	木2	2	2	全	158
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (Multicultural Education & Social Justice)	E. 本橋	春秋	木3	2	2	全	159
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (The History of Language)	J. J. ダゲン	春秋	木3	2	2	全	160
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ※ (ツーリズムの現状と課題 / 航空の現状と歴史)	井上 泰日子	春秋	木3	2	2	全	161
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (小さき人々の歴史―ベストセラー、Small Islandを読む)	上野 直子	春秋	木3	2	2	全	162
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (Topical Songs and Liberalism)	遠藤 朋之	春秋	木3	2	2	全	163
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (認知言語学)	小早川 暁	春秋	木3	2	2	全	164
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (通訳訓練のための原書講読)	柴原 早苗	春秋	木3	2	2	全	165
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ※ (ツーリズム研究の基礎概念)	鈴木 涼太郎	春秋	木3	2	2	全	166
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ※ (Deconstructing “Japaneseness”)	須永 和博	春秋	木3	2	2	全	167
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (21世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズ)	水本 義彦	春秋	木3	2	2	全	168
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (オーストラリアの詩)	国見 晃子	春秋	木4	2	2	全	169
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ※ (ヨーロッパをめざす移民・難民 / 移民・難民について考える)	高橋 雄一郎	春秋	木4	2	2	全	170
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (Research interviewing: Intercultural learning ‘at home’)	工藤 和宏	春秋	金1	2	2	全	171
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (Reading & Writing Stories)	片山 亜紀	春秋	金2	2	2	全	172
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	杉山 晴信	春秋	金2	2	2	全	173
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (現代イギリス小説)	東郷 公徳	春秋	金2	2	2	全	174
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (Conflict and Development)	石川 幸子	春秋	金3	2	2	全	175

※3・4年生対象(2年生は履修不可)

学科共通科目

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
2013年度以降入学者	Advanced Writing(Research)	E. J. ナオウミ	春	火2	2	3	交	176
	Advanced Writing(Research)	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	3	交	176
	Advanced Writing(Business)	D. ブラドリー	春	火3	2	3	交	177
	Advanced Writing(Business)	D. ブラドリー	秋	火3	2	3	交	177
	Advanced Writing(Research)	K. エラ	春	火4	2	3	交	178
	Advanced Writing(Research)	K. エラ	秋	火4	2	3	交	178
	Advanced Writing(Creative)	B. D. タッチャー	春	火5	2	3	交	179
	Advanced Writing(Creative)	J. J. ダゲン	秋	火5	2	3	交	180
	Advanced Writing(Creative)	E. 本橋	春	水2	2	3	交	180
	Advanced Writing(Research)	M. L. ボイル	春	金2	2	3	交	181
	Advanced Writing(Research)	M. L. ボイル	秋	金2	2	3	交	181
	Advanced Writing(Research)	A. マグズ	春	金3	2	3	交	182
	Advanced Writing(Research)	A. マグズ	秋	金3	2	3	交	182
	Advanced Writing(Research)	K. フォード	春	金4	2	3	交	183
	Advanced Writing(Research)	K. フォード	秋	金4	2	3	交	183
2012年度以前入学者	Academic Writing	E. J. ナオウミ	春	火2	2	2	交	176
	Academic Writing	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	2	交	176
	Academic Writing	D. ブラドリー	春	火3	2	2	交	177
	Academic Writing	D. ブラドリー	秋	火3	2	2	交	177
	Academic Writing	K. エラ	春	火4	2	2	交	178
	Academic Writing	K. エラ	秋	火4	2	2	交	178
	Academic Writing	B. D. タッチャー	春	火5	2	2	交	179
	Academic Writing	J. J. ダゲン	秋	火5	2	2	交	180
	Academic Writing	E. 本橋	春	水2	2	2	交	180
	Academic Writing	M. L. ボイル	春	金2	2	2	交	181
	Academic Writing	M. L. ボイル	秋	金2	2	2	交	181
	Academic Writing	A. マグズ	春	金3	2	2	交	182
	Academic Writing	A. マグズ	秋	金3	2	2	交	182
	Academic Writing	K. フォード	春	金4	2	2	交	183
	Academic Writing	K. フォード	秋	金4	2	2	交	183
College Grammar		河原　宏之	春	月3	2	2	交	184
College Grammar		河原　宏之	秋	月3	2	2	交	184
College Grammar		鈴木　英一	春	月3	2	2	交	185
College Grammar		鈴木　英一	秋	月3	2	2	交	185
College Grammar		河原　宏之	春	月5	2	2	交	186
College Grammar		河原　宏之	秋	月5	2	2	交	186
College Grammar		倉林　秀男	春	月5	2	2	交	187
College Grammar		倉林　秀男	秋	月5	2	2	交	187
College Grammar		府川　謹也	春	火3	2	2	交	188
College Grammar		府川　謹也	秋	火3	2	2	交	188
College Grammar		水口　学	春	水4	2	2	交	189
College Grammar		水口　学	秋	水4	2	2	交	189
College Grammar		水口　学	春	水5	2	2	交	190
College Grammar		水口　学	秋	水5	2	2	交	190
College Grammar		田川　憲二郎	春	金3	2	2	交	191
College Grammar		田川　憲二郎	秋	金3	2	2	交	191

学科共通科目

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
2013年度以降入学者	Communication Skills	K. フォード	春	月1	2	2	交	192
	Communication Skills	K. フォード	秋	月1	2	2	交	192
	Communication Skills	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	交	193
	Communication Skills	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	交	193
	Communication Skills	M. ダーリン	春	月3	2	2	交	194
	Communication Skills	M. ダーリン	秋	月3	2	2	交	194
	Communication Skills	R. ダラム	春	火1	2	2	交	195
	Communication Skills	R. ダラム	秋	火1	2	2	交	195
	Communication Skills	R. J. バロウズ	春	火2	2	2	交	196
	Communication Skills	R. J. バロウズ	秋	火2	2	2	交	196
	Communication Skills	B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	交	197
	Communication Skills	R. ウィルコックス	春	火5	2	2	交	198
	Communication Skills	R. ウィルコックス	秋	火5	2	2	交	198
	Communication Skills	D. M. ヴァンヴィーレン	春	水4	2	2	交	199
	Communication Skills	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	水4	2	2	交	199
	Communication Skills	J. スネール	春	木2	2	2	交	200
	Communication Skills	J. スネール	秋	木2	2	2	交	200
	Communication Skills	R. ダラム	春	木2	2	2	交	201
	Communication Skills	R. ダラム	秋	木2	2	2	交	201
	Communication Skills	R. ダラム	春	木3	2	2	交	202
	Communication Skills	R. ダラム	秋	木3	2	2	交	202
	Communication Skills	P. マッケビリー	春	金1	2	2	交	203
	Communication Skills	P. マッケビリー	秋	金1	2	2	交	203
2012年度以前入学者	Communicative English	K. フォード	春	月1	2	2	交	192
	Communicative English	K. フォード	秋	月1	2	2	交	192
	Communicative English	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	交	193
	Communicative English	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	交	193
	Communicative English	M. ダーリン	春	月3	2	2	交	194
	Communicative English	M. ダーリン	秋	月3	2	2	交	194
	Communicative English	R. ダラム	春	火1	2	2	交	195
	Communicative English	R. ダラム	秋	火1	2	2	交	195
	Communicative English	R. J. バロウズ	春	火2	2	2	交	196
	Communicative English	R. J. バロウズ	秋	火2	2	2	交	196
	Communicative English	B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	交	197
	Communicative English	R. ウィルコックス	春	火5	2	2	交	198
	Communicative English	R. ウィルコックス	秋	火5	2	2	交	198
	Communicative English	D. M. ヴァンヴィーレン	春	水4	2	2	交	199
	Communicative English	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	水4	2	2	交	199
	Communicative English	J. スネール	春	木2	2	2	交	200
	Communicative English	J. スネール	秋	木2	2	2	交	200
	Communicative English	R. ダラム	春	木2	2	2	交	201
	Communicative English	R. ダラム	秋	木2	2	2	交	201
	Communicative English	R. ダラム	春	木3	2	2	交	202
	Communicative English	R. ダラム	秋	木3	2	2	交	202
	Communicative English	P. マッケビリー	春	金1	2	2	交	203
	Communicative English	P. マッケビリー	秋	金1	2	2	交	203

学科共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Discussion	P. マッケビリー	春	月2	2	2	交	204
Discussion	P. マッケビリー	秋	月2	2	2	交	204
Discussion	L. K. ハーキンス	春	月2	2	2	交	205
Discussion	L. K. ハーキンス	秋	月2	2	2	交	205
Discussion	J. E. マジャール	春	火1	2	2	交	206
Discussion	J. E. マジャール	秋	火1	2	2	交	206
Discussion	N. H. ジョスト	春	火1	2	2	交	207
Discussion	N. H. ジョスト	秋	火1	2	2	交	207
Discussion	E. J. ナオウミ	春	水4	2	2	交	208
Discussion	E. J. ナオウミ	秋	水4	2	2	交	208
Discussion	E. フランコ	春	木2	2	2	交	209
Discussion	E. フランコ	秋	木2	2	2	交	209
Public Speaking Ⅰ	D. マッキー	春	水2	2	2	交	210
Public Speaking Ⅰ	D. マッキー	秋	水2	2	2	交	210
Public Speaking Ⅰ	J. N. ウェンデル	春	月3	2	2	交	211
Public Speaking Ⅱ	J. N. ウェンデル	秋	月3	2	2	交	211
Debate Ⅰ	N. H. ジョスト	春	月4	2	2	交	212
Debate Ⅱ	N. H. ジョスト	秋	月4	2	2	交	212
13年度以降 Academic Lecture	A. ゾーリンジャー	春	火4	2	2	交	213
13年度以降 Academic Lecture	A. ゾーリンジャー	秋	火4	2	2	交	213
13年度以降 Academic Lecture	伊藤　兵馬	春	木4	2	2	交	214
13年度以降 Academic Lecture	伊藤　兵馬	秋	木4	2	2	交	214
13年度以降 Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	春	水3	2	2	交	215
13年度以降 Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	秋	水3	2	2	交	215
13年度以降 Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	春	水5	2	2	交	216
13年度以降 Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	秋	水5	2	2	交	216
13年度以降 英語の音声	青柳　真紀子	春	火4	2	2	交	217
13年度以降 英語の音声	青柳　真紀子	秋	火4	2	2	交	217
通訳Ⅰ	柴原　早苗	春	水1	2	2	交	218
通訳Ⅰ	柴原　早苗	秋	水1	2	2	交	218
通訳Ⅰ	柴原　早苗	春	水2	2	2	交	219
通訳Ⅰ	柴原　早苗	秋	水2	2	2	交	219
通訳Ⅰ	柴原　早苗	春	木1	2	2	交	220
通訳Ⅰ	柴原　早苗	秋	木1	2	2	交	220
通訳Ⅱ	柴原　早苗	春	木2	2	2	交	221
通訳Ⅱ	柴原　早苗	秋	木2	2	2	交	221
翻訳	高田　宣子	春	火5	2	2	交	222
翻訳	高田　宣子	秋	火5	2	2	交	222
翻訳	上野　直子	秋	水2	2	2	交	223
翻訳	山中　章子	春	水5	2	2	交	224
翻訳	山中　章子	秋	水5	2	2	交	224
翻訳	柴田　耕太郎	春	木3	2	2	交	225
翻訳	柴田　耕太郎	秋	木3	2	2	交	225
翻訳	柴田　耕太郎	春	木4	2	2	交	226
翻訳	柴田　耕太郎	秋	木4	2	2	交	226
翻訳	P. ネルム	春	水4	2	2	交	227
翻訳	P. ネルム	秋	水2	2	2	交	227
翻訳	白川　貴子	春	水3	2	2	交	228
翻訳	白川　貴子	秋	水3	2	2	交	228

学科共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	春	水3	2	2	交・経	229
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	秋	水3	2	2	交・経	229
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	春	水4	2	2	交・経	230
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	秋	水4	2	2	交・経	230
英語ビジネス・コミュニケーション	土川　孝	春	木1	2	2	交・経	231
英語ビジネス・コミュニケーション	土川　孝	秋	木1	2	2	交・経	231
英語ビジネス・コミュニケーション	土川　孝	春	木2	2	2	交・経	232
英語ビジネス・コミュニケーション	土川　孝	秋	木2	2	2	交・経	232
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	春	木3	2	2	交・経	233
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	秋	木3	2	2	交・経	233
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	春	木4	2	2	交・経	234
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	秋	木4	2	2	交・経	234
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山　晴信	春	金1	2	3	交・経	235
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山　晴信	秋	金1	2	3	交・経	235
メディア英語Ⅰ	A. R. ファルヴォ	春	月3	2	2	交	236
メディア英語Ⅰ	A. R. ファルヴォ	秋	月3	2	2	交	236
メディア英語Ⅰ	A. ジェネス	春	月4	2	2	交	237
メディア英語Ⅰ	関根　路代	春	水2	2	2	交	238
メディア英語Ⅰ	国見　晃子	春	木2	2	2	交	239
メディア英語Ⅰ	国見　晃子	秋	木2	2	2	交	239
メディア英語Ⅰ	土川　孝	春	木3	2	2	交	240
メディア英語Ⅰ	土川　孝	秋	木3	2	2	交	240
メディア英語Ⅰ	P. ネルム	春	金1	2	2	交	241
メディア英語Ⅰ	P. ネルム	秋	金1	2	2	交	241
メディア英語Ⅰ	P. ネルム	秋	金2	2	2	交	242
メディア英語Ⅱ	A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2	交	243
メディア英語Ⅱ	A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2	交	243
メディア英語Ⅱ	関根　路代	秋	水2	2	2	交	244
メディア英語Ⅱ	P. ネルム	春	金2	2	2	交	245
メディア英語Ⅱ	東郷　公徳	秋	金3	2	2	交	245
シネマ英語	A. ジェネス	春	月2	2	2	交	246
シネマ英語	高田　宣子	春	火3	2	2	交	247
シネマ英語	高田　宣子	秋	火3	2	2	交	247
シネマ英語	高田　宣子	春	火4	2	2	交	248
シネマ英語	高田　宣子	秋	火4	2	2	交	248
シネマ英語	国見　晃子	春	木3	2	2	交	249
シネマ英語	国見　晃子	秋	木3	2	2	交	249

学科専門科目（16年度以降）

コース横断科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
国際ツーリズム論	鈴木　涼太郎	春	木4	2	2	全	250
国際ツーリズム各論	増田　由香子	秋	水3	2	2	全	250
世界ブランド論	水本　義彦	秋	水3	2	2	全	251
ポップカルチャー・スタディーズ	大木　理恵子	春	月1	2	2	全	252
フィルム・スタディーズ	大木　理恵子	秋	月1	2	2	全	252
ステージ・パフォーマンス	児嶋　一男	春	月2	2	2	全	253
海外留学と国際理解	工藤　和宏	春	火4	2	2	全	254
Global Studies 1	E. ホフ	秋	金4	2	2	全	255
Global Studies 2	工藤　和宏	秋	月4	2	2	全	256

グローバル社会

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
グローバル社会論a	竹田　いさみ	春	火3	2	2	交	257
グローバル社会論a	竹田　いさみ	秋	火3	2	2	交	257
グローバル社会論b	水本　義彦	春	火3	2	2	交	258
グローバル社会論b	水本　義彦	秋	火3	2	2	交	258
英語圏の国際関係a	永野　隆行	春	月2	2	2	交・法	259
英語圏の国際関係b	永野　隆行	秋	月2	2	2	交・法	259
グローバル・ヒストリーa	水本　義彦	春	木2	2	2	交	260
グローバル・ヒストリーb	水本　義彦	秋	木2	2	2	交	260
国際開発論（世界のエアライン・ホテル）	竹田　いさみ	春	月3	2	2	交	261
国際協力論	金子　芳樹	春	火2	2	2	交	262
国際交流論	石川　幸子	春	金2	2	2	交	263
国際NGO・ボランティア論	金子　芳樹	秋	火2	2	2	交	264
国際リスク・海洋論（ディズニー映画）	竹田　いさみ	秋	月3	2	2	交	265
国際関係特殊講義a	永野　隆行	春	火1	2	2	交13以降	266
国際関係特殊講義b	石川　幸子	秋	金2	2	2	交13以降	266
国際関係特殊講義b	佐野　康子	秋	木3	2	2	交13以降	267
国際関係文献セミナーa	佐野　康子	春	木3	2	3		268
国際関係文献セミナーa	石川　幸子	春	金4	2	3		269
国際関係文献セミナーb	石川　幸子	秋	金4	2	3		269

メディア・コミュニケーション

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
異文化コミュニケーション論	佐々木　輝美	春	金5	2	2	養	270
異文化コミュニケーション論	佐々木　輝美	秋	月5	2	2	養	270
メディア文化論	松本　健太郎	春	金5	2	2	養	271
メディア文化論	板場　良久	秋	月5	2	2	養	271
メディア・スタディーズ	佐々木　輝美	秋	木2	2	2		272
イメージ文化論	松本　健太郎	秋	金5	2	2		273
コミュニケーション論	柿田　秀樹	秋	火4	2	2		274
視覚コミュニケーション論	柿田　秀樹	春	火4	2	2		274
マス・コミュニケーション論	佐々木　輝美	春	木2	2	2		272
スピーチ・コミュニケーション論	板場　良久	秋	水1	2	2		275
コミュニケーション論特殊講義a	柿田　秀樹	春	木3	2	2		276
コミュニケーション論特殊講義a	松本　健太郎	春	金3	2	2		277
コミュニケーション論特殊講義b	柿田　秀樹	秋	木3	2	2		276
コミュニケーション論特殊講義b	松本　健太郎	秋	金3	2	2		277
コミュニケーション論文献セミナーa	柿田　秀樹	春	水2	2	3		278
コミュニケーション論文献セミナーa	松本　健太郎	春	金4	2	3		279
コミュニケーション論文献セミナーb	柿田　秀樹	秋	水2	2	3		278
コミュニケーション論文献セミナーb	松本　健太郎	秋	金4	2	3		279

学科専門科目（16年度以降）

文学・文化・歴史

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語圏の文学・文化a	前沢　浩子	春	火1	2	2		280
英語圏の文学・文化b	児嶋　一男	秋	火1	2	2		280
英語圏の文学・文化・批評a	上野　直子	春	水2	2	2		281
英語圏の文学・文化・批評a	高橋　雄一郎	春	金2	2	2		282
英語圏の文学・文化・批評b	児嶋　一男	秋	月2	2	2		283
英語圏の社会・思想・歴史a	片山　亜紀	春	火4	2	2		284
英語圏の社会・思想・歴史b	前沢　浩子	秋	月2	2	2		284
英語圏の社会・思想・歴史b	佐藤　唯行	秋	火2	2	2		285
英語圏のエリア・スタディーズ a	佐藤　唯行	春	火2	2	2	交	286
英語圏のエリア・スタディーズ b	P. ネルム	秋	水4	2	2	交	286
英語圏の文学・文化特殊講義 a	島田　啓一	春	木3	2	2		287
英語圏の文学・文化特殊講義 b	片山　亜紀	秋	火4	2	2		287
英語圏の文学・文化文献セミナーa	東郷　公徳	春	金3	2	3		288
英語圏の文学・文化文献セミナーb	島田　啓一	秋	木3	2	3		288

言語・教育

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
言語学の世界	小早川　暁	春	火5	2	2	交	289
言語学の世界	小早川　暁	秋	火5	2	2	交	289
コーパス言語学a	羽山　恵	春	木2	2	2	独・仏・交	290
コーパス言語学b	羽山　恵	秋	木2	2	2	独・仏・交	290
英語教育研究	羽山　恵	春	火3	2	2		291
英語教育教材論	E. 本橋	秋	火4	2	2		291
音声・音韻論a	青柳　真紀子	春	木3	2	2		292
音声・音韻論b	青柳　真紀子	秋	木3	2	2		292
シンタクスa	船越　健志	春	金4	2	2		293
シンタクスb	船越　健志	秋	金4	2	2		293
意味論a	小早川　暁	春	木4	2	2		294
意味論b	小早川　暁	秋	木4	2	2		297
言語・教育特殊講義a	小早川　暁	春	火4	2	2		295
言語・教育特殊講義a	安井　美代子	春	金3	2	2		296
言語・教育特殊講義b	小早川　暁	秋	火4	2	2		295
言語・教育特殊講義b	安井　美代子	秋	金3	2	2		296
言語・教育文献セミナーa	船越　健志	春	火5	2	3		297
言語・教育文献セミナーb	船越　健志	秋	火5	2	3		297

学科専門科目（15年度以前）

言語コミュニケーション（12年度以前）／言語（13年度以降）

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	英語学の世界	小早川　暁	春	火5	2	2	交	289
	英語学の世界	小早川　暁	秋	火5	2	2	交	289
	言語情報処理Ⅰa	羽山　恵	春	木2	2	2	独・仏・交	290
	言語情報処理Ⅰb	羽山　恵	秋	木2	2	2	独・仏・交	290
	音声・音韻論a	青柳　真紀子	春	木3	2	2		292
	音声・音韻論b	青柳　真紀子	秋	木3	2	2		292
	シンタクスa	船越　健志	春	金4	2	2		293
	シンタクスb	船越　健志	秋	金4	2	2		293
	意味論a	小早川　暁	春	木4	2	2		294
	意味論b	小早川　暁	秋	木4	2	2		294
	英語学特殊講義a	小早川　暁	春	火4	2	2		295
	英語学特殊講義a	安井　美代子	春	金3	2	2		296
	英語学特殊講義b	小早川　暁	秋	火4	2	2		295
	英語学特殊講義b	安井　美代子	秋	金3	2	2		296
以降13年度	英語学文献セミナーa	船越　健志	春	火5	2	3		297
以降13年度	英語学文献セミナーb	船越　健志	秋	火5	2	3		297
以前12年度	英語学文献研究a	船越　健志	春	火5	2	3		297
以前12年度	英語学文献研究b	船越　健志	秋	火5	2	3		297

文学コミュニケーション（12年度以前）／文学文化（13年度以降）

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
13年度以降	英語圏の文学・文化a	前沢　浩子	春	火1	2	2		280
13年度以降	英語圏の文学・文化b	児嶋　一男	秋	火1	2	2		280
13年度以降	英語圏の文学・文化・批評a	上野　直子	春	水2	2	2		281
13年度以降	英語圏の文学・文化・批評a	高橋　雄一郎	春	金2	2	2		282
13年度以降	英語圏の文学・文化・批評b	児嶋　一男	秋	月2	2	2		283
13年度以降	英語圏の社会・思想・歴史a	片山　亜紀	春	火4	2	2		284
13年度以降	英語圏の社会・思想・歴史b	前沢　浩子	秋	月2	2	2		284
13年度以降	英語圏の社会・思想・歴史b	佐藤　唯行	秋	火2	2	2		285
12年度以前	英語圏の文学・文化	前沢　浩子	春	火1	2	2		280
12年度以前	英語圏の文学・文化	児嶋　一男	秋	火1	2	2		280
12年度以前	英語圏の小説 a	上野　直子	春	水2	2	2		281
12年度以前	英語圏の小説 a	高橋　雄一郎	春	金2	2	2		282
12年度以前	英語圏の演劇 b	児嶋　一男	秋	月2	2	2		283
12年度以前	英語圏の社会と思想 a	片山　亜紀	春	火4	2	2		284
12年度以前	英語圏の社会と思想 b	前沢　浩子	秋	月2	2	2		284
12年度以前	英語圏の歴史 b	佐藤　唯行	秋	火2	2	2		285
	英語圏のエリア・スタディーズ a	佐藤　唯行	春	火2	2	2	交	286
	英語圏のエリア・スタディーズ b	P. ネルム	秋	水4	2	2	交	286
	英語圏の文学・文化特殊講義 a	島田　啓一	春	木3	2	2		287
	英語圏の文学・文化特殊講義 b	片山　亜紀	秋	火4	2	2		287
以降13年度	英語圏の文学・文化文献セミナーa	東郷　公徳	春	金3	2	3		288
以降13年度	英語圏の文学・文化文献セミナーb	島田　啓一	秋	木3	2	3		288
以前12年度	英語圏の文学・文化文献研究 a	東郷　公徳	春	金3	2	3		288
以前12年度	英語圏の文学・文化文献研究 b	島田　啓一	秋	木3	2	3		288

学科専門科目（15年度以前）

異文化コミュニケーション（12年度以前）／文化コミュニケーション（13年度以降）

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	異文化間コミュニケーション論a	佐々木　輝美	春	金5	2	2	養	270
	異文化間コミュニケーション論a	佐々木　輝美	秋	月5	2	2	養	270
	異文化間コミュニケーション論b	松本　健太郎	春	金5	2	2	養	271
	異文化間コミュニケーション論b	板場　良久	秋	月5	2	2	養	271
	メディア・コミュニケーション論a	佐々木　輝美	春	木2	2	2		272
	メディア・コミュニケーション論b	佐々木　輝美	秋	木2	2	2		272
	スピーチ・コミュニケーション論a	柿田　秀樹	春	火4	2	2		274
	スピーチ・コミュニケーション論b	柿田　秀樹	秋	火4	2	2		274
	スピーチ・コミュニケーション論b	板場　良久	秋	水1	2	2		275
	スピーチ・コミュニケーション論a	松本　健太郎	秋	金5	2	2		273
	コミュニケーション論特殊講義a	大木　理恵子	春	月1	2	2		252
	コミュニケーション論特殊講義a	柿田　秀樹	春	木3	2	2		276
	コミュニケーション論特殊講義a	松本　健太郎	春	金3	2	2		277
	コミュニケーション論特殊講義b	大木　理恵子	秋	月1	2	2		252
	コミュニケーション論特殊講義b	柿田　秀樹	秋	木3	2	2		276
	コミュニケーション論特殊講義b	松本　健太郎	秋	金3	2	2		277
13年度以降	コミュニケーション論文献セミナーa	柿田　秀樹	春	水2	2	3		278
13年度以降	コミュニケーション論文献セミナーa	松本　健太郎	春	金4	2	3		279
13年度以降	コミュニケーション論文献セミナーb	柿田　秀樹	秋	水2	2	3		278
13年度以降	コミュニケーション論文献セミナーb	松本　健太郎	秋	金4	2	3		279
12年度以前	コミュニケーション論文献研究a	柿田　秀樹	春	水2	2	3		278
12年度以前	コミュニケーション論文献研究a	松本　健太郎	春	金4	2	3		279
12年度以前	コミュニケーション論文献研究b	柿田　秀樹	秋	水2	2	3		278
12年度以前	コミュニケーション論文献研究b	松本　健太郎	秋	金4	2	3		279

国際コミュニケーション（12年度以前）／国際関係（13年度以降）

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	グローバル社会論a	竹田　いさみ	春	火3	2	2	交	257
	グローバル社会論a	竹田　いさみ	秋	火3	2	2	交	257
	グローバル社会論b	水本　義彦	春	火3	2	2	交	258
	グローバル社会論b	水本　義彦	秋	火3	2	2	交	258
	英語圏の国際関係a	永野　隆行	春	月2	2	2	交・法	259
	英語圏の国際関係b	永野　隆行	秋	月2	2	2	交・法	259
	グローバル・ヒストリーa（2013年度以降入学者）	水本　義彦	春	木2	2	2	交	260
	グローバル・ヒストリーb（2013年度以降入学者）	水本　義彦	秋	木2	2	2	交	260
	国際開発論（世界のエアライン・ホテル）	竹田　いさみ	春	月3	2	2	交	261
	国際協力論	金子　芳樹	春	火2	2	2	交	262
	国際交流論	石川　幸子	春	金2	2	2	交	263
	国際ツーリズム論	鈴木　涼太郎	春	木4	2	2	交	250
	国際NGO・ボランティア論	金子　芳樹	秋	火2	2	2	交	264
	国際リスク・海洋論（ディズニー映画）（2013年度以降入学者）	竹田　いさみ	秋	月3	2	2	交	265
	国際関係特殊講義a	永野　隆行	春	火1	2	2	交 13以降	266
	国際関係特殊講義a（2012年度以降入学者、重複履修不可）	水本　義彦	春	木2	2	2	交 13以降	260
	国際関係特殊講義b（2012年度以降入学者、重複履修不可）	水本　義彦	秋	木2	2	2	交 13以降	260
	国際関係特殊講義b（2012年度以降入学者、重複履修不可）	竹田　いさみ	秋	月3	2	2	交 13以降	265
	国際関係特殊講義b	石川　幸子	秋	金2	2	2	交 13以降	266
	国際関係特殊講義b	佐野　康子	秋	木3	2	2	交 13以降	267
13年度以降	国際関係文献セミナーa	佐野　康子	春	木3	2	3	交 13以降	268
13年度以降	国際関係文献セミナーa	石川　幸子	春	金4	2	3	交 13以降	269
13年度以降	国際関係文献セミナーb	石川　幸子	秋	金4	2	3	交 13以降	269
12年度以前	国際関係文献研究a	佐野　康子	春	木3	2	3		268
12年度以前	国際関係文献研究a	石川　幸子	春	金4	2	3		269
12年度以前	国際関係文献研究b	石川　幸子	秋	金4	2	3		269

特別セミナー（15年度以前）

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
特別セミナー（国際ツーリズム各論）	増田　由香子	秋	水3	2	2	全	250
特別セミナー（世界ブランド論）	水本　義彦	秋	水3	2	2	全	251
特別セミナー（ステージ・パフォーマンス）	児嶋　一男	春	月2	2	2	全	253
特別セミナー（海外留学と国際理解）	工藤　和宏	春	火4	2	2	全	254
特別セミナー（Global Studies1）	E. ホフ	秋	金4	2	2	全	255
特別セミナー（Global Studies2）	工藤　和宏	秋	月4	2	2	全	256

交流文化論

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
交流文化論(航空産業論)	井上　泰日子	春	月3	2	2	交・養・経・法	299
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (紛争事例から学ぶ旅行契約法入門))【2013年度以降入学者】	花本　広志	春	月3	2	2	交・養・経・法	300
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	鈴木　涼太郎	春	火3	2	2	交・養・経・法	301
交流文化論(フィールドワーク論)	須永　和博	春	水2	2	2	独・仏・交・養・経・法	302
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバリゼーションと子ども))【2013年度以降入学者】	堀　芳枝	春	水2	2	2	交・養・経・法	303
交流文化論(トランスナショナル・メディア論)	山口　誠	春	木1	2	2	交・養・経・法	304
交流文化論(表象文化論)	高橋　雄一郎	春	木2	2	2	交・養・経・法	305
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永　和博	春	木4	2	2	交・養・経・法	306
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義(東南アジアの ナショナリズム、民主主義と平和))【2013年度以降入学者】	堀　芳枝	春	金1	2	2	交・養・経・法	307
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	井上　泰日子	秋	月1	2	2	交・養・経・法	308
交流文化論(ツーリズム政策論)	井上　泰日子	秋	月3	2	2	交・養・経・法	309
交流文化論(ツーリズム文化論)	鈴木　涼太郎	秋	火3	2	2	交・養・経・法	310
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (移民・難民と日本社会))【2013年度以降入学者】	高橋　雄一郎	秋	火4	2	2	独・仏・交・養・経・法	311
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (ツーリズム地誌論))【2013年度以降入学者】 交流文化論(ツーリズム地誌論)	須永　和博	秋	水2	2	2	独・仏・交・養・経・法	312
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバル経済とジェンダー))【2013年度以降入学者】	堀　芳枝	秋	水2	2	2	交・養・経・法	313
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (交流文化の思想を読み解く))【2013年度以降入学者】	山口　誠	秋	水2	2	2	独・仏・交・養・経・法	314
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (「観る」ことの文化史))【2013年度以降入学者】	山口　誠	秋	木1	2	2	交・養・経・法	315
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (パフォーマンス研究))【2013年度以降入学者】 交流文化論(パフォーマンス研究)【2012年度以前入学者】	高橋　雄一郎	秋	木2	2	2	独・仏・交・養・経・法	316
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (シティズンシップ教育論))【2013年度以降入学者】	花本　広志	秋	木3	2	2	交・養・経・法	317
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	井上　泰日子	秋	木4	2	2	交・養・経・法	318
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永　和博	秋	木4	2	2	交・養・経・法	319
交流文化論(食の文化論)	中野　美季	秋	木4	2	2	交・養・経・法	320
交流文化論(地域開発論)【2013年度以降入学者】 交流文化論(市民参加のまちづくり論)【2012年度以前入学者】	中野　美季	秋	木5	2	2	交・養・経・法	321
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (ツーリズム・メディア論))【2013年度以降入学者】 交流文化論(ツーリズム・メディア論)【2012年度以前入学者】	山口　誠	秋	金1	2	2	交・養・経・法	322

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
総合講座	柿田　秀樹	春	水3	2	1	養・経・法	323
総合講座	A. ゾーリンジャー	秋	水3	2	1	養・経・法	323
総合講座	木村　佐千子	春	火3	2	1	養・経・法	324
総合講座	木村　佐千子	秋	火3	2	1	養・経・法	324
情報科学概論a	呉　浩東	春	月2	2	1	養・経・法	325
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						326～328
(情報処理演習)[総合]	金子　憲一	春	月3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	金子　憲一	春	月4	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	金子　憲一	春	木3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	黄　海湘	春	金1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	黄　海湘	秋	金1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	木1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井　満	春	木2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	金2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	木1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井　満	秋	木2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	金2	2	1	養・経・法	
(応用)情報科学各論	各担当教員						329～332
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山　恵美子	秋	月2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子　憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子　憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山　恵美子	春	月1	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山　恵美子	秋	月1	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子　憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子　憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山　恵美子	春	月2	2	1	養・経・法	
(Office中級)	休講						
(HTML)情報科学各論	各担当教員						333～334
(HTML初級)	金子　憲一	春	月5	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子　憲一	春	木4	2	1	養・経・法	
(HTML中級)	金子　憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	
経済原論a	野村　容康	春	木3	2	2	養・経・法	335
経済原論b	野村　容康	秋	木3	2	2	養・経・法	335
社会心理学a	樋口　匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	336
社会心理学b	樋口　匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	336
社会心理学b	樋口　匡貴	秋	金3	2	2	養・経・法	337

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。
※「情報科学各論(情報処理演習)」は言語が異なる場合でも重複履修はできません。

英語学科シラバス

13 年度以降 12 年度以前	国際関係入門 国際コミュニケーション入門	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の背景・構造・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」（視点と判断力）を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。 講義は大きく分けて、「国際社会とは〈なに？〉を問う」(第２～５週)と「国際社会の〈なぜ？〉を解く」（第６～11）「国際社会の〈どうすれば？〉を考える」（第 12～第 15 週）の３つのシリーズから構成されます（右の授業計画参照）。 この授業では、２年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、国際コミュニケーション・コースではどのような勉強をするのかをイメージできるよう考慮しながら進めます。 なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。	１．イントロダクション：国際社会、国際関係 〈国際社会とは「なに？」を問う〉 ２．国家とはなにか　国際社会とはなにか ３．リアリズムとはなにか？　リベラリズムとは ４．冷戦時代とはなにか？　ポスト冷戦時代とは ５．グローバル化とはなにか？ 〈国際社会の「なぜ？」を解く〉 ６．北朝鮮（1）：北朝鮮がミサイル開発を進めるのはなぜ ７．北朝鮮（2）：国民は独裁政権をなぜ倒さ(せ)ない ８．テロ（1）：テロが増え続けるのはなぜ ９．テロ（2）：イスラム過激派のテロはなぜ起こる 10．中国（1）：中国は大国になった(なれた)のはなぜ 11．中国（2）：「一帯一路」は途上国になぜ支持される 〈国際社会の「どうすれば？」を考える〉 12．環境：どうすれば地球環境を守れるか 13．格差：格差をなくすにはどうすればよいか 14．国際協力：どうすれば効果的な国際協力ができるか 15．開発援助：途上国を支援するにはどうするのがよいか

到達目標	国際社会で起こっている様々な出来事の基本的な構造、背景、影響などを理解し、分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるので、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。
テキスト	授業ごとに配布するレジュメ資料を使用します。特定の文献をテキストとして指定することはしません。
参考文献	長谷川雄一・金子芳樹『現代の国際政治（第３版)』ミネルヴァ書房。他は授業の中で適宜紹介します。
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。

13 年度以降 12 年度以前	国際関係入門 国際コミュニケーション入門	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の背景・構造・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」（視点と判断力）を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。 講義は大きく分けて、「国際社会とは〈なに？〉を問う」(第２～５週)と「国際社会の〈なぜ？〉を解く」（第６～11）「国際社会の〈どうすれば？〉を考える」（第 12～第 15 週）の３つのシリーズから構成されます（右の授業計画参照）。 この授業では、２年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、国際コミュニケーション・コースではどのような勉強をするのかをイメージできるよう考慮しながら進めます。 なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。	１．イントロダクション：国際社会、国際関係 〈国際社会とは「なに？」を問う〉 ２．国家とはなにか　国際社会とはなにか ３．リアリズムとはなにか？　リベラリズムとは ４．冷戦時代とはなにか？　ポスト冷戦時代とは ５．グローバル化とはなにか？ 〈国際社会の「なぜ？」を解く〉 ６．北朝鮮（1）：北朝鮮がミサイル開発を進めるのはなぜ ７．北朝鮮（2）：国民は独裁政権をなぜ倒さ(せ)ない ８．テロ（1）：テロが増え続けるのはなぜ ９．テロ（2）：イスラム過激派のテロはなぜ起こる 10．中国（1）：中国は大国になった(なれた)のはなぜ 11．中国（2）：「一帯一路」は途上国になぜ支持される 〈国際社会の「どうすれば？」を考える〉 12．環境：どうすれば地球環境を守れるか 13．格差：格差をなくすにはどうすればよいか 14．国際協力：どうすれば効果的な国際協力ができるか 15．開発援助：途上国を支援するにはどうするのがよいか

到達目標	国際社会で起こっている様々な出来事の基本的な構造、背景、影響などを理解し、分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるので、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。
テキスト	授業ごとに配布するレジュメ資料を使用します。特定の文献をテキストとして指定することはしません。
参考文献	長谷川雄一・金子芳樹『現代の国際政治（第３版)』ミネルヴァ書房。他は授業の中で適宜紹介します。
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。

13 年度以降 12 年度以前	国際関係入門 国際コミュニケーション入門	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、入門科目として国際関係論の基礎的な概念、分析枠組み（国際関係の見方）を習得し、現代の国際社会がどのように成り立ち、どのような問題を抱え、対処しているかを理解することを目的とする。2年次以降の国際関係関連科目を理解する上で必須の基礎的知識の習得に努める。講義では、毎回要点をまとめたレジュメを配布し、それに沿って講義を進めていく。春セメスターの前半では、概念的な事柄について講義し、国際関係の3つの分析枠組みを紹介する。後半では、今日のグルーバル・イシューズと呼ばれる諸問題をいくつか取り上げ、具体的に検討していく計画である。上記の内容に加えて、講義の冒頭で「今週の国際ニュース」と題して時事問題を紹介し、概念（分析枠組み）と現実の国際問題との関連を意識できるように努める。	1　はじめに　国際関係を学ぶ意義 2　国際関係の三つの見方（分析枠組み） 3　リアリズム（1）：国益、権力闘争、戦争 4　リアリズム（2）：アナーキー、勢力均衡 5　リベラリズム（1）：利益の共有、協調 6　リベラリズム（2）：相互依存、国際レジーム 7　マルキシズム（1）：支配と従属、搾取、格差 8　マルキシズム（2）：従属論、世界システム論 9　中間のまとめ：三つの枠組みの比較 10　グローバル・イシューズとは何か？ 11　グローバル・イシューズ（1）テロ、大量破壊兵器 12　グローバル・イシューズ（2）地球環境問題 13　グローバル・イシューズ（3）紛争と平和構築 14　グローバル・イシューズ（4）難民、国内避難民 15　まとめ

到達目標	国際社会で起こっている様々な出来事の基本的な構造、背景、影響などを理解し、分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の講読
テキスト	指定しない。
参考文献	初回の講義で参考文献リストを配布する。
評価方法	コメント点 20%、試験 80%

16 年度以降 15 年度以前	メディア・コミュニケーション入門 文化コミュニケーション入門	担当者	佐々木　輝美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：目的１：コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を説明することができる。 目的２：文化･社会の多様性を学び、その学びに基づいた適切なコミュニケーションができる。 講義概要：この授業では、最初にコミュニケーションが静的なものではなく動的でダイナミックなものであることを学ぶ。その後、コミュニケーション、および文化の要素にはどのようなものがあるか、そしてコミュニケーションと文化はどのように関係するかについて学ぶ。さらに、本講義の後半では、コミュニケーションによって行動が変わるということはどういうことか、メディアにはどのような影響力があるか、イノベーション(技術革新)が文化を超えてどのように人々に伝わるのかについて学び、最後にコミュニケーションの研究方法について学ぶ。	1.授業の概要とねらい、グループ分け 2.コミュニケーション・プロセスの概念について 3.コミュニケーションの要素：送り手と受け手 4.コミュニケーションの要素：メッセージとメディア 5.コミュニケーションと文化：文化の定義と多様性 6.コミュニケーションと文化：カルチャーショックと適応 7.【日米表現比較DVD内容の分析（小レポート①)】 8. コミュニケーションと態度変容 9. メディアの影響力：メディアと人間の行動に変化 10. メディアの影響力：メディアが効果を発揮する諸条件 11.【メディアが社会を変えたDVD内容の分析（小レポート②)】 12. イノベーションの普及コミュニケーション:メディアの役割 13. イノベーションの普及コミュニケーション：文化的要因 14. コミュニケーションの研究方法論について 15. まとめ

到達目標	基礎的なコミュニケーション論、および、文化とコミュニケーションの関係性を理解し、分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	用語や概念を沢山紹介するのでそれらを使ってミニエッセイが書けるよう事前事後の準備を行うこと
テキスト	テキスト：授業時に資料を配布
参考文献	参考文献：バーロー著,布留武郎他訳『コミュニケーション・プロセス』共同出版,1972. 岡田篤郎他著『マス・コミュニケーション効果研究の展開』北樹出版,2003.
評価方法	授業中の学習活動への参加 20%、小レポート 20%、最終レポート 60%

16 年度以降 15 年度以前	メディア・コミュニケーション入門 文化コミュニケーション入門	担当者	佐々木　輝美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：目的１：コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を説明することができる。 目的２：文化･社会の多様性を学び、その学びに基づいた適切なコミュニケーションができる。 講義概要：この授業では、最初にコミュニケーションが静的なものではなく動的でダイナミックなものであることを学ぶ。その後、コミュニケーション、および文化の要素にはどのようなものがあるか、そしてコミュニケーションと文化はどのように関係するかについて学ぶ。さらに、本講義の後半では、コミュニケーションによって行動が変わるということはどういうことか、メディアにはどのような影響力があるか、イノベーション(技術革新)が文化を超えてどのように人々に伝わるのかについて学び、最後にコミュニケーションの研究方法について学ぶ。	1.授業の概要とねらい、グループ分け 2.コミュニケーション・プロセスの概念について 3.コミュニケーションの要素：送り手と受け手 4.コミュニケーションの要素：メッセージとメディア 5.コミュニケーションと文化：文化の定義と多様性 6.コミュニケーションと文化：カルチャーショックと適応 7.【日米表現比較DVD内容の分析（小レポート①)】 8. コミュニケーションと態度変容 9. メディアの影響力：メディアと人間の行動に変化 10. メディアの影響力：メディアが効果を発揮する諸条件 11.【メディアが社会を変えたDVD内容の分析（小レポート②)】 12. イノベーションの普及コミュニケーション:メディアの役割 13. イノベーションの普及コミュニケーション：文化的要因 14. コミュニケーションの研究方法論について 15. まとめ

到達目標	基礎的なコミュニケーション論、および、文化とコミュニケーションの関係性を理解し、分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	用語や概念を沢山紹介するのでそれらを使ってミニエッセイが書けるよう事前事後の準備を行うこと
テキスト	テキスト：授業時に資料を配布
参考文献	参考文献：バーロー著,布留武郎他訳『コミュニケーション・プロセス』共同出版,1972. 岡田篤郎他著『マス・コミュニケーション効果研究の展開』北樹出版,2003.
評価方法	授業中の学習活動への参加 20%、小レポート 20%、最終レポート 60%

16 年度以降 15 年度以前	メディア・コミュニケーション入門 文化コミュニケーション入門	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
大学で学ぶメディアやコミュニケーションの深い理解とは、まず、これまでの自分の考えや一般論の問い直しから始まります。この講義では、文化研究とコミュニケーション研究の知見を活用しながら、様々なテーマに関する問い直しを行います。 講義は参考文献の内容に基づいたものを中心とし、参考文献そのものを反復することはいたしません。 学期末の研究発表の前週に、講義内容の理解度チェック（小テスト）を行います。これで一定以上の成績を収めた受講生には研究発表を行う資格が与えられます。 なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。	１～２．授業方針、注意事項、研究班の編成 ３．　コミュニケーションという力（第１章） ４．　メディア（第２章） ５．　個人・家族（第３章） ６．　ジェンダー・セクシュアリティ（第４章） ７．　文化（第５章） ８．　過去の受講生による事例研究の紹介と解説 ９．　記号の力（第６章） １０．教育（第７章） １１．精神（第８章） １２．社会思想としてのコミュニケーション（第９章） １３．事例研究 １４．まとめ、質疑応答、小テスト、コンサル １５．研究発表とフィードバック

到達目標	基礎的なコミュニケーション論、および、文化とコミュニケーションの関係性を理解し、分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の目次と授業計画の講義題目が対応していますので、できるだけ該当する章を予めよく読んでから各講義に出席してください。
テキスト	プリント等の資料を配布する予定です。
参考文献	板場&池田編『よくわかるコミュニケーション学』（ミネルヴァ書房、2011）
評価方法	研究発表：80%（準備 40%＋発表 40%）　　小テスト：20%（研究発表の資格審査を兼ねる）

16 年度以降 （12 年度以前） 13～15 年度	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学文化入門	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 英語圏でもイギリスの文学を中心に、文学作品に触れながら、文学研究のアプローチを学ぶこと。 【講義概要】 原則として二回で一作品ずつ、原文の一節を少しずつ読みながら作品を鑑賞します。すべて映像化されている作品ですので、映像の一部を見せ、原文理解の一助としてもらいます。担当者（片山）は、作品の内容だけではなく、作品がどのように「解釈」されているか、どのように現在も読み継がれているかを解説します。受講者のみなさんには、英文を翻訳したり、ニュアンスを言葉にしたり、感想を発表したりすることで、積極的に授業に参加してもらいます。	1. イントロダクション 2. William Shakespeare, *Macbeth* 3. William Shakespeare, *Macbeth* 4. Daniel Defoe, *Robinson Crusoe* 5. Daniel Defoe, *Robinson Crusoe* 6. Jonathan Swift, *Gulliver's Travels* 7. Jonathan Swift, *Gulliver's Travels* 8. 文学と階級、地域性、ジェンダー 9. Jane Austen, *Pride and Prejudice* 10. Jane Austen, *Pride and Prejudice* 11. Charlotte Brontë, *Jane Eyre* 12. Charlotte Brontë, *Jane Eyre* 13. Charlotte Brontë, *Jane Eyre* 14. Jean Rhys, *Wide Sargasso Sea* 15. まとめ

到達目標	社会・思想・歴史的背景を踏まえ、英語圏の基本的な文学・文化を鑑賞・批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：作者や作品について調べておくこと 復習：レジュメをよく理解し、作品を自分でも読んでみること。
テキスト	授業内でレジュメを配布。
参考文献	授業内で適宜紹介します。
評価方法	授業内レポート約３割、定期試験約７割 ただし欠席が授業回数の 1/3 を越える場合は、評価対象としません。

16 年度以降 （12 年度以前） 13～15 年度	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学文化入門	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
世界にひろがる英語文学の言葉が、歴史、社会、政治、経済、文化、そして人のありようについて、何を見せてくれるのかを提示したい。独自のやり方で、世界を映し出し、読者を楽しませ、考えさせる文学のテクストに触れ、そのおもしろさを味わってほしい。 まずは、テクストの素材である「英語」そのものの成立を眺めたうえで、歴史と社会のなかで文学がダイナミックに展開していく様を、解説する。授業の後半では、ジェンダーや、ポストコロニアルの問題も考えていく。	1. 英語の長い旅 2. 地球語としての英語 3. 語り、聞く文学　(1) ― 時代・社会・文学 4. 同上(2) ―大西洋世界へのデビューと演劇の黄金期 5. 読む文学へ(1)：世界の拡大と小説の誕生 6. 同上(2) ：帝国と小説 7. 歴史の海へ(1) ：アメリカ独立とアメリカ文学 8. 同上(2) ：アメリカの自由・矛盾・文学 9. 女から眺めてみれば(1)：第一波フェミニズムと書く女 10. 同上(2)：参政権運動とモダニズム期の女たち 11. 同上(3)：第二波フェミニズムと彼女たちの文学 12.「英文学」の誕生 13.「英米文学」から「英語文学」へ 14.「英語文学」のいま 15. まとめ

到達目標	社会・思想・歴史的背景を踏まえ、英語圏の基本的な文学・文化を鑑賞・批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	必要に応じて授業用ハンドアウトを事前にポータルにアップあるいは配布するので、授業に先立って目をとおしておくこと。事後学習として課題を数回課すが、これに限らず自己学習をすることが望ましい。
テキスト	ハンドアウトを用意する。
参考文献	授業時に紹介する。
評価方法	授業内提出物 30%　学期末試験　70%

16 年度以降 （12 年度以前） 13～15 年度	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学文化入門	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
世界にひろがる英語文学の言葉が、歴史、社会、政治、経済、文化、そして人のありようについて、何を見せてくれるのかを提示したい。独自のやり方で、世界を映し出し、読者を楽しませ、考えさせる文学のテクストに触れ、そのおもしろさを味わってほしい。 まずは、テクストの素材である「英語」そのものの成立を眺めたうえで、歴史と社会のなかで文学がダイナミックに展開していく様を、解説する。授業の後半では、ジェンダーや、ポストコロニアルの問題も考えていく。	1. 英語の長い旅 2. 地球語としての英語 3. 語り、聞く文学　(1) ― 時代・社会・文学 4. 同上(2) ―大西洋世界へのデビューと演劇の黄金期 5. 読む文学へ(1)：世界の拡大と小説の誕生 6. 同上(2) ：帝国と小説 7. 歴史の海へ(1) ：アメリカ独立とアメリカ文学 8. 同上(2) ：アメリカの自由・矛盾・文学 9. 女から眺めてみれば(1)：第一波フェミニズムと書く女 10. 同上(2)：参政権運動とモダニズム期の女たち 11. 同上(3)：第二波フェミニズムと彼女たちの文学 12.「英文学」の誕生 13.「英米文学」から「英語文学」へ 14.「英語文学」のいま 15. まとめ

到達目標	社会・思想・歴史的背景を踏まえ、英語圏の基本的な文学・文化を鑑賞・批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	必要に応じて授業用ハンドアウトを事前にポータルにアップあるいは配布するので、授業に先立って目をとおしておくこと。事後学習として課題を数回課すが、これに限らず自己学習をすることが望ましい。
テキスト	ハンドアウトを用意する
参考文献	授業時に紹介する。
評価方法	授業内提出物 30%　学期末試験　70%

09 年度以降	英語学入門	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
intensive とsensitiveはともに-iveで終わり、形容詞ですが、アクセント位置は後ろから数えると異なります．では、commemorative の品詞は？アクセント位置は？かなり難しい単語なので「知らない」かもしれませんが、実は簡単な規則で予測できます．英語の母語話者はこの規則を無意識の知識として持っていて、知らない単語、新しく作られた語に出会っても、品詞、アクセント位置などが「分か」ります．日本語の母語話者としての私たちも同様に無意識の言語知識を持っています．例えば「凧（たこ)」と「風（かぜ)」の前に「大（おお)」を付けて発音してみてください．違いがあるはずです．１つ１つ単語の発音を暗記しているからだと思うかもしれませんが、実はそうではありません． この授業では言語を意識的に分析してみることによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていきます．扱うデータは英語が中心ですが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げていきます．さらに、実際的な英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことを実感してもらいたいと思います．	1. 無意識の（言語）知識＝Human Intelligence（クイズ1） 2. 英語の音のしくみ（クイズ2） 3. 様々な音韻現象　（クイズ3） 4. 派生語　（クイズ4） 5. 合成語　（クイズ5） 6. アクセント（クイズ6） 7. 前半のまとめと中間テスト（１～６週の範囲） 8. 基本の文構造　（クイズ7） 9. 必須要素と修飾要素　（クイズ8） 10. 等位構造（クイズ9） 11. 不連続な依存関係　（クイズ10） 12. 文構造の解析（クイズ11） 13. 子供の言語獲得　（クイズ12） 14. 私たちにとって言語とは何か 15. まとめ

到達目標	英語の音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論といった、英語学の基礎理論を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義内容を復習し、授業の最初に行う復習クイズの準備をする.
テキスト	テキストはなし。プリントを配布する.
参考文献	影山太郎他（2004）『英語言語学の第一歩（First Steps in English Linguistics)』くろしお出版.
評価方法	授業内クイズ（10%)、中間試験(40%)、定期試験（50%)

09 年度以降	英語学入門	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
intensive とsensitiveはともに-iveで終わり、形容詞ですが、アクセント位置は後ろから数えると異なります．では、commemorative の品詞は？アクセント位置は？かなり難しい単語なので「知らない」かもしれませんが、実は簡単な規則で予測できます．英語の母語話者はこの規則を無意識の知識として持っていて、知らない単語、新しく作られた語に出会っても、品詞、アクセント位置などが「分か」ります．日本語の母語話者としての私たちも同様に無意識の言語知識を持っています．例えば「凧（たこ)」と「風（かぜ)」の前に「大（おお)」を付けて発音してみてください．違いがあるはずです．１つ１つ単語の発音を暗記しているからだと思うかもしれませんが、実はそうではありません． この授業では言語を意識的に分析してみることによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていきます．扱うデータは英語が中心ですが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げていきます．さらに、実際的な英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことを実感してもらいたいと思います．	1. 無意識の（言語）知識＝Human Intelligence（クイズ1） 2. 英語の音のしくみ（クイズ2） 3. 様々な音韻現象　（クイズ3） 4. 派生語　（クイズ4） 5. 合成語　（クイズ5） 6. アクセント（クイズ6） 7. 前半のまとめと中間試験（１～６週の範囲） 8. 基本の文構造　（クイズ7） 9. 必須要素と修飾要素　（クイズ8） 10. 等位構造（クイズ9） 11. 不連続な依存関係　（クイズ10） 12. 文構造の解析（クイズ11） 13. 子供の言語獲得　（クイズ12） 14. 私たちにとって言語とは何か 15. まとめ

到達目標	英語の音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論といった、英語学の基礎理論を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義内容を復習し、授業の最初に行う復習クイズの準備をする.
テキスト	テキストはなし。プリントを配布する.
参考文献	影山太郎他（2004）『英語言語学の第一歩（First Steps in English Linguistics)』くろしお出版.
評価方法	授業内クイズ（10%)、中間試験(40%)、定期試験（50%)

09 年度以降	英語学入門	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、英語に対する理論言語学的接近法を理解することにより、暗記の対象としての英語という見方や意思伝達の道具としての英語という見方とは異なる、発見・理解の対象としての英語という見方を身につけることを目的とする。英語に対するこのような接近法は、英語そのものに対する理解を深めるだけでなく、複雑な現象の背後に存在する規則性といったものの存在に目を向ける契機となるはずである。 講義ではまず、理論言語学の関心が、言語そのものというよりは、言語を生み出す仕組み、母語話者の言語直観に向けられていることを理解する。その後、英語を構成する小さな単位（単語）から大きな単位（文、さらには談話）へと講義は進んでゆく。狭義の文法だけでなく、意味現象、歴史変化、言語獲得などについても取り上げる予定である。また、折に触れて、日本語との比較も行いたい。	1. オリエンテーション、講義の概要 2. 英語学とは何か 1 3. 英語学とは何か 2 4. 語の成り立ち―形態論 5. 語の意味―意味論 1 6. 語の組み合わせ―統語論 1 7. 文の成り立ち―統語論 2 8. 文の意味―意味論 2 9. 発話の意味 1―語用論 1 10. 発話の意味 2―語用論 2 11. 音節と語アクセント―音韻論 1 12. イントネーションとリズム―音韻論 2 13. 英語の変化（文法化）―英語史 14. 言語獲得と言語習得 15. まとめ

到達目標	英語の音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論といった、英語学の基礎理論を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	あらかじめ指定された範囲の予習と復習は必須である。
テキスト	授業は板書や配布資料による。
参考文献	安井稔（編）(1996)『コンサイス英文法辞典』東京：三省堂．他
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	Lecture Workshop　I	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-semester-long required course for 1st-year students (I: spring semester, II: fall semester). **Overall Objectives** In this course, students are expected to develop their overall English language skills while learning about specific topics. The course is called "workshop" because it is a combination of lectures by instructors and activities in which students are actively engaged in interaction with classmates and the material.	Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include "The Science of Habits," "Art of the Renaissance," "English through Drama," "History of English: Contact, Conflict & Change," "Introduction to Africa," "Bioethics," "Inventions," and "Japanese Myths and Legends."

到達目標	講義とワークを組み合わせた総合的な英語授業を通じて、積極的な英語学習ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will prepare for classes through review and revision of in-class lecture notes, study of vocabulary, and other associated homework assignments.
テキスト	Instructors will mostly use handouts, booklets, or prints to be distributed in class.
参考文献	A reading list may or may not be provided, depending on the individual instructor.
評価方法	Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.

09 年度以降	Lecture Workshop　II	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-semester-long required course for 1st-year students (I: spring semester, II: fall semester). **Overall Objectives** In this course, students are expected to develop their overall English language skills while learning about specific topics. The course is called "workshop" because it is a combination of lectures by instructors and activities in which students are actively engaged in interaction with classmates and the material.	Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include "The Science of Habits," "Art of the Renaissance," "English through Drama," "History of English: Contact, Conflict & Change," "Introduction to Africa," "Bioethics," "Inventions," and "Japanese Myths and Legends."

到達目標	講義とワークを組み合わせた総合的な英語授業を通じて、積極的な英語学習ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will prepare for classes through review and revision of in-class lecture notes, study of vocabulary, and other associated homework assignments.
テキスト	Instructors will mostly use handouts, booklets, or prints to be distributed in class.
参考文献	A reading list may or may not be provided, depending on the individual instructor.
評価方法	Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（1 年 1 組）	担当者	D．ベイカー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	1 Course orientation & overview 2 First impressions 3 Cultural & communicative awareness 4 Ice-breakers 5 Wh & Y/N questions 6 Food & drink 7 Active listening 8 Music & feelings 9 Communication skills review 10 Books & films 11 Study skills 12 Group project preparation 13 Group project practice 14 Group presentations 15 Course review & evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before - extensive writing for short speeches (20 mins) After - review previous week's classes (20 mins)
テキスト	No set text
参考文献	—
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1) in-class attendance, attentiveness & attitude 50% (2) assignments 25% (3) review quizzes 25%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（1 年 1 組）	担当者	D．ベイカー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	1 Overview of the creative process 2 Choosing your topic & researching 3 Rule of three : Number five 4 Outlining & drafting 5 Editing & practicing 6 Presentation week 1 7 Presentation feedback 8 V for Vendetta 1: V's speech 9 Vendetta 2: Valerie's letter 10 Vendetta 3: Rookwood's story 11 Presentation week 2 12 Presentation feedback 13 Love Actually 14 Presentation week 3 15 Course review & evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before - presentation preparation & practice (30-60mins) After - editing (20 mins)
テキスト	No set text
参考文献	—
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1) in-class attendance, attentiveness & attitude 50% (2) 3 presentations 50%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（1年2組）	担当者	N．A．カナロス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	1 Course introduction 2 Small group discussion skills 3 Small group discussion skills 4 Storytelling skills 5 Storytelling skills 6 Large group storytelling 7 Large group storytelling 8 Large group storytelling 9 Large group storytelling 10 Large group presentation skills 11 Large group presentation skills 12 Large group discussion and presentation 13 Large group discussion and presentation 14 Speaking evaluation preparation 15 Speaking evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview the readings before class. Homework will be given weekly.
テキスト	No textbook is required for this class. Materials and readings will be provided by the instructor.
参考文献	Bring a notebook, pencil, and loose-leaf paper to class.
評価方法	Grades will be based on classroom participation 40%, homework assignments 20%, presentations 20%, speaking test 20%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（1年2組）	担当者	N．A．カナロス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	1 Course introduction 2 Narrative listening and speaking skills 3 Communication through narrative 4 Communication through narrative 5 Communication through narrative 6 Narrative presentations 7 Narrative presentations 8 Active viewing skills 9 Active viewing skills 10 Video viewing and discussion 11 Video viewing and discussion 12 Video viewing and discussion 13 Video viewing and discussion 14 Communication evaluation preparation 15 Communication evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview the readings before class. Homework will be given weekly.
テキスト	No textbook is required for this class. Materials and readings will be provided by the instructor.
参考文献	Bring a notebook, pencil, and loose-leaf paper to class.
評価方法	Grades will be based on classroom participation 40%, homework assignments 20%, presentations 20%, speaking test 20%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（1年3組）	担当者	K．エラ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	1. Course Introduction 2. Small Group Discussions 3. Listening and note-taking 4. Discussion Activity 5. Bring Dreams to Life 6. Discussion Activity 7. Say it Your Way 8. Discussion Activity 9. Small Group Activity 10. To the Rescue 11. Discussion Activity 12. Small Group Activity 13. Beyond Limits 14. Discussion Activity 15. Wrap-up week

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare carefully for each class and actively participate in discussions.
テキスト	*21st Century Communication* Level 3 Bonesteel, Lynn. Cengage
参考文献	—
評価方法	Class participation, Homework, and Presentations

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（1年3組）	担当者	K．エラ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	1. Overview of Course 2. Small Group Discussions 3. Stress: Friend or Foe 4. Discussion Activity 5. Treasured Places 6. Discussion Activity 7. Presentations 8. Presentations 9. Live and Learn 10. Discussion Activity 11. DIY: Do It Yourself 12. Discussion Activity 13. Presentations 14. Presentations 15. Wrap-up week

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare carefully for each class and actively participate in discussions.
テキスト	*21st Century Communication* Level 3 Bonesteel, Lynn. Cengage
参考文献	—
評価方法	Class participation, Homework, and Presentations

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（1 年 4 組）	担当者	N．A．カナロス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	1 Course introduction 2 Small group discussion skills 3 Small group discussion skills 4 Storytelling skills 5 Storytelling skills 6 Large group storytelling 7 Large group storytelling 8 Large group storytelling 9 Large group storytelling 10 Large group presentation skills 11 Large group presentation skills 12 Large group discussion and presentation 13 Large group discussion and presentation 14 Speaking evaluation preparation 15 Speaking evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview the readings before class. Homework will be given weekly.
テキスト	No textbook is required for this class. Materials and readings will be provided by the instructor.
参考文献	Bring a notebook, pencil, and loose-leaf paper to class.
評価方法	Grades will be based on classroom participation 40%, homework assignments 20%, presentations 20%, speaking test 20%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（1 年 4 組）	担当者	N．A．カナロス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	1 Course introduction 2 Narrative listening and speaking skills 3 Communication through narrative 4 Communication through narrative 5 Communication through narrative 6 Narrative presentations 7 Narrative presentations 8 Active viewing skills 9 Active viewing skills 10 Video viewing and discussion 11 Video viewing and discussion 12 Video viewing and discussion 13 Video viewing and discussion 14 Communication evaluation preparation 15 Communication evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview the readings before class. Homework will be given weekly.
テキスト	No textbook is required for this class. Materials and readings will be provided by the instructor.
参考文献	Bring a notebook, pencil, and loose-leaf paper to class.
評価方法	Grades will be based on classroom participation 40%, homework assignments 20%, presentations 20%, speaking test 20%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（1年5組）	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	1: Orientation; Topic 1: Pair practice & accuracy demonstration 2: Topic 2: Pair practice & accuracy assessment 3: Topic 3: Pair practice & accuracy assessment 4: Topic 4: Pair practice & accuracy assessment 5: Topic 5: Pair practice & accuracy assessment 6: Topic 6: Pair practice & accuracy assessment 7: Topic 7: Pair practice & accuracy assessment 8: Topic 8: Pair practice & accuracy assessment 9: Topic 9: Pair practice & accuracy assessment 10: Topic 10: Pair practice & accuracy assessment 11: Topic 11: Pair practice & accuracy assessment 12: Topic 12: Pair practice & accuracy assessment 13: Topic 13: Pair practice & accuracy assessment 14: Topic 14: Pair practice & accuracy assessment 15: Course summary & survey

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Participation & in-class performance; Task; Accuracy; Homework

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（1年5組）	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	1: Orientation; Impromptu speech skill & practice 2: Impromptu speech skill & practice 3: Impromptu speech assessment 4: Speeches VS Presentations 5: Speeches VS Presentations 6: Historical speeches; Speech 1 skill & practice 7: Historical speeches; Speech 1 skill & practice 8: Historical speeches; Speech 1 skill & practice 9: Speech 1 assessment 10: Speech 1 assessment 11: Historical speeches; Speech 2 skill & practice 12: Historical speeches; Speech 2 skill & practice 13: Speech 2 assessment 14: Speech 2 assessment 15: Course summary & presentation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Participation & in-class performance; Homework; Impromptu speech; Speech 1; Speech 2

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（1 年 6 組）	担当者	A．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	1. Course information and personal introductions 2. Manners and politeness 3. Stereotypes and multiculturalism 4. Comparative and superlative adjectives 5. Skills and preferences 6. Jobs and employment 7. Past simple and present perfect 8. Requests and responses 9. Agreeing and disagreeing 10. Movies and emotions 11. Things that cause feelings and how you feel 12. Rules and suggestions 13. Real and imaginary situations 14. Test 15. Test

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework is an important aspect of the course and students will be given homework at the end of most lessons.
テキスト	No text is required for this course. Handouts will be provided.
参考文献	—
評価方法	Tests: 40%, Participation: 40%, Homework: 20%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（1 年 6 組）	担当者	A．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	1. Course information 2. Practise good posture, eye contact, body language 3. Write scripts and prepare for first presentations 4. First presentations 5. Practise gesturing and emphasising key words 6. Write scripts and prepare for second presentations 7. Second presentations 8. Second presentations 9. Learn to create effective visuals 10. Write scripts and prepare for third presentations 11. Third presentations 12. Third presentations 13. Write scripts and prepare for final presentations 14. Final presentations 15. Final presentations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	This class will be demanding in terms of time spent on individual out-of-class assignments. Preparing for presentations at home will be vital.
テキスト	David Harrington & Charles LeBeau, Speaking of Speech, MacMillan
参考文献	—
評価方法	Presentations: 80%, Class participation: 20%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（1 年 7 組）	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	1: Class orientation, introductions; 2: Introduction to presentation skills; Unit 1 3: Listening for gist, information speech; Unit 1 4: Class survey and report; Unit 1 5: Listening skill: inferring, demonstration speech; Unit 2 6: Small group presentations 7: Comprehensive reading; Unit 2 8: Review, reading and listening tests; Unit 2 9: Grammar workshop, reported speech; Unit 4 10: Research and report writing; Unit 4 11: Investigative reporting, Unit 4 12: Introduction to topic research, report planning 13: Topic research reporting; writing workshop 14: Review, speaking test 15: Consultations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Unit readings, speech preparation, report writing, review for tests
テキスト	NorthStar Listening and Speaking Level 3, 4th Edition (Pearson Longman); Speaking of Speech, New Edition (MacMillan)
参考文献	To be explained in class
評価方法	20% Participation, 20% Small Group Discussion Task, 20% Investigative Written Report, 20% Reading and Listening Tests, 20% Speech

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（1 年 7 組）	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	1: Class orientation, giving opinions; Unit 5 2: Active listening, expressing doubt; Unit 5 3: Informal and formal speech; Unit 5 4: Reading skills: summarizing; Unit 5 5: Review, reading and listening tests 6: Grammar review; Unit 7 7: Topic selection and making outlines; Unit 7 8: Speech delivery skills: using visual aids; Unit 7 9: PowerPoint speech workshop 10: Pronunciation workshop; Unit 8 11: Investigative reporting II; Unit 8 12: Writing persuasive speeches, Unit 8 13: Review, using multimedia in speeches 14: Persuasive speech presentations 15: Consultations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Unit readings, speech preparation, report writing, review for tests
テキスト	NorthStar Listening and Speaking Level 3, 4th Edition (Pearson Longman); Speaking of Speech, New Edition (MacMillan)
参考文献	To be explained in class
評価方法	20% Participation, 20% Small Group Discussion Task, 20% Investigative Written Report, 20% Reading and Listening Tests, 20% Speech Listening Tests

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（1年8組）	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	1. Introduction to course and class 2. Personalized topics: Family and Hometown 3. Personalized topics: School experiences/education 4. Personalized topics: Lifestyle/Healthy living 5. Me, My Life posters 6. Personalized topics: travel experiences 7. Reading and discussion assignments 8. Reading and discussion assignments 9. The language of reasoning and critical thinking 10. Choosing social issues for reading/research 11. Class survey/Collation of survey result 12. Oral reports and discussions of chosen issues 13. Oral reports and discussions of chosen issues 14. Oral reports and discussions of chosen issues 15. Course review and self-reflection

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials, and vocabulary/reading preparation for next class
テキスト	No textbook is required
参考文献	No reference book
評価方法	Active class participation (60%), oral reports/presentations, book reports (30%), speaking tests (10%)

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（1年8組）	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	1. Introduction to course and class 2. Great Lives poster reports 3. The language of reasoning and critical thinking 4. Internet news assignments reports and discussion 5. Internet news assignments reports and discussion 6. Internet news assignments reports and discussion 7. Internet news assignments reports and discussion 8. Grade reader book reports 9. World Heritage and the Environment 10. Fluency speech topics 11. Issues (cause, effect, solution chain) presentations 12. Issues (cause, effect, solution chain) presentations 13. Issues (cause, effect, solution chain) presentations 14. Mind-map reports on New Year traditions 15. Course review and self-reflection

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials, and vocabulary/reading preparation for next class
テキスト	No textbook is required
参考文献	No reference book
評価方法	Active class participation (60%), oral reports/presentations, book reports (30%), speaking tests (10%)

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（1 年 9 組）	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	1: Orientation; Topic 1: Pair practice & accuracy demonstration 2: Topic 2: Pair practice & accuracy assessment 3: Topic 3: Pair practice & accuracy assessment 4: Topic 4: Pair practice & accuracy assessment 5: Topic 5: Pair practice & accuracy assessment 6: Topic 6: Pair practice & accuracy assessment 7: Topic 7: Pair practice & accuracy assessment 8: Topic 8: Pair practice & accuracy assessment 9: Topic 9: Pair practice & accuracy assessment 10: Topic 10: Pair practice & accuracy assessment 11: Topic 11: Pair practice & accuracy assessment 12: Topic 12: Pair practice & accuracy assessment 13: Topic 13: Pair practice & accuracy assessment 14: Topic 14: Pair practice & accuracy assessment 15: Course summary & survey

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Participation & in-class performance; Task; Accuracy; Homework

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（1 年 9 組）	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	1: Orientation; Impromptu speech skill & practice 2: Impromptu speech skill & practice 3: Impromptu speech assessment 4: Speeches VS Presentations 5: Speeches VS Presentations 6: Historical speeches; Speech 1 skill & practice 7: Historical speeches; Speech 1 skill & practice 8: Historical speeches; Speech 1 skill & practice 9: Speech 1 assessment 10: Speech 1 assessment 11: Historical speeches; Speech 2 skill & practice 12: Historical speeches; Speech 2 skill & practice 13: Speech 2 assessment 14: Speech 2 assessment 15: Course summary & presentation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Participation & in-class performance; Homework; Impromptu speech; Speech 1; Speech 2

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（１年１０組）	担当者	D．ベイカー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	1 Course orientation & overview 2 First impressions 3 Cultural & communicative awareness 4 Ice-breakers 5 Wh & Y/N questions 6 Food & drink 7 Active listening 8 Music & feelings 9 Communication skills review 10 Books & films 11 Study skills 12 Group project preparation 13 Group project practice 14 Group presentations 15 Course review & evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before - extensive writing for short speeches (20 mins) After - review previous week's classes (20 mins)
テキスト	No set text
参考文献	—
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1) in-class attendance, attentiveness & attitude 50% (2) assignments 25% (3) review quizzes 25%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（１年１０組）	担当者	D．ベイカー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	1 Overview of the creative process 2 Choosing your topic & researching 3 Rule of three : Number five 4 Outlining & drafting 5 Editing & practicing 6 Presentation week 1 7 Presentation feedback 8 V for Vendetta 1: V's speech 9 Vendetta 2: Valerie's letter 10 Vendetta 3: Rookwood's story 11 Presentation week 2 12 Presentation feedback 13 Love Actually 14 Presentation week 3 15 Course review & evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before - presentation preparation & practice (30-60mins) After - editing (20 mins)
テキスト	No set text
参考文献	—
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1) in-class attendance, attentiveness & attitude 50% (2) 3 presentations 50%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（1年11組）	担当者	C．芦沢

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	Weeks 1-2: Introductions Week 3: Conversation and Active Listening Practice Week 4: Conversation and Active Listening Practice Week 5: Conversation and Active Listening Practice Week 6: Conversation and Active Listening Practice Week 7: Mid-Term Assessment Preparation Week 8: Mid-Term Assessment (group role-play) Week 9: Small-group Discussion Practice Week 10: Small-group Discussion Practice Week 11: Small-group Discussion Practice Week 12: Small-group Discussion Practice Week 13: Final Assessment Preparation Week 14: Final Assessment (group discussion) Week 15: Wrap-Up / Class Evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Most of the activities will be conducted within the 90-minute class period. When homework is assigned, students are expected to complete it fully by the deadline.
テキスト	Materials will be provided by the instructor.
参考文献	Bring course materials, a pen/pencil, and a notebook to every class.
評価方法	Active Participation/HW = 40%, Mid-Term Assessment = 30%, Final Assessment = 30%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（1年11組）	担当者	C．芦沢

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	Weeks 1-2: Welcome Back/Summer Share Week 3: The Story Message Week 4: The Story Message Week 5: The Story Message/Mini-Speech 1 Week 6: The Physical Message Week 7: The Physical Message Week 8: The Physical Message/Mini-Speech 2 Week 9: The Visual Message Week 10: The Visual Message Week 11: The Visual Message Weeks 12-15: Final Speeches

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Most of the activities will be conducted within the 90-minute class period. When homework is assigned, students are expected to complete it fully by the deadline.
テキスト	Harrington, D. & LeBeau, C. (2008). *Speaking of Speech: Basic Presentation Skills for Beginners.* MacMillan.
参考文献	Bring the textbook, a pen/pencil, and a notebook to every class.
評価方法	Active Participation/HW = 40%, Mini-Speeches = 20%, Final Speech = 40%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（1年1２組）	担当者	A．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	1. Course information and personal introductions 2. Manners and politeness 3. Stereotypes and multiculturalism 4. Comparative and superlative adjectives 5. Skills and preferences 6. Jobs and employment 7. Past simple and present perfect 8. Requests and responses 9. Agreeing and disagreeing 10. Movies and emotions 11. Things that cause feelings and how you feel 12. Rules and suggestions 13. Real and imaginary situations 14. Test 15. Test

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework is an important aspect of the course and students will be given homework at the end of most lessons.
テキスト	No text is required for this course. Handouts will be provided.
参考文献	—
評価方法	Tests: 40%, Participation: 40%, Homework: 20%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（1年1２組）	担当者	A．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	1. Course information 2. Practise good posture, eye contact, body language 3. Write scripts and prepare for first presentations 4. First presentations 5. Practise gesturing and emphasising key words 6. Write scripts and prepare for second presentations 7. Second presentations 8. Second presentations 9. Learn to create effective visuals 10. Write scripts and prepare for third presentations 11. Third presentations 12. Third presentations 13. Write scripts and prepare for final presentations 14. Final presentations 15. Final presentations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	This class will be demanding in terms of time spent on individual out-of-class assignments. Preparing for presentations at home will be vital.
テキスト	David Harrington & Charles LeBeau, Speaking of Speech, MacMillan
参考文献	—
評価方法	Presentations: 80%, Class participation: 20%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（再履修）	担当者	M．L．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	1. Introductions. People: Unit 1 2. Work, Rest and Play: Unit 2 3. Going Places: Unit 3 4. Food: Unit 4 – Learning Diary assignment due. 5. Sports: Unit 5 6. Destinations: Unit 6 7. Review – Pair Presentation 8. Communication: Unit 7 9. Moving Forward: Unit 8 10. Types of Clothing: Unit 9 – Opinion assignment due. 11. Lifestyles: Unit 10 12. Achievements: Unit 11 13. Consequences: Unit 12 14. Group Presentations 15. Course Review & Evaluations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト	Milner, M. (2015) *World English 1. Real People, Real Places, Real Language*, Cengage Learning, USA
参考文献	—
評価方法	Class involvement 40%; homeworks 20%; presentations 20%; Opinion piece/ learning diary 20%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ（再履修）	担当者	M．L．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	1. Course Introduction & Self Introductions. 2. Sports – Theme 1 3. Music – Theme 2 4. Food – Theme 3 5. Pair presentations 6. Crafts – Theme 4 7. Holidays – Theme 5 8. Games – Theme 6. Information exchange assignment due. 9. Cities and Places – Theme 7 10. Relaxation – Theme 8 11. Famous People – Theme 9. Reading review assignment due. 12. Superstitions – Theme 10 13. Anime – Theme 11 14. Group presentations 15. Course review and evaluation.

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト	Long, R. (2015) *Explain it! Discussing Japanese Culture in English,* Perceptia Press.
参考文献	—
評価方法	Class involvement 40%; homework 20%; presentations 20%; information exchange/ reading review 20%;

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（2年 ①）	担当者	E．ホフ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	Week 1: Course introduction and objectives Week 2: Unit 1 - Staying Healthy, Lesson A Week 3: Unit 1 - Staying Healthy, Lesson B Week 4: Unit 2 - Energy and Our Planet, Lesson A Week 5: Unit 2 - Energy and Our Planet, Lesson B Week 6: Unit 3 - Culture and Tradition, Lesson A Week 7: Unit 3 - Culture and Tradition, Lesson B Week 8: Midterm Evaluations Week 9: Midterm Evaluations Week 10: Unit 4 - A Thirsty World, Lesson A Week 11: Unit 4 - A Thirsty World, Lesson B Week 12: Unit 5 - Inside the Brain, Lesson A Week 13: Unit 5 - Inside the Brain, Lesson B Week 14: Final Evaluations Week 15: Final Evaluations

到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Set aside 30 minutes for homework and class preparation, more time may be needed for evaluations
テキスト	*Pathways 2: Listening, Speaking, & Critical Thinking*
参考文献	—
評価方法	In-class quizzes 30 % , Homework 20%, Midterm evaluation 20 %, Final evaluation 30 %

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（2年 ①）	担当者	E．ホフ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	Week 1: Preparation for autumn semester Week 2: Unit 6 - What to Eat, Lesson A Week 3: Unit 6 - What to Eat, Lesson B Week 4: Unit 7 - Our Active Earth, Lesson A Week 5: Unit 7 - Our Active Earth, Lesson B Week 6: Unit 8 - Ancient People and Places, Lesson A Week 7: Unit 8 - Ancient People and Places, Lesson B Week 8: Midterm Evaluations Week 9: Midterm Evaluations Week 10: Unit 9 - Species Survival, Lesson A Week 11: Unit 9 - Species Survival, Lesson B Week 12: Unit 10 - Entrepreneurs, Lesson A Week 13: Unit 10 - Entrepreneurs, Lesson B Week 14: Final Evaluations Week 15: Final Evaluations

到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Set aside 30 minutes for homework and class preparation, more time may be needed for evaluations
テキスト	*Pathways 2: Listening, Speaking, & Critical Thinking*
参考文献	—
評価方法	In-class quizzes 30 % , Homework 20%, Midterm evaluation 20 %, Final evaluation 30 %

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（２年 ②）	担当者	Ｊ．ハント

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	1. Introduction and course orientation 2. Discussion skills 1 3. Discussion skills 2 4. Discussion skills 3 5. Discussion preparation 6. Discussion 1 7. Discussion preparation 8. Discussion 2 9. Discussion preparation 10. Discussion 3 11. Discussion preparation 12. Discussion 4 13. Discussion preparation 14. Discussion 5 15. Review

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Reading, discussion preparation, further research, summary writing. Approx. 90 minutes/week.
テキスト	Materials (prints and links) will be provided.
参考文献	To be provided.
評価方法	Classroom discussions 50%; Portfolio 50%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（２年 ②）	担当者	Ｊ．ハント

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	1. Introduction and course orientation 2. Presentation skills 1 3. Presentation skills 2 4. Presentation skills 3 5. Presentation 1 6. Presentation 2 7. Presentation 3 8. Presentation 4 9. Presentation 5 10. Presentation 6 11. Presentation 7 12. Presentation 8 13. Presentation 9 14. Presentation 10 15. Review

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Presentation skills, research, discussion preparation, summary writing. Approx. 90 minutes/week.
テキスト	Materials (prints and links) will be provided.
参考文献	To be provided.
評価方法	Presentations 50%; Portfolio 50%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（２年 ③）	担当者	Ａ．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	Week 1 Course introductions + foreign countries Week 2 Foreign countries 2 Week 3 Education1 Week 4 Education 2 Week 5 Health 1 Week 6 Health 2 Week 7 Arts 1 Week 8 Arts 2 Week 9 Poster presentation Week 10 Technology 1 Week 11 Technology 2 Week 12 Intelligence & Talents 1 Week 13 Intelligence & Talents 2 Week 14 test topics, times format explained / movies 1 Week 15 test

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post lesson review will be explained when necessary
テキスト	No textbook / teacher materials provided
参考文献	Electronic dictionary is OK
評価方法	30% class effort　30% presentation　40% end of semester test

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（２年 ③）	担当者	Ａ．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	Week 1 Tourism 1 Week 2 Tourism 2 Week 3 Work / money issues 1 Week 4 Work / money issues 2 Week 5 Media issues 1 Week 6 Media issues 2 Week 7 Rights 1 Week 8 Rights 2 Week 9 Global living trends 1 Week 10 Global living trends 2 Week 11 Poster presentation Week 12 Crime 1 Week 13 Crime 2 Week 14 Test topics , times explained / ecology 1 Week 15 Test

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post lesson review will be explained when necessary
テキスト	No textbook / teacher materials provided
参考文献	Electronic dictionary is OK
評価方法	30% class effort　30% presentation　40% end of semester test

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ （2年 ④）	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	1. Introduction – Discussion Procedure 2. Career Choice: Ranking Factors / Identifying Factors 3. Choosing a Topic / Discussion Steps 4. Role of the Discussion Leader and Group Members 5. Practice Presentations and Peer Feedback 6. Discussion Presentations 7. Cosmetic Surgery: Opinion / Discussion Steps 8. Agreeing and Disagreeing with Opinions 9. Practice Presentations and Peer Feedback 10. Discussion Presentations 11. Environment: Problem Solving / Discussion Steps 12. Identifying Causes and Solutions 13. Practice Discussions and Peer Feedback 14. Discussion Presentations 15. Review and Wrap-up

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)
テキスト	No text: The material will be provided by the teacher.
参考文献	—
評価方法	Quizzes – 10%　　Discussions – 60%　　In-class Participation – 30%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ （2年 ④）	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	1. Introduction 2. Current Events: Discussions / Choosing a Topic 3. Summarizing an Article / Open-ended Questions 4. Practice Presentations 5. In-class Student Led Discussions 6. Informative Presentation / Choosing a Topic 7. Organizing a Presentation 8. Using PowerPoint 9. Presentation Workshop / Speaking Tips 10. In-class Presentation 11. Policy Debate / Choosing Propositions 12. Making Logical Arguments / Supporting Evidence 13. Opening Speeches / Rebuttals / Model Debate 14. In-class Debates 15. Review and Wrap-up

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)
テキスト	No text: The material will be provided by the teacher.
参考文献	—
評価方法	Presentations and Discussions – 70%　　In-class Participation – 30%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ （2年 ⑤）	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	Each topic area will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. First Semester Topics 1 - 4 Introduction to the course of studies. 5 - 8 Japanese work ethics. 9 - 11 The Media. 12 - 15 Pressing social issues.

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.
参考文献	Students will be expected to use the internet and other sources for research purposes.
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ （2年 ⑤）	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. Second Semester Topics 1 - 3Brief introduction /welcome back to class. 4 - 8Enquiry in to thinking and philosophy 9 - 12 Politics and relevance to young people. 13 - 15 Environmental issues.

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.
参考文献	Students will be expected to use the internet and other sources for research purposes.
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（2年 ⑥）	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	1. Introduction, outline, evaluation, course requirements. 2. Company #1, reading, listening & discussion 3. Company #2, reading, listening & discussion 4. Company #3, reading, listening & discussion 5. Company #4, reading, listening & discussion 6. Company #5, reading, listening & discussion 7. Quiz 1-15% 8. Library company research project task 1 9. Company #6, reading, listening & discussion 10. Presentations, reading, listening & discussion 11. Presentations, reading, listening & discussion 12. Presentations, reading, listening & discussion 13. Presentations, reading, listening & discussion 14. Quiz 2 - 15% 15. Library company research project task 2

到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Individual topic and company research, weekly e-journal and final presentation preparation
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week.
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.
評価方法	1. Company class presentation = 20%, 2. Class activities, e-journal & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（2年 ⑥）	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	1. Library company research project task 3 2. Company #1, reading, comprehension & discussion 3. Company #2, reading, comprehension & discussion 4. Company #3, reading, comprehension & discussion 5. Company #4, reading, comprehension & discussion 6. Company #5, reading, comprehension & discussion 7. Quiz 1-15% 8. Library company research project task 4 9. Company #6, reading, comprehension & discussion 10. Presentation, reading, comprehension & discussion 11. Presentation, reading, comprehension & discussion 12. Presentation, reading, comprehension & discussion 13. Presentation, reading, comprehension & discussion 14. Quiz 2 - 15% 15. Library company research project task 5

到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Individual topic and company research, weekly e-journal and final presentation preparation
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week
評価方法	1. Company class presentation = 20%, 2. Class activities, e-journal & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（２年 ⑦）	担当者	Ｒ．ウィルコックス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	Weeks 1. Course Introduction 2. Text Unit 1 3. Text Unit 2 4. Text Unit 3 5. Discussion Test Preparation 6. Discussion Tests 7. Text Unit 4 8. Text Unit 5 9. Text Unit 6 10. Text Unit 7 11. Text Unit 8 12. Discussion Test 13. Group Discussions 14. Discussion Tests 15. Course Review

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments
テキスト	Select Readings: Intermediate. Oxford University Press. Lee & Gundersen (2011).
参考文献	—
評価方法	Written reports 50%, Discussion tests 50%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（２年 ⑦）	担当者	Ｒ．ウィルコックス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	Weeks 1. Course Introduction 2. Text Unit 1 3. Text Unit 2 4. Text Unit 3 5. Group Presentation Preparation 6. Group Presentations 7. Text Unit 4 8. Text Unit 5 9. Text Unit 6 10. Individual Presentations 11. Text Unit 7 12. Text Unit 8 13. Text Unit 9 14. Final Presentations 15. Course Review

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments
テキスト	Successful Presentations: An Interactive Guide. Cengage Learning. Stafford, M. D. (2012).
参考文献	—
評価方法	Classroom assignments 50%, Presentations 50%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ （2年 ⑧）	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	1. Introduction – Discussion Procedure 2. Career Choice: Ranking Factors / Identifying Factors 3. Choosing a Topic / Discussion Steps 4. Role of the Discussion Leader and Group Members 5. Practice Presentations and Peer Feedback 6. Discussion Presentations 7. Cosmetic Surgery: Opinion / Discussion Steps 8. Agreeing and Disagreeing with Opinions 9. Practice Presentations and Peer Feedback 10. Discussion Presentations 11. Environment: Problem Solving / Discussion Steps 12. Identifying Causes and Solutions 13. Practice Discussions and Peer Feedback 14. Discussion Presentations 15. Review and Wrap-up

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)
テキスト	No text: The material will be provided by the teacher.
参考文献	—
評価方法	Quizzes – 10%　　Discussions – 60%　　In-class Participation – 30%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ （2年 ⑧）	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	1. Introduction 2. Current Events: Discussions / Choosing a Topic 3. Summarizing an Article / Open-ended Questions 4. Practice Presentations 5. In-class Student Led Discussions 6. Informative Presentation / Choosing a Topic 7. Organizing a Presentation 8. Using PowerPoint 9. Presentation Workshop / Speaking Tips 10. In-class Presentation 11. Policy Debate / Choosing Propositions 12. Making Logical Arguments / Supporting Evidence 13. Opening Speeches / Rebuttals / Model Debate 14. In-class Debates 15. Review and Wrap-up

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)
テキスト	No text: The material will be provided by the teacher.
参考文献	—
評価方法	Presentations and Discussions – 70%　　In-class Participation – 30%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ （2年 ⑨）	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	Each topic area will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. First Semester Topics 1 -4 Introduction to the course of studies. 5 - 8 Japanese work ethics. 9 - 11 The Media. 12 - 15 Pressing social issues.

到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.
参考文献	Students will be expected to use the internet and other sources for research purposes.
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ （2年 ⑨）	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. Second Semester Topics 1 -3 Brief introduction /welcome back to class. 4 -8 Enquiry in to thinking and philosophy 9 - 12 Politics and relevance to young people. 13 - 15 Environmental issues.

到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.
参考文献	Students will be expected to use the internet and other sources for research purposes.
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（２年 ⑩）	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	1. Introduction 2-3. Urban planning 4-5. Business 6-7. The economy 8-9. The environment 10-11. Art history 12-14. Language 15. Reflection & summary

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	You should complete all homework before coming to class. You should read all materials and answer all questions in your notebooks following class. (About 4 hours each week of homework.)
テキスト	Texts to be distributed in class.
参考文献	References to be distributed in class.
評価方法	Notebooks = 30%, Essays = 30%, Participation = 40%.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（２年 ⑩）	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	1. Introduction 2-3. Sociology 4-5. Physical science 6-7. Indigenous cultures 8-9. Microbiology 10-11. Children's literature 12-14. Globalization 15. Reflection & summary

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	You should complete all homework before coming to class. You should read all materials and answer all questions in your notebooks following class. (About 4 hours each week of homework.)
テキスト	Texts to be distributed in class.
参考文献	References to be distributed in class.
評価方法	Notebooks = 30%, Essays = 30%, Participation = 40%.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（2年 ⑪）	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	Week 1 – Introduction , Topical Reading and Discussion Week 2 – Topical Reading and Discussion Week 3 – Students choose Topical Reading Week 4 – Oscar Awarded Actress – Meryl Streep Week 5 – African Migrants Move to Europe Week 6 – Syrian Refugees Move to Europe Week 7 – Japan Daycare and Birthrate Problems Week 8 – Students choose Topical Reading Week 9 – Students choose Discussion Topic Week 10 – Topical Reading and Discussion Week 11 – Group Discussions Week 12 – Topical Reading and Discussion Week 13 – Students choose Topical Reading Week 14 – Group Discussion Week 15 – Topical Reading and Discussion

到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	When reading material is assigned in advance, students should read it before class. If an assignment such as preparing a discussion topic is given, students are expected to do it.
テキスト	No assigned textbook, supplementary reading materials, handouts, online resources
参考文献	—
評価方法	Class participation – 40%, Reading comprehension activities – 30%, Discussion activities – 30%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（2年 ⑪）	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	Week 1 – Introduction and Choosing Appropriate Topics Week 2 – Preparing A Presentation Week 3 – Preparing Comprehension Questions Week 4 – Using Multimedia in the Classroom Week 5 – Individual Presentations Week 6 – Individual Presentations Week 7 – Group Discussion Week 8 – Group Presentations Week 9 – Group Presentations Week 10 – Individual Presentations Week 11 – Individual Presentations Week 12 – Group Discussion Week 13 – Group Presentations Week 14 – Group Presentations Week 15 – Individual Presentations

到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	When reading material is assigned in advance, students should read it before class. If an assignment such as preparing a discussion topic is given, students are expected to do it.
テキスト	No assigned textbook, supplementary reading materials, handouts, online resources
参考文献	—
評価方法	Class participation – 40%, Discussion activities – 30%, Presentation activities – 30%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（２年 ⑫）	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	(* Note: This is a tentative weekly schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Introductions, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. International News article and/or International video exercises & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions. Asking student suggestions for INTERNATIONAL topics/themes which they would like to learn & study. Week 3: 'What are your plans for Golden Week?": explaining Future activities, in Moder English. Assignment of a Presentation Topic; and selection of Presentation partner(s). Continuous assessment. Week 4: Focusing your Presentation: How to summarize, prepare, and make [present] for your Presentation. Video and/or Audio Cloze-listening exercise, with discussion thereof. Week 5: Student hobbies, and explaining thereof, in Modern English. Pair practice thereof. Continuous assessment. Mother's Day song and/or discussion. Week 6: Discussion of recent International News articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.) Ongoing student assessment. Week 7: Preparations for making presentations & discussions. International vs. Domestic etiquette and manners ('EQ'). Week 8: International News stories, with discussion. Continuous assessment. Presentation practice, with peer-assessment. Week 9: Peer-assessment of 'intro' presentations. Preparations for final class presentations. 'What kind of --- do you like?": explaining preferences, in Modern English. Week 10: Final Student presentations begin. Video and/or Audio Cloze listening exercise. Week 11: Discussion of recent International News articles, and/or News Videos. Presentations. Week 12: Further student presentations & class discussion. Video and/or song listening & discussion exercise. Week 13: Final presentations. 'What do you think of ----?": Giving your opinions about various topics. Week 14: Giving opinions, part two: elaborating. Final presentations. Ongoing assessment. Week 15: Final presentations. If time remains: discussing & explaining future plans for the Summer.

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We will mostly be using research materials: newspaper/magazine articles; library books; reliable Internet sources; and so on. Some International newspaper articles may be used to stimulate discussion. **IF** a textbook is necessary, one will be chosen.
参考文献	—
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***summarize & present*** your topic; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be *tentatively* & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes,*** **for any reason.**

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（２年 ⑫）	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, elaborating on, and discussing your ***Summer Break***, using modern English. Week 2: "Used to": four different usages of 'used to'; with pair practice. Continuous assessments. Week 3: Researching Christmas (and/or another Presentation topic). Discussion of News/Documentary Video. Week 4: Preparation time for pair presentations. How to invite someone to an event, in English, by telephone. Ongoing assessments. Week 5: Practice with ***telephone invitations***. Hallowe'en discussion, and/or video. Week 6: ***Restaurant ordering***, in English, at sit-down restaurants. Ongoing assessments. Continuation of TV documentary listening & discussion. Week 7: Pair practice of restaurant ordering. Start of short "demo" presentations. Peer-assessment (& recommendations) of those short presentation 'intros'. Week 8: ***Thanksgiving***: history; and usual Thanksgiving customs & dates. '***What are you thankful for?*** Further short 'demo' presentations; peer-assessment & recommendations, re: those 'demo' presentations. Week 9: Pair practice of 'thankful' activity. Finalizing preparations and practice for presentations. Week 10: Asking for, and giving, ***street directions*** and/or ***train directions***, in English. Pair practice of that. Student presentations begin. Week 11: Class presentations & discussions. Christmas song-listening activity, and/or Christmas video. Week 12: Discussion of Christmas and New Year's plans. Christmas song activity, continued. Further class presentations. Week 13: How was your New Year's/ Christmas? Pair-practice thereof. Class presentations. Week 14: Discussing & pair-practicing ***New Year's Resolutions***. Last opportunity for class presentations. Week 15: Finalizing ***specific*** New Year's Resolutions. *If* time remains: discussion of ***future plans*** (for the February & March Break).

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We will mostly be using research materials: newspaper/magazine articles; library books; reliable Internet sources; and so on. Some International newspaper articles may be used to stimulate discussion. **IF** a textbook is necessary, one will be chosen.
参考文献	—
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***summarize & present*** your topic; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be *tentatively* & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes,*** **for any reason.**

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（２年 ⑬）	担当者	Ｂ．Ｄ．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	1. Introductions 2. Getting to know you - Conversation activities 3. My articles - reading and discussion 4. Your articles - reading and discussion 5. Reading skills - reading exercises 6. Breaking news - student research topics 7. Breaking news - student research topics 8. My articles - reading and discussion 9. Your articles - reading and discussion 10. Discussion preparation - topic research 11. Discussion preparation - topic research 12. Student-led class discussions 13. Student-led class discussions 14. Speaking test 15. Test period

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparing articles, questions, discussion related materials before each class and critical review after each class.
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (40%), student-led discussions (30%) and a speaking test (30%)

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（２年 ⑬）	担当者	Ｂ．Ｄ．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	1. Welcome back - conversation activities 2. Effective presentation skills 3. Mini presentations 4. Questions and activities for discussions 5. Halloween - fear themed discussion topics 6. Mini presentations in groups 7. Group discussion activities 8. Mini presentations in groups 9. Student designed speaking games 10. Presentation preparation - topic selection 11. Presentation preparation - research 12. Class presentations 13. Class presentations 14. Course review 15. Test period

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparing articles, questions, discussion related materials before each class and critical review after each class.
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (40%), student-led discussions (30%) and a speaking test (30%)

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（２年 ⑭）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	Week 1: Introduction Week 2 -8: (Video, vocabulary and discussions) Week 9: Vocabulary Test Week 10 -15: Presentaions

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will need to 90 minutes of homework per class.
テキスト	Prints will be provided by the instructor.
参考文献	—
評価方法	Test 50% Presentations 50%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（２年 ⑭）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	Same as above

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Same as above
テキスト	Same as above
参考文献	—
評価方法	Same as above

09 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（再履修）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects. Overall Objectives 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings	Week 1: Introduction Week 2 -8: (Video, vocabulary and discussions) Week 9: Vocabulary Test Week 10 -15: Presentaions

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will need to 90 minutes of homework per class.
テキスト	Prints will be provided by the instructor.
参考文献	—
評価方法	Test 50% Presentations 50%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（再履修）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic. Overall Objectives 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion	Same as above

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Same as above
テキスト	Same as above
参考文献	—
評価方法	Same as above

09 年度以降	Reading Strategies Ⅰ（１年１組）	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar and cohesive devises 3. To develop basic reading skills 4. To understand reading materials without translating into Japanese 5. To clarify the structure of a paragraph or essay	Week 1: Introduction. Week 2: Selected reading & assignment (R&A). Week 3: Selected R&A. Focus on vocabulary building. Week 4: Selected reading & assignment. Week 5: Selected R&A. Focus on grammar. Week 6: Selected reading & assignment. Week 7: Selected R&A. Focus on reading aloud. Week 8: Quiz I. Journals due. Week 9: Selected reading & assignment. Week 10: Selected R&A. Focus on pre-reading. Week 11: Selected reading & assignment. Week 12: Selected R&A. Focus on text patterns. Week 13: Selected reading & assignment. Week 14: Selected R&A. Focus on making inferences. Week 15: Quiz II. Journals due.

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments (approximately 90 minutes) in preparation for class participation.
テキスト	Online text readings
参考文献	Online linked sources
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（１年１組）	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar 3. To develop basic reading skills 4. To understand how a text is organized	Week 1: Introduction. Week 2: Focus on presentation & discussion (P&D). Week 3: Selected R&A. Student-led P&D. Week 4: Selected R&A. Student-led P&D. Week 5: Selected R&A. Student-led P&D. Week 6: Selected R&A. Student-led P&D. Week 7: Selected R&A. Student-led P&D. Week 8: Quiz I. Journals due. Week 9: Selected R&A. Student-led P&D. Week 10: Selected R&A. Student-led P&D. Week 11: Selected R&A. Student-led P&D. Week 12: Selected R&A. Student-led P&D. Week 13: Selected R&A. Student-led P&D. Week 14: Selected R&A. Student-led P&D. Week 15: Quiz II. Journals due.

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments (approximately 90 minutes) in preparation for class participation.
テキスト	Online text readings
参考文献	Online linked sources
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

09 年度以降	Reading Strategies Ⅰ（１年２組）	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar and cohesive devises 3. To develop basic reading skills 4. To understand reading materials without translating into Japanese 5. To clarify the structure of a paragraph or essay	1 Orientation and syllabus 2-3 The millennial generation 4-5 Cultural encounters 6-7 Consumer lifestyle 8-9 Conversational styles 10-11 Identity and gender 12-14 The environment 15 Summary and wrap-up

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	You should complete all homework before coming to class. You should read all materials and answer all questions in your notebooks following class. (About 4 hours each week of homework)
テキスト	Texts to be distributed in class.
参考文献	References to be distributed in class.
評価方法	Essays = 30%, Notebooks = 40%, Participation = 30%

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（１年２組）	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar 3. To develop basic reading skills 4. To understand how a text is organized	1 Orientation and syllabus 2-3 Value of work 4-5 Inequality 6-7 Wisdom 8-9 Culture and change 10-11 Managing nature 12-14 Democracy and liberty 15 Summary and wrap-up

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	You should complete all homework before coming to class. You should read all materials and answer all questions in your notebooks following class. (About 4 hours each week of homework)
テキスト	Texts to be distributed in class.
参考文献	References to be distributed in class.
評価方法	Essays = 30%, Notebooks = 40%, Participation = 30%

09 年度以降	Reading Strategies Ⅰ（1 年 3 組）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar and cohesive devises 3. To develop basic reading skills 4. To understand reading materials without translating into Japanese 5. To clarify the structure of a paragraph or essay	1. 導入とテキスト精読 2. テキスト精読 3. テキスト精読 4. テキスト精読 5. テキスト精読 6. テキスト精読 7. テキスト精読 8. テキスト精読 9. テキスト精読 10. テキスト精読 11. テキスト精読 12. テキスト精読 13. テキスト精読 14. テキスト精読 15. テキスト精読とまとめ

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。
テキスト	英字新聞記事の抜粋など。It Runs in the Family by Ray Cooney。
参考文献	授業中に言及する予定です。
評価方法	毎回の授業開始時の vocabulary テストによる。学期末に定期試験はしません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（1 年 3 組）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar 3. To develop basic reading skills 4. To understand how a text is organized	1. 導入とテキスト精読 2. テキスト精読 3. テキスト精読 4. テキスト精読 5. テキスト精読 6. テキスト精読 7. テキスト精読 8. テキスト精読 9. テキスト精読 10. テキスト精読 11. テキスト精読 12. テキスト精読 13. テキスト精読 14. テキスト精読 15. テキスト精読とまとめ

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。
テキスト	英字新聞記事の抜粋など。It Runs in the Family by Ray Cooney。
参考文献	授業中に言及する予定です。
評価方法	毎回の授業開始時の vocabulary テストによる。学期末に定期試験はしません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅰ（1 年 4 組）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar and cohesive devises 3. To develop basic reading skills 4. To understand reading materials without translating into Japanese 5. To clarify the structure of a paragraph or essay	1. Introduction: RS in the 21st century 2. Should this course be taught all in English? 3. When do you read softly, loudly or silently? 4. Diagnosing your reading strategies 1 5. Diagnosing your reading strategies 2 6. Pre-reading strategies 1 7. Pre-reading strategies 2 8. Poster session 9. Recognising patterns in paragraphs and essays 1 10. Recognising patterns in paragraphs and essays 2 11. Tutorial 1 12. Tutorial 2 13. Group presentation 1 14. Group presentation 2 15. Wrap-up

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials as well as two assigned books, and to work closely with other students to complete tasks and assignments.
テキスト	(1) Johnson, S. (2006). *Who moved my cheese?* (2) Malhotra, D. (2011). *I moved your cheese.*
参考文献	To be introduced by the instructor
評価方法	Short essay 20%, poster and group presentations 50%, and final report 30%

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（1 年 4 組）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar 3. To develop basic reading skills 4. To understand how a text is organized	1. Review of RS I 2. How useful are academic papers? 3. Fast reading strategies 4. Reading academic papers: Benefits and challenges 5. Reading more efficiently 1 6. Reading more efficiently 2 7. Reading critically 1 8. Reading critically 2 9. Taking notes 10. Outlining 1 11. Outlining 2 12. Tutorial 13. Group presentation 1 14. Group presentation 2 15. Wrap-up

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the reading and course materials, and to work closely with other students to complete tasks and assignments.
テキスト	Electronic copies, prints and handouts to be provided by the instructor
参考文献	To be introduced by the instructor
評価方法	Short essay 20%, group research presentations 40%, and final report 40%

09 年度以降	Reading Strategies Ⅰ（１年５組）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar and cohesive devises 3. To develop basic reading skills 4. To understand reading materials without translating into Japanese 5. To clarify the structure of a paragraph or essay	1. イントロダクション 2. Vocabulary Questions 3. Reference Questions 4. Inference Questions 5. Art 6. Biology 7. History 8. Sociology 9. Chemistry 10. Psychology 11. Architecture 12. Ecology 13. Anthropology 14. Art History 15. まとめ

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業で行う Toefl Practice Test の問題を、事後に精読すること。
テキスト	授業中に配布する。
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	毎回行う小テストの結果で評価する。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（１年５組）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar 3. To develop basic reading skills 4. To understand how a text is organized	1. イントロダクション 2. Geology 3. Philosophy 4. Physics 5. Art 6. Biology 7. History 8. Sociology 9. Chemistry 10. Psychology 11. Architecture 12. Ecology 13. Anthropology 14. Art History 15. まとめ

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業で行う Toefl practice test の問題を、事後に精読すること。
テキスト	授業中に配布する。
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	毎回行う小テストの結果で評価する。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅰ（1 年 6 組）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar and cohesive devises 3. To develop basic reading skills 4. To understand reading materials without translating into Japanese 5. To clarify the structure of a paragraph or essay	1. Introduction, Reading for fun 2. Preview, Reading Academic Topics (1) 3. Structure (1) Type of passage 4. Structure (2) Topic sentence, Reading Topics (2) 5. Structure (3) Thesis statement 6. Structure (4) Paragraph cohesion Reading Topics (3) 7. Library Seminar 8. Citations 9. Paraphrasing (1) Reading Topics (4) 10. Paraphrasing (2), 11. Summarizing (1), Reading Topics (5) 12. Summarizing (2) 13. Reading related articles (1) 14. Reading related articles (2) 15. Review, Final Assignment

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to come to class, having completed their weekly assignments including reading, doing exercises, and researching on relevant topics.
テキスト	Reading materials will be provided and/or specified in class.
参考文献	—
評価方法	Participation (Preps, In-class performance): 30%; Quizzes/Assignments: 30%; and Final assignment/ Exam: 40%. Minimum attendance rate of approx. 70% is required for credit/grade evaluation.

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（1 年 6 組）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar 3. To develop basic reading skills 4. To understand how a text is organized	1. Introduction, Reading for research 2. Preview, Reading Topics (1) 3. Finding and selecting materials 4. Reading and comparing materials 5. Timeline of news articles, Reading Topics (2) 6. Fact comparison among news articles on the same topic 7. Review 8. Paraphrasing (1), Reading Topics (3) 9. Summarizing (2), 10. Your opinion on the article 11. Using articles to support your opinion, Reading Topics (4) 12. Research reading 13. Read and cite, Final assignment 14. Paper writing (1) 15. Paper writing (2), Review

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to come to class, having completed their weekly assignments including reading, doing exercises, and researching on relevant topics.
テキスト	Reading materials will be provided and/or specified in class.
参考文献	—
評価方法	Participation (Preps, In-class performance): 30%; Quizzes/Assignments: 30%; and Final assignment/ Exam: 40%. Minimum attendance rate of approx. 70% is required for credit/grade evaluation.

09 年度以降	Reading Strategies Ⅰ（1 年 7 組）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar and cohesive devises 3. To develop basic reading skills 4. To understand reading materials without translating into Japanese 5. To clarify the structure of a paragraph or essay	1. New Vocabulary in Your Reading 2. Fiction and Nonfiction (1) 3. Fiction and Nonfiction (2) 4. Reading Fluency 5. Making Good Use of the Dictionary (1) 6. Making Good Use of the Dictionary (2) 7. 図書館ガイダンス（予定） 8. Guessing Meaning from Context (1) 9. Guessing Meaning from Context (2) 10. Word Parts (1) 11. Word Parts (2) 12. Collocations (1) 13. Collocations (2) 14. Collocations (3) 15. まとめ　　（＊進度は変更することがあります）

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：テキストの指定された箇所を読み、問題を解いてくること。 復習：授業内容を理解し、単語をリストアップしておくこと。
テキスト	Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky, *More Reading Power 3* (Longman, 2012)
参考文献	授業中に適宜紹介します。
評価方法	授業内外の課題約 6 割、定期試験約 4 割 ただし授業回数の 1/3 を越える欠席の場合、評価対象としません。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（1 年 7 組）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar 3. To develop basic reading skills 4. To understand how a text is organized	1. イントロダクション 2. Scanning and Previewing (1) 3. Scanning and Previewing (2) 4. Making Inferences (1) 5. Making Inferences (2) 6. Understanding Paragraphs (1) 7. Understanding Paragraphs (2) 8. Understanding Paragraphs (3) 9. Identifying the Pattern (1) 10. Identifying the Pattern (2) 11. Identifying the Pattern (3) 12. Reading Longer Passages (1) 13. Reading Longer Passages (2) 14. Skimming 15. まとめ　　（＊進度は変更することがあります）

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：テキストの指定された箇所を読み、問題を解いてくること。 復習：授業内容を理解し、単語をリストアップしておくこと。
テキスト	春学期から継続します。
参考文献	授業中に適宜紹介します。
評価方法	授業内外の課題約 6 割、定期試験約 4 割 ただし授業回数の 1/3 を越える欠席の場合、評価対象としません。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅰ（１年８組）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar and cohesive devises 3. To develop basic reading skills 4. To understand reading materials without translating into Japanese 5. To clarify the structure of a paragraph or essay	世界的な人気を集めるTed Talk に基づくテキストを用いる。 1. オリエンテーション 2. ～14. テキストに沿って進める。 15. 授業総括

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテキストの指定箇所を予習した上で授業に臨むこと。
テキスト	Laurie Blass, Mari Vargo and Eunice Yeates, *21st Century Reading 3.* Cengage Learning, 2016.
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	単語テスト 10%、課題 15%、授業貢献度 15%、学期末試験 60%

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（１年８組）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar 3. To develop basic reading skills 4. To understand how a text is organized	世界的な人気を集めるTed Talk に基づくテキストを用いる。 1. オリエンテーション 2. ～14. テキストに沿って進める。 15. 授業総括

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテキストの指定箇所を予習した上で授業に臨むこと。
テキスト	Laurie Blass, Mari Vargo and Eunice Yeates, *21st Century Reading 3.* Cengage Learning, 2016.
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	単語テスト 10%、課題 15%、授業貢献度 15%、学期末試験 60%

09 年度以降	Reading Strategies Ⅰ（１年９組）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar and cohesive devises 3. To develop basic reading skills 4. To understand reading materials without translating into Japanese 5. To clarify the structure of a paragraph or essay	1. *N.H.Finkelstein, Friends Indeed* 1～5ページを講読 2. 同上 6～10ページを講読 3. 同上 11～15ページを講読 4. 同上 16～20ページを講読 5. 同上 21～25ページを講読 6. 同上 26～30ページを講読 7. 同上 31～35ページを講読 8. 同上 36～40ページを講読 9. 同上 41～45ページを講読 10. 同上 46～50ページを講読 11. 同上 51～55ページを講読 12. 同上 56～60ページを講読 13. 同上 61～65ページを講読 14. 同上 66～70ページを講読 15. 同上 まとめ

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト	英米史に関するテキストをコピーして、その都度配布します。
参考文献	―
評価方法	筆記試験をします。筆記試験は評価全体の６０％です。平常点も４０％ほど考慮します。 欠席が授業回数の１／３を超えた場合、単位を与えません。遅刻は３回で欠席１回分にカウントします。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（１年９組）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar 3. To develop basic reading skills 4. To understand how a text is organized	1. *N.H.Finkelstein, Friends Indeed* 71～75ページを講読 2. 同上 76～80ページを講読 3. 同上 81～85ページを講読 4. 同上 86～90ページを講読 5. 同上 91～95ページを講読 6. 同上 96～100ページを講読 7. 同上 101～105ページを講読 8. 同上 106～110ページを講読 9. 同上 111～115ページを講読 10. 同上 116～120ページを講読 11. 同上 121～125ページを講読 12. 同上 126～130ページを講読 13. 同上 131～135ページを講読 14. 同上 136～140ページを講読 15. 同上 まとめ

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	春学期と同じ
テキスト	春学期と同じ
参考文献	―
評価方法	春学期と同じ

09 年度以降	Reading Strategies Ⅰ（１年１０組）	担当者	佐々木　輝美

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar and cohesive devises 3. To develop basic reading skills 4. To understand reading materials without translating into Japanese 5. To clarify the structure of a paragraph or essay	1. 導入 2. 伝える技術 3. Getting the main idea 4. 上記関連資料 5. Phrase reading 6. 上記関連資料 7. Paragraph reading 8. 上記関連資料 9. Time order 10. 上記関連資料 11. Process and Direction 12. 上記関連資料 13. Space order 14. 上記関連資料 15. まとめ

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、小テストに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと
テキスト	Hashimoto, Mitsuo 他, A Guide to Paragraph Reading, 朝日出版社
参考文献	—
評価方法	授業への参加度 20%、小テスト 20%、期末テスト 60%

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（１年１０組）	担当者	佐々木　輝美

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar 3. To develop basic reading skills 4. To understand how a text is organized	1. 導入 2. Fact and examples 3. 上記関連資料 4. Definition 5. 上記関連資料 6. Classification 7. 上記関連資料 8. Comparison and Contrast 9. 上記関連資料 10. Analogy 11. 上記関連資料 12. Reasons, causes and effects 13. 上記関連資料１ 14. 上記関連資料２ 15. まとめ

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、小テストに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと
テキスト	Hashimoto, Mitsuo 他, A Guide to Paragraph Reading, 朝日出版社
参考文献	—
評価方法	授業への参加度 20%、小テスト 20%、期末テスト 60%

09 年度以降	Reading Strategies Ⅰ（１年１１組）	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar and cohesive devises 3. To develop basic reading skills 4. To understand reading materials without translating into Japanese 5. To clarify the structure of a paragraph or essay	1 Introduction 2 Extensive reading①: new vocabulary 3 Extensive reading②: fiction and nonfiction 4 Extensive reading③: books 5 Supplementary reading materials① 6 Vocabulary building①: making use of the dictionary 7 Vocabulary building②: guessing meaning 8 Vocabulary building③: word parts 9 Vocabulary building④: collocations １０ Vocabulary building⑤: structure and reference １１ Supplementary reading materials② １２ Comprehensive reading①: scanning １３ Comprehensive reading②-1: making inference １４ Comprehensive reading②-2 making inference １５ Supplementary reading materials③

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	assignments
テキスト	Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky, *More Reading Power 3* (Pearson Longman,2012).
参考文献	Other reading material will be given.
評価方法	Participation(30%), Assignements (30%),　Exam(40%)

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（１年１１組）	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar 3. To develop basic reading skills 4. To understand how a text is organized	1 Comprehensive reading③-1: paragraphs 2 Comprehensive reading③-2: paragraphs 3 Supplementary reading materials④ 4 Comprehensive reading④: pattern 5 Comprehensive reading⑤-1: longer passages 6 Comprehensive reading⑤-2: longer passages 7 Comprehensive reading⑤-3: longer passages 8 Supplementary reading materials⑤ 9 Summarizing①: short passages １０ Summarizing②: short passages １１ Summarizing③: longer passages １２ Supplementary reading materials⑥ １３ Reading faster① １４ Reading faster② １５ Reading faster③

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	assignments
テキスト	Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky, *More Reading Power 3* (Pearson Longman,2012).
参考文献	Other reading material will be given.
評価方法	Participation(30%), Assignements (30%),　Exam(40%)

09 年度以降	Reading Strategies Ⅰ（１年１２組）	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar and cohesive devises 3. To develop basic reading skills 4. To understand reading materials without translating into Japanese 5. To clarify the structure of a paragraph or essay	1. Introduction 2. Why We Need Explorers 1 3. Why We Need Explorers 2 4. How to Learn from Mistakes 1 5. How to Learn from Mistakes 2 6. Library Workshop 7. Why We Have Too Few Women Leaders 1 8. Why We Have Too Few Women Leaders 2 9. The Mystery Box 1 10. The Mystery Box 2 11. The Good News on Poverty 1 12. The Good News on Poverty 2 13. Preparation for presentations 14. Group presentations 1 15. Group presentations 2

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定箇所の事前精読、課題、プレゼンテーション準備、リーディングジャーナル
テキスト	*21st Century Reading 4: Creative Thinking and Reading with TEDTalks*, Blass & Williams, Cengage Learning
参考文献	特になし
評価方法	クイズ 30%、リーディングジャーナル 30%、授業貢献度 20%、プレゼンテーション 20%

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（１年１２組）	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar 3. To develop basic reading skills 4. To understand how a text is organized	1. Introduction 2. Ancient Wonders Captured in 3-D 1 3. Ancient Wonders Captured in 3-D 2 4. How Food Shape Our Cities 1 5. How Food Shape Our Cities 2 6. What will Future Jobs Look Like? 1 7. What will Future Jobs Look Like? 2 8. The Linguistic Genius of Babies 1 9. The Linguistic Genius of Babies 2 10. Innovating to Zero! 1 11. Innovating to Zero! 2 12. Propaganda tactics 1 13. Propaganda tactics 2 14. Group presentations 1 15. Group presentations 2

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定箇所の事前精読、課題、プレゼンテーション準備、リーディングジャーナル
テキスト	*21st Century Reading 4: Creative Thinking and Reading with TEDTalks*, Blass & Williams, Cengage Learning
参考文献	特になし
評価方法	クイズ 30%、リーディングジャーナル 30%、授業貢献度 20%、プレゼンテーション 20%

09 年度以降	Reading Strategies I （再履修）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar and cohesive devises 3. To develop basic reading skills 4. To understand reading materials without translating into Japanese 5. To clarify the structure of a paragraph or essay	第１回 導入 第２回～第14回 初回授業にて指示します。 第15回 まとめ ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。
テキスト	テキスト：初回授業にて指示します。
参考文献	—
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading Strategies I （再履修）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar and cohesive devises 3. To develop basic reading skills 4. To understand reading materials without translating into Japanese 5. To clarify the structure of a paragraph or essay	第１回 導入 第２回～第14回 初回授業にて指示します。 第15回 まとめ ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。
テキスト	テキスト：初回授業にて指示します。
参考文献	—
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（再履修）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar 3. To develop basic reading skills 4. To understand how a text is organized	第１回 導入 第２回～第14回 初回授業にて指示します。 第15回 まとめ ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。
テキスト	テキスト：初回授業にて指示します。
参考文献	—
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（再履修）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for first-year students. Overall Objectives 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar 3. To develop basic reading skills 4. To understand how a text is organized	第１回 導入 第２回～第14回 初回授業にて指示します。 第15回 まとめ ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。
テキスト	テキスト：初回授業にて指示します。
参考文献	—
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（２年 ①）	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary 2. To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices 3. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 4. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 5. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	Week 1: Introduction. Week 2: Selected reading & assignment (R&A). Week 3: Selected R&A. Focus on vocabulary building. Week 4: Selected reading & assignment. Week 5: Selected R&A. Focus on intensive reading. Week 6: Selected reading & assignment. Week 7: Selected R&A. Focus on faster reading. Week 8: Quiz I. Journals due. Week 9: Selected reading & assignment. Week 10: Selected R&A. Focus on effective reading. Week 11: Selected reading & assignment. Week 12: Selected R&A. Focus on global comprehension. Week 13: Selected reading & assignment. Week 14: Selected R&A. Focus on making inferences. Week 15: Quiz II. Journals due.

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments (approximately 90 minutes) in preparation for class participation.
テキスト	Online text readings
参考文献	Online linked sources
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（２年 ①）	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary. 2. To automatize more accurate grammatical knowledge 3. To understand reading materials different in styles and contents. 4. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 5. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 6. To do some book research and make a reference list.	Week 1: Introduction. Week 2: Focus on presentation & discussion (P&D). Week 3: Selected R&A. Student-led P&D. Week 4: Selected R&A. Student-led P&D. Week 5: Selected R&A. Student-led P&D. Week 6: Selected R&A. Student-led P&D. Week 7: Selected R&A. Student-led P&D. Week 8: Quiz I. Journals due. Week 9: Selected R&A. Student-led P&D. Week 10: Selected R&A. Student-led P&D. Week 11: Selected R&A. Student-led P&D. Week 12: Selected R&A. Student-led P&D. Week 13: Selected R&A. Student-led P&D. Week 14: Selected R&A. Student-led P&D. Week 15: Quiz II. Journals due.

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments (approximately 90 minutes) in preparation for class participation.
テキスト	Online text readings
参考文献	Online linked sources
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（２年 ②）	担当者	Ｅ．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary 2. To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices 3. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 4. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 5. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	Week 1 Introduction to Course & Pre-Reading Test Week 2 Reading & Learning-Textbook Reconnaissance (ch.2) Week 3 Muscle Reading (ch. 2) Week 4 Discovery Wheel (ch.2) Week 5 Studying Memory (ch.3) Week 6 The Nature of Memory (ch.3) Week 7 The Nature of Memory (cont'd) Week 8 Introduction to Memoir Week 9 La Gringuita Week 10 La Gringuita (cont'd) Week 11 Lake Stinko (Ch. 5) Week 12 Lake Stinko (cont'd) Week 13 History of Education (Ch. 7) Week 14 History of Education (cont'd) Week 15 Post-Test

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation
テキスト	Benz, C. & Schuemann, C.M.(2006). College Reading 4 Houghton Mifflin
参考文献	Additional materials will be provided
評価方法	In-class participation & Homework (40%), Reading Responses x 2 (20%),Vocabulary Journal (20%) Post-Test (20%)

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（２年 ②）	担当者	Ｅ．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary. 2. To automatize more accurate grammatical knowledge 3. To understand reading materials different in styles and contents. 4. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 5. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 6. To do some book research and make a reference list.	Week 1 Introduction to Fall Course & Themes & Motifs in Fairy Tales Week 2 More Than 1 Cinderella? Week 3 Cinderella Variants Exchange Week 4 Little Red Riding Hood Week 5 Reader's Theater-Introduction & Prep Week 6 Reader's Theater Live! (Mid-Term Project) Week 7 The Hero's Journey Week 8 Introduction to the Alchemist Week 9 The Alchemist – Pt. I (1st half) Week 10 The Alchemist – Pt. I (2nd half) Week 11 The Alchemist – Pt. II (1st half) Week 12 The Alchemist – Pt. II (2nd half) Week 13 Charting the Hero's Journey Week 14 Epilogue/Wrap Up Week 15 TOEFL Post-test

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation
テキスト	There is no text for this course
参考文献	Materials will be provided by the instructor
評価方法	In-class participation (20%), Fairy/Folk Tale Packet x 2 (30%), Alchemist Reader's Packet & Reader Response (30%), TOEFL Post-Test (20%)

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（２年 ③）	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary 2. To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices 3. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 4. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 5. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1. Course Introduction 2. Quick easy reading – Recalling and retelling what you've read 3. Reading 1: Introduction to author and theme / First read 4. Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises 5. Reading 1: Group discussion / Final read and review 6. Reading 2: Introduction to author and theme / First read 7. Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises 8. Reading 2: Group discussion / Final read and review 9. Reading 3: Introduction to author and theme / First read 10. Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises 11. Reading 3: Group discussion / Final read and review 12. Reading 4: Introduction to author and theme / First read 13. Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises 14. Reading 4: Group discussion / Final read and review 15. Final Assessment

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.
テキスト	Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.
参考文献	A comprehensive reading list will be distributed in class.
評価方法	Evaluations will be based on participation in classroom discussions (30%), the completion of in-class and homework assignments (35%), and achievement on a final essay (35%).

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（２年 ③）	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary. 2. To automatize more accurate grammatical knowledge 3. To understand reading materials different in styles and contents. 4. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 5. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 6. To do some book research and make a reference list.	1. Course Introduction 2. Quick easy reading – Recalling and retelling what you've read 3. Reading 1: Introduction to author and theme / First read 4. Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises 5. Reading 1: Group discussion / Final read and review 6. Reading 2: Introduction to author and theme / First read 7. Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises 8. Reading 2: Group discussion / Final read and review 9. Reading 3: Introduction to author and theme / First read 10. Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises 11. Reading 3: Group discussion / Final read and review 12. Reading 4: Introduction to author and theme / First read 13. Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises 14. Reading 4: Group discussion / Final read and review 15. Final Assessment

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.
テキスト	Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.
参考文献	A comprehensive reading list will be distributed in class.
評価方法	Evaluations will be based on participation in classroom discussions (30%), the completion of in-class and homework assignments (35%), and achievement on a final essay (35%).

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（２年 ④）	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary 2. To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices 3. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 4. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 5. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1: Orientation; Reading 1 & reading strategies 2: Reading 2 & reading strategies 3: Reading 3 & reading strategies 4: Reading 4 & reading strategies 5: Reading 5 & reading strategies 6: Reading 6 & reading strategies 7: Reading 7 & reading strategies 8: Reading 8 & reading strategies 9: Reading 9 & reading strategies 10: Reading 10 & reading strategies 11: Reading 11 & reading strategies 12: Reading 12 & reading strategies 13: Reading 13 & reading strategies 14: Reading 14 & reading strategies 15: Course summary & survey

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Participation & in-class performance; Homework; Readings & strategies

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（２年 ④）	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary. 2. To automatize more accurate grammatical knowledge 3. To understand reading materials different in styles and contents. 4. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 5. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 6. To do some book research and make a reference list.	1: Orientation; Reading 1 & reading strategies 2: Reading 2 & reading strategies 3: Reading 3 & reading strategies 4: Reading 4 & reading strategies 5: Reading 5 & reading strategies 6: Reading 6 & reading strategies 7: Reading 7 & reading strategies 8: Reading 8 & reading strategies 9: Reading 9 & reading strategies 10: Reading 10 & reading strategies 11: Reading 11 & reading strategies 12: Reading 12 & reading strategies 13: Reading 13 & reading strategies 14: Reading 14 & reading strategies 15: Course summary & survey

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Participation & in-class performance; Homework; Readings & strategies

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（２年 ⑤）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary 2. To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices 3. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 4. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 5. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1. イントロダクション 2. Skills to find essential information 3. Skills to understand the logic 4. Skills to organize major ideas 5. Art 6. Biology 7. History 8. Sociology 9. Chemistry 10. Psychology 11. Architecture 12. Ecology 13. Anthropology 14. Art History 15. まとめ

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業で行う Toefl Practice Test の問題を、事後に精読すること。
テキスト	授業中にプリントを配布する。
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	毎回行う小テストの結果で評価する。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（２年 ⑤）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary. 2. To automatize more accurate grammatical knowledge 3. To understand reading materials different in styles and contents. 4. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 5. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 6. To do some book research and make a reference list.	1. イントロダクション 2. Geology 3. Philosophy 4. Physics 5. Art 6. Biology 7. History 8. Sociology 9. Chemistry 10. Psychology 11. Architecture 12. Ecology 13. Anthropology 14. Art History 15. まとめ

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業で行う Toefl Practice Test の問題を、事後に精読すること。
テキスト	授業中にプリントを配布する。
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	毎回行う小テストの結果で評価する。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（２年 ⑥）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary 2. To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices 3. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 4. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 5. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1. Introduction to the course 2. How useful are academic papers? 3. Fast reading strategies 4. Reading academic papers: Benefits and challenges 5. Reading more efficiently 1 6. Reading more efficiently 2 7. Reading critically 1 8. Reading critically 2 9. Taking notes 10. Poster session 11. Outlining 12. Tutorial 13. Group presentation 1 14. Group presentation 2 15. Wrap-up

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the reading and course materials and to work closely with other students to complete tasks and assignments.
テキスト	Electronic copies, prints and handouts to be provided by the instructor
参考文献	To be introduced by the instructor
評価方法	Short essay 20%, group research presentations 40%, final report 40%

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（２年 ⑥）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary. 2. To automatize more accurate grammatical knowledge 3. To understand reading materials different in styles and contents. 4. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 5. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 6. To do some book research and make a reference list.	1. Review of RS III 2. Reading academic papers more intensively 3. Finding references for research 4. Reading research paper 1 5. Reading reference materials 1 6. Reading research paper 2 7. Reading reference materials 2 8. Reading research paper 3 9. Reading reference materials 3 10. Reading research paper 4 11. Reading reference materials 4 12. Tutorial 13. Group presentation 1 14. Group presentation 2 15. Wrap-up

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the reading and course materials, and to work closely with other students to complete tasks and assignments.
テキスト	Electronic copies, prints and handouts to be provided by the instructor
参考文献	To be introduced by the instructor
評価方法	Short essay 20%, group research presentations 40%, final report 40%

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（２年 ⑦）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary 2. To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices 3. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 4. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 5. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	世界的な人気を集めるTed Talk に基づくテキストを用いる。 1. オリエンテーション 2. ～14. テキストに沿って進める。 15. 授業総括

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテキストの指定箇所を予習した上で授業に臨むこと。
テキスト	Laurie Blass and Jessica Williams. *21st Century Reading 4.* Cengage Learning, 2016.
参考文献	適宜紹介する
評価方法	単語テスト 10%、課題 15%、授業貢献度 15%、学期末試験 60%

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（２年 ⑦）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary. 2. To automatize more accurate grammatical knowledge 3. To understand reading materials different in styles and contents. 4. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 5. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 6. To do some book research and make a reference list.	世界的な人気を集めるTed Talk に基づくテキストを用いる。 1. オリエンテーション 2. ～14. テキストに沿って進める。 15. 授業総括

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテキストの指定箇所を予習した上で授業に臨むこと。
テキスト	Laurie Blass and Jessica Williams. *21st Century Reading 4.* Cengage Learning, 2016.
参考文献	適宜紹介する
評価方法	単語テスト 10%、課題 15%、授業貢献度 15%、学期末試験 60%

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（２年 ⑧）	担当者	Ｃ．芦沢

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary 2. To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices 3. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 4. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 5. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	Week 1: Introductions / Literary Terms Weeks 2-3: Reading Passage 1 Weeks 4-5: Reading Passage 2 Weeks 6-7: Reading Passage 3 Week 8: Review Quiz Weeks 9-10: Reading Passage 4 Weeks 11-12: Reading Passage 5 Week 13: Review Quiz Weeks 14-15: Final Paper & Wrap Up

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned on a regular basis. Students should plan on spending an average of 60 minutes each week on their reading and writing assignments.
テキスト	Kay, J. & Gelshenen, R. (2013). *Discovering Fiction Level 1* (2nd Edition). Cambridge University Press.
参考文献	Bring the textbook, a pen/pencil, a dictionary, and a notebook to every class.
評価方法	Active Participation=30%, Homework=20%, Quizzes=20%, Final Paper=30%

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（２年 ⑧）	担当者	Ｃ．芦沢

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary. 2. To automatize more accurate grammatical knowledge 3. To understand reading materials different in styles and contents. 4. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 5. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 6. To do some book research and make a reference list.	Week 1: Welcome Back / Summer Share Weeks 2-3: Reading Passage 6 Weeks 4-5: Reading Passage 7 Weeks 6-7: Reading Passage 8 Week 8: Review Quiz Weeks 9-10: Reading Passage 9 Weeks 11-12: Reading Passage 10 Week 13: Review Quiz Weeks 14-15: Final Paper & Wrap Up

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned on a regular basis. Students should plan on spending an average of 60 minutes each week on their reading and writing assignments.
テキスト	Kay, J. & Gelshenen, R. (2013). *Discovering Fiction Level 1* (2nd Edition). Cambridge University Press.
参考文献	Bring the textbook, a pen/pencil, a dictionary, and a notebook to every class.
評価方法	Active Participation=30%, Homework=20%, Quizzes=20%, Final Paper=30%

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（２年 ⑨）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary 2. To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices 3. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 4. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 5. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1. 導入とテキスト精読 2. テキスト精読 3. テキスト精読 4. テキスト精読 5. テキスト精読 6. テキスト精読 7. テキスト精読 8. テキスト精読 9. テキスト精読 10. テキスト精読 11. テキスト精読 12. テキスト精読 13. テキスト精読 14. テキスト精読 15. テキスト精読とまとめ

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。
テキスト	英字新聞記事の抜粋など。Rent　by Jonathan Larson。
参考文献	授業中に言及する予定です。
評価方法	毎回の授業開始時の vocabulary テストによる。学期末に定期試験はしません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（２年 ⑨）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary. 2. To automatize more accurate grammatical knowledge 3. To understand reading materials different in styles and contents. 4. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 5. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 6. To do some book research and make a reference list.	1. 導入とテキスト精読 2. テキスト精読 3. テキスト精読 4. テキスト精読 5. テキスト精読 6. テキスト精読 7. テキスト精読 8. テキスト精読 9. テキスト精読 10. テキスト精読 11. テキスト精読 12. テキスト精読 13. テキスト精読 14. テキスト精読 15. テキスト精読とまとめ

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。
テキスト	英字新聞記事の抜粋など。Rent　by Jonathan Larson。
参考文献	授業中に言及する予定です。
評価方法	毎回の授業開始時の vocabulary テストによる。学期末に定期試験はしません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（２年 ⑩）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary 2. To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices 3. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 4. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 5. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1. Introduction and Assessment 2. Introduction to Extensive Reading (→自己学習へ) 3. 自己学習の進め方 4. Introduction to Intensive Reading 5. Intensive Reading 1 (TOEFL reading 1) 6. Intensive Reading 2 (TOEFL reading 2) 7. Intensive Reading 3 (既知のニュース) 8. Intensive Reading 4（未知のニュース） 9. Intensive Reading 5（知識の必要性） 10. Reading for Structure 1 (Coffee and Globalization 1) 11. Reading for Structure 2 (Coffee and Globalization 2) 12. Reading for Structure 3 (Coffee and Globalization 3) 13. 情報収集のためのreading 1 (CIA factbookを使って) 14. 情報収集のためのreading 2 (BBCを使って) 15. Term Assessment

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	教材は事前に授業で配布するかポータルにアップするので、必ず事前学習を行うこと。授業内に理解できなかったことは、事後学習で解決すること。
テキスト	ハンドアウトを配布あるいはポータルにアップする。Outside Reader 購入予定（授業時に説明する）。
参考文献	授業時に紹介する。
評価方法	授業貢献＋提出物 40%　授業内小テスト 20%　試験 40%（パーセンテージは変更される可能性もある）

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（２年 ⑩）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary. 2. To automatize more accurate grammatical knowledge 3. To understand reading materials different in styles and contents. 4. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 5. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 6. To do some book research and make a reference list.	1. Introduction and Assessment 2. Book Research 3. Making a Reference List 4. Reading a Literary Text 1 (指定テクストPart1) 5. Reading a Literary Text 2 (指定テクストPart 2) 6. Background Research 7. Reading a Literary Text 3 (指定テクストPart3) 8. Reading a Literary Text4 (指定テクストPart4) 9. Discussion 10. Book Reviews 11. Reading an Academic Paper 1 (Summary) 12. Reading an Academic Paper 2 (Structure) 13. Reading for an Abstract Writing 14. Intensive Academic Reading 15. Term Assessment

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	教材は事前に授業で配布するかポータルにアップするので、必ず事前学習を行うこと。授業内に理解できなかったことは、事後学習で解決すること。
テキスト	ハンドアウトを配布あるいはポータルにアップする。
参考文献	授業時に紹介する。
評価方法	授業貢献＋提出物 40%　授業内小テスト 20%　試験 40%（パーセンテージは変更される可能性もある）

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（2 年 ⑪）	担当者	船越　健志

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary 2. To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices 3. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 4. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 5. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1. オリエンテーション 2. City Spaces 1 3. City Spaces 2 4. City Spaces 3 5. Animal Conservation 1 6. Animal Conservation 2 7. Animal Conservation 3 8. Virus Writers and Hackers 1 9. Virus Writers and Hackers 2 10. Virus Writers and Hackers 3 11. Natural Disasters 1 12. Natural Disasters 2 13. Natural Disasters 3 14. Natural Disasters 4 15. まとめ

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	隔週で実施する小テストに備えて、授業内容の復習を行うこと
テキスト	配布プリントを使用する。
参考文献	なし
評価方法	期末テスト４０％＋小テスト３０％＋授業への貢献度３０％

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（2 年 ⑪）	担当者	船越　健志

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary. 2. To automatize more accurate grammatical knowledge 3. To understand reading materials different in styles and contents. 4. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 5. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 6. To do some book research and make a reference list.	1. オリエンテーション 2. Art Detectives 1 3. Art Detectives 2 4. Art Detectives 3 5. Survival Skills 1 6. Survival Skills 2 7. Survival Skills 3 8. Nature's Medicine 1 9. Nature's Medicine 2 10. Nature's Medicine 3 11. Lost at Sea 1 12. Lost at Sea 2 13. Art Detectives 4 14. Art Detectives 5 15. まとめ

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	隔週で実施する小テストに備えて、授業内容の復習を行うこと
テキスト	配布プリントを使用する。
参考文献	なし
評価方法	期末テスト４０％＋小テスト３０％＋授業への貢献度３０％

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（２年 ⑫）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary 2. To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices 3. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 4. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 5. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1. イントロダクション 2. *We Should All Be Feminists*, p. 7-11ディスカッション 3. ---, pp. 11-18　ディスカッション 4. ---, pp. 19-25　ディスカッション 5. ---, pp. 26-34　ディスカッション 6. ---, pp. 35-42　ディスカッション 7. ---, pp. 42-48　ディスカッション 8. 中間まとめ 9. 自分でスピーチ原稿を書いてみる 10. スピーチ原稿を推敲する 11. 発表と応答 ① 12. 発表と応答 ② 13. 発表と応答 ③ 14. 発表と応答 ④ 15. まとめ

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：授業毎に出される課題をこなすこと。 復習：授業毎に出される課題をこなすこと。
テキスト	Chimamanda Ngozi Adichie, *We Should All Be Feminists* (Fourth Estate, 2012)
参考文献	授業内で適宜紹介します。
評価方法	発表約３割、その他の授業内外の課題約７割 （ただし欠席が授業回数の 1/3 を越える場合は評価対象としない）

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（２年 ⑫）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary. 2. To automatize more accurate grammatical knowledge 3. To understand reading materials different in styles and contents. 4. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 5. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 6. To do some book research and make a reference list.	1. イントロダクション 2. 図書館セミナー 3. “Why I’m done try to be ‘man enough,’” p. 1 4. ---, p. 2 ディスカッション 5. ---, p. 3 ディスカッション 6. ---, p. 4 ディスカッション 7. ---, p. 5 ディスカッション 8. 中間まとめ／スピーチ原稿とスライドを作成する 9. スピーチ原稿とスライドを推敲する 10. 発表と応答 ① 11. 発表と応答 ② 12. 発表と応答 ③ 13. 発表と応答 ④ 14. 原稿とスライドをエッセイにまとめる 15. まとめ

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：授業毎に出される課題をこなすこと。 復習：授業毎に出される課題をこなすこと。
テキスト	Justin Baldoni, “Why I’m done trying to be ‘man enough’” （プリントで配布します）
参考文献	授業中に適宜紹介します。
評価方法	発表約３割、文献リスト１割、その他の授業内外の課題約６割 （ただし欠席が授業回数の 1/3 を越える場合は評価対象としない）

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（２年 ⑬）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary 2. To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices 3. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 4. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 5. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1. 第１章の１ 2. 第１章の２ 3. 第１章の３ 4. 第２章の１ 5. 第２章の２ 6. 第２章の３ 7. 第３章の１ 8. 第３章の２ 9. 第３章の３ 10. 第４章の１ 11. 第４章の２ 12. 第４章の３ 13. 第５章の１ 14. 第５章の２ 15. 第５章の３

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	あらかじめ指定された範囲の予習と復習は必須である。
テキスト	Hinds, John (1986) Situation vs. Person Focus.（『日本語らしさと英語らしさ』）東京：くろしお出版.
参考文献	安井稔（1996)『英文法総覧』（改訂版）東京：開拓社．などの頼りとなるものを授業で紹介する。
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（２年 ⑬）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary. 2. To automatize more accurate grammatical knowledge 3. To understand reading materials different in styles and contents. 4. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 5. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 6. To do some book research and make a reference list.	1. 第６章の１ 2. 第６章の２ 3. 第６章の３ 4. 第７章の１ 5. 第７章の２ 6. 第７章の３ 7. 第８章の１ 8. 第８章の２ 9. 第８章の３ 10. 第９章の１ 11. 第９章の２ 12. 第９章の３ 13. 第１０章の１ 14. 第１０章の２ 15. 第１０章の３

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	あらかじめ指定された範囲の予習と復習は必須である。
テキスト	Hinds, John (1986) Situation vs. Person Focus.（『日本語らしさと英語らしさ』）東京：くろしお出版.
参考文献	安井稔（1996)『英文法総覧』（改訂版）東京：開拓社．などの頼りとなるものを授業で紹介する。
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（２年 ⑭）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary 2. To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices 3. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 4. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 5. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1. 春学期の授業内容と授業計画の説明 2. Presentation & Reading(1) 3. Presentation & Reading(2) 4. Presentation & Reading(3) 5. Presentation & Reading(4) 6. Presentation & Reading(5) 7. Presentation & Reading(6) 8. Presentation & Reading(7) 9. Presentation & Reading(8) 10. Presentation & Reading(9) 11. Presentation & Reading(10) 12. Presentation & Reading(11) 13. Presentation & Reading(12) 14. Presentation & Reading(13) 15. 春学期の総復習と質疑応答

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定個所を事前に精読し、割当てられた範囲について、レジュメを作成してプレゼンテーションできるように準備して下さい。授業の後で再読し、予習段階でわからなかった点を確実に解消しておいて下さい。
テキスト	配布プリントを使用します。
参考文献	随時紹介します。
評価方法	期末試験の結果（概ね 70%の比重）および平常授業におけるプレゼンテーションやレジュメ作成の実績（概ね 30%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（２年 ⑭）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary. 2. To automatize more accurate grammatical knowledge 3. To understand reading materials different in styles and contents. 4. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 5. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 6. To do some book research and make a reference list.	1. 秋学期の授業内容と授業計画の説明 2. Presentation & Reading(1) 3. Presentation & Reading(2) 4. Presentation & Reading(3) 5. Presentation & Reading(4) 6. Presentation & Reading(5) 7. Presentation & Reading(6) 8. Presentation & Reading(7) 9. Presentation & Reading(8) 10. Presentation & Reading(9) 11. Presentation & Reading(10) 12. Presentation & Reading(11) 13. Presentation & Reading(12) 14. Presentation & Reading(13) 15. 秋学期の総復習と質疑応答

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定個所を事前に精読し、割当てられた範囲について、レジュメを作成してプレゼンテーションできるように準備して下さい。授業の後で再読し、予習段階でわからなかった点を確実に解消しておいて下さい。
テキスト	配布プリントを使用します。
参考文献	随時紹介します。
評価方法	期末試験の結果（概ね 70%の比重）および平常授業におけるプレゼンテーションやレジュメ作成の実績（概ね 30%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（再履修）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary 2. To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices 3. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 4. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 5. To read some outside readers which they can read without using a dictionary	1) introduction 2) “Bumps and Personalities” 3) ditto 4) “An American Holiday, Hawaiian Style” 5) ditto 6) “The Shakers” 7) ditto 8) “Color Me Pink” 9) ditto 10) “Our Changing Language” 11) ditto 12) “A Fable” 13) ditto 14) “Zoos” 15) ditto

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習は必須である。
テキスト	*Connection 3* (Shohakusha / Cengage)
参考文献	とくにないが、英和辞典を持参すること。スマホではなく、辞書専用機を持ってくること。
評価方法	テストと授業への参加度

09 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（再履修）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course is compulsory for second-year students. Overall Objectives 1. To increase academic vocabulary. 2. To automatize more accurate grammatical knowledge 3. To understand reading materials different in styles and contents. 4. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 5. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 6. To do some book research and make a reference list.	1) introduction 2) “Hop to It!” 3) ditto 4) “The Many Faces of Medicine” 5) ditto 6) “And the Lucky Number Is . . .” 7) ditto 8) “George Washington Carver” 9) ditto 10) “English Around the World” 11) ditto 12) “Tea, Anyone?” 13) ditto 14) “Genetically Modified (GM) Food” 15) ditto

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習は必須である。
テキスト	*Connection 3* (Shohakusha / Cengage)
参考文献	とくにないが、英和辞典を持参すること。スマホではなく、辞書専用機を持ってくること。
評価方法	テストと授業への参加度

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 A）	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	1. Class orientation 2. Writing good sentences. 3. The English paragraph. 4. Topic sentence 5. Supporting and concluding sentences. 6. Common mistakes – peer review. 7. Narrative paragraphs 8. Descriptive paragraphs. 9. Opinion paragraphs 10. Comparison paragraphs 11. Common mistakes – peer review. 12. In class writing 13. In class writing 14. Final assignment 15. Wrap up

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students should preview the next week and revise assignments
テキスト	Bauer, J, Boyle, M.S. & Stapleton, S. *Final Draft 2.* Cambridge University Press
参考文献	—
評価方法	In class performance 40%; assignments 40%; homework 20%.

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 A）	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	1. Class orientation 2. Revising paragraphs 3. The structure of an essay 4. Introduction and Thesis statements. 5. Body paragraphs 6. Conclusion 7. Description essay 8. Opinion essay 9. Common mistakes 10. Comparison essay 11. Cause and effect solution 12. Problem—solution essay 13. In class writing assignment 14. In class writing assignment 15. Wrap up

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students should preview the next week's material and revise assignments
テキスト	Bauer, J, Boyle, M.S. & Stapleton, S. *Final Draft 2.* Cambridge University Press.
参考文献	—
評価方法	In class performance, 40%; assignments, 40%; homework, 20%.

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 B）	担当者	E．ホフ

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	Week 1: Course introduction and objectives Week 2: Unit 1 - Happiness, Lesson A Week 3: Unit 1 - Happiness, Lesson B Week 4: Unit 2 - Big Ideas, Lesson A Week 5: Unit 2 - Big Ideas, Lesson B Week 6: Midterm Evaluation Week 7: Unit 3 - Connected Lives, Lesson A Week 8: Unit 3 - Connected Lives, Lesson B Week 9: Midterm Evaluation Analysis Week 10: Unit 4 - Deep Trouble, Lesson A Week 11: Unit 4 - Deep Trouble, Lesson B Week 12: Unit 5 - Memory and Learning, Lesson A Week 13: Final Evaluation Week 14: Unit 5 - Memory and Learning, Lesson B Week 15: Final Evaluation Analysis

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Set aside 30 minutes for homework and class preparation, more time may be needed for evaluations
テキスト	*Pathways 2: Reading, Writing, & Critical Thinking*
参考文献	Students will need to prepare a B5 size notebook
評価方法	In-class quizzes 30 % , Homework 20%, Midterm evaluation 20 %, Final evaluation 30 %

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 B）	担当者	E．ホフ

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	Week 1: Preparation for autumn semester Week 2: Unit 6 - Dangerous Cures, Lesson A Week 3: Unit 6 - Dangerous Cures, Lesson B Week 4: Unit 7 - Nature's Fury, Lesson A Week 5: Unit 7 - Nature's Fury, Lesson B Week 6: Midterm Evaluation Week 7: Unit 8 - Building Wonders, Lesson A Week 8: Unit 8 - Building Wonders, Lesson B Week 9: Midterm Evaluation Analysis Week 10: Unit 9 - Form and Function, Lesson A Week 11: Unit 9 - Form and Function, Lesson B Week 12: Unit 10 - Mobile Revolution, Lesson A Week 13: Final Evaluation Week 14: Unit 10 - Mobile Revolution, Lesson B Week 15: Final Evaluation Analysis

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Set aside 30 minutes for homework and class preparation, more time may be needed for evaluations
テキスト	*Pathways 2: Reading, Writing, & Critical Thinking*
参考文献	Students will need to prepare a B5 size notebook
評価方法	In-class quizzes 30 % , Homework 20%, Midterm evaluation 20 %, Final evaluation 30 %

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 C）	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	1: Class orientation 2: Paragraph organization, academic style and layout 3: Introduction to Quick Write 4: Planning a paragraph, using correction symbols 5: Topics and topic sentences 6: Supporting sentences and examples 7: Introduction to peer editing 8: Cause and effect writing 9: Grammar workshop 10: Persuasive writing 11: Comparison and contrast 12: Survey and report 13: Grammar workshop 2 14: Review 15: Return writing portfolio; consultation

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly writing assignments and revisions
テキスト	Introduction to Academic Writing, 3rd Edition (Pearson Longman)
参考文献	to be explained in class
評価方法	80% weekly paragraph writings, 20% Quick Write entries

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 C）	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	1: Class orientation 2: Elements of good academic writing 3: Introduction to timed free writing 4: Choosing topics, making titles 5: Thesis statements 6: Grammar mechanics: common writing errors 7: Types of essay organization 8: Proofreading and proofreading symbols 9: Making good introductory paragraphs 10: Types of concluding paragraphs 11: Quotations and citations 12: Grammar: fragments, dependent clauses 13: Summarizing 14: Review 15: Return all writings and consultation

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Essay writing assignments and revisions
テキスト	Introduction to Academic Writing, 3rd Edition (Pearson Longman)
参考文献	to be explained in class
評価方法	80% essays, 20% Quick Write entries

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 D）	担当者	Ｊ．Ｅ．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	1. Background to writing + Finding suitable sources 2. Developing critical approaches + Avoiding plagiarism 3. Understanding titles & planning + Finding key points and note-making [Assignment 1 Due] 4. Paraphrasing + Summarizing 5. References and quotations + Combining sources [Assignment 2 Due] 6. Organizing paragraphs + Intros and Conclusions 7. Midterm test 8. Rewriting and proofreading 9. Arguments and discussions [Assignment 3 Due] 10. Cause and effect + Cohesion 11. Comparisons + Definitions 12. Examples + Generalizations [Assignment 4 Due] 13. Final test 14. Review 15. Review

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	—
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 D）	担当者	Ｊ．Ｅ．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	1. Style + Visual information 2. Abbreviations + Academic vocabulary + Articles 3. Caution + Conjunctions [Assignment 1] 4. Nouns and adjectives 5. Prefixes and suffixes [Assignment 2] 6. Prepositions + Punctuation 7. Midterm test 8. Singular or plural 9. Time words + synonyms [Assignment 3] 10. Verbs, passives 11. Verbs of reference [Assignment 4] 12. Verbs, tenses 13. Final test 14. Review I 15. Review II

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	—
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 E）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	1. Class orientation 2. Organization of Good Paragraph Writing 3. Brainstorming 1 4. Brainstorming 2 5. Writing About Your Life 1 6. Writing About Your Life 2 7. Coherence in Writing 1 8. Coherence in Writing 2 9. Descriptive Essay 10. Logical Thinking 11. Thesis Statement 12. Group Work 13. Review 14. Test 15. Wrap-Up

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	You need to come to class with a finished product every week.
テキスト	Inside Writing 2 (Oxford), Academic Writing Skills 1(Cambridge)
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on in-class performance (40%), assignments (40%), and tests (20%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 E）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	1. Class Orientation 2. Brainstorming 3. Gathering Information 4. Organizing Your Sentences 5. Organizing Different Ideas 6. Supporting Your Points 7. Comparison/Contrast 8. Giving a Definition 9. Peer Work 1 10. Peer Work 2 11. Free Writing 1 12. Free Writing 2 13. Reviewing 14. Test 15. Wrap-Up

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	You need to come to class with a finished product every week.
テキスト	Academic Writing Skills 1(Cambridge)
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on in-class performance (40%), assignments (40%), and tests (20%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 F）	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	1: Class orientation 2: Paragraph organization, academic style and layout 3: Introduction to Quick Write 4: Planning a paragraph, using correction symbols 5: Topics and topic sentences 6: Supporting sentences and examples 7: Introduction to peer editing 8: Cause and effect writing 9: Grammar workshop 10: Persuasive writing 11: Comparison and contrast 12: Survey and report 13: Grammar workshop 2 14: Review 15: Return writing portfolio; consultation

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly writing assignments and revisions
テキスト	Introduction to Academic Writing, 3rd Edition (Pearson Longman)
参考文献	to be explained in class
評価方法	80% weekly paragraph writings, 20% Quick Write entries

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 F）	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	1: Class orientation 2: Elements of good academic writing 3: Introduction to timed free writing 4: Choosing topics, making titles 5: Thesis statements 6: Grammar mechanics: common writing errors 7: Types of essay organization 8: Proofreading and proofreading symbols 9: Making good introductory paragraphs 10: Types of concluding paragraphs 11: Quotations and citations 12: Grammar: fragments, dependent clauses 13: Summarizing 14: Review 15: Return all writings and consultation

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Essay writing assignments and revisions
テキスト	Introduction to Academic Writing, 3rd Edition (Pearson Longman)
参考文献	to be explained in class
評価方法	80% essays, 20% Quick Write entries

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 G）	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	Week 1-2 Course Introduction, Grammar boot-camp Week 3-5 Ch.1 Model, vocabulary, formatting a page/ Sentence structure / Writing assignment Week 6-8 Ch.2 Model, vocabulary, time order/ Sentence structure/ writing assignment Week 9-11 Ch.3 Model, vocabulary, adjectives/ Sentence structure/ writing assignment Week 12-14 Ch.4 Model, vocabulary, synonyms/ Sentence structure/ writing assignment Week 15 Review

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments
テキスト	Longman Academic Writing Series, Paragraphs to Essays, by Oshima & Hogue
参考文献	—
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 G）	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	Week 1-3 Ch.5 Model, vocabulary, phrasal verbs / Sentence structure / Writing assignment Week 4-6 Ch.6 Model, vocabulary, word knowledge / Sentence structure / Writing assignment Week 7-9 Ch.7 Model, vocabulary, Prefixes / Sentence structure / Writing assignment Week 10-12 Ch.8 Model, vocabulary, antonyms / Sentence structure / Writing assignment Week 13-15 Ch.9 Model, vocabulary, formality / Sentence structure / Writing assignment

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments
テキスト	Longman Academic Writing Series, Paragraphs to Essays, by Oshima & Hogue
参考文献	—
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 H）	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	Week 1-2 Course Introduction, Grammar boot-camp Week 3-5 Ch.1 Model, vocabulary, formatting a page/ Sentence structure / Writing assignment Week 6-8 Ch.2 Model, vocabulary, time order/ Sentence structure/ writing assignment Week 9-11 Ch.3 Model, vocabulary, adjectives/ Sentence structure/ writing assignment Week 12-14 Ch.4 Model, vocabulary, synonyms/ Sentence structure/ writing assignment Week 15 Review

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments
テキスト	Longman Academic Writing Series, Paragraphs to Essays, by Oshima & Hogue
参考文献	—
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 H）	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	Week 1-3 Ch.5 Model, vocabulary, phrasal verbs / Sentence structure / Writing assignment Week 4-6 Ch.6 Model, vocabulary, word knowledge / Sentence structure / Writing assignment Week 7-9 Ch.7 Model, vocabulary, Prefixes / Sentence structure / Writing assignment Week 10-12 Ch.8 Model, vocabulary, antonyms / Sentence structure / Writing assignment Week 13-15 Ch.9 Model, vocabulary, formality / Sentence structure / Writing assignment

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments
テキスト	Longman Academic Writing Series, Paragraphs to Essays, by Oshima & Hogue
参考文献	—
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 Ⅰ）	担当者	C．アシザワ

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	Week 1 : Introductions Weeks 2-5 : The Sentence and the Paragraph Weeks 6-9 : Descriptive Paragraphs Weeks 10-13 : Example Paragraphs Weeks 14-15 : Wrap Up

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned on a regular basis. Students should plan on spending an average of 60 minutes each week on their writing assignments.
テキスト	*Effective Academic Writing 1*, Alice Savage and Masoud Shafiei, Oxford University Press.
参考文献	Bring the textbook, a pen/pencil and a notebook to every class.
評価方法	Active Participation = 30%, Homework = 20%, Writing Assignments = 50%

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 Ⅰ）	担当者	C．アシザワ

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	Week 1 : Welcome Back/Summer Share Weeks 2-5 : Process Paragraphs Weeks 6-9 : Narrative Paragraphs Weeks 10-13 : Opinion Paragraphs Weeks 14-15 : Wrap Up

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned on a regular basis. Students should plan on spending an average of 60 minutes each week on their writing assignments.
テキスト	*Effective Academic Writing 1*, Alice Savage and Masoud Shafiei, Oxford University Press.
参考文献	Bring the textbook, a pen/pencil and a notebook to every class.
評価方法	Active Participation = 30%, Homework = 20%, Writing Assignments = 50%

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 J）	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	1 Course introduction 2. The English paragraph 3. The topic sentence 4. The supporting details 5. Characteristics of a good paragraph 6. Descriptive paragraph 7. Narrative paragraph 8. Personal opinion 9. Writing a second draft 10. Peer evaluation and feedback 11. Classification 12. Cause and effect 13. Comparison 14. Contrast 15. Test

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Write weekly journal and do pre-wring exercises.
テキスト	To be announced.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 J）	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	1. Course introduction 2. Brainstorming and topic selection 3. Thesis statement 4. Essay organization 5. Synthesizing Information 6. Detailed outline 7. Evaluating outlines 8. Descriptive essay 9. Narrative essay 10. Peer evaluation and feedback 11. Writing final draft 12. Comparison and contrast essay 13. Classification essay 14. Persuasive 15. Test

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Write weekly journal and do pre-wring exercises.
テキスト	To be announced.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 K）	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	1. Introduction 2. Unit 1-1,2 (Stimulating Ideas) 3. Unit 1-3,4,5 (Unity and Coherence) 4. Unit 2-1 Descriptive Essays (Stimulating Ideas) 5. Unit 2-2 (Brainstorming and Outlining) 6. Unit 2-3 (Developing Your Ideas) 7. Unit 2-4 (Editing Your Writing) 8. Unit 2-5 (Putting It All Together) 9. Unit 3-1 Example Paragraphs (Stimulating Ideas) 10. Unit 3-2 (Brainstorming and Outlining) 11. Unit 3-3 (Developing Your Ideas) 12. Unit 3-4 (Editing Your Writing) 13. Unit 3-5 (Putting It All Together) 14. Term-end presentation 15. Summary of the course

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	The more you prepare, the more you will learn. 毎回の予習・復習課題をポータルサイトに掲載するので、各自取り組んで授業に臨んでください。
テキスト	Alice Savage 著 *Effective Academic Writing 1: The Paragraph*. Oxford UP (2016) 978-0194323468
参考文献	*Longman Dictionary of Contemporary English*. Pearson. (2014) 978-1447954200
評価方法	Writing assignments (30%), class participation (10%), presentation (10%), final test (50%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 K）	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	1. Introduction, review of the spring semester 2. Unit 4-1 Process Paragraphs (Stimulating Ideas) 3. Unit 4-2 (Brainstorming and Outlining) 4. Unit 4-3 (Developing Your Ideas) 5. Unit 4-4 (Editing Your Writing) 6. Unit 4-5 (Putting It All Together) 7. Unit 5-1 Opinion Paragraphs (Stimulating Ideas) 8. Unit 5-2 (Brainstorming and Outlining) 9. Unit 5-3 (Developing Your Ideas) 10. Unit 5-4 (Editing Your Writing) 11. Unit 5-5 (Putting It All Together) 12. Unit 6-1 Narrative Paragraph(Stimulating Ideas) 13. Unit 6-2 (Brainstorming and Outlining) 14. Term-end presentation 15. Summary of the course

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	The more you prepare, the more you will learn. 毎回の予習・復習課題をポータルサイトに掲載するので、各自取り組んで授業に臨んでください。
テキスト	Alice Savage 著 *Effective Academic Writing 1: The Paragraph*. Oxford UP (2016) 978-0194323468
参考文献	*Longman Dictionary of Contemporary English*. Pearson. (2014) 978-1447954200
評価方法	Writing assignments (30%), class participation (10%), presentation (10%), final test (50%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 L）	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	Week 1-2 Course Introduction, Grammar boot-camp Week 3-5 Ch.1 Model, vocabulary, formatting a page/ Sentence structure / Writing assignment Week 6-8 Ch.2 Model, vocabulary, time order/ Sentence structure/ writing assignment Week 9-11 Ch.3 Model, vocabulary, adjectives/ Sentence structure/ writing assignment Week 12-14 Ch.4 Model, vocabulary, synonyms/ Sentence structure/ writing assignment Week 15 Review

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments
テキスト	Longman Academic Writing Series, Paragraphs to Essays, by Oshima & Hogue
参考文献	—
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 L）	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	Week 1-3 Ch.5 Model, vocabulary, phrasal verbs / Sentence structure / Writing assignment Week 4-6 Ch.6 Model, vocabulary, word knowledge / Sentence structure / Writing assignment Week 7-9 Ch.7 Model, vocabulary, Prefixes / Sentence structure / Writing assignment Week 10-12 Ch.8 Model, vocabulary, antonyms / Sentence structure / Writing assignment Week 13-15 Ch.9 Model, vocabulary, formality / Sentence structure / Writing assignment

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments
テキスト	Longman Academic Writing Series, Paragraphs to Essays, by Oshima & Hogue
参考文献	—
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 M）	担当者	E．ホフ

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	Week 1: Course introduction and objectives Week 2: Unit 1 - Life in a Day, Lesson A Week 3: Unit 1 - Life in a Day, Lesson B Week 4: Unit 2 - Learning Experiences, Lesson A Week 5: Unit 2 - Learning Experiences, Lesson B Week 6: Midterm Evaluation Week 7: Unit 3 - Family Ties, Lesson A Week 8: Unit 3 - Family Ties, Lesson B Week 9: Midterm Evaluation Analysis Week 10: Unit 4 - The Trouble with Trash, Lesson A Week 11: Unit 4 - The Trouble with Trash, Lesson B Week 12: Unit 5 - The World in Our Kitchen, Lesson A Week 13: Final Evaluation Week 14: Unit 5 - The World in Our Kitchen, Lesson B Week 15: Final Evaluation Analysis

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Set aside 30 minutes for homework and class preparation, more time may be needed for evaluations
テキスト	*Pathways 1: Reading, Writing, & Critical Thinking*
参考文献	Students will need to prepare a B5 size notebook
評価方法	In-class quizzes 30 % , Homework 20%, Midterm evaluation 20 %, Final evaluation 30 %

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 M）	担当者	E．ホフ

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	Week 1: Preparation for autumn semester Week 2: Unit 6 - Future Living, Lesson A Week 3: Unit 6 - Future Living, Lesson B Week 4: Unit 7 - Exploration and Discovery, Lesson A Week 5: Unit 7 - Exploration and Discovery, Lesson B Week 6: Midterm Evaluation Week 7: Unit 8 - Musicians with a Message, Lesson A Week 8: Unit 8 - Musicians with a Message, Lesson B Week 9: Midterm Evaluation Analysis Week 10: Unit 9 - Behavior, Lesson A Week 11: Unit 9 - Behavior, Lesson B Week 12: Unit 10 - The Power of Image, Lesson A Week 13: Final Evaluation Week 14: Unit 10 - The Power of Image, Lesson B Week 15: Final Evaluation Analysis

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Set aside 30 minutes for homework and class preparation, more time may be needed for evaluations
テキスト	*Pathways 1: Reading, Writing, & Critical Thinking*
参考文献	Students will need to prepare a B5 size notebook
評価方法	In-class quizzes 30 % , Homework 20%, Midterm evaluation 20 %, Final evaluation 30 %

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 N）	担当者	Ｊ．Ｅ．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	1. Course introduction 2. Getting ready to write 3. Choosing the hook　[Assignment 1] 4. Writing a coherent sentence 5. Linking sentences together　[Assignment 2] 6. From sentence to paragraph 7. Midterm test 8. Formatting skills 9. Academic writing introduction　[Assignment 3] 10. Paragraph types 11. From life to paragraph 12. Editing your work　[Assignment 4] 13. Peer editing 14. Final paper 15. Review

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	—
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 N）	担当者	Ｊ．Ｅ．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	1. Course introduction 2. Academic topic choices 3. Building body paragraphs　[Assignment 1] 4. Useful vocabulary 5. Linking body paragraphs　[Assignment 2] 6. Cohesion and logic 7. Midterm test 8. Using formatting skills 9. Using editing skills　[Assignment 3] 10. Using external sources 11. Editing your work　[Assignment 4] 12. Peer editing 13. Final test 14. Review 15. Review

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	—
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 O）	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	Week 1- Introduction: Paragraph Writing Week 2- Pre-Writing: Getting Ready to Write Week 3- Planning for Writing – Brainstorming, Mapping Week 4- The Structure of a Paragraph Week 5- Writing a Topic Sentence Week 6- The Development of a Paragraph Week 7- Writing a Paragraph Week 8- Midterm Exam Week 9- Peer Editing Week 10- Free Writing or Rush writing Week 11- Writing a Descriptive Paragraph Week 12- Grammar Review Week 13- Writing an Opinion Paragraph Week 14- Review Week 15- Final Exam

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	The students are expected to read the textbook before coming to class. The students are encouraged to review the material that we cover in class after each lesson.
テキスト	Ready to Write, Book 1 – A First Composition Text by Karen Blanchard and Christine Root, Pearson
参考文献	—
評価方法	Class participation – 40%, Midterm Exam – 30%, Final Exam – 30%

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 O）	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	Week 1- Comparison/Contrast Paragraph Week 2- Writing about an Unforgettable Event Week 3- Describing a Person You Admire Week 4- Describing A Place Week 5- Using Transition Words Week 6- Writing a Movie Review Week 7- Problem/Solution Paragraphs Week 8- Midterm Exam Week 9- The Structure of an Essay Week 10- Writing a Thesis Statement Week 11- Outlining an Essay Week 12- Introductions and Conclusions Week 13- Unity and Coherence Week 14- Review Week 15- Final Exam

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	The students are expected to read the textbook before coming to class. The students are encouraged to review the material that we cover in class after each lesson.
テキスト	Ready to Write, Book 1 – A First Composition Text by Karen Blanchard and Christine Root, Pearson
参考文献	—
評価方法	Class participation – 40%, Midterm Exam – 30%, Final Exam – 30%

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 P）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	1: Introduction: 2: Chap. 1: Paragraph Format / nouns & articles 3: " / subject-verb agreement 4: " / verbs 5: Chap. 2: Narrative Paragraphs / verb tense 6: " / organization 7: " / compound sentences 8: Chap. 3: Paragraph Structure / Organization 9: " / adjectives & Verbs 10: " / " 11: Chap. 4: Logical Division of Ideas / Paragraph " / Organization 12: " / Unity 13: " / Run-ons and Comma Splices 14: " / Synonyms 15: Review & Test

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：予習　／　事後学習：授業で学んだことを基に適宜文章作成を行なう
テキスト	*Longman Academic Writing Series 3*　By Alice Oshima/ Ann Hogue,(Pearson Longman),　handout
参考文献	—
評価方法	class participation（20%）　assignments (40%) final report (20%)　/　final test (20%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 P）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	1: Introduction: 2: Chap. 5 Process Paragraphs/ Clauses 3: " / Organization 4: " / transitional signals 5: " / Complex sentences 6: Chap. 6: Definition Paragraphs/ Appositives 7: " / Organization 8: "/ Adjective Clauses.　Relative pronouns 9: Chap. 7: Cause / Effect Paragraphs 10: " / Organization 11: " / Cause / Effect Signals 12: Chap. 8: Comparison/ Contrast Paragraphs 13: " / Organization 14: " / Comparison/ Contrast Signals 15: Review & Test

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：予習　／　事後学習：授業で学んだことを基に適宜文章作成を行なう
テキスト	*Longman Academic Writing Series 3*　By Alice Oshima/ Ann Hogue,(Pearson Longman),　handout
参考文献	—
評価方法	class participation（20%）　assignments (40%) final report (20%)　/　final test (20%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 Q）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	Week 1: Introduction Week 2-5: Topic Sentence Essays Week 6-10: Extended Essays Week 11: Test Week 12-15: Presentations

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will need to do 90 minutes of homework per class.
テキスト	All materials will be provided by the instructor
参考文献	—
評価方法	Essays 25% Test 25% Presentation 50%

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 Q）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	Week 1: Introduction Week 2-5: News articles (summary, vocabulary and reflextion) Week 6-10: News articles (summary, vocabulary, research and reflextion) Week 11: Test Week 12-15: Presentations

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Same as above
テキスト	Same as above
参考文献	—
評価方法	Same as above

13 年度以降	Writing Skills Ⅰ（1 年 R）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.	1: Introduction: 2: Chap. 1: Paragraph Format / nouns & articles 3: " / subject-verb agreement 4: " / verbs 5: Chap. 2: Narrative Paragraphs / verb tense 6: " / organization 7: " / compound sentences 8: Chap. 3: Paragraph Structure / Organization 9: " / adjectives & Verbs 10: " / " 11: Chap. 4: Logical Division of Ideas / Paragraph " / Organization 12: " / Unity 13: " / Run-ons and Comma Splices 14: " / Synonyms 15: Review & Test

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：予習　／　事後学習：授業で学んだことを基に適宜文章作成を行なう
テキスト	*Longman Academic Writing Series 3*　By Alice Oshima/ Ann Hogue,(Pearson Longman),　handout
参考文献	—
評価方法	class participation（20%）　assignments (40%) final report (20%)　/　final test (20%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅱ（1 年 R）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	1: Introduction: 2: Chap. 5 Process Paragraphs/ Clauses 3: " / Organization 4: " / transitional signals 5: " / Complex sentences 6: Chap. 6: Definition Paragraphs/ Appositives 7: " / Organization 8: "/ Adjective Clauses.　Relative pronouns 9: Chap. 7: Cause / Effect Paragraphs 10: " / Organization 11: " / Cause / Effect Signals 12: Chap. 8: Comparison/ Contrast Paragraphs 13: " / Organization 14: " / Comparison/ Contrast Signals 15: Review & Test

到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：予習　／　事後学習：授業で学んだことを基に適宜文章作成を行なう
テキスト	*Longman Academic Writing Series 3*　By Alice Oshima/ Ann Hogue,(Pearson Longman),　handout
参考文献	—
評価方法	class participation（20%）　assignments (40%) final report (20%)　/　final test (20%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 A）	担当者	K．エラ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Course Introduction 2. Writing Practice 3. Paragraph Structure 4. Choosing Topics, Brainstorming, Outlining 5. Cause and Effect Paragraphs 6. Revision 7. Grammar Exercises 8. Unity and Coherence 9. Process Essay 10. Draft Writing and Revision 11. Draft Writing and Revision 12. Compare and Contrast Essay 13. Draft Writing and Revision 14. Draft Writing and Revision 15. Course wrap-up

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Essay Writing and an Introduction to Research Writing
テキスト	*Longman Academic Writing Series*, Number 4 Linda Butler, Alice Oshima, Ann Hogue, Alan Myers
参考文献	—
評価方法	Class Participation, Homework, Paragraphs and Essays

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 A）	担当者	K．エラ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Course Introduction 2. Paragraph/Essay Review 3. Argumentative Essay 4. Draft Writing and Revision 5. Draft Writing and Revision 6. Draft Writing and Revision 7. Grammar Exercises 8. Introduction to the Research Essay 9. Using Sources/Plagiarism 10. Using Citations 11. Draft Writing and Revision 12. Draft Writing and Revision 13. Draft Writing and Revision 14. Draft Writing and Revision 15. Course wrap-up

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Essay Writing and an Introduction to Research Writing
テキスト	*Longman Academic Writing Series*, Number 4 Linda Butler, Alice Oshima, Ann Hogue, Alan Myers
参考文献	—
評価方法	Class Participation, Homework, Paragraphs and Essays

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 B）	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1: Orientation; Paragraph 1: Planning 2: Paragraph 1: Research & drafting 3: Paragraph 1: Research & drafting 4: Paragraph 1: APA style, peer reviewing, revising & editing 5: Paragraph 1: APA style, peer reviewing, revising & editing 6: Paragraph 2: Planning 7: Paragraph 2: Research & drafting 8: Paragraph 2: Research & drafting 9: Paragraph 2: APA style, peer reviewing, revising & editing 10: Paragraph 2: APA style, peer reviewing, revising & editing 11: Paragraph 3: Planning 12: Paragraph 3: Research & drafting 13: Paragraph 3: Research & drafting 14: Paragraph 3: APA style, peer reviewing, revising & editing 15: Paragraph 3: APA style, peer reviewing, revising & editing; Course summary & survey

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Participation & in-class performance; Paragraph 1; Paragraph 2; Paragraph 3

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 B）	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1: Orientation 2: Paragraph template 3: Paragraph final format & submission 4: Planning template 5: Planning template & research template 6: Research template 7: Research template 8: Essay template introduction 9: Essay template body (1st paragraph) 10: Essay template body (2nd paragraph) 11: Essay template conclusion 12: Essay template peer reviewing, revising & editing 13: APA style, peer reviewing, revising & editing 14: Final format & submission 15: Course summary & survey

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Participation & in-class performance; Homework; Research; Essay

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 C）	担当者	Ｓ．ペイン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Course Introduction 2. Getting ready to write 3. Paragraphs 4. Paragraphs 5. Paragraphs 6. Revising and editing 7. Writing essays 8. Writing essays 9. Process essays 10. Process essays 11. Process essays 12. Division and classification essays 13. Division and classification essays 14. Division and classification essays 15. Final evaluation

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week.
テキスト	Handouts will be provided by the teacher.
参考文献	none
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 30%, homework assignments 20%, writing assignments 50%

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 C）	担当者	Ｓ．ペイン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Introduction of final project 2. Choosing a topic 3. Reasearching a topic 4. Thesis statement and outline 5. Introduction to APA Style 6. quoting, paraphrasing, and summarizing 7. Body 8. Introduction and conclusion 9. Writing 10. Writing and peer editing 11. Writing and peer editing 12. Writing and peer editing 13. Final editing 14. Final editing 15. Final deadline

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	After each class there will be a reading and journal assignment to complete during the week.
テキスト	Handouts will be provided by the teacher.
参考文献	none
評価方法	Grades will be based on: meeting deadlines 30%, homework assignments 20%, final essay 50%

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 D）	担当者	Ｓ．ペイン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Course Introduction 2. Getting ready to write 3. Paragraphs 4. Paragraphs 5. Paragraphs 6. Revising and editing 7. Writing essays 8. Writing essays 9. Process essays 10. Process essays 11. Process essays 12. Division and classification essays 13. Division and classification essays 14. Division and classification essays 15. Final evaluation

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week.
テキスト	Handouts will be provided by the teacher.
参考文献	none
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 30%, homework assignments 20%, writing assignments 50%

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 D）	担当者	Ｓ．ペイン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Introduction of final project 2. Choosing a topic 3. Reasearching a topic 4. Thesis statement and outline 5. Introduction to APA Style 6. quoting, paraphrasing, and summarizing 7. Body 8. Introduction and conclusion 9. Writing 10. Writing and peer editing 11. Writing and peer editing 12. Writing and peer editing 13. Final editing 14. Final editing 15. Final deadline

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	After each class there will be a reading and journal assignment to complete during the week.
テキスト	Handouts will be provided by the teacher.
参考文献	none
評価方法	Grades will be based on: meeting deadlines 30%, homework assignments 20%, final essay 50%

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 Ｅ）	担当者	Ｍ．Ｌ．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Introductions 2. Getting ready to write – Chapter 1 3. Writing paragraphs – Chapter 2 4. Revising and editing – Chapter 3 5. Revising and editing – peer critique practice 6. Writing essays – Chapter 4 7. Draft 1 mid-term paper – peer critiques 8. Process Essays – Chapter 5 (Mid-term paper due). 9. Process Essays – Chapter 5 10. Citations and bibliographies introduction 11. Division and classification essays – Chapter 6 12. Division and classification essays – Chapter 6 13. Draft 1 final paper – peer critiques 14. Creative group writing – (Final paper due). 15. Summary lesson and review.

到達目標	１年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト	Blanchard, K., Root, C. (2010), *Ready to Write 3. From Paragraph to Essay,* Pearson Education Inc.
参考文献	—
評価方法	Class involvement, 30%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper 30%.

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 Ｅ）	担当者	Ｍ．Ｌ．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Refresher lesson - 1st semester syllabus revisited 2. Citations and bibliographies revisited 3. Cause and Effect essays – Chapter 7 4. Cause and Effect essays – Chapter 7 5. Comparison and Contrast essays – Chapter 8 6. Draft 1 mid-term paper, peer review 7. Problem-Solution essays – Chapter 9 (Mid-term paper due). 8. Problem-Solution essays – Chapter 9 9. Writing Summaries – Chapter 10 10. Writing Summaries – Chapter 10 11. Opinion Essays – Chapter 11 12. Draft 1 final paper peer reviews 13. Citations, bibliographies, and academic language check. 14. Ready for Research Writing - Final paper due). 15. Summary lesson and course review.

到達目標	１年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト	Blanchard, K., Root, C. (2010), *Ready to Write 3. From Paragraph to Essay,* Pearson Education Inc.
参考文献	—
評価方法	Class involvement, 30%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper 30%.

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 Ｆ）	担当者	Ｍ．Ｌ．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Introductions 2. Getting ready to write – Chapter 1 3. Writing paragraphs – Chapter 2 4. Revising and editing – Chapter 3 5. Revising and editing – peer critique practice 6. Writing essays – Chapter 4 7. Draft 1 mid-term paper – peer critiques 8. Process Essays – Chapter 5 (Mid-term paper due). 9. Process Essays – Chapter 5 10. Citations and bibliographies introduction 11. Division and classification essays – Chapter 6 12. Division and classification essays – Chapter 6 13. Draft 1 final paper – peer critiques 14. Creative group writing – (Final paper due). 15. Summary lesson and review.

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト	Blanchard, K., Root, C. (2010), *Ready to Write 3. From Paragraph to Essay,* Pearson Education Inc.
参考文献	—
評価方法	Class involvement, 30%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper 30%.

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 Ｆ）	担当者	Ｍ．Ｌ．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Refresher lesson - 1st semester syllabus revisited 2. Citations and bibliographies revisited 3. Cause and Effect essays – Chapter 7 4. Cause and Effect essays – Chapter 7 5. Comparison and Contrast essays – Chapter 8 6. Draft 1 mid-term paper, peer review 7. Problem-Solution essays – Chapter 9 (Mid-term paper due). 8. Problem-Solution essays – Chapter 9 9. Writing Summaries – Chapter 10 10. Writing Summaries – Chapter 10 11. Opinion Essays – Chapter 11 12. Draft 1 final paper peer reviews 13. Citations, bibliographies, and academic language check. 14. Ready for Research Writing - Final paper due). 15. Summary lesson and course review.

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト	Blanchard, K., Root, C. (2010), *Ready to Write 3. From Paragraph to Essay,* Pearson Education Inc.
参考文献	—
評価方法	Class involvement, 30%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper 30%.

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 G）	担当者	Ｊ．ハント

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Introduction & course outline 2. Paragraph structure 3. Review & Timed Writing 1 4. Unity & coherence 5. Review & Timed Writing 2 6. Supporting details 1 7. Supporting details 2 & Timed Writing 3 8. Timed Writing 4 9. Writing an essay 10. Review & Timed Writing 5 11. Editing 12. Process Essays 1 13. Process Essays 2 14. Editing 15. Timed Writing 6

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Journal writing, research, essay writing and editing, peer feedback, textbook activities. Approx. 90 minutes/week.
テキスト	'*Writing Academic English*' by Alice Oshima & Ann Hogue. Pearson. ISBN: 978-0-13-152359-3
参考文献	To be provided.
評価方法	Essays 40%; Writing Portfolio 30%; Timed Writing 30%

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 G）	担当者	Ｊ．ハント

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Introduction & course outline 2. Cause/Effect Essays 1 3. Cause/Effect Essays 2 4. Editing 5. Editing 6. Timed Writing 1 7. Presentations 8. Comparison/Contrast Essays 9. Timed Writing 2 10. Paraphrasing & Summarizing 11. Argumentative Essays 1 12. Argumentative Essays 2 13. Editing 14. Editing 15. Presentations

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Journal writing, research, essay writing and editing, peer feedback, textbook activities. Approx. 90 minutes/week.
テキスト	'*Writing Academic English*' by Alice Oshima & Ann Hogue. Pearson. ISBN: 978-0-13-152359-3
参考文献	To be provided.
評価方法	Essays 30%; Writing Portfolio 40%; Timed Writing 20%; Presentations 10%

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 H）	担当者	Ｂ．Ｄ．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Introductions and course orientation 2. Getting to know you - conversation activities 3. Exploring essays - the hook and introduction 4. Exploring essays - the body and conclusion 5. Analyzing narrative essays 6. Developing narrative essays - outlining 7. Narrative essay first draft peer review 8. Narrative essay second draft peer review 9. Final draft submission - informing and explaining 10. Analyzing comparison essays 11. Developing comparison essays - outlining 12. Comparison essay first draft peer review 13. Comparison essay second draft peer review 14. Final draft submission and course review. 15. Exam period.

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will research and write at home before classes, as well as reviewing their own and other students' assessments after class
テキスト	Great Writing 4 - Great essays, Cengage
参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and final essays (40% each for two)

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 H）	担当者	Ｂ．Ｄ．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Welcome back - conversation activities 2. 50 word stories 3. Using the internet and other reference sources 4. Analyzing argument essays 5. Developing argument essays - outlining 6. Argument essay first draft peer review 7. Argument essay second draft peer review 8. Final draft submission - writing reviews 9. Group narrative compositions 10. Other forms of academic writing - outlining 11. Students' choice first draft peer review 12. Students' choice second draft peer review 13. Final editing 14. Final draft submission and course review 15. Exam period.

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will research and write at home before classes, as well as reviewing their own and other students' assessments after class.
テキスト	Great Writing 4 - Great essays, Cengage
参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and final essays (40% each for two)

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 Ⅰ）	担当者	Ｊ．Ｅ．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Course introduction 2. Academic writing strategies 3. Finding the argument　[Assignment 1] 4. Paragraph types 5. Introductory paragraph　[Assignment 2] 6. Body paragraph 7. Midterm test 8. Closing paragraph 9. Academic sources　[Assignment 3] 10. Citation rules 11. Integrating knowledge 12. Editing your work　[Assignment 4] 13. Peer editing 14. Final paper 15. Review

到達目標	１年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	—
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 Ⅰ）	担当者	Ｊ．Ｅ．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Course introduction 2. Academic writing review 3. Argumentative essays　[Assignment 1] 4. Cohesion: logic 5. Linking words　[Assignment 2] 6. Useful vocabulary 7. Midterm test 8. Hunting for academic sources 9. Fallacies　[Assignment 3] 10. Your essay strategies 11. Editing your work　[Assignment 4] 12. Peer editing 13. Final paper 14. Review 15. Review

到達目標	１年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	—
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 Ｊ）	担当者	Ｋ．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Course introduction 2. Brainstorming and topic selection 3. The thesis statement 4. Synthesizing Information 5. Characteristics of a good paragraph 6. Detailed outline 7. Critical Thinking 8. Personal opinion 9. Writing a second draft 10. Peer evaluation and feedback 11. Reading and Discussion 12. Cohesive paragraphs 13. Introductions and Conclusions 14. Narrative essay 15. Test

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Write weekly journal and do pre-wring exercises.
テキスト	To be announced.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 Ｊ）	担当者	Ｋ．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Summer Vacation Essay 2. Brainstorming exercises 3. Good Supporting sentences 4. Word Choice 5. Historical Event Essay 6. Describing a World Heritage Site Essay 7. Japanese Culture Essay 8. Peer evaluation and feedback 9. Explaining the Process of Learning 10. Proofreading Exercises 11. Hot Button Topic 12. Comparison and contrast essay 13. Classification essay 14. Persuasion 15. Test

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Write weekly journal and do pre-wring exercises.
テキスト	To be announced.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 K）	担当者	B．D．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Introductions and course orientation 2. Getting to know you - conversation activities 3. Exploring essays - the hook and introduction 4. Exploring essays - the body and conclusion 5. Analyzing narrative essays 6. Developing narrative essays - outlining 7. Narrative essay first draft peer review 8. Narrative essay second draft peer review 9. Final draft submission - informing and explaining 10. Analyzing comparison essays 11. Developing comparison essays - outlining 12. Comparison essay first draft peer review 13. Comparison essay second draft peer review 14. Final draft submission and course review. 15. Exam period.

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will research and write at home before classes, as well as reviewing their own and other students' assessments after class
テキスト	Great Writing 4 - Great essays, Cengage
参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and final essays (40% each for two)

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 K）	担当者	B．D．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Welcome back - conversation activities 2. 50 word stories 3. Using the internet and other reference sources 4. Analyzing argument essays 5. Developing argument essays - outlining 6. Argument essay first draft peer review 7. Argument essay second draft peer review 8. Final draft submission - writing reviews 9. Group narrative compositions 10. Other forms of academic writing - outlining 11. Students' choice first draft peer review 12. Students' choice second draft peer review 13. Final editing 14. Final draft submission and course review 15. Exam period.

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will research and write at home before classes, as well as reviewing their own and other students' assessments after class.
テキスト	Great Writing 4 - Great essays, Cengage
参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and final essays (40% each for two)

09 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 Ｌ）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Introduction, outline, evaluation, course requirements. 2. Writing planning & brainstorming 3. Writing revising, editing & peer feedback 4. Paragraph structures, writing topics & introduction 5. Well supported topics and paragraphs 6. Writing conclusion and revision 7. Quiz 1- 15% 8. Library computer literacy task 1 9. Writing an outline and a 'good essay' 10. Patterns in organization 11. Good writing, cohesion & unity 12. Writing, review, peer edit & feedback # 1 13. Writing, review, peer edit & feedback # 2 14. Quiz 2- 15% 15. Library computer literacy task 2

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Essay topic research, writing skills research, and computer report preparation.
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week.
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.
評価方法	1. Computer written reports = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%

09 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 Ｌ）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Library computer literacy task 3 2. Writing and essay preparation & planning 3. Review, Proof-read and checking techniques 4. Writing a 'good essay' and good essays techniques 5. Essay organization & outline 6. Good essays, developing arguments & support 7. Quiz 1- 15% 8. Library computer literacy task 4 9. Writing patterns and essay types # 1 10. Writing patterns and essay types # 2 11. Writing patterns and essay types # 3 12. Writing, review, peer edit & feedback # 1 13. Writing, review, peer edit & feedback # 2 14. Quiz 2- 15% 15. Library computer literacy task 5

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Essay topic research, writing skills research, and computer report preparation
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week.
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.
評価方法	1. Computer written reports = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 M）	担当者	Ｐ．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	Week 1- Introduction: Paragraph Writing Week 2- Pre-Writing: Getting Ready to Write Week 3- Editing Ideas Week 4- The Structure of a Paragraph Week 5- Identifying and Writing Topic Sentences Week 6- The Development of a Paragraph Week 7- Peer Editing Week 8- Midterm Exam Week 9- Descriptive and Process Paragraphs Week 10- Process Paragraphs and Reasons for Writing Week 11- Opinion Paragraphs Week 12- Using Transition Words Week 13- Review Week 14- Final Examination Week 15- Final Exam

到達目標	１年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	The students are expected to read the textbook before coming to class. If an assignment such as a presentation is given to students, they are expected to prepare it before class. The students are encouraged to review the material that we cover in class after each lesson.
テキスト	*Success With College Writing – From Paragraph to Essay* by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Rumisek, MacMillan Language House
参考文献	—
評価方法	Class participation – 40%, Midterm Exam – 30%, Final Exam – 30%

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 M）	担当者	Ｐ．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	Week 1- Problem/Solution Paragraphs Week 2- The Structure of an Essay Week 3- Writing a Thesis Statement Week 4- Outlining an Essay Week 5- Writing an Outline Week 6- Introductions and Conclusions Week 7- The Purpose of a Conclusion Week 8- Midterm Exam Week 9- Unity and Coherence Week 10- The Importance of Coherence in Essay Writing Week 11- Essays for Examinations Week 12- Writing Timed Essays and Managing Time Week 13- Review Week 14- Final Exam Week 15- Final Exam

到達目標	１年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	The students are expected to read the textbook before coming to class. If an assignment such as a presentation is given to students, they are expected to prepare it before class. The students are encouraged to review the material that we cover in class after each lesson.
テキスト	*Success With College Writing – From Paragraph to Essay* by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Rumisek, MacMillan Language House
参考文献	—
評価方法	Class participation – 40%, Midterm Exam – 30%, Final Exam – 30%

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 N）	担当者	Ａ．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1 Introductions 2 Brainstorming 3 The Introductions 4 The conclusion / the body/ common errors 5 Process essay 6 Division essay 7 Cause and effect essay 8 Editing essay 1 draft 9 Compare contrast essay 10 Problem + solution essay 11 Summarizing 12 Editing essay 2 13 Selecting test questions / planning under time limits 14 Timed essay test 15 Tests back / feedback

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson or post-lesson review will be explained by the instructor
テキスト	Ready to Write 3 (3rd edition) Blanchard, k. & Root, C. (2010) Pearson publishers
参考文献	Electronic dictionary is OK
評価方法	40% end of semester test / 60% essays

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 N）	担当者	Ａ．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1 Semester goals, new writing techniques 2 note-taking 3 Choosing essay 1 topic / brainstorming the body 4 Research skills 5 Outlining 6 Editing essay 1 7 Choosing essay topic 2 8 Research skills 9 Research skills 10 Outlining 11 Research skills 12 Sentence variation / formal vs casual language 13 Editing essay 2 14 Weak points / course review 15 Essay pick-up / mxm review of essay

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson or post-lesson review will be explained by the instructor
テキスト	No textbook
参考文献	Electronic dictionary is OK
評価方法	50% essay 1 / 50% essay 2

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 O）	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics. Weeks 3 - 4, The thesis statement. Discussion topics Weeks 5 - 6, Writing an effective introduction. Discussion topics. Weeks 7 - 8, Unity in an essay. Discussion topics. Weeks 9 - 10, Concluding an essay. Discussion topics. Weeks 11 - 14, Other important points in essay writing. Discussion topics. Week 15, Final assessments.

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.
参考文献	Students should consult the internet and other sources for research connected to class topics
評価方法	Class work, homework, vocabulary tests: 20%, Essay: 20%, Journal: 20%, Participation and effort: 20%, Final assessment: 20%

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 O）	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	Below is a general outline of the course. Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics. Weeks 3 - 4, The paragraph and review of short essay structure. Discussion topics. Weeks 5 - 7, Developing the 5 paragraph essay. Discussion topics. Weeks 8 - 10, Unity and coherence in an essay. Discussion topics. Weeks 11 -14, Editing your writing. Discussion topics. Week 15, Final assessments.

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.
参考文献	Students should consult the internet and other sources for research connected to class topics
評価方法	Class work, homework, vocabulary tests: 20%, Essay: 20%, Journal: 20%, Participation and effort: 20%, Final assessment: 20%

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（2年 P）	担当者	T．ダニー

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Introduction to the course & Weekly Journal set 2. Unit 1: Paragraphs 3. Unit 2: Developing Ideas for Writing a Paragraph 4. Unit 3: Topic Sentences 5. Unit 4: Supporting and Concluding Sentences 6. Unit 5: Paragraph Review 7. Unit 6: Definition Paragraphs 8. Unit 7: Process Paragraphs 9. Unit 8: Descriptive Paragraphs 10. Unit 9: Opinion Paragraphs 11. Unit 10: Narrative Paragraphs 12. Unit 11: Paragraphs in an Essay 13. Final Writing Assignment 14. Submission of Final Writing Assignment 15. Submission of Weekly Journal and Final Review

到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other handouts and complete all assignments before beginning of the following class. After class, students are required to do all homework tasks set. Students can expect to spend
テキスト	*Great Writing 2*, Keith Folse; April Muchmore-Vokoun; Elena Vestri Solomon (Cengage, ISBN 9781285750729)
参考文献	—
評価方法	Final Grades will be based on: In-class Participation - 30% Assignments - 50% Final Test - 20%

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（2年 P）	担当者	T．ダニー

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Introduction to the course & Weekly Journal set 2. Unit 1: Introduction to Paragraphs 3. Unit 2: Five Elements of Good Writing 4. Unit 3: Types of Paragraphs 5. Unit 4: Descriptive Essays 6. Unit 4: Descriptive Essays - continued 7. Unit 5: Comparison Essays 8. Unit 5: Comparison Essays - continued 9. Mid-Term Review of Textbook & Weekly Journal 10. Unit 6: Cause-Effect Essays 11. Unit 6: Cause-Effect Essays - continued 12. Unit 7: Clarification Essays 13. Unit 7: Clarification Essays - continued 14. In class Writing Test & submission of Weekly Journal 15. Final Review

到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other handouts and complete all assignments before beginning of the following class. After class, students are required to do all homework tasks set. Students can expect to spend
テキスト	*Great Writing 3*, Keith Folse; Elena Vestri Solomon; David Clabeaux (Cengage, ISBN 9781285750736)
参考文献	—
評価方法	Grades are based on: In-class Participation - 30% Assignments - 50% Final Test - 20%

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 Q）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	Week 1; Introduction Week 2 – 6; Top sentence essays Week 7 – 10; Extended essays Week 11; Movie review Week 12 – 15; Ted Talks presentations

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework and preparation will be necessary. The students will need to do some writing and research outside of class (approx.. 90 minutes ofoutside work per class).
テキスト	The instructor will provide prints. No textbook is necessary.
参考文献	—
評価方法	In class essays 30% Extended essays30% Presentation 40%

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 Q）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	Week 1; Introduction Week 2 – 6; News articles (summary and vocabulary) Week 7 – 10; News articles (summary, reflextion and vocabulary) Week 11; Vocabulary Test Week 12 – 15; News Presentaion

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Same as above
テキスト	Same as above
参考文献	—
評価方法	Same as above

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 R）	担当者	Ａ．Ｇ．ミルン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	Week 1: Class overview and initial writing assignment. Week 2: Understanding how to write for an audience. Week 3: An introduction to planning strategies for writing. Week 4: Looking at paragraph construction. Week 5: Essay introductions, transition words and phrases. Week 6: Understanding the Thesis Statement. Week 7: First essay assignment: Planning and group-work. Week 8: First essay assignment submission and peer review. Week 9: Introduction to collocations (1). Week 10: Introduction to collocations (2). Week 11: Final essay topic discussion and planning. Week 12: Writing the Thesis Statement (Review). Week 13: Final essay submission and peer review/discussion. Week 14: Final essay individual feedback. Week 15: Supplementary class.

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	This class will focus on basic writing skills for English paragraph and essay construction.
テキスト	There are no texts required for this class. Handouts will be provided when necessary.
参考文献	Any reference grammar of English will be sufficient for reviewing materials covered in class.
評価方法	Mid-term essay (25%). Final term essay (25%). Active and positive contribution to class activities: 50%. Students should be prepared to spend at least 90 minutes preparing for/reviewing classes.

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 R）	担当者	Ａ．Ｇ．ミルン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	Week 1: Overview: Review of paragraph construction. Week 2: Looking at different styles of essay. Week 3: Vocabulary in context: Collocations review. Week 4: Introductions and the Thesis Statement. Week 5: The Thesis Statement linked to the essay body. Week 6: Mid-term essay topic, discussion and planning. Week 7: Mid-term essay submission and peer review. Week 8: Mid-term essay feedback. Week 9: Basic citations and referencing. Week 10: Basic citations and avoiding plagiarism. Week 11: Final essay topic, discussion and planning. Week 12: Final essay draft planning and discussion. Week 13: Final essay submission and peer review. Week 14: Final essay individual feedback. Week 15: Supplementary class.

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	This class will focus on basic essay construction with an introduction to reference citation practice.
テキスト	There are no texts required for this class. Handouts will be provided when necessary.
参考文献	Any reference grammar of English will be sufficient for reviewing materials covered in class.
評価方法	Mid-term essay (25%). Final term essay (25%). Active and positive contribution to class activities: 50%. Students should be prepared to spend at least 90 minutes preparing for/reviewing classes.

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 S）	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Introduction 2. Unit 1-1,2 Paragraph to Short Essay 3. Unit 1-3,4,5 (From Paragraph to Short Essay) 4. Unit 2-1 Descriptive Essays (Stimulating Ideas) 5. Unit 2-2 (Brainstorming and Outlining) 6. Unit 2-3 (Developing Your Ideas) 7. Unit 2-4 (Editing Your Writing) 8. Unit 2-5 (Putting It All Together) 9. Unit 3-1 Narrative Essays(Stimulating Ideas) 10. Unit 3-2 (Brainstorming and Outlining) 11. Unit 3-3 (Developing Your Ideas) 12. Unit 3-4 (Editing Your Writing) 13. Unit 3-5 (Putting It All Together) 14. Term-end presentation 15. Summary of the course

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	The more you prepare, the more you will learn. 毎回の予習・復習課題をポータルサイトに掲載するので、各自取り組んで授業に臨んでください。
テキスト	Alice Savage. *Effective Academic Writing 2: The Short Essay*. Oxford UP (2016) 978-0194323475
参考文献	*Longman Dictionary of Contemporary English*. Pearson. (2014) 978-1447954200
評価方法	Writing assignments (30%), class participation (10%), presentation (10%), final test (50%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 S）	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1. Introduction, review of the spring semester 2. Unit 4-1 Comparison-Contrast (Stimulating Ideas) 3. Unit 4-2 (Brainstorming and Outlining) 4. Unit 4-3 (Developing Your Ideas) 5. Unit 4-4 (Editing Your Writing) 6. Unit 4-5 (Putting It All Together) 7. Unit 5-1 Opinion Essays (Stimulating Ideas) 8. Unit 5-2 (Brainstorming and Outlining) 9. Unit 5-3 (Developing Your Ideas) 10. Unit 5-4 (Editing Your Writing) 11. Unit 5-5 (Putting It All Together) 12. Unit 6-1 Cause-and-Effect (Stimulating Ideas) 13. Unit 6-2 (Brainstorming and Outlining) 14. Term-end presentation 15. Summary of the course

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	The more you prepare, the more you will learn. 毎回の予習・復習課題をポータルサイトに掲載するので、各自取り組んで授業に臨んでください。
テキスト	Alice Savage. *Effective Academic Writing 2: The Short Essay*. Oxford UP (2016) 978-0194323475
参考文献	*Longman Dictionary of Contemporary English*. Pearson. (2014) 978-1447954200
評価方法	Writing assignments (30%), class participation (10%), presentation (10%), final test (50%)

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（２年 T）	担当者	Ａ．Ｇ．ミルン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	Week 1: Class overview and initial writing assignment. Week 2: Understanding how to write for an audience. Week 3: An introduction to planning strategies for writing. Week 4: Looking at paragraph construction. Week 5: Essay introductions, transition words and phrases. Week 6: Understanding the Thesis Statement. Week 7: First essay assignment: Planning and group-work. Week 8: First essay assignment submission and peer review. Week 9: Introduction to collocations (1). Week 10: Introduction to collocations (2). Week 11: Final essay topic discussion and planning. Week 12: Writing the Thesis Statement (Review). Week 13: Final essay submission and peer review/discussion. Week 14: Final essay individual feedback. Week 15: Supplementary class.

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	This class will focus on basic writing skills for English paragraph and essay construction.
テキスト	There are no texts required for this class. Handouts will be provided when necessary.
参考文献	Any reference grammar of English will be sufficient for reviewing materials covered in class.
評価方法	Mid-term essay (25%). Final term essay (25%). Active and positive contribution to class activities: 50%. Students should be prepared to spend at least 90 minutes preparing for/reviewing classes.

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（２年 T）	担当者	Ａ．Ｇ．ミルン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	Week 1: Overview: Review of paragraph construction. Week 2: Looking at different styles of essay. Week 3: Vocabulary in context: Collocations review. Week 4: Introductions and the Thesis Statement. Week 5: The Thesis Statement linked to the essay body. Week 6: Mid-term essay topic, discussion and planning. Week 7: Mid-term essay submission and peer review. Week 8: Mid-term essay feedback. Week 9: Basic citations and referencing. Week 10: Basic citations and avoiding plagiarism. Week 11: Final essay topic, discussion and planning. Week 12: Final essay draft planning and discussion. Week 13: Final essay submission and peer review. Week 14: Final essay individual feedback. Week 15: Supplementary class.

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	This class will focus on basic essay construction with an introduction to reference citation practice.
テキスト	There are no texts required for this class. Handouts will be provided when necessary.
参考文献	Any reference grammar of English will be sufficient for reviewing materials covered in class.
評価方法	Mid-term essay (25%). Final term essay (25%). Active and positive contribution to class activities: 50%. Students should be prepared to spend at least 90 minutes preparing for/reviewing classes.

13 年度以降	Writing Skills Ⅲ（2年 U）	担当者	N．A．カナロス

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1 1 Course introduction 2 Paragraph to Short Essay 3 Paragraph to Short Essay 4 Paragraph to Short Essay 5 Paragraph to Short Essay 6 Descriptive Essays 7 Descriptive Essays 8 Descriptive Essays 9 Descriptive Essays 10 Narrative Essays 11 Narrative Essays 12 Narrative Essays 13 Narrative Essays 14 Review and final preparation 15 Final in-class writing

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview the textbook before class. Homework will be given weekly.
テキスト	*Effective Academic Writing 2*, Alice Savage and Patricia Meyer, Oxford University Press
参考文献	Bring a notebook, pencil, and loose-leaf paper to class.
評価方法	Classroom participation 40%, homework assignments 30%, final writing assignment 30%

13 年度以降	Writing Skills Ⅳ（2年 U）	担当者	N．A．カナロス

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)	1 Course introduction 2 Comparison-Contrast Essays 3 Comparison-Contrast Essays 4 Comparison-Contrast Essays 5 Comparison-Contrast Essays 6 Opinion Essays 7 Opinion Essays 8 Opinion Essays 9 Opinion Essays 10 Cause-and-Effect Essays 11 Cause-and-Effect Essays 12 Cause-and-Effect Essays 13 Cause-and-Effect Essays 14 Review and final preparation 15 Final in-class writing

到達目標	1 年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview the textbook before class. Homework will be given weekly.
テキスト	*Effective Academic Writing 2*, Alice Savage and Patricia Meyer, Oxford University Press
参考文献	Bring a notebook, pencil, and loose-leaf paper to class.
評価方法	Classroom participation 40%, homework assignments 30%, final writing assignment 30%

09 年度以降	E-learning Ⅰ	担当者	船越　健志

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ 英語学科1年Group A（１組、２組）の学生を対象とする。Reading Strategies, Writing Skillsなどの対面授業で習得したスキルを自律学習によって定着、向上させることを目的とする。 ［講義概要］ １週目の全体説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示する。指定教室に再履修者も含め全員集合すること。 ３週目以降は毎週、語彙及びリーディングに関するテストを行う。 ４週目以降は隔週でオンラインライティングサービス（Criterion）を利用してライティング課題に取り組む。 学習内容は、語彙（ALC）、リーディング（ALC）、およびライティング（Criterion）	1. 全体説明会 2. Criterionガイダンス、Essay Topic（トライアル） 3. テスト(1): ALC & Essay Topic (1) 4. テスト(2): ALC 5. テスト(3): ALC & Essay Topic (2) 6. テスト(4): ALC 7. 中間テスト(1): ALC & Essay Topic (3) 8. テスト(5): ALC 9. テスト(6): ALC & Essay Topic (4) 10. テスト(7): ALC 11. テスト(8): ALC & Essay Topic (5) 12. 中間テスト(2): ALC 13. テスト(9): ALC & Essay Topic (6) 14. ライティングに関するまとめ 15. リーディング、語彙学習に関するまとめ

到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	スケジュールに沿ってテスト準備をし、ライティングの課題に取り組む。
テキスト	オンライン教材：ALC NetAcademy, Criterion
参考文献	なし
評価方法	テスト５０％＋エッセイ３０％＋授業内活動等２０％

09 年度以降	E-learning Ⅱ	担当者	船越　健志

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] E-learning Iと同じ。 [講義概要] １週目の全体説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示する。指定教室に再履修者も含め全員集合すること。 ２週目以降は毎週、語彙及びリーディングに関するテストを行い、隔週でオンラインライティングサービス（Criterion）を利用してライティング課題に取り組む。 １年生は１２月７日（予定）にTOEFL団体受験をする。この日に限り終了時間は19:30。 学習内容は、語彙(ALC)、リーディング(ALC)とライティング(Criterion)	1. 全体説明会 2. テスト(1): ALC & Essay Topic (1) 3. テスト(2): ALC 4. テスト(3): ALC & Essay Topic (2) 5. テスト(4): ALC 6. テスト(5): ALC & Essay Topic (3) 7. テスト(6): ALC 8. テスト(7): ALC & Essay Topic (4) 9. テスト(8): ALC 10. TOEFL ITP Test 11. テスト(9): ALC & Essay Topic (5) 12. テスト(10): ALC 13. テスト(11): ALC & Essay Topic (6) 14. ライティングに関するまとめ 15. リーディング、語彙学習に関するまとめ

到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	スケジュールに沿ってテスト準備をし、ライティングの課題に取り組む。
テキスト	オンライン教材：ALC NetAcademy, Criterion
参考文献	なし
評価方法	テスト５０％＋エッセイ３０％＋授業内活動等２０％

09 年度以降	E-learning Ⅰ	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 英語学科1年B GroupとC Groupの学生を対象とする．Reading Strategies, Writing Skills などの少人数授業で学ぶスキルを自律・反転学習によって定着，向上させることを目的とする． 【概要】 ・1週目は主にオンラインライティングサービス(Criterion)の説明後、最初のトピックを出題する。 ・2週目は主に単語学習などのサーバー(ALC)の使用方法及び毎週のテストの形式について説明する。 ・3週目以降は毎週ALCの語彙(PW Level 5)、リーディング、リスニングに関するテストを行う。語彙は10ユニットずつ2週にかけて進む。リーディング、リスニングは毎週4ユニットずつ進む。 ・テストの前に、Criterion Essay Topicの説明やアウトライン作成、実際に提出されればエッセイの文法・表現の間違い修正、リスニング力強化などに取り組む。 ・テストの後は、クラス毎に提出したCriterion Essayをお互いに評価するPeer Review活動を行う。	1. 全体説明会１ (Criterion) & Essay Topic (0) 2. 全体説明会２ (ALC) 3. テスト1 (PW level5 1-10 Reading/Listening 1-4) & Essay Topic (1) 4. テスト2 (PW level5 1-10 Reading/Listening 5-8) 5. テスト3 (PW level5 11-20 Reading/Listening 9-12) & Essay Topic (2) 6. テスト4 (PW level5 11-20 Reading/Listening 13-16) 7. テスト5 (PW level5 21-30 Reading/Listening 17-20) & Essay Topic (3) 8. テスト6 (PW level5 21-30 Reading/Listening 21-24) 9. テスト7 (PW level5 31-40 Reading/Listening 25-28) & Essay Topic (4) 10. テスト8 (PW level5 31-40 Reading/Listening 29-32) 11. テスト9 (PW level5 41-50 Reading/Listening 33-36) & Essay Topic (5) 12. テスト10 (PW level5 41-50 Reading/Listening 37-40) 13. テスト11 (PW level 5 総復習と応用) 14. テスト12 (Reading/Listening総復習と応用) 15. Essay Topic (6)

到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	スケジュールに沿ってテストの準備をし、ライティングの課題に取り組む
テキスト	オンライン教材： ALC NetAcademy, Criterionなど
参考文献	Chin, P. 他(2011) *Academic Writing Skills 1: Student's Book* (CUP)
評価方法	テスト 1-12 の総合点(70%) 、6 つの Essays 及び Peer Review(30%)に基づいて総合的に A~F の評価をし、A 評価の中からテスト 11, 12 により AA を決める。

09 年度以降	E-learning Ⅱ	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】　E-learning I と同じ。 【概要】 • 1週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法、秋学期のテスト形式について説明をする。 • 2週目以降は春学期と同様、毎週、ALCの語彙(PW Level 6)、リーディング、リスニングに関するテストを行う。 • 授業ではテストの他に、TOEFL ITP®受験に向けての練習やPeer Review活動などを行う。 • 10週目にTOEFL ITP® を実施する予定。この日に限り、授業終了は午後7:30。 • 定期試験では6つのトピックの１つについてエッセイをかいてもらう。	1. 全体説明会 2. テスト1 (PW level6 1-10 Reading/Listening 41-44) & Essay Topic (1) 3. テスト2 (PW level6 1-10 Reading/Listening 45-48) 4. テスト3 (PW level6 11-20 Reading/Listening 49-52) & Essay Topic (2) 5. テスト4 (PW level6 11-20 Reading/Listening 53-56) 6. テスト5 (PW level6 21-30 Reading/Listening 57-60) & Essay Topic (3) 7. テスト6 (PW level6 21-30 Reading/Listening 61-64) 8. テスト7 (PW level6 31-40 Reading/Listening 65-68) & Essay Topic (4) 9. テスト8 (PW level6 31-40 Reading/Listening 69-72) 10. TOEFL ITP® 11. テスト9 (PW level6 41-50 Reading/Listening 73-76) & Essay Topic (5) 12. テスト10 (PW level6 41-50 Reading/Listening 77-80) 13. テスト11 (PW level 6 総復習と応用) 14. テスト12 (Reading/Listening総復習と応用) 15. 授業のまとめ

到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	スケジュールに沿ってテストの準備をし、ライティングの課題に取り組む
テキスト	オンライン教材： ALC NetAcademy, Criterion など
参考文献	Chin, P. 他(2011) *Academic Writing Skills 1: Student's Book* (CUP)
評価方法	12 回のテスト(70%)、6 つの Essays、Peer Review 活動、定期試験期間のエッセイテスト (30%)に基づいて総合的に A~F の評価をし、A 評価の中から TOEFL ITP® の結果により AA と決める。

09 年度以降	E-learning Ⅰ（再履修 1 年次 3～12 組）	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 Reading Strategiesなどの少人数授業で学ぶスキルを自律・反転学習によって定着, 向上させることを目的とする. 【概要】 ・1週目は授業の概要とオンライン教材の説明を行う。 ・ 2週目以降は毎週ALCの語彙(PW Level 5)、リーディング、リスニングに関するテストを行う。語彙は10ユニットずつ2週にかけて進む。リーディング・リスニングは毎週4ユニットずつ進む。 ・6, 13週目に語彙の復習テストを行う。 ・ テスト後、インターネットの記事などのリーディング教材に取り組み、それに関する筆記形式の復習テストを14週目に行う。	1. 全体説明会 2. テスト1 (PW level 5: 1-10 Reading/Listening 1-4) 3. テスト2 (PW level 5: 1-10 Reading/Listening 5-8) 4. テスト3 (PW level 5: 11-20 Reading/Listening 9-12) 5. テスト4 (PW level 5: 11-20　Reading/Listening 13-16) 6. PW復習テストA (PW level 5: 1-20) 7. テスト5 (PW level 5: 21-30 Reading/Listening 17-20) 8. テスト6 (PW level 5: 21-30 Reading/Listening 21-24) 9. テスト7 (PW level 5: 31-40 Reading/Listening 25-28) 10. テスト8 (PW level 5: 31-40 Reading/Listening 29-32) 11. テスト9 (PW level 5: 41-50 Reading/Listening 33-36) 12. テスト10 (PW level 5: 41-50 Reading/Listening 37-40) 13. PW復習テストB (PW level 5: 21-50) 14. リーディング教材の復習テスト 15. まとめ

到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	スケジュールに沿ってテストの準備をし、リーディングの課題の復習をする。
テキスト	オンライン教材： ALC NetAcademyなど
参考文献	Engelhardt, D. (2013) *Practice Makes Perfect Advanced English Reading and Comprehension*. McGraw-Hill.
評価方法	テスト 1-10 と 2 つの PW 復習テストの総合点(80%) 、リーディング教材の復習テスト(20%)に基づいて総合的に評価する。

09 年度以降	E-learning Ⅱ（再履修 1 年次 3～12 組）	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】　E-learning I と同じ。 【概要】 • 1週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法、秋学期のテスト形式について説明をする。 • 2週目以降は春学期と同様、毎週、ALCの語彙(PW Level 6)、リーディング、リスニングに関するテストを行う。 ・6, 13週目に語彙の復習テストを行う。 ・ テスト後、インターネットの記事などのリーディング教材に取り組み、それに関する筆記形式の復習テストを14週目に行う。	1. 全体説明会 2. テスト1 (PW level 6: 1-10 Reading/Listening 41-44) 3. テスト2 (PW level 6: 1-10 Reading/Listening 45-48) 4. テスト3 (PW level 6: 11-20 Reading/Listening 49-52) 5. テスト4 (PW level 6: 11-20　Reading/Listening 53-56) 6. PW復習テストA (PW level 6: 1-20) 7. テスト5 (PW level 6: 21-30 Reading/Listening 57-60) 8. テスト6 (PW level 6: 21-30 Reading/Listening 61-64) 9. テスト7 (PW level 6: 31-40 Reading/Listening 65-68) 10. テスト8 (PW level 6: 31-40 Reading/Listening 69-72) 11. テスト9 (PW level 6: 41-50 Reading/Listening 73-76) 12. テスト10 (PW level 6: 41-50 Reading/Listening 77-80) 13. PW復習テストB (PW level 6: 21-50) 14. リーディング教材の復習テスト 15. まとめ

到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	スケジュールに沿ってテストの準備をし、リーディングの課題の復習をする。
テキスト	オンライン教材： ALC NetAcademy など
参考文献	Engelhardt, D. (2013) *Practice Makes Perfect Advanced English Reading and Comprehension*. McGraw-Hill.
評価方法	テスト 1-10 と 2 つの PW 復習テストの総合点(80%) 、リーディング教材の復習テスト(20%)に基づいて総合的に評価する。

09 年度以降	英語専門講読　I （Cool Japan: 1900-1960）	担当者	Ｊ．Ｅ．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to: (1) build students' confidence in English reading and presentation skills: from reading to integrating knowledge to presenting information (2) improve students' skills in academic reading strategies: from logical comprehension to cohesive summary (3) build students' confidence by contributing to group work Attendance Policy: 1. If you have four unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three times it will count as one absence. 2. Turn off your cell phones in class. 3. Report your absence in advance whenever possible. 4. NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).	1. Course Introduction 2. Japan in the World (Exhibitions) 3. Meiji: to be or not to be (Japanese) 4. Moga 5. Modern Tokaido [Reserch Paper Topic Due] 6. Issei, Nisei, Sansei [RP Outline Due] 7. Nippon (magazine) 8. Department Store Miracle [RP Introduction Due] 9. Chiune Sugihara [RP Body Paragraph I Due] 10. Shashin Shuho [RP Body Paragraph II Due] 11. Transport: rush to the city [RP Body Paragraph III Due] 12. Made in Japan [RP Conclusion Due] 13. Protest or Compliance [Research Paper Final Due] 14. Final Exam 15. Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	(1)Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Read the articles thoroughly and look up any unknown words, (3) Go through the content and digest the main points, (4) Reading summaries' dates and contributors will be announced in class, (5) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	—
評価方法	In-class participation (20%), Research paper (40%), Final Exam (40%)

09 年度以降	英語専門講読　II （Cool Japan: 1960-2016）	担当者	Ｊ．Ｅ．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to: (1) build students' confidence in English reading and presentation skills: from reading to integrating knowledge to presenting information (2) improve students' skills in academic reading strategies: from logical comprehension to cohesive summary (3) build students' confidence by contributing to group work Attendance Policy: 1. If you have four unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three times it will count as one absence. 2. Turn off your cell phones in class. 3. Report your absence in advance whenever possible. 4. NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).	1. Course introduction 2. Made in Japan and admired 3. The Bubble 4. Western Japan - Eastern Japan 5. Japanese in the world [Research Paper Topic Due] 6. The world in Japan [RP Outline] 7. Images of Japan 8. Manga [RP Introduction Due] 9. J-pop [RP Body Paragraph I Due] 10. 21st century Japonism [RP Body Paragraph II Due] 11. Ryugaku [RP Body Paragraph III Due] 12. Japan First [RP Conclusion Due] 13. Final Exam [Research Paper Final Due] 14. Review 15. Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	(1)Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Read the articles thoroughly and look up any unknown words, (3) Go through the content and digest the main points, (4) Reading summaries' dates and contributors will be announced in class, ,(5) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	—
評価方法	In-class participation (20%), Research paper (40%), Final Exam (40%)

09 年度以降	英語専門講読 Ⅰ （生成文法理論と英語統語論）	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：世界的に著名な言語学者である Noam Chomsky が1975年に公刊した画期的な著書の一章を読み，英語の読解力を伸ばしながら，生成文法理論の神髄を理解する．あわせて言語学における説明の美しさも感じ取りたい． **講義概要**：まず，文を生成する規則は意味や語彙に依存するのではなく構造に依存するというChomskyの1955年来の基本的な立場が述べられる．次に，1965年に提案された生成文法の標準理論が説明され，特に，文の基本的な構造である句構造標識とそれを生成する基底部と中心的な概念である「深層構造」が説明される．深層構造に規則が適用されて文が派生されるが，規則の適用には厳しい制限があることが明らかにされ，その制限を形式化した「下接の原理」は人間言語を特徴づける普遍的特性であると提案される．	1. Structure Dependence of Grammatical Rules 2. Base Component and Phrase Markers (1) 3. Base Component and Phrase Markers (2) 4. Standard Theory and Notion of “Deep Structure” 5. Transformational Component and Surface Structures (1) 6. Transformational Component and Surface Structures (2) 7. Domains of Transformations and Cyclic Category **〈中間試験〉** 8. Subjacency; Condition on Transformations 9. Conditions on Wh-Movement (1) 10. Conditions on Wh-Movement (2) 11. Universal Grammar and Language Faculty 12. Two Arguments about Language Acquisition (1) 13. Two Arguments about Language Acquisition (2) 14. Subjacency Principle as a Principle of Universal Grammar 15. Recapitulation **《期末試験》**

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために必ず予習すること．授業開始前に，鈴木英一（1990）『統語論』8章「生成統語論概説」(pp.318-71)を読むことを勧めます．なお，授業の中で適宜，生成文法理論の要点を説明します．
テキスト	Noam Chomsky (1975) “Some General Features of Language,” *Reflections on Languages*. Pantheon.
参考文献	安井稔（編）(1996)『コンサイス英文法辞典』(三省堂)，鈴木英一（1990）『統語論』(開拓社)
評価方法	出席は単位認定の前提とし，授業での発表(10%)と中間試験(45%)と期末試験(45%)に基づいて評価する．

09 年度以降	英語専門講読 Ⅱ （生成文法理論と英語統語論）	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：世界的に著名な言語学者である Noam Chomsky が1975年に公刊した画期的な著書の一章を読み，英語の読解力を伸ばしながら，生成文法理論の神髄を理解する．あわせて言語学における説明の美しさも感じ取りたい． **講義概要**：疑問詞としてWh語を含むWh疑問文が詳細に分析され，要素が移動される際にその要素の元に位置に痕跡(trace)が残されるという，「移動の痕跡理論」が提案される．生成文法に痕跡理論が組み込まれたのが，生成文法理論の発展の中でもっとも注目される理論の一つ《修正拡大標準理論》である．痕跡を用いることによって，表層構造が豊かになり，表層構造によって全ての意味解釈がなされると考えられる．痕跡理論が素晴らしい点は，移動規則によって残される痕跡がほかの言語要素特に再帰代名詞や相互代名詞といった照応形と同じ制約によって説明されるということである．	1. Syntax or Semantics? Explanation of Wh-Questions (1) 2. Syntax or Semantics? Explanation of Wh-Questions (2) 3. Trace Theory of Movement Rules 4. Motivations for Trace Theory 5. Wh-Movement and Interpretation of Pronouns (1) 6. Wh-Movement and Interpretation of Pronouns (2) 7. Enriched Surface Structures **〈中間試験〉** 8. Semantic Interpretation of Enriched Surface Structures 9. Specified Subject Condition and Trace Theory (1) 10. Specified Subject Condition and Trace Theory (2) 11. Reformulation of Passive Rule 12. Traces and Binding Quantifiers 13. Binding Principles and Conditions on Transformations (1) 14. Binding Principles and Conditions on Transformations (2) 15. Recapitulation **《期末試験》**

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために必ず予習すること．授業開始前に，鈴木英一（1990）『統語論』8章「生成統語論概説」(pp.318-71)を読むことを勧めます．なお，授業の中で適宜，生成文法理論の要点を説明します．
テキスト	Noam Chomsky (1975) “Some General Features of Language,” *Reflections on Languages*. Pantheon.
参考文献	安井稔（編）(1996)『コンサイス英文法辞典』(三省堂)，鈴木英一（1990）『統語論』(開拓社)
評価方法	出席は単位認定の前提とし，授業での発表(10%)と中間試験(45%)と期末試験(45%)に基づいて評価する．

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ【３・４年生対象】 （Readings on Japan Ⅰ）	担当者	Ｎ．Ｈ．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this reading course is to investigate the cultural, social & economic condition of Japan during the 1990s. During that period of modern history, Japan experienced numerous changes, and it can be argued that those changes have had an influence on the Japan of today. The course will center on reading articles printed in various journals and newspapers. The reading load for this course will be 10 -15 pages per class. The material will be challenging as it written for a foreign audience...in English. Students considering this course should keep in mind 1) it will be conducted fully in English; 2) there will be regular reflection papers & quizzes; 3) the course will allow time for group discussions in English; and, 4) a high level of motivation & participation is expected.	Week 1: Introduction to course Week 2: Article # 1 & Discussion Week 3: Article # 1 & Discussion Week 4: Article # 2 & Discussion Week 5: Article # 2 & Discussion Week 6: Article # 3 & Discussion Week 7: Article # 3 & Discussion Week 8: Article # 4 & Discussion Week 9: Article # 4 & Discussion Week 10: Article # 5 & Discussion Week 11: Article # 5 & Discussion Week 12: Article # 6 & Discussion Week 13: Article # 6 & Discussion Week 14: Collect Journals Final Discussion Week 15: Final Class: Summations

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare for class discussion, read material, and maintain notebook.
テキスト	Material will be provided.
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ【３・４年生対象】 （Readings on JapanⅡ）	担当者	Ｎ．Ｈ．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this reading course is to investigate the cultural, social & economic condition of Japan during the 1990s. During that period of modern history, Japan experienced numerous changes, and it can be argued that those changes have had an influence on the Japan of today. The course will center on reading articles printed in various journals and newspapers. The reading load for this course will be 10 -15 pages per class. The material will be challenging as it written for a foreign audience...in English. Students considering this course should keep in mind 1) it will be conducted fully in English; 2) there will be regular reflection papers & quizzes; 3) the course will allow time for group discussions in English; and, 4) a high level of motivation & participation is expected.	Week 1: Introduction to course Week 2: Article # 7 & Discussion Week 3: Article # 7 & Discussion Week 4: Article # 8 & Discussion Week 5: Article # 8 & Discussion Week 6: Article # 9 & Discussion Week 7: Article # 9 & Discussion Week 8: Article # 10 & Discussion Week 9: Article # 11 & Discussion Week 10: Article # 12 & Discussion Week 11: Article # 12 & Discussion Week 12: Article # 13 & Discussion Week 13: Article # 14 & Discussion Week 14: Collect Journals Final Discussion Week 15: Final Class: Summations

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare for class discussion, read material, and maintain notebook.
テキスト	Material will be provided.
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

09 年度以降	英語専門講読　I （Exploring Language Teaching）	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will learn practical ideas and techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves. *All the coursework will be conducted in English.* You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.	1. Introduction 2. Reflecting on your own learning 3. Approach, method, and technique 4. An eclectic approach 5. Teaching by principles 6. Motivation in the classroom 7. Teaching across age levels 8. Overall discussion 9. Teaching across proficiency levels 10. Sociopolitical and institutional contexts 11. Techniques, textbooks, and technology 12. Interactive language teaching 13. Sustaining interaction through group work 14. Classroom management 15. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定箇所の事前精読、課題、プレゼンテーション準備、リーディングジャーナル
テキスト	PORTA とハンドアウト使用
参考文献	Teaching by Principles, H.D. Brown, Longman
評価方法	In-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and summary(40%), self evaluation (10%)

09 年度以降	英語専門講読　II （Exploring Language Teaching）	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will learn practical ideas and techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves. *All the coursework will be conducted in English*. You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.	1. Introduction 2. Integrating the four skills 3. Teaching listening 4. Teaching speaking 5. Teaching reading 6. Teaching writing 7. Teaching vocabulary 8. Overall discussion 9. Teaching pronunciation 10. Form-focused instruction 11. Language assessment I 12. Language assessment II 13. Strategies-based instruction 14. An all-English approach 15. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定箇所の事前精読、課題、プレゼンテーション準備、リーディングジャーナル
テキスト	PORTA とハンドアウト使用
参考文献	Teaching by Principles, H.D. Brown, Longman
評価方法	In-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and summary(40%), self evaluation(10%)

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ （アメリカの広告概史）	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
アメリカの広告概史の講読を通じて、文化的現実の変遷などを理解することを目指します。 2017年の春学期に開講されたⅠでは、アメリカの文化生産の軌跡を理解するため、「ポストモダニズム」を巡るアート思想史に関する諸論文を読みました。かなり難解な文章の連続でしたので、この授業では難易度の低い読書課題を選定しました。しかし、内容的には専門知識を獲得する講読教材として遜色のないものですので、アメリカの広告に関心のある学生やメディア産業に関心のある学生に役立つ読書の機会を提供できればと思います。 通常の授業は、広告の実例を話題にしながら、学生によるファシリテーションと教員を交えたインタラクションで進行していきます。	1. Course Overview 2. Introduction 3. A Brief History 4. Aims of Advertising 5. The Target Audience 6. Ad Review: 20th Century Ads 7. Strategies of Advertising 8. What Do Ads Reveal or Conceal About an Era? 9. Model Interpretation 10. Ad Review: 21st Century Ads 11. Contemporary Ad Campaigns: UNICEF, etc. 12. Contemporary Ad Campaigns: American Legacy, etc. 13. Contemporary Ad Campaigns: Red Bull, etc. 14. Impromptu Ad Review 15. Presentations; Take-home exam due.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読してから授業に参加してください。また、グループ単位の事前準備には担当箇所を読んでから参加してください。
テキスト	プリント等を配布して使用する予定です。
参考文献	必要に応じて授業で紹介します。
評価方法	授業中のインタラクション（発言・通常の発表等）：30%、最終発表：30%、take-home exam：40%

09 年度以降	英語専門講読　I (ナーサリー・ライムズの世界)	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
ナーサリー・ライムズ(Nursery Rhymes)、マザー・グース(Mother Goose)等と称される英語の童謡／伝承童謡は、数え方によって600以上とも、1000以上とも言われている。これらの童謡／伝承童謡からの引用や、登場するキャラクター、それらを踏まえた言い回しは、現代においても、新聞や雑誌の報道記事、様々な文学作品、映像作品、マンガやアニメを含む大衆文化など、あらゆる分野において頻繁にみることができ、英語圏では階級の隔てなく親しまれ、聖書やシェイクスピア作品と並び、教養の土台となっている。 この授業では、それらの童謡／伝承童謡に加え、英国・米国の国歌等の有名な歌を含め、英語圏の言語・文学・文化等を研究する上で、是非とも知っておきたい詩歌を選び、検討していきたい。授業は、毎回担当者によるプレゼンテーションと全員参加の議論を中心に進める。	1. Orientation 2. As I was Going to Saint Ives 他 3. Frère Jaques 他 4. Here We Go Around the Mulberry Bush 他 5. Hickory Dickory Dock 他 6. Hot Cross Buns 他 7. Humpty Dumpty 他 8. Jack and Jill 他 9. Jack Sprat 他 10. The Lion and Unicorn 他 11. Little Boy Blue 他 12. Little Miss Muffet 他 13. London Bridge Is Falling Down 他 14. Mary had a Little Lamb 他 15. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に次の授業で扱われる箇所を精読し、要約(提出)。事後は各自の興味に従い、今後の学習内容に反映すべく、十分に復習をする。凡そ４時間分、或いはそれ以上の学修時間になる。
テキスト	Albert Jack. *Pop Goes the Weasel: The Secret Meanings of Nursery Rhymes*. Perigee Trade, 2009
参考文献	授業で紹介する。
評価方法	プレゼンテーションおよび授業貢献度 50%、毎回提出する課題 50%

09 年度以降	英語専門講読　II (ナーサリー・ライムズの世界)	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
ナーサリー・ライムズ(Nursery Rhymes)、マザー・グース(Mother Goose)等と称される英語の童謡／伝承童謡は、数え方によって600以上とも、1000以上とも言われている。これらの童謡／伝承童謡からの引用や、登場するキャラクター、それらを踏まえた言い回しは、現代においても、新聞や雑誌の報道記事、様々な文学作品、映像作品、マンガやアニメを含む大衆文化など、あらゆる分野において頻繁にみることができ、英語圏では階級の隔てなく親しまれ、聖書やシェイクスピア作品と並び、教養の土台となっている。 この授業では、それらの童謡／伝承童謡に加え、英国・米国の国歌等の有名な歌を含め、英語圏の言語・文学・文化等を研究する上で、是非とも知っておきたい詩歌を選び、検討していきたい。授業は、毎回担当者によるプレゼンテーションと全員参加の議論を中心に進める。	1. Orientation 2. Old King Cole 他 3. The Owl and the Pussycat 他 4. Pop Goes the Weasel 他 5. Pussy Cat, Pussy Cat 他 6. Rain, Rain, Go Away 他 7. Rock-a-Bye, Baby 他 8. Sing a Song of Sixpence 他 9. Three Blind Mice 他 10. Twinkle, Twinkle, Little Star 他 11. Who Killed Cock Robin? 他 12. God Save the Queen 他 13. The Star-Spangled Banner 他 14. Yankee Doodle Dandy 他 15. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に次の授業で扱われる箇所を精読し、要約(提出)。事後は各自の興味に従い、今後の学習内容に反映すべく、十分に復習をする。凡そ４時間分、或いはそれ以上の学修時間になる。
テキスト	Albert Jack. *Pop Goes the Weasel: The Secret Meanings of Nursery Rhymes*. Perigee Trade, 2009
参考文献	授業で紹介する。
評価方法	プレゼンテーションおよび授業貢献度 50%、毎回提出する課題 50%

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ【３・４年生対象】 （戦後国際政治史）（月４）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠となる。なお毎週、英文和訳や内容確認の小テストを行う。 使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に２年生は注意して欲しい。この授業と併せて、「グローバル・ヒストリー」などの国際政治史に関する授業を履修することを勧める。 ＊なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも５ページ分は読んでおくこと。	1. 授業の進め方に関するオリエンテーション 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読① 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読② 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③ 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④ 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤ 7. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥ 8. 前半の総括と質疑応答 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦ 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧ 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨ 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩ 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪ 14. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑫ 15. 全体総括と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了後は、授業内容を思い起こし、ポイントを整理しておくこと。疑問点があれば、次週の授業で質問すること。
テキスト	Robert J. McMahon, Cold War: A Very Short Introduction, Oxford: Oxford University Press, 2003.
参考文献	第一回目の授業で参考文献リストを配布予定。
評価方法	評価は次の２点による。①授業の参加度・貢献度(30%)、②小テスト（70%）。 欠席が４回になった時点で不可。遅刻は２回で欠席とみなす。

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ【３・４年生対象】 （戦後国際政治史）（月４）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠になる。なお毎週、和文英訳や内容確認の小テストを行う。 使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に2年生は要注意。この授業と併せて、「グローバル・ヒストリー」などの国際政治史に関する授業を履修することを勧める。 ＊なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも５ページ分は読んでおくこと。	1. 授業の進め方に関するオリエンテーション 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読① 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読② 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③ 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④ 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤ 7. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥ 8. 前半の総括と質疑応答 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦ 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧ 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨ 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩ 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪ 14. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑫ 15. 全体総括と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了後は、授業内容を思い起こし、ポイントを整理しておくこと。疑問点があれば、次週の授業で質問すること。
テキスト	Robert J. McMahon, Cold War: A Very Short Introduction, Oxford: Oxford University Press, 2003.
参考文献	第一回目の授業で参考文献リストを配布予定。
評価方法	評価は次の２点による。①授業の参加度・貢献度(30%)、②小テスト（70%）。 欠席が４回になった時点で不可。遅刻は２回で欠席とみなす。

09 年度以降	英語専門講読　I （イギリス児童文学）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
*Mary Poppins*を読む *Mary Poppins*を精読しながら、イギリスらしい表現や背景となるイギリスの階級社会への理解を深めることを目的とする。 Mary Poppinsはディズニー製作のミュージカル版でよく知られているが、原作者Pamela Travers は映画化に強く反対していた。原作のMaryは映画とはかなり異なった人物造形がなされており、そこにはイギリス独特の階級制度が反映している。英語の表現への理解を深めるとともに、イギリスの歴史についての知識を広げることを、この授業では目指す。	1. イントロダクション 2. Chapter 1 3. Chapter 2 4. Chapter 3 5. Chapter 4 6. Chapter 5 7. Chapter 6 8. Chapter 7 9. Chapter 8 10. Chapter 9 11. Chapter 10 12. Chapter 11 13. Chapter 12 14. まとめ 15. 課題

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、決められた範囲を読んでくること。 事後には授業中に指定された参考文献を読むこと。
テキスト	P. L. Travers, Mary Poppins (Collins Modern Classecs). ISBN: 0007286414
参考文献	新井潤美(2005)『不機嫌なメアリー・ポピンズ』、他は授業中に指示する。
評価方法	毎回の小テストによる。

09 年度以降	英語専門講読　II （イギリス児童文学）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
*Peter and Wendy*を読む 大人になろうとしない少年としてPeter Panという人物名はよく知られているが、James Barrieの原作を読んでいる人は決して多くない。原作は1904年の戯曲であるが、この授業ではそれをもとにした小説Peter and Wendyを読む。ディズニー映画を通して物語はよく知られているが、原作を読むことでイギリスらしい表現についての理解を深め、舞台となる20世紀初頭のイギリスの社会についての知識を深めることを目指す。	1. Chapter I 2. Chapter II 3. Chapter III 4. Chapter IV 5. Chapter V 6. Chapter VI 7. Chapter VII & Chapter VIII 8. Chapter IX 9. Chapter X 10. Chapter XI 11. Chapter XII &Chapter XIII 12. Chapter XIV 13. Chapter XV 14. Chapter XVI 15. Chapter XVII

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	決められた範囲を丹念に読んでくること。
テキスト	J. M. Barrie, Peter Pan: Peter and Wendy (Penguin Classics). ISBN: 014243793X
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	毎回の小テストによる。

09 年度以降	英語専門講読　I （シンボルを読み解く）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、米国の表象文化におけるシンボルを読み解いていく。とくに、短編小説、詩、歌のリリックスなどのテキストを用いて、シンボルや暗黙的前提を見つけながら、それらについて歴史、社会、宗教、ポピュラーカルチャー、消費主義などさまざまな視点から検討していく。 まずは“*Holes*”Louis Sachar から読んでいく。	1. ガイダンス 2. 身の周りのシンボル 3. 小説におけるシンボル 4. Holes　1 5. Holes　2 6. Holes　3 7. Holes　4 8. Holes　5 9. 映画/音楽のなかのシンボル 10. お話しのなかのシンボル　1 11. お話しのなかのシンボル　2 12. グループプレゼンテーション1 13. グループプレゼンテーション2 14. グループプレゼンテーション3 15. Wrap-Up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定されたところを事前に精読しておいてください。予習必須です。
テキスト	“*Holes*” Louis Sachar･Turtleback Books　各自用意しておいてください。
参考文献	—
評価方法	授業への参加度 30%　プレゼンテーション 20%　試験 50%

09 年度以降	英語専門講読　II （表象文化のシンボルを読み解く）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期も、春学期と同様のトピックを扱う。	1. ガイダンス 2. 身の周りのシンボル 3. 小説におけるシンボル 4. アフリカ系アメリカ文化におけるシンボル 1 5. アフリカ系アメリカ文化のシンボル 2 6. ラティーノのシンボル 1 7. ラティーノのシンボル 2 8. 映画/音楽のなかのシンボル　1 9. 映画/音楽のなかのシンボル　2 10. お話しのなかのシンボル　1 11. お話しのなかのシンボル　2 12. グループプレゼンテーション1 13. グループプレゼンテーション2 14. グループプレゼンテーション3 15. Wrap-Up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定されたところを事前に精読しておいてください。予習必須です。
テキスト	プリント配布
参考文献	—
評価方法	授業への参加度 30%　グループプレゼンテーション 20%　試験 50%

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ【３・４年生対象】 （現代国際関係）（月５）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
オーストラリアで最も著名な国際政治学者の一人であるコーラル・ベル（Coral Bell）教授（1923-2012年）による国際関係論の小論を通して、オーストラリアから見た現代国際関係とはどのようなものかを考える。 日本外交・安全保障にとってオーストラリアは極めて重要なパートナーであるが、両国の国際関係認識が常に一致するとは限らず、相手との違いに配慮しながら、安定的な関係を構築する必要がある。その意味で、ベルによる小論は有用であろう。 初回授業で発表の担当箇所ならびに順番を決定するので、必ず出席すること。欠席する場合は、初回の授業開始前までに担当教員に必ず連絡し、発表担当箇所に関する指示を受けること。連絡のない場合には、単位取得に不可欠な発表の機会を逃すので注意すること。 なお履修人数によっては、複数回の担当となる。 ＊テキストは下記テキスト名をグーグル検索すればダウンロード可能。	1. オリエンテーション＆発表担当者の決定 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読① 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読② 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③ 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④ 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤ 7. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥ 8. 前半の総括と質疑応答 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦ 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧ 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨ 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩ 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪ 14. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑫ 15. 全体総括と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された英文を事前に読み、内容を理解し、疑問点を明確にしておくこと。授業後は授業内容を復習し、理解できなかった部分を翌週の授業で提示し、疑問点を解消しておくこと。
テキスト	Coral Bell, The End of the Vasco da Gama Era: The Next Landscape of World Politics, Lowy Institute for Internatioal Policy, 2007.
参考文献	第一回目の授業で参考文献リストを配布予定。
評価方法	①発表担当（50%）、②最終レポート（50%）、欠席が４回になった時点で不可。遅刻は２回で欠席とみなす。

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ【３・４年生対象】 （現代国際関係）（月５）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
CSCAPが毎年発行する”Regional Security Outlook 2018”を輪読していく。アジア太平洋安全保障協力会議（The Council for Security Cooperation in the Asia Pacific, CSCAP）は、アジア太平洋地域の安全保障協力のあり方を検討するための恒常的な枠組みを提供することを目的に設立された民間の国際組織である。この文献輪読を通じて、アジア太平洋地域の国際関係の現状を理解していきたい。 初回授業で発表の担当箇所ならびに順番を決定するので、必ず出席すること。欠席する場合は、初回の授業開始前までに担当教員に必ず連絡し、発表担当箇所に関する指示を受けること。連絡のない場合には、単位取得に不可欠な発表の機会を逃すので注意すること。 なお履修人数によっては、複数回の担当となる。 テキストは下記テキスト名をグーグル検索すればダウンロード可能。	1. オリエンテーション＆発表担当者の決定 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読①（イントロ） 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読②（米国） 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③（中国） 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④（日本） 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤（ロシア） 7. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥（インド） 8. 前半の総括と質疑応答 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦（韓国） 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧（インドネシア） 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨（オーストラリア） 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩（タイ） 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪（フィリピン） 14. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑫（ミャンマー） 15. 全体総括と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された英文を事前に読み、内容を理解し、疑問点を明確にしておくこと。授業後は授業内容を復習し、理解できなかった部分を翌週の授業で提示し、疑問点を解消しておくこと。
テキスト	CSCAP Regional Security Outlook 2018
参考文献	第一回目の授業で参考文献リストを配布予定。
評価方法	①発表担当（50%）、②最終レポート（50%）、欠席が４回になった時点で不可。遅刻は２回で欠席とみなす。

09 年度以降	英語専門講読　I （アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
『怒りの葡萄』(The Grapes of Wrath, 1939)、『エデンの東』(The East of Eden, 1952)の著者であり、1962年にノーベル文学賞を受賞したJohn Steinbeck(1902-1968)は、20世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は上掲の二大作品の他、多様なジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では、1932年に発表された『天の牧場』(The Pastures of Heaven, 1932)を読解してゆく。 毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取ってゆきたい。特に、作品のテーマや文章表現についてはグループワークを通して意見交換を行なってゆく。 ＊授業には予習をして臨んで下さい。	1:　Introduction: 作家John Steinbeckと代表作品を紹介 2:　小説を読む楽しみについて／修辞法解説 3:　The Pastures of Heaven　Introduction 4:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 1 5:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 1 6:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 2 7:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 2 8:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 3 9:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 3 10:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 4 11:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 4 12:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 5 13:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 5 14:　Review 15:　レポート回収／期末テスト

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：テキストの予習　／　事後学習：授業中に読んだ内容に関して、文章表現、技巧、作家の視点、歴史的、文化的事柄について整理し、まとめる。
テキスト	John Steinbeck, *The Pastures of Heaven* (Penguin Twentieth-Century Classics)
参考文献	スタインベック全集１（大阪教育図書）
評価方法	授業参加度（30%）、提出物（10%）、期末レポート（30%）、期末テスト（30%）を総合的に評価。 全体の 2/3 の出席が不可欠。

09 年度以降	英語専門講読　II （アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、*The Pastures of Heaven* を読み、更に作品についての評論も読んでゆく。また、時間が許せば、スタインベックの他の作品も適宜紹介してゆきたい。 ＊授業には予習をして臨んで下さい。	1:　前期レポートについてグループ発表 2:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 6 3:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 6 4:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 7 5:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 7 6:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 8 7:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 8 8:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 9 9:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 9 10:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 10 11:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 10 12:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 11 13:　The Pastures of Heaven 読解　Chapter 11 14:　Review 15:　レポート回収／期末テスト

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：テキストの予習　／　事後学習：授業中に読んだ内容に関して、文章表現、技巧、作家の視点、歴史的、文化的事柄について整理し、まとめる。
テキスト	John Steinbeck, *The Pastures of Heaven* (Penguin Twentieth-Century Classics)
参考文献	スタインベック全集１（大阪教育図書）
評価方法	授業参加度（30%）、提出物（10%）、期末レポート（30%）、期末テスト（30%）を総合的に評価。 全体の 2/3 の出席が不可欠。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅰ （芝居の台本を読んで観る）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学び、 vocabularyをbuild up する。 生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、その洞察を深める。 さらに実際の舞台を観て、演劇の面白さや意味・意義を実感・理解してもらう。 講義概要 ロール・プレイ形式でテキストを精読していきます。 どの台本も最初の10～15ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。	1. 導入とテキスト精読 2. テキスト精読 3. テキスト精読 4. テキスト精読 5. テキスト精読 6. テキスト精読 7. テキスト精読 8. テキスト精読 9. テキスト精読 10. テキスト精読 11. テキスト精読 12. テキスト精読 13. テキスト精読 14. テキスト精読 15. テキスト精読とまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。
テキスト	主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。
参考文献	授業中に言及する予定です。
評価方法	毎回の vocabulary と comprehension のテストで 60%、観劇レポート（500～600 字）2 編で 40%。レポートは 2 編必修。2 編提出しない場合、授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。学期末定期試験なし。

09 年度以降	英語専門講読 Ⅱ （芝居の台本を読んで観る）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学び、 vocabularyをbuild up する。 生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、その洞察を深める。 さらに実際の舞台を観て、演劇の面白さや意味・意義を実感・理解してもらう。 講義概要 ロール・プレイ形式でテキストを精読していきます。 どの台本も最初の10～15ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。	1. 導入とテキスト精読 2. テキスト精読 3. テキスト精読 4. テキスト精読 5. テキスト精読 6. テキスト精読 7. テキスト精読 8. テキスト精読 9. テキスト精読 10. テキスト精読 11. テキスト精読 12. テキスト精読 13. テキスト精読 14. テキスト精読 15. テキスト精読とまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。
テキスト	主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。
参考文献	授業中に言及する予定です。
評価方法	毎回の vocabulary と comprehension のテストで 60%、観劇レポート（500～600 字）2 編で 40%。レポートは 2 編必修。2 編提出しない場合、授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。学期末定期試験なし。

09 年度以降	英語専門講読　I （SLA 最前線）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
第2言語（英語）を習得すること（second language acquisition: SLA）は、なぜこんなに難しいのでしょうか？どのような学習方法・教授方法が効果的なのでしょうか？第2言語習得に長けている人と苦労する人は、一体何が違うのでしょうか？このような疑問に答えるべく、調査や実験を行うのが、「実証研究」です。この授業では、英語で書かれたSLA実証研究論文を講読していきます。 実証研究論文は「科学的」です。「研究課題」（Research questions）があり、「研究方法」（Research method）があり、得られた「結果」（Results）は図や表と共に数値で表されます。多くの受講生の皆さんにとっては、初めて読むタイプの文書だと思いますが、どのように読み解いて行くのかという基本的なことを講義します。その後、読んだ内容を基に、ディスカッションやリサーチデザイン案を立ててみる活動を中心とした、活発な演習を行って頂きます。	1. ガイダンス 2. 練習論文 3. 論文1-1. 語彙習得について→内容確認（1） 4. 論文1-2. 語彙習得について→内容確認（2） 5. 論文1-3. 語彙習得について→内容確認（3） 6. 論文1-4. 語彙習得について→議論・デザイン練習 7. 論文2-1. 学習者要因について→内容確認（1） 8. 論文2-2. 学習者要因について→内容確認（2） 9. 論文2-3. 学習者要因について→内容確認（3） 10. 論文2-4. 学習者要因について→議論・デザイン練習 11. 論文3-1. 効果的な学習方法とは→内容確認（1） 12. 論文3-2. 効果的な学習方法とは→内容確認（2） 13. 論文3-3. 効果的な学習方法とは→内容確認（3） 14. 論文3-4. 効果的な学習方法とは→議論・デザイン練習 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予め配布される質問紙に対する答えを探しながら、当該論文を読んで授業に臨んで下さい。
テキスト	日本国内で出版された、日本人英語学習者を対象とした研究論文。
参考文献	Saville-Troike, M. (2012). *Introducing Second Language Acquisition (Second Edition)*. CUP.
評価方法	毎回の授業中での活動（60%）、学期末レポート（40%）

09 年度以降	英語専門講読　II （SLA 最前線）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
春学期同様、SLA実証研究論文を講読します。秋学期は、日本国外で出版された、日本人英語学習者以外を対象としたSLA研究に触れ、世界で第2言語の学習・教授がどのように行われているのかについて知ることも目的の1つになります。 また、秋学期は、読んだ内容の要約、議論などの授業内活動を英語で行って頂きます。最終レポートも英語で書いて頂きます。これらを通じ、研究論文で仕様されている高度でアカデミックな英語表現を身につけることを目指します。	1. ガイダンス 2. 練習論文 3. 論文1-1. リスニングプロセス→内容確認（1） 4. 論文1-2. リスニングプロセス→内容確認（2） 5. 論文1-3. リスニングプロセス→内容確認（3） 6. 論文1-4. リスニングプロセス→議論・デザイン練習 7. 論文2-1. 言語テストと評価→内容確認（1） 8. 論文2-2. 言語テストと評価→内容確認（2） 9. 論文2-3. 言語テストと評価→内容確認（3） 10. 論文2-4. 言語テストと評価→議論・デザイン練習 11. 論文3-1. コミュニケーション意欲→内容確認（1） 12. 論文3-2. コミュニケーション意欲→内容確認（2） 13. 論文3-3. コミュニケーション意欲→内容確認（3） 14. 論文3-4. コミュニケーション意欲→議論・デザイン練習 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予め配布される質問紙に対する答えを探しながら、当該論文を読んで授業に臨んで下さい。
テキスト	日本国外で出版された、日本人英語学習者を対象とした研究論文。
参考文献	Saville-Troike, M. (2012). *Introducing Second Language Acquisition (Second Edition)*. CUP.
評価方法	毎回の授業中での活動（60%）、学期末レポート（40%）

09 年度以降	英語専門講読　I （言語研究のさまざまな知見を巡る）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
言語研究と聞くと、音声学や音韻論、統語論、意味論などがイメージされ、学習経験者も多いと思われる。しかし、本授業では、これらの中核ではなく、触れる機会が少ないかもしれない関連領域を中心に、その基礎について一般人向けに書かれた読み物を通して学ぶ。トピックには、言語ファミリー、言語の誕生と死、言語知覚と生成、脳と言語、文字などが含まれる。 指定テキストは平易な英文で読みやすい。毎週、程よい分量を継続して読むことで、英語を読むことへの慣れを促し、また、内容を詳細に読む練習により、正確な読解力と分析的な視点を養う。適宜、より専門性の高い文献も参照することにより、内容や記述の段階的な変化を感じ取ることも目指す。	1. Introduction 2. Ch 10-1 Historical Linguistics（言語ﾌｧﾐﾘｰ, 祖先, “歴史”） 3. Ch 10-2 … why language changes（なぜことばは変わる?） 4. Ch 10-3 Reconstructing Indo-European（印欧語のご祖先様） 5. Ch 10-4 Surveying the World’s Lang families（一族発見法） 6. Ch 11-1 Linguistic Typology（一族の特徴, “類型”） 7. Ch 11-2 Organizing sounds into larger groups（音のタイプ） 8. Ch 11-3 Word formation（いく-たい-ない-た = いきたくなかった） 9. Ch 11-4 Observing sentence structure（SVO, SOV, VOS…?） 10. Supplemental Reading 11. Ch 12-1 Language Birth and Lang Death（言語の誕生と死） 12. Ch 12-2 Finding signs of complex language（複雑, simple） 13. Ch 12-3 Losing languages（絶滅危機言語） 14. Ch 12-4 What dies with a language?（言語のレスキュー） 15. Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	学生は毎週の事前の読み課題や事前/事後のまとめ課題等をこなし、論点や疑問点と共に授業に臨むことが求められる。
テキスト	Burton, Déchaine & Vatikiotis-Bateson. (2011) *Linguistics for Dummies*. Wiley and Sons Canada, Ltd.（ISBN: 978-1-118-09169-2, ebook ISBN: 978-1-118-10157-5）
参考文献	その他　配布資料
評価方法	授業参加（準備・クイズ/課題）: 約 30%, 発表 30%, まとめ課題/試験：約 40%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる。

09 年度以降	英語専門講読　II （言語研究のさまざまな知見を巡る）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、言語にまつわるさまざまなトピックを読む。	1. Introduction 2. Ch 14-1 Perceiving Language （言語音の”知覚”） 3. Ch 14-2 Constructing sound patterns（音は羅列で聞かない ） 4. Ch 14-3 Attending to speech（音声モード） 5. Ch 14-4 Creating meaning with gesture（gesture, 手話, 読唇） 6. Ch 15-1 Producing Language（言語音の”生成”） 7. Ch 15-2 Breathing takes the lead in syllables（肺から始まる） 8. Ch 15-3 Shaping speech with vocal tract（音を作るﾒｶﾆｽﾞﾑ ） 9. Ch 15-4 Making speech visible & touchable（音を見て触れる） 10. Supplemental Reading 11. Ch 16-1 Neurolinguistics （脳とことば, ”神経言語学”） 12. Ch 16-2 Storing language in the brain（記憶, ﾐﾗｰﾆｭｰﾛﾝ） 13. Ch 16-3 Changing the structure of the brain（脳損傷と言語） 14. Ch 16-4 Responding to oddball paradigms（脳科学的実験） 15. Ch 17 Writing（形の違いだけでない世界の文字）

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	学生は毎週の事前の読み課題や事前/事後のまとめ課題をこなし、論点や疑問点をもって授業に臨むことが求められる。
テキスト	Burton, Déchaine & Vatikiotis-Bateson. (2011) *Linguistics for Dummies*. Wiley and Sons Canada, Ltd.（ISBN: 978-1-118-09169-2, ebook ISBN: 978-1-118-10157-5）
参考文献	その他　配布資料
評価方法	授業参加（準備・クイズ/課題）: 約 30%, 発表 30%, まとめ課題/試験：約 40%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる。

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ （異文化コミュニケーションの基礎）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
春学期は，コミュニケーション論分野の基礎的な文献を読み，コミュニケーションの諸概念や仕組みを理解することを目的とします． 授業形式は，3～4人のグループによるプレゼンテーションです．学生諸君が日常生活で経験しているコミュニケーション現象を紹介・分析・説明することを通して，文献の内容に関する理解の共有を図ります．また，学んだことを実践することも求められます． この授業は，「学生の，学生による，学生のための授業」です．学生諸君の活発な議論を通して，活気ある授業作りや履修者間の人間関係作りをしてください．そして，日常のコミュニケーション現象に興味を持ったり，新しい発見をしたりしながら，毎週の授業を楽しみにしてもらえれば良いと思います．	1. 授業オリエンテーション 2. 英語文献の読み方 3. プレゼンテーションとは何か（準備と方法） 4. グループの決定 5. グループプレゼンテーション（1） 6. グループプレゼンテーション（2） 7. グループプレゼンテーション（3） 8. グループプレゼンテーション（4） 9. グループプレゼンテーション（5） 10. グループプレゼンテーション（6） 11. グループプレゼンテーション（7） 12. グループプレゼンテーション（8） 13. グループプレゼンテーション（9） 14. グループプレゼンテーション（10） 15. 春学期のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で割り当てられた箇所を精読する．プレゼンターは資料等の準備，プレゼンター以外は質問事項などを整理しておく．学習内容に基づき，日常のコミュニケーション現象を観察・分析する．
テキスト	授業で読む文献はコピーとして配布する．
参考文献	適宜，コミュニケーション論，心理学，社会学，統計学に関する辞典・文献．Reading Assignment あり（別途指示）．
評価方法	グループワークの評価（30%），授業への貢献度（10%），学期末レポート（40%），ポートフォリオ（20%）により評価する．

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ （異文化コミュニケーションの理論）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は，春学期の内容を踏まえ，特に「異文化」に焦点を当てながら理論に関する文献を読み，その内容を理解することを目的とします．また，特殊講義として，ムスリムの文化を扱う文献を読みます． 授業形式は，3～4人のグループによるプレゼンテーションです．学生諸君が日常生活で経験しているコミュニケーション現象を紹介・分析・説明することを通して，文献の内容に関する理解の共有を図ります．また，学んだことを実践することも求められます． この授業は，「学生の，学生による，学生のための授業」です．学生諸君の活発な議論を通して，活気ある授業作りや履修者間の人間関係作りをしてください．そして，日常のコミュニケーション現象に興味を持ったり，新しい発見をしたりしながら，毎週の授業を楽しみにしてもらえれば良いと思います．	1. Reading Assignment意見交換 2. イスラーム・ムスリムの文化（1） 3. イスラーム・ムスリムの文化（2） 4. イスラーム・ムスリムの文化のまとめ 5. グループプレゼンテーション（1） 6. グループプレゼンテーション（2） 7. グループプレゼンテーション（3） 8. グループプレゼンテーション（4） 9. グループプレゼンテーション（5） 10. グループプレゼンテーション（6） 11. グループプレゼンテーション（7） 12. グループプレゼンテーション（8） 13. グループプレゼンテーション（9） 14. グループプレゼンテーション（10） 15. 秋学期のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で割り当てられた箇所を精読する．プレゼンターは資料等の準備，プレゼンター以外は質問事項などを整理しておく．学習内容に基づき，日常のコミュニケーション現象を観察・分析する．
テキスト	授業で読む文献はコピーとして配布する．
参考文献	適宜，コミュニケーション論，心理学，社会学，統計学に関する辞典・文献．
評価方法	グループワークの評価（30%），授業への貢献度（10%），学期末レポート（40%），ポートフォリオ（20%）により評価する．

09 年度以降	英語専門講読　I （日英語の受動文の比較）	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
大学生の英作文でもappearなどの自動詞を受動文にする(2)のような間違いが散見されるが、(2)をフランス語に置き換えた(3)は文法的であり、(1)とほぼ同じ能動文となる。 (1)　John appeared sad. (2) *John was appeared sad. (3)　John est apparu triste. また、日本語の受動文は(4)のように他動詞に「られ」をつけて表すが、(5)のように自動詞「死ぬ」にも「られ」をつけることができる。これを英語に置き換えた(6)は非文法的であり、フランス語でも同様である。 (4)　花子は（子供に）裏切られた。 (5)　花子は子供に死なれた。 (6) *Hanako was died by her child. (4)はどの言語でも受動文として可能であるが、他の例に見られる言語間の差はどこから来るのだろうか。この授業では、言語間の差はそれぞれの言語の語彙の限られた部分（機能範疇）から導けるという生成文法の考え方に基づいて、Jaeggli (1986)に関する個別の問いにグループで取り組み、論旨をまとめてもらう。	1. 授業の概要とグループ分け 2. 英語のシンタクスに関する基礎：必須要素と修飾要素 3. 英語のシンタクスに関する基礎：節構造と格付与 4. 受動文の典型的性質 5. 受動文における格付与と意味役割付与 6. 非人称受動文 7. 二重目的語構文 8. 動作主句の意味役割 9. 受動名詞句 10. 動作主句なしの受動文 11. Jaeggli (1986)のまとめ提出とグループ討議 12. 日本語の受動文：「に」と「によって」 13. 日本語の間接受動文 14. 日本語の所有者受動文 15. 全体のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられる論文に関する質問について考え、毎回の授業での議論を踏まえて解答をまとめる。
テキスト	Jaeggli, O. A. (1986) “Passive.” *Linguistic Inquiry* 17:587-622.
参考文献	Freiden, R. (2012) *Syntax: Basic Concepts and Applications* (CUP), 中村捷・他 (1989)『生成文法の基礎』（研究社）
評価方法	毎回の授業での言語分析及び論文のまとめ(70%)、学期末試験(30%)

09 年度以降	英語専門講読　II （動詞派生形容詞などについて）	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
専門講読Iでは受動文を扱ったが、動詞の受動形はwell-knownなど形容詞としても使われる場合が多い。agedも形容詞として使われるが、2つの意味と発音（aged (eɪdʒd) wineとaged (eɪdʒɪd) father）がある。動詞の受動形と形容詞にはどのような関連があるのだろうか。また、openには動詞と形容詞の用法があるが、openの受動形と形容詞openはどのように使い分けられるのだろうか。 (1)　The door was opened. (2)　The door was open. (1)の”Someone opened the door”という意味に加え、(1)(2)ともドアが開いているという状態を表すが、状態読みに関して(3)の副詞による修飾や(4)の結果構文に差が現れる。 (3)　The package remained carefully opened/*open. (4)　John kicked the door *opened/open. (1)-(4)はすべてopenという語根を含むが、日本語の「暖かい」「暖まる」「暖める」などもatataという共通部分がある。この授業では以上のような語と統語構造の関係について考察する。授業の進め方はIと同様グループ作業が中心となる。	1. 授業の概要とグループ分け 2. 他動詞の受身形と形容詞 3. イベント的受動形 4. 状態的受動形 5. 語根と派生 6. 形容詞から派生した動詞(dark/darkenなど) 7. (4)などの結果構文 8. 複雑な結果句 9. Levin & Rappaport (1986, 1995) の直接目的語制約 10. 疑似目的語構文と結果句 11. Embick (2004)のまとめ提出とグループ討議 12. 「暖かい」「暖まる」「暖める」の統語構造 13. 「見る」「見せる」「見させる」の統語構造 14. 日本語の動詞派生名詞 15. 全体のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられる論文に関する質問について考え、毎回の授業での議論を踏まえて解答をまとめる。
テキスト	Embick, D. (2004) “Structure of resultative participles in English” *Linguistic Inquiry* 35:355–392.
参考文献	Freiden, R. (2012) *Syntax: Basic Concepts and Applications* (CUP), 中村捷(他) (1989)『生成文法の基礎』(研究社)
評価方法	毎回の授業での言語分析及び論文のまとめ(70%)、学期末試験(30%)

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ【３・４年生対象】 （文法と文脈の関係）	担当者	大澤　舞

講義目的、講義概要	授業計画
目的： （1）言語学の分野における「語用論」に注目し，英語で書かれた文献を読むことを通じて当該分野の基礎的知識を身につける。 （2）テキストに書かれている内容を正確に把握することができるようになる。 （3）テキストの内容を正確に理解した上で，関連する言語データを収集できるようになる。 概要： 言語学の「語用論」と呼ばれる分野について書かれた英語文献を講読することを通じて，語用論の基礎的事項を学ぶ。そして，実際の言語活動において，それらの事項がどのように反映されているかを観察する。	1. オリエンテーション 2. 語用論とは 3. 協調の原理と会話の含意（1） 4. 協調の原理と会話の含意（2） 5. 有標と無標（1） 6. 有標と無標（2） 7. presupposition と entailment（1） 8. presupposition と entailment（2） 9. 発話行為（1） 10. 発話行為（2） 11. ポライトネス（1） 12. ポライトネス（2） 13. 情報構造（1） 14. 情報構造（2） 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：テキストの指定箇所を事前に読む。報告を担当する場合は，書かれている内容を簡潔にまとめて発表の準備をする。／復習：授業内容を整理し，疑問点がないか確認する。
テキスト	授業で配付する
参考文献	授業で適宜紹介する
評価方法	授業内での発表（２０％）と言語データの収集（２０％）と期末レポート（６０％）で評価する。

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ【３・４年生対象】 （文法と文脈の関係）	担当者	大澤　舞

講義目的、講義概要	授業計画
目的： （1）英語で書かれた論文を読めるようになる。 （2）論文に書かれている内容を正確に把握し，把握したことを他者に分かりやすく伝えることができるようになる。 （3）英語学的アプローチを習得し，規則や原理などによるメカニズムの解明の仕方を理解できるようになる。 概要： 「英語専門講読 I」で学んだ基礎的知識を活用し，語用論について英語で書かれた専門文献（論文）を講読する。そして，実際の語用論研究がどのようなものであるかを知る。	1. オリエンテーション 2. 文法における語用論の役割 3. 語用論的制限を受ける構文 I：（1） 4. 語用論的制限を受ける構文 I：（2） 5. 語用論的制限を受ける構文 II：（1） 6. 語用論的制限を受ける構文 II：（2） 7. 語用論的制限を受ける構文 II：（3） 8. 語用論的制限を受ける構文 II：（4） 9. 語用論的制限を受ける構文 II：（5） 10. 語用論的制限を受ける構文 III：（1） 11. 語用論的制限を受ける構文 III：（2） 12. 語用論的制限を受ける構文 III：（3） 13. 語用論的制限を受ける構文 III：（4） 14. 語用論的制限を受ける構文 III：（5） 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：テキストの指定箇所を事前に読む。報告を担当する場合は，書かれている内容を簡潔にまとめて発表の準備をする。／復習：授業内容を整理し，疑問点がないか確認する。
テキスト	授業で配付する
参考文献	授業で適宜紹介する
評価方法	授業内での発表（２０％）と言語データの収集（２０％）と期末レポート（６０％）で評価する。

09 年度以降	英語専門講読　I （現代東南アジアの政治・経済・社会）（火４）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は以下の３点です。 ①東南アジア諸国の経済・政治の基本的知識および各国の現状分析に必要な視点や手法を習得する。 ②東南アジアの地域研究（area studies）のみならず、広く国際関係や経済・政治を中心とする社会科学を勉強・理解するために不可欠な概念・知識を身につける。 ③プレゼンテーションとディスカッションのスキル収得。 これら目的のために、テキストに基づき東南アジア各国の経済・政治に関する諸問題を取り上げます。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、ディスカッション、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。	1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 2. ~ 15. テキスト①②のチャプターに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答，討論、さらにフォローアップ（翌週）を行います。 ①ISEAS, *ISEAS Monitor Series*, ISEAS. ②Institute of Southeast Asian Studies, *Southeast Asian Affairs 2017*, ISEAS, 2017。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。その他の資料もサブ・テキストとして適宜使用します。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	使用するテキストをダウンロードした上で事前に読み込んでおく。
テキスト	ISEAS, *ISEAS Monitor Series,*　Institute of Southeast Asian Studies, *Southeast Asian Affairs 2017*
参考文献	ISEAS, *ISEAS Monitor Series*（テキストとして使用しない他の号など）
評価方法	レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。

09 年度以降	英語専門講読　II （現代東南アジアの政治・経済・社会）（火４）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は以下の３点です。 ①東南アジア諸国の経済・政治の基本的知識および各国の現状分析に必要な視点や手法を習得する。 ②東南アジアの地域研究（area studies）のみならず、広く国際関係や経済・政治を中心とする社会科学を勉強・理解するために不可欠な概念・知識を身につける。 ③プレゼンテーションとディスカッションのスキル習得。 これら目的のために、テキストに基づき東南アジア各国の経済・政治に関する諸問題を取り上げます。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、ディスカッション、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。	1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 2. ~ 15. テキスト①②のチャプターに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答，討論、さらにフォローアップ（翌週）を行います。 ①ISEAS, *ISEAS Monitor Series*, ISEAS. ②Institute of Southeast Asian Studies, *Southeast Asian Affairs 2017*, ISEAS, 2017。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。その他の資料もサブ・テキストとして適宜使用します。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	使用するテキストをダウンロードした上で事前に読み込んでおく。
テキスト	ISEAS, *ISEAS Monitor Series,*　Institute of Southeast Asian Studies, *Southeast Asian Affairs 2017*
参考文献	ISEAS, ISEAS *Monitor Series*（テキストとして使用しない他の号など）
評価方法	レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ【３・４年生対象】 （アメリカ小説）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
目標：第一に「英語で」原書を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に質問表にもとづく質疑応答・討論により作品理解を深めることを目的とします。 講義概要：20世紀最大のアメリカ作家と言われるWilliam Faulknerの最高傑作*The Sound and the Fury*（1929)に挑戦し、第1章を中心に読みます。難解な小説と言われていますが、100%理解できなくても十分楽しめ、人間の想像力の素晴らしさを味わうことが出来る作品です。アメリカ南部が舞台ですが、家族崩壊、初恋、兄弟間の愛憎など現代の学生諸君にも十分理解・自己投影できる普遍性をもった作品と考えます。 　質問表は教師が用意し、教師が討論の司会をします。授業で積極的に発言して、討論・意見交換に参加する学生の受講を希望します。	1. 授業の進め方などについての説明と質問表にもとづく質疑応答・討論による体験授業を行います。 2-13.　質問表にもとづく同様な方法でテキストの第1章を毎回平均ほぼ5～10ページずつ読んでいく。 14-15. 質問表にもとづく同様な方法でテキストの第2章を毎回平均ほぼ5～10ページずつ読んでいく。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習。授業後は、授業内容をまとめ、各質問で話題となったポイントを整理しておく。
テキスト	William Faulkner, *The Sound and the Fury* (Vintage International, 1990)
参考文献	授業で随時紹介
評価方法	学期末の試験 80%、授業内小テストおよび授業・討論への貢献度 20%

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ【３・４年生対象】 （アメリカ小説）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
目標：春学期を参照してください。 講義概要：第2章を中心に読みます。他は、春学期を参照してください。	1.　春学期定期試験問題の返却と講評。春学期と同じく、質問表による討論。第2章の続き。 2-11.　質問表による討論。第2章の残り部分。毎週平均ほぼ5から10ページ程度読んでいく予定 12-15.　第3章と4章の指定された部分についての質問表にもとづく質疑応答･討論。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習。授業後は、授業内容をまとめ、各質問で話題となったポイントを整理しておく。
テキスト	William Faulkner, *The Sound and the Fury* (Vintage International, 1990)
参考文献	授業で随時紹介
評価方法	学期末の試験 80%、授業内小テストおよび授業・討論への貢献度 20%

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ （世界ブランドとグローバル社会）（火４）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、世界ブランドの研究と共に、グローバル社会の研究を、２つのテーマとして設定しています。 ルイ・ヴィトン、ココ・シャネル、ティファニー、ブルガリ、アジアの有名ブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。 グローバル社会については、雑誌記事などを扱う予定です。 プレゼンはグループごとに行ないます。グループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行ないます。専門講読が初めての２年生でも、経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。	1　オリエンテーション、グループの編成 2　世界ブランド 3　世界ブランド 4　世界ブランド 5　世界ブランド 6　グローバル社会 7　　同上 8　　同上 9　　同上 10　世界ブランド 11　世界ブランド 12　世界ブランド 13　世界ブランド 14　世界ブランド 15　まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト	*E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books,.2012); Tea at Fortnum & Mason: Piccadilly since 1707(Ebury Books,2010)*など。
参考文献	テキストの続き：Paul Temporal, Asia's Star Brands(John Wiley &Sons,2006)など。参考文献は授業中にお知らせします。
評価方法	プレゼン資料＋プレゼンテーション 60%、授業への参加度 40%

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ （世界ブランドとグローバル社会）（火４）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、世界ブランドの研究と共に、グローバル社会の研究を、２つのテーマとして設定しています。 ルイ・ヴィトン、ココ・シャネル、ティファニー、ブルガリ、アジアの有名ブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。 グローバル社会については、雑誌記事などを扱う予定です。 プレゼンはグループごとに行ないます。グループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行ないます。専門講読が初めての２年生でも、経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。	1　オリエンテーション、グループの編成 2　世界ブランド 3　世界ブランド 4　世界ブランド 5　世界ブランド 6　グローバル社会 7　　同上 8　　同上 9　　同上 10　世界ブランド 11　世界ブランド 12　世界ブランド 13　世界ブランド 14　世界ブランド 15　まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト	*E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books,.2012); Tea at Fortnum & Mason: Piccadilly since 1707(Ebury Books,2010)*など。
参考文献	テキストの続き：Paul Temporal, Asia's Star Brands(John Wiley &Sons,2006)など。参考文献は授業中にお知らせします。
評価方法	プレゼン資料＋プレゼンテーション 60%、授業への参加度 40%

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ （比較統語論）	担当者	船越　健志

講義目的、講義概要	授業計画
＊生成文法統語論の基礎知識をある程度前提にしているため、「シンタクスa, b」の既修もしくは並行履修が望ましい。 さまざまな言語データに基づいて、データからどのように記述的一般化を行えば良いのか、一般化を理論的に説明することによってどのような理論的予測が得られるのか、さらには理論的予測の検証をどのようなデータに基づいて行えば良いのかなど、科学的な言語研究の方法論を自分で実際に体験することによって習得してもらいます。 授業の基本的構成は、前半に講師による講義および学生自身によるデータ分析を、後半でグループミーティングを行います。グループミーティングでは、学期末のグループプレゼンテーションのためのディスカッションを行ってもらいます。グループプレゼンテーションでは、英語で書かれた入門書の一部の内容をまとめて発表してもらいます（発表自体は日本語で良い）。 ＊統語論は積み上げ式の学問なので授業には毎回出席すること。1度でも授業を欠席するとそれ以降の授業についていくのが難しくなります。	1. オリエンテーション 2. 原理とパラメータアプローチ導入 3. that-trace effects 4. 空主語 5. 意味役割 6. 束縛理論１ 7. 束縛理論２ 8. 階層性１：ワルピリ語 9. 階層性２：英語 10. 階層性３：日本語 11. 下接の条件 12. CEDとECM 13. グループプレゼンテーション１ 14. グループプレゼンテーション２ 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	グループミーディングのための課題論文（英文）の精読、および授業内容の復習をすること
テキスト	ハンドアウトを毎回配布します。
参考文献	Carnie, Andrew (2013) Syntax: A generative introduction (3rd ed.). Wiley-Blackwell
評価方法	期末試験あるいはプレゼン（７０％）＋授業への参加度・貢献度（３０％）

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ （比較統語論）	担当者	船越　健志

講義目的、講義概要	授業計画
＊生成文法統語論の基礎知識をある程度前提にしているため、「シンタクスa, b」の既修もしくは並行履修が望ましい。 ＊また同一講師の英語専門講読 Ⅰ（春学期）も前提としているので、連続して履修してください。 講義目的および講義概要は英語専門講読 Ⅰ（春学期）を参照してください。 春学期のグループプレゼンテーションでは入門書の一部を読みますが、秋学期はより本格的なリサーチペーパーを読んでもらいます。 ＊統語論は積み上げ式の学問なので授業には毎回出席すること。１度でも授業を欠席するとそれ以降の授業についていくのが難しくなります。	1. オリエンテーション 2. X-bar理論 3. 虚辞 4. A移動１：述部内主語仮説 5. A移動２：繰り上げ構文とコントロール構文 6. A移動３：日本語の繰り上げ構文 7. 主要部移動１：英語とフランス語 8. 主要部移動２：主要部移動制約と否定辞 9. 日本語の主要部移動１：動詞残留型動詞句省略 10. 日本語の主要部移動２：付加詞脱落 11. 日本語の主要部移動３：動詞句前置 12. 日本語の主要部移動４：まとめ 13. グループプレゼンテーション１ 14. グループプレゼンテーション２ 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	グループミーディングのための課題論文（英文）の精読、および授業内容の復習をすること
テキスト	ハンドアウトを毎回配布します。
参考文献	Carnie, Andrew (2013) Syntax: A generative introduction (3rd ed.). Wiley-Blackwell
評価方法	期末試験あるいはプレゼン（７０％）＋授業への参加度・貢献度（３０％）

09 年度以降	英語専門講読　I （映画『スターウォーズ』批評）	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、コミュニケーション研究において重要な批判的・哲学的概念について、映画スターウォーズ・シリーズの批評を通じて、基礎的な理解を得ることを目的とします。 映像が理論的・哲学的概念を織り込んでいく過程を、映画作品とその批評を読み込み理解していきます。この講義の目的は、映画から始めて哲学や理論の探究という今まできちんと意識してこなかったかもしれない「読み」を行うことです。 授業では、①グループでレジュメを作成して発表し、②全体で討論するという手順で行います。履修者には主体的に課題に取り組むこと、また積極的に関連資料の収集や調査、そして討論に参加することが必要とされます。 テクストの新たな章に入る前には、その章を予習しておくだけでなく、題材となる映画も予め各自で観ておくことが必須となります。 履修者は文献をきちんと理解し発表する為に、参考文献を図書館等で入手し活用することも求められます。積極的に授業に取り組み、他の受講生の知的好奇心を刺激する発言をすることに意欲的な方の受講を大いに歓迎します。 **第１回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。**	1. Course Orientation 2. “You cannot Escape your Destiny” (Or can you?): Freedom and Predestination in the Skywalker Family 3. “You cannot Escape your Destiny” (Or can you?): Freedom and Predestination in the Skywalker Family 4. Moral Ambiguity in a Black-and-White Universe 5. Moral Ambiguity in a Black-and-White Universe 6. The Aspiring Jedi’s Handbook of Virtue 7. The Aspiring Jedi’s Handbook of Virtue 8. Send in the Clones: The Ethics of Future Wars 9. Send in the Clones: The Ethics of Future Wars 10. A Technological Galaxy: Heidegger and the Philosophy of Technology in *Star Wars* 11. A Technological Galaxy: Heidegger and the Philosophy of Technology in *Star Wars* 12. “If Droids could Think. . .”: Droids as Slaves and Persons 13. “If Droids could Think. . .”: Droids as Slaves and Persons 14. Review of chapters 15. Wrap up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	映画のスクリーニングと教科書の予習、発表の為の準備は、各自の事前学習として必須です。授業後は当該の章を必ず復習してください。
テキスト	*Star Wars and Philosophy: More Powerful than You can Possibly Imagine*. ed. By Kevin S. Decker and Jason T. Eberl. (Chicago: La Salle, Il: Open Court, 2005)
参考文献	—
評価方法	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻２回は欠席１回に相当）等から総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読　II （映画『スターウォーズ』批評）	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ **第１回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。**	1. Course Orientation 2. “Size Matters Not”: The Force as the Causal Power of the Jedi 3. “Size Matters Not”: The Force as the Causal Power of the Jedi 4. The Force is with *Us*: Hegel’s Philosophy of Spirit Strikes Back at the Empire 5. The Force is with *Us*: Hegel’s Philosophy of Spirit Strikes Back at the Empire 6. “What is Thy Bidding, My Master?”: *Star Wars* and the Hegelian Struggle for Recognition 7. “What is Thy Bidding, My Master?”: *Star Wars* and the Hegelian Struggle for Recognition 8. By Any Means Necessary: Tyranny, Democracy, Republic, ad Empire 9. By Any Means Necessary: Tyranny, Democracy, Republic, ad Empire 10. Humanizing Technology: Flesh and Machine in Aristotle and *The Empire Strikes Back* 11. Humanizing Technology: Flesh and Machine in Aristotle and *The Empire Strikes Back* 12. “A Certain Point of View”: Lying Jedi, Honest Sith, and the Viewers who Love Them 13. “A Certain Point of View”: Lying Jedi, Honest Sith, and the Viewers who Love Them 14. Review of chapters 15. Wrap up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	映画のスクリーニングと教科書の予習、発表の為の準備は、各自の事前学習として必須です。授業後は当該の章を必ず復習してください。
テキスト	*Star Wars and Philosophy: More Powerful than You can Possibly Imagine*. ed. By Kevin S. Decker and Jason T. Eberl. (Chicago: La Salle, Il: Open Court, 2005)
参考文献	—
評価方法	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻２回は欠席１回に相当）等から総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ （アジア太平洋地域の国際関係・政治経済）（水１）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は３つあります。第１に、国際関係論や地域研究（area studies）にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第２に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第３に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。 上記の目的に沿って、テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとにテキストの指定されたパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。 なお、英語専門講読（アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）Ⅰ（春）と同Ⅱ（秋）は継続して履修することを前提とします。また、本授業の受講者数には上限があります。	1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 2. ~ 15. テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 ・テキスト：下記のシリーズの最新の articles 中から選択して順次取り上げる。 ISEAS, *ISEAS Perspective Series*, ISEAS. （http://www.iseas.edu.sg/からダウンロード） ・テキストの内容は、近年におけるアジア太平地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。 ・担当者が初回の授業時に取り扱う号を指定するので、受講者は各自ダウンロードしてください。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	取り扱うテキストをダウンロードした上で事前に読み込むとともに、毎授業で出される課題を翌週の授業までに完成させる。
テキスト	ISEAS, *ISEAS Perspective Series*（2017～2018 年の号から選択）
参考文献	CIA, *The World Factbook* (https://www.cia.gov/ library/publications/the-world-factbook/)など。
評価方法	課題の提出状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ （アジア太平洋地域の国際関係・政治経済）（水１）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的および進め方については、英語専門講読Ⅰと同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。 なお、英語専門講読（アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）Ⅰ（春学期）と同Ⅱ（秋学期）は継続性が強いため、本授業（Ⅱ）の履修については春学期のⅠを履修していることを前提に進めます。また、本授業の受講者数には上限があります。	1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 2. ~ 15. テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 ・テキスト：下記のシリーズの最新の articles 中から選択して順次取り上げる。 ISEAS, ISEAS Perspective Series, ISEAS. （http://www.iseas.edu.sg/からダウンロード） ・テキストの内容は、近年におけるアジア太平地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。 ・担当者が初回の授業時に取り扱う号を指定するので、受講者は各自ダウンロードしてください。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	取り扱うテキストをダウンロードした上で事前に読み込むとともに、毎授業で出される課題を翌週の授業までに完成させる。
テキスト	ISEAS, *ISEAS Perspective Series*（2017～2018 年の号から選択）
参考文献	CIA, *The World Factbook* (https://www.cia.gov/ library/publications/the-world-factbook/)など。
評価方法	課題の提出状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。

09 年度以降	英語専門講読　I (Japanese Language and Literature: Past, Present, and Future)	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
Think about it: How will Japanese language and literature fare in a world that is flooded by English? What are the prospects? Minae Mizumura, in her book *The Fall of Language in the Age of English,* (Japanese title: *日本語が亡びるとき:英語の世紀の中で*)has made a significant contribution to the debate about the predicament of the planet's languages and literatures in today's world where English is the uncontested standard for international communication. Whereas Mizumura's main concern is Japanese, we will also evaluate the historical development and prospects for other languages and literatures including French and Turkish.	1. Orientation 2. Preface & Introduction 3. Preface & Introduction 4. Chapter 1 5. Chapter 1 6. Chapter 1 7. Chapter 2 8. Chapter 2 9. Chapter 2 10. Chapter 3 11. Chapter 3 12. Chapter 3 13. Chapter 3 14. Review 15. Test

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Come to every class having completed assignments. (Homework: about 4 hours each week.)
テキスト	*The Fall of Language in the Age of English*,　Minae Mizumura, 2015, Colombia University Press
参考文献	Reference materials will be distributed in class.
評価方法	Essays = 30%, Notebooks = 40%, Participation = 30%.

09 年度以降	英語専門講読　II (Japanese Language and Literature: Past, Present, and Future)	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
A continuation of the first semester. We will continue to examine the predicament of languages (especially Japanese, French, and Turkish) in a world dominated by English.	1. Orientation 2. Chapter 4 3. Chapter 4 4. Chapter 4 5. Chapter 4 6. Chapter 5 7. Chapter 5 8. Chapter 5 9. Chapter 6 10. Chapter 6 11. Chapter 6 12. Chapter 7 13. Chapter 7 14. Review 15. Test

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Come to every class having completed assignments. (Homework: about 4 hours each week.)
テキスト	*The Fall of Language in the Age of English*,　Minae Mizumura, 2015, Colombia University Press
参考文献	Reference materials will be distributed in class.
評価方法	Essays = 30%, Notebooks = 40%, Participation = 30%.

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ （ディズニーと世界情勢）（水２）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
ディズニー映画やアニメ作品を制作し、魅力的なテーマパークを米国や海外に展開してきたウォルト・ディズニー・カンパニー（旧名称はウォルト・ディズニー・プロダクション）に注目します。 この授業では、ディズニー映画やアニメ作品のＤＶＤ、企業のＰＲ動画やドキュメンタリーを鑑賞しますが、映画やアニメ作品そのものを取り上げるのではなく、企業体としてのディズニーの誕生と発展の歴史を辿ります。 映画やアニメが上映された時の社会、ディズニーランドが建設された時の米国と世界、さらに成功し続けるディズニーの企業戦略やマネージメントなどに注目します。世界的な有力企業（例えば、フォーシーズンズ・ホテル）との比較も行います。	第１週　オリエンテーション、グループの編成 第２週～１５週 毎回の授業では、以下のメニューが用意されています。 ①　モーニング・ボイス・トレーニング テキストの音読を全員で行います ②　グループによるプレゼン ③　ディズニー作品やディズニーＰＲ動画、 ディズニー・ドキュメンタリー・フィルムの鑑賞 ④　グループ・ディスカッション

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト	B. Capodagli & L.Jackson, The Disney Way,(2007); J. Wasko, Understanding Disney (2001) など。
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	プレゼン資料＋プレゼンテーション 60%、授業への参加度 40%

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ （ディズニーと世界情勢）（水２）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
ディズニー映画やアニメ作品を制作し、魅力的なテーマパークを米国や海外に展開してきたウォルト・ディズニー・カンパニー（旧名称はウォルト・ディズニー・プロダクション）に注目します。 この授業では、ディズニー映画やアニメ作品のＤＶＤ、企業のＰＲ動画やドキュメンタリーを鑑賞しますが、映画やアニメ作品そのものを取り上げるのではなく、企業体としてのディズニーの誕生と発展の歴史を辿ります。 映画やアニメが上映された時の社会、ディズニーランドが建設された時の米国と世界、さらに成功し続けるディズニーの企業戦略やマネージメントなどに注目します。世界的な有力企業（例えば、フォーシーズンズ・ホテル）との比較も行います。	第１週　オリエンテーション、グループの編成 第２週～１５週 毎回の授業では、以下のメニューが用意されています。 ①　モーニング・ボイス・トレーニング テキストの音読を全員で行います ②　グループによるプレゼン ③　ディズニー作品やディズニーＰＲ動画、 ディズニー・ドキュメンタリー・フィルムの鑑賞 ④　グループ・ディスカッション

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト	B. Capodagli & L.Jackson, The Disney Way,(2007); J. Wasko, Understanding Disney (2001) など。
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	プレゼン資料＋プレゼンテーション 60%、授業への参加度 40%

09 年度以降	英語専門講読　I （アメリカ現代詩）	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
アメリカ現代詩を鑑賞し分析する。アメリカには詩を「ソング」と呼ぶ伝統がある。そのような「詩／ソング」は詩人の肉声と、読者の肉声が混じり合う「場所／テクスト」である。 アメリカは建国当初、「歴史」がないゆえに「文学」や「芸術」もないと揶揄された。そのような中で、人々はアメリカ独自の「文学」や「芸術」を発展させようと四苦八苦した。 個々の作品は、これまでわたしたちが見たことのないアメリカの姿を映し出している。作品を鑑賞し分析することで、アメリカの文化やそれに付随する諸問題を多面的に捉える能力を養うのが本講義の目的である。 授業はプレゼンテーション形式で進める。	1. イントロダクション 2. Walt Whitman 3. Emily Dickinson 4. William Carlos Williams 5. Ezra Pound 6. Marianne Moore 7. T. S. Eliot 8. Langston Hughes 9. Elizabeth Bishop 10. Robert Lowell 11. Allen Ginsberg 12. Denise Levertov 13. Kenneth Koch 14. Frank O'Hara 15. John Ashbery

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	自分の訳を作り、声に出して作品を味わってくること。授業で読んだ作品を読み直し、イメージを膨らませること。
テキスト	Rita Dove, editor. *The Penguin Anthology of Twentieth-Century American Poetry*. Penguin, 2011.
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(30%)、レポート(40%)

09 年度以降	英語専門講読　II （アメリカ現代詩）	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続きアメリカ現代詩を鑑賞し分析する。 授業はプレゼンテーション形式で進める。	1. イントロダクション 2. Adrienne Rich 3. Gary Snyder 4. Silvia Plath 5. Mark Strand 6. Robert Pinsky 7. Robert Hass 8. Kay Ryan 9. Leslie Marmon Silko 10. Rita Dove 11. Naomi Shihab Nye 12. Li-Young Lee 13. Sherman Alexie 14. Natasha Trethewey 15. Mitsuye Yamada

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	自分の訳を作り、声に出して作品を味わってくること。授業で読んだ作品を読み直し、イメージを膨らませること。
テキスト	Rita Dove, editor. *The Penguin Anthology of Twentieth-Century American Poetry*. Penguin, 2011.
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(30%)、レポート(40%)

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ （実践的な英語の聴解・発音教育）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 従来の英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。 概要 春学期は、主に教科書を中心に第二外国語としての英語リスニング・発音指導の問題点や課題、そして提案されている解決策を学習する。	1. コース概要１：オリエンテーション 2. Introduction（教科書 viii-xv）： いわゆる「アクセント」とは何か？等 3. Unit 1：シラブル（音節）とは 4. Unit 2：母音のルール 5. Unit 3：強勢と母音長との関係１ 6. Unit 4：強勢と母音長との関係２ 7. Unit 1 - 4 のまとめ 8. ＜中間テスト＞ 9. Unit 5：語強勢のさまざまなパターン 10. Unit 6：内容語の文における役割 11. Unit 7：機能語の役割（音としては弱いが重要） 12. 教材作成タスク　① 13. 教材作成タスク　② 14. ＜期末テスト＞ 15. Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べておく・授業後は配布資料を基に内容の確認
テキスト	『Clear Speech – Pronunciation and Listening Comprehension in North American English – Teacher's Resource and Assessment Book. 4th Edition』(2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press
参考文献	必要に応じて学習者用テキストからのコピー等を配布する
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ （実践的な英語の聴解・発音教育）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 従来の英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。 概要 第二外国語としての英語リスニング・発音の研究資料、あるいはウェブ教材なども参考にしながら、実践的な教授法を学習する。後半はグループワークで「英語音を習得するための効果的な教材の作成」に取り組む予定。	1. コース概要１：オリエンテーション 2. Unit 8：文のなかで強調される部分 3. Unit 9：機能語をあえて強調する 4. Unit 10：英語の /s/と/t/ 5. Unit 11：英語の /r/と/d/, /l/と/d/ 6. Unit 12：有声音・無声音について 7. Unit 8 ～12 のまとめ 8. ＜中間テスト＞ 9. Unit 13：シラブルの長さと有声・無声音との関係 10. Unit 14：　‘Sibilants’ 11. Lecture for Listening Practice 12. 教材作成（グループワーク）① 13. 教材作成（グループワーク）② 14. ＜期末テスト＞ 15. Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べておく・授業後は配布資料を基に内容の確認
テキスト	『Clear Speech – Pronunciation and Listening Comprehension in North American English – Teacher's Resource and Assessment Book. 4th Edition』(2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press
参考文献	必要に応じて学習者用テキストからのコピー等を配布する
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する

09 年度以降	英語専門講読　I （国際関係論）	担当者	山越　裕太

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 新聞やテレビで見聞きする「国連」や「国家」、「テロリズム」、「環境問題」などの国際関係論の用語や状況をテキストを読み、考えていきます。 春学期は①上記などの国際関係論の基礎知識や概念の理解、②専門的文献の読解力の向上（要約レポート作成）、③専門的文献を読み通す経験を積むことを目的とします。 **講義概要** 初回授業でより具体的な概要説明を行うので必ず出席してください。 この講義では各自、事前に毎回テキスト（全137頁）の約9ページを精読し、段落ごとにまとめた要約レポートを作成します。授業ではレポートを基に段落ごとに輪読、内容確認、質疑を行い、国際関係論の理解を深めていきます。 ※テキストは各自購入もしくは図書館でコピーすること。	1. 講義オリエンテーション 2. テキストの2~11頁、輪読、内容確認、質疑、まとめ。 3. 以下、同様の方法でテキストの12~20頁。 4. テキスト20~29頁。　5. テキスト29~40頁。 6. テキスト41~50頁。　7. テキスト50~61頁。 8. テキスト61~71頁。　9. テキスト72~81頁。 10.テキスト81~89頁。　11.テキスト89~98頁。 12.テキスト98~106頁。　13.テキスト106~115頁。 14.テキスト115~127頁。　15.テキスト127~137頁。 **テキストの目次は以下の通りです。** Introduction(p.1-), Ch.1 States(p.12-), Ch.2 Non-states(p.58-), Ch.3 Intergovernmental organizations(p.79-), Ch.4 Problems and challenges(p.105-), Conclusion(p.135-137)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：毎週、指定範囲の要約(パラグラフ単位)レポートの作成（レポートは授業の最初に提出)。 事後：専門用語、概念の復習や参考文献の併読。
テキスト	Paul Wilkinson, *International Relations: A Very Short Introduction* (NY: Oxford Univ. Pr., 2007)
参考文献	適宜紹介します。
評価方法	①要約レポート 60%、②授業への参加・貢献度 40%の 2 点を基に評価します。 理由の如何を問わず欠席が 4 回になった時点で評価は不可とします（遅刻は 2 回で欠席 1 回と見做す)。

09 年度以降	英語専門講読　II （国際関係論）	担当者	山越　裕太

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 国際関係論の重要な課題の一つである安全保障（Security）について、国連の役割とは何か、武力紛争の性質など、テキストを読み、考えていきます。 秋学期は①上記などの安全保障分野の基礎知識や概念の理解、②専門的文献の読解力の向上（要約レポート作成）、③専門的文献を読み通す経験を積むことを目的とします。 **講義概要** 初回授業でより具体的な概要説明を行うので必ず出席してください。 この講義では各自、事前に毎回テキスト（全117頁）の約8ページを精読し、段落ごとにまとめた要約レポートを作成します。授業ではレポートを基に段落ごとに輪読、内容確認、質疑を行い、国際関係論の理解を深めていきます。 ※テキストは各自購入もしくは図書館でコピーすること。	1. 講義オリエンテーション 2. テキストの5~12頁、輪読、内容確認、質疑、まとめ。 3. 以下、同様の方法でテキストの12~19頁。 4. テキスト20~30頁。　5. テキスト30~37頁。 6. テキスト37~46頁。　7. テキスト46~54頁。 8. テキスト54~60頁。　9. テキスト60~68頁。 10.テキスト68~76頁。　11.テキスト77~85頁。 12.テキスト85~93頁。　13.テキスト93~100頁。 14.テキスト100~108頁。　15.テキスト108~117頁。 **テキストの目次は以下の通りです。** Ch.1 Introduction(p.1-), Ch.2 A contested nature(p.5-), Ch.3 The problem of war(p.18-), Ch.4 The United Nations(p.33-), Ch.5 The Changing nature of armed conflict(p.47-), Ch.6 Human Security and development(p.62-), Ch.7 Resources, climate change, and capitalism(p.77-), Ch.8 Saviours or sinners?(p.91-), Ch.9 The politics of fear and control(p.104-117)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：毎週、指定範囲の要約（パラグラフ単位）レポートの作成（レポートは授業の最初に提出)。 事後：専門用語、概念の復習や参考文献の併読。
テキスト	Christopher S. Browning, *International Security: A Very Short Introduction* (GB: OUP, 2013)
参考文献	適宜紹介します。
評価方法	①要約レポート 60%、②授業への参加・貢献度 40%の 2 点を基に評価します。 理由の如何を問わず欠席が 4 回になった時点で評価は不可とします（遅刻は 2 回で欠席 1 回と見做す)。

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ （英国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。 使用するテキストは英国ユダヤ人史の概説書です。	1. *Jews of Britain* 1～5 ページを講読 2. 同上 6～10 ページを講読 3. 同上 11～15 ページを講読 4. 同上 16～20 ページを講読 5. 同上 21～25 ページを講読 6. 同上 26～30 ページを講読 7. 同上 31～35 ページを講読 8. 同上 36～40 ページを講読 9. 同上 41～45 ページを講読 10. 同上 46～50 ページを講読 11. 同上 51～55 ページを講読 12. 同上 56～60 ページを講読 13. 同上 61～65 ページを講読 14. 同上 66～70 ページを講読 15. 同上 まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト	高価なため、コピーを配布します。
参考文献	—
評価方法	毎回出席をとります。授業日数の１／３以上欠席された方は単位をあげません。 遅刻２回で欠席１回にカウント。（筆記試験が 70%、平常点が 30%）

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ （英国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
英国ユダヤ人史の概説書を使用します。 講義目的、講義概要は春学期と同じです。	1. *Jews of Britain* 71～75ページを講読 2. 同上 76～80ページを講読 3. 同上 81～85ページを講読 4. 同上 86～90ページを講読 5. 同上 91～95ページを講読 6. 同上 96～100ページを講読 7. 同上 101～105ページを講読 8. 同上 106～110ページを講読 9. 同上 111～115ページを講読 10. 同上 116～120ページを講読 11. 同上 121～125ページを講読 12. 同上 126～130ページを講読 13. 同上 131～135ページを講読 14. 同上 136～140ページを講読 15. 同上 まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	春学期と同じ
テキスト	春学期と同じ
参考文献	—
評価方法	春学期と同じ

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ【３・４年生対象】 (Diplomacy and International Relations)	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
Diplomacy is one of the central aspects in the study of international relations. By examining the nature of diplomacy from various historical perspectives, this course attempts to understand diplomacy, which serves as an essential factor in shaping contemporary international politics today. In the spring semester, the focus will be placed on the evolution of diplomacy, along with some historical events. Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments periodically. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn the essential aspects of international relations in English. Students are required to purchase the textbook from the university bookstore DUO **before the first class.**	1. Introduction 2. Evolution of Diplomacy (1) 3. Evolution of Diplomacy (2) 4. Evolution of Diplomacy (3) 5. Diplomacy of the American Revolution (1) 6. Diplomacy of the American Revolution (2) 7. Diplomacy of the American Revolution (3) 8. Midterm Examination/ Diplomacy of the American Revolution (4) 9. Diplomacy of the American Revolution (5) 10. Diplomacy of the American Revolution (6) 11. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (1) 12. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (2) 13. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (3) 14. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (4) 15. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (5)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	Siracusa, Joseph M., *Diplomacy: A Very Short Introduction* (Oxford: Oxford University Press, 2010).
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ【３・４年生対象】 (Diplomacy and International Relations)	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is as above. In the fall semester, the focus will be placed on more historical events and the changing nature of diplomacy in the age of globalization and beyond. Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments periodically. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn the essential aspects of international relations in English.	1. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (1) 2. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (2) 3. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (3) 4. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (4) 5. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (5) 6. The ANZUS Treaty (1) 7. The ANZUS Treaty (2) 8. Midterm Examination/ The ANZUS Treaty (3) 9. The ANZUS Treaty (4) 10. The ANZUS Treaty (5) 11. Diplomacy in the Age of Globalization (1) 12. Diplomacy in the Age of Globalization (2) 13. Diplomacy in the Age of Globalization (3) 14. Diplomacy in the Age of Globalization (4) 15. Course Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	Siracusa, Joseph M., *Diplomacy: A Very Short Introduction* (Oxford: Oxford University Press, 2010).
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	英語専門講読　I （国際関係）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションとはどのような現象で私たちの生活にどのような影響を及ぼしているのだろうか。 一般的にグローバリゼーションとは、ヒト、モノ、カネ、サービスの国境・地域などの境界を越えての移動と説明される。グローバリゼーションの進展は世界の貧困削減に貢献したのだろうか。または伝統文化の破壊をもたらしているだろうか。さまざまな解釈があるなか、この授業では政治、経済、文化、環境、イデオロギーを多方面からグローバリゼーションを捉え直す。 テキストは、オックスフォード大学出版局のShort IntroductionシリーズのGlobalization（第4版）を用いる。授業への積極的な参加を求めるので、テキストの指定箇所の予習を怠らないこと。	1. 授業概要の説明 2.〜14. テキストに沿って進める 15. 授業総括

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に読んだ上で授業に臨むこと。
テキスト	Manfred B. Steger. *Globalization: A Very Short Introduction.* Oxford Univ. Press, 2017.（第 4 版）
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	課題 20%、授業貢献度 30%、学期末試験 50%

09 年度以降	英語専門講読　II （国際関係）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションとはどのような現象で私たちの生活にどのような影響を及ぼしているのだろうか。 一般的にグローバリゼーションとは、ヒト、モノ、カネ、サービスの国境・地域などの境界を越えての移動と説明されるグローバリゼーションの進展は世界の貧困削減に貢献したのだろうか。または伝統文化の破壊をもたらしているだろうか。さまざまな解釈があるなか、この授業では政治、経済、文化、環境、イデオロギーを多方面からグローバリゼーションを捉え直す。 テキストは、オックスフォード大学出版局のShort IntroductionシリーズのGlobalization（第4版）を用いる。授業への積極的な参加を求めるので、テキストの指定箇所の予習を怠らないこと。	1. 授業概要の説明 2.〜14. テキストに沿って進める 15. 授業総括

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に読んだ上で授業に臨むこと。
テキスト	Manfred B. Steger. *Globalization: A Very Short Introduction.* Oxford Univ. Press, 2017.（第 4 版）
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	課題 20%、授業貢献度 30%、学期末試験 50%

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ【３・４年生対象】 （ハリウッド映画の社会学：初期から WW2 まで）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
ハリウッドは、最初から「ハリウッド」だったわけではありません。この授業では、アメリカ映画の代表格、あるいは大衆娯楽映画の代名詞になった「ハリウッド」が、いつ、どのようにして誕生し、いかなる特徴の映画を世界へ発信するようになったのかについて、社会学の視点から考えます。ハリウッドの歴史と現状を論じた書籍を読解し、また必要に応じて映画作品の一部を観て議論することで、現代社会における映画メディアの魅力と課題を考えます。 授業は①指定テキストの担当箇所について個人単位で英文要約レジュメを作成して口頭発表し、②担当箇所について2～3問のクイズを作成して出題し、③全員でクイズに回答した後に討論する、というスタイルを採ります。 履修者には、主体的に課題に取り組み、かつ積極的に討論に参加することを期待します。	1.　ガイダンス：授業内容の説明、担当箇所の決定 2.　講義①：ハリウッドと「ハリウッド」 3.　講義②：映画産業の歴史と映画研究の位置付け 4.～14.　発表と読解、クイズ、討論 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定個所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。 また授業後に 1 回は指定個所を読み返してください。詳細は初回と第 2 回の授業で説明します。
テキスト	Decherney, P., 2016, *Hollywood: A Very Short Introduction*, Oxford University Press.　ほか
参考文献	授業で適宜提示します。
評価方法	授業参加度 50%、発表 40%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ【３・４年生対象】 （ハリウッド映画の社会学 : 20 世紀後半から現在まで）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、前期の「英語専門講読Ⅰ（ハリウッド映画の社会学：初期からWW2まで)」で取り組んだ方法を応用して、①指定テキストの後半を講読するとともに、②関連する学術論文をあわせて読解し、③「ハリウッド」が映し出す現代社会のメカニズムを考えることを試みます。 前期と同様に、英文要約の発表、クイズの出題と回答、全体討論の3部で授業を構成し、必要に応じて有名・無名のハリウッド映画の一部を鑑賞します。出席は毎回確認し、要約発表とクイズ出題に工夫を求めますが、充実した授業を求めるタイプの学生が楽しめるよう、履修者の意見を取り入れて教員も工夫を重ねて改良していきます。 映画が好きな方はもちろん、これまで映画をあまり観なかった方やハリウッド映画が嫌いな方を含めて、映画メディアの歴史から我々が生きる現代社会を考える社会学に意欲的な受講生を歓迎します。	1.　ガイダンス：授業内容の説明、グループ分け 2.　講義①：「ハリウッド」と日本 3.　講義②：「ハリウッド」以外の映画界 4.～14.　発表と読解、クイズ、討論 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定個所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。 また授業後に 1 回は指定個所を読み返してください。詳細は初回と第 2 回の授業で説明します。
テキスト	Decherney, P., 2016, *Hollywood: A Very Short Introduction*, Oxford University Press.　ほか
参考文献	授業で適宜提示します。
評価方法	授業参加度 50%、発表 40%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読 I （Multicultural Education & Social Justice）	担当者	E．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
Multicultural education is not just about exploring various cultures in the classroom. It is also about addressing inequities, stereotypes, and the ways they influence both the way teachers teach and students learn and engage in/with, or resist, their lessons and the school culture. . In this course we will examine the ways that various teaching practices and socio-cultural perspectives impact the learning environment. By building awareness of a variety of perspectives, students will better understand how schools both reflect and reproduce social inequities that exist outside of the classroom and school and consider the ways in which a shift toward a social justice oriented education can begin to address these inequities.	Week 1 Introduction to Course-What is Social Justice? Week 2 Theories of Social Justice & Education Week 3 Morality vs. Ethicality in Education Week 4 Doing the Right Thing (Considering Moral/Ethical Behavior) Week 5 Social Justice & Education (What is the Link?) Week 6 Educational Inequality – What is the Gap? Week 7 Educational Inequality – Global Inequality Week 8 Educational Inequality – Race & Education Week 9 Educational Inequality – Gender Inequality Week 10 Educational Inequality – Social Class & Inequality Week 11-12 Linguistic/Cultural Difference & Learning Week 13 Multiple Intelligences – What Counts as Knowledge? Week 14 Poster Presentations Week 15 Wrap Up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation
テキスト	There is no text for this course
参考文献	Materials will be provided by the instructor
評価方法	In-class participation & homework (40%), Reflective Responses /Article Summary (20%), Mid-term presentations (20%), Final Poster Presentation (20%)

09 年度以降	英語専門講読 II （Multicultural Education & Social Justice）	担当者	E．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
The fall term of the course continues with an exploration of how social inequalities are reflected and reproduced within educational institutions and how a social justice oriented education can address these issues. The main topics of study include social mobility and educational stratification; human & social capital; social & cultural reproduction; the affect of race, ethnicity, gender, class, etc. on the type and quality of education individuals receive.	Week 1 Equal Opportunity & Education Week 2 Purposes of Public Education – Is it really Equal? Week 3 Considering Equality and Equity Week 4 Aims & Objectives of a Social Justice Education Week 5 Types of Social Justice Education Week 6 Social Justice Case Studies – How Does It Work? Week 7 Globalization, Human Capital & Schooling Week 8 Global Disparity & Education Week 9 Colonization & Schooling Week 10-11 Deculturalization & Education Week 12-13 Schooling the World Week 14 Final Presentations Week 15 Final Presentations

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation
テキスト	There is no text for this course
参考文献	Materials will be provided by the instructor
評価方法	In-class participation & homework (40%), Reflective Responses x2　(20%), Mid-term presentations (20%), Final Presentations (20%)

09 年度以降	英語専門講読　I (The History of Language)	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at the history of the English language, from its obscure Sanskrit origins to the role in Europe in the Middle Ages. By reading and discussing the text material, including pre-reading and post-reading activities to enhance the reader's comprehension, it is hoped that students will come away from this course with a better understanding of the English language today. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text.	Week 1: Introduction Week 2: The Common Tongue: V&D Week 3: The Common Tongue: Video & Reading (V&R) Week 4: The Great Escape: V&D Week 5: The Great Escape: V&R Week 6: Conquest: Vocabulary & Discussion (V&D) Week 7: Conquest: V&R Week 8: Quiz I. Journals due. Week 9: Holding On: V&D Week 10: Holding On: V&R Week 11: The Speech of Kings: V&D Week 12: The Speech of Kings: V&R Week 13: Chaucer: V&D Week 14: Chaucer: V&R Week 15: Quiz II. Journals due.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments (approximately 90 minutes) in preparation for class participation.
テキスト	Bragg, M. *The Adventure of English: The Biography of a Language*. (Sceptre)
参考文献	Presented in class on a case-by-case basis.
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

09 年度以降	英語専門講読　II (The History of Language)	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at the history of the English language, from its role in Europe in the Middle Ages to the years prior to its spread to New World. By reading and discussing the text material, including pre-reading and post-reading activities to enhance the reader's comprehension, it is hoped that students will come away from this course with a better understanding of the English language today. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text.	Week 1: Introduction Week 2: God's English: Vocabulary & Discussion (V&D) Week 3: God's English: Video & Reading (V&R) Week 4: English and the Language of the State: V&D Week 5: English and the Language of the State: V&R Week 6: William Tyndale's Bible: V&D Week 7: William Tyndale's Bible: V&R Week 8: Quiz I. Journals due Week 9: A Renaissance of Words: V&D Week 10: A Renaissance of Words: V&R Week 11: Preparing the Ground: V&D Week 12: Preparing the Ground: V&R Week 13: Shakespeare's English: V&D Week 14: Shakespeare's English: V&R Week 15: Quiz II. Journals due.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments (approximately 90 minutes) in preparation for class participation.
テキスト	Bragg, M. *The Adventure of English: The Biography of a Language*. (Sceptre)
参考文献	Presented in class on a case-by-case basis.
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ【３・４年生対象】 （ツーリズムの現状と課題）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　我が国を訪問する外国人旅行者数は大きく伸びているが、我が国のツーリズムはいまだ発展途上である。本講義は、英語文献を通して、我が国のツーリズムの現状を理解すること、さらに、英語によるプレゼンテーション手法を習得することを目的としている。 講義概要： 　本講義は、ツーリズム関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション＋ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。	１．Orientation ２．Tourism in Japan(1) ３．Tourism in Japan(2) ４．Presentation & Discussion(1) ５．Presentation & Discussion(2) ６．Presentation & Discussion(3) ７．Presentation & Discussion(4) ８．Japan’s World Heritage Sites(1) ９．Japan’s World Heritage Sites(2) １０．Culture of Japan(1) １１．Culture of Japan(2) １２．Final Presentation & Discussion(1) １３．Final Presentation & Discussion(2) １４．Final Presentation & Discussion(3) １５．Final Presentation & Discussion(4)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習。プレゼンテーションの準備。
テキスト	テキストを適宜配布する。
参考文献	特に指定無し
評価方法	講義での発言、受講姿勢、講義参画７０%、プレゼンテーションとレポート３０%

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ【３・４年生対象】 （航空の現状と歴史）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　本講義においては、航空事業の歴史と現状について学習する。航空事業は外から見ると華やかな産業であるが故に、その背景にある様々な重要な出来事や歴史を忘れがちである。よって、航空事業の現状に至る経緯や、現在の航空事業を支える基礎には何があるのかを中心に考えることを目的としている。 講義概要： 　本講義は、航空産業関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション＋ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。	１．Orientation ２．The History of The Airline Business(1) ３．The History of The Airline Business(2) ４．The History of The Airline Business(3) ５．Presentation & Discussion (1) ６．Presentation & Discussion (2) ７．Presentation & Discussion (3) ８．The Airline Business in Japan(1) ９．The Airline Business in Japan(2) １０．The Airline Business in Japan(3) １１．The Airline Business in Japan(4) １２．Final Presentation & Discussion (1) １３．Final Presentation & Discussion (2) １４．Final Presentation & Discussion (3) １５．Final Presentation & Discussion (4)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習。プレゼンテーションの準備。
テキスト	適宜配布する。
参考文献	特に指定無し
評価方法	講義での発言、受講姿勢、講義参画７０%、プレゼンテーションとレポート３０%

09 年度以降	英語専門講読　I （小さき人々の歴史―ベストセラー、Small Island を読む）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
2004年の英国のベストセラーのひとつ、Andrea Levyの*Small Island*（全439頁)を読みます。この小説は、出版の年にWhitebread Book of the YearとOrange Prize、翌年にCommonwealth Writers' Prizeを受賞。2007年には、史上最大規模のReading Projectが英国全土で展開されました。100年後には古典となっているかもしれません。 読んでおもしろい長編小説に取り組み、Readingの力をつけるのが第一の目的です。さらに、英国の現代史のダイナミックな転換期を、人種・ジェンダー・階級の異なる複数の語り手の視点から語った物語りを読むことで、次の三つを身に付けてほしいと思います。(1) 多人種・多文化社会へと変化せざるをえなかった英国の歴史の概観をつかむ。(2) （生きられた）歴史とは何かを考える。(3)複眼的な見方を養う。 （以下で作品紹介をします）	1. Introduction -小さき人々の戦争 2. Prologue–I thought I'd been to Africa. 3. <1948> chap1+2–幻滅のロンドン(1) 4. <Before>chap3-5–Hortenseのジャマイカ、成長と失恋 5. chap6-8–GilbertとHortense 6. <1948>chap9&10–幻滅のロンドン(2) 7. <Before> chap11-14–英国空軍軍人Gilbertの夢と失望 8. chap15-17–GilbertとQueenieの出会い、差別と友情 9. chap18-19–Gilbertの再出発 10. <1948> chap20-22–それぞれの1948。Hortense, Gilbert &Queenie 11. <Before> chap23-24–Queenieの幼年時代と青春 12. chap25-27–QueenieとBernard 出会い、結婚、すれ違う二人、そして戦争へ 13. chap28-29–戦場へと去るBerardとQueenieの恋 14. まとめの講義１ 15. まとめの講義２＋レポートガイダンス

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストの指定箇所を事前にかならず読んでおくこと。
テキスト	Andrea Levy, *Small Island*(版を統一するために一括購入。版を確認後、used copy の個人購入も OK。)
参考文献	授業時に紹介します。
評価方法	授業への貢献度　20%、プレゼンテーション　30%、レポート　50%

09 年度以降	英語専門講読　II （小さき人々の歴史―ベストセラー、*Small Island* を読む）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
物語りは、四人の登場人物によって語られます。おもしろい構成をしていて、1948とBeforeと題されたセクションが交互に登場します。各セクションの章のひとつひとつには、四人の登場人物、すなわちQueenie, Hortense, Gilbert, Bernardの名前がついています。 HortenseとGilbertのはジャマイカ生まれの黒人カップルで、1948年、英国の戦後の大量移民が始まった年に、ロンドンにやってきます。白人のQueeniはイングランドの田舎のブッチャーの娘、Gilbertはロンドン生まれの銀行員。この二人は戦前のロンドンで出会い、結婚します。その後、第二次世界大戦と戦後の移民という歴史の動きが、大西洋を隔てた場所にそれぞれ異なる背景をもって生まれた四人の人生を交差させるのです。 小さな人間たちの生きた物語りが、英国の歴史を書き換えるポストコロニアル小説です。	1. レポートへのコメント 2. <1948>chap30-32–日常の闘い：現実を知るGilbertと強気の新参者Hortense 3. chap33-34–三日目のロンドン:Hortense&数年ぶりのロンドン：行方不明のBernardの帰還 4. <Before>chap35-38–Bernardの戦争 5. chap39-42–Bernardの戦争 6. chap43-45–Bernardの戦争 7. <1948> chap46-48–癒えぬ戦争の傷 8. chap49-51–Hortenseの挫折 9. chap52-53–衝撃の事実：Queenieの恋の結果 10. chap54-55–誤解・告白・理解 11. chap56-57–誤解・告白・理解 12. chap58-59–それぞれの出発 13. 講義 Changing Britannia (1) 14. 講義 Changing Britannia (2) 15. 講義 過去を語るとは、歴史とは？

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストの指定箇所を事前にかならず読んでおくこと。
テキスト	春学期と同じ。
参考文献	授業時に紹介します。
評価方法	授業への貢献度　20%、プレゼンテーション　30%、レポート　50%

09 年度以降	英語専門講読　I （Topical Songs and Liberalism）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、“Topical Song” あるいは “Protest Song” と呼ばれる20世紀半ば以降のポピュラーソングの流れを、アメリカ文学のリベラリズムの流れへと位置付けることを目標とする。扱うのは、アメリカのフォークソングの始祖とみなされる Woody Guthrie に始まり、 Bob Dylan、そして Bruce Springsteen まで。そこに、Pragmatism の始祖のひとりである John Dewey、そして小説家の John Steinbeck までを視野に入れていきたい。音楽といえば J-Pop だけで満足している学生にこそ、取ってもらいたい。ポピュラー音楽、哲学、そして政治までもが混然一体となったアメリカの状況を、太平洋のこちら側から見てみたい。そして、トランプ政権、安倍政権に対して不満を持つ学生よ、取るべし。 なお、昨年度の筆者の授業と重なる部分があること、付記しておく。	1) Introduction 2) Guthrie, “This Land Is Your Land,” “Deportee” 3) “Dust Bowl” についての発表 4) Guthrie, “Vigilante Man” 5) Guthrie, “Pretty Boy Floyd” 6) Guthrie, “Tom Joad—Part 1” 7) Guthrie, “Tom Joad—Part 2” 8) Guthrie, “”Do Re Mi” 9) Guthrie, “Dusty Old Dust” 10) Dylan, “Song to Woody” 11) Dylan, “Blowin’ in the Wind”” 12) Dylan, “Masters of War” 13) Dylan, “A Hard Rain’s A-Gonna Fall!”” 14) Dylan, “Oxford Town” 15) まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	詩の一語は「物（ブツ）」。「ブツ」は見るものによってはじめて意味を与えられる。「ブツ」に意味を与えようとすること。詩は、英語を日本語に置き換え、そこに読者が意味を与えようとして始まる。
テキスト	プリントを配布、あるいは受講者にダウンロードして印刷して持ってきてもらう。
参考文献	適宜、紹介する。
評価方法	レポートと授業への参加度。

09 年度以降	英語専門講読　II （Topical Songs and Liberalism）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、“Topical Song” 、あるいは “Protest Song” を読む。秋学期は Bruce Springsteen の作品が中心となる。ここでも核にあるのは、リベラリズムである。トランプ政権下の現代アメリカの社会状況と、John Dewey を結びつけながら、日本の安倍政権とも切り結びつつ、授業は展開していく。そこにあるのは、「詩」というメディアが、いかに現在に対して機能していくべきなのか、という問題である。とはいえ、「メッセージ」と「詩」は違う、だが、「詩」は現状と切り結ぶことができる、そのことをアメリカの実例を読み解きながら考えていきたい。	1) 春学期のレポート返却 2) Dylan, “Who Killed Davey Moore?” 3) Dylan, “The Lonesome Death of Hattie Carroll” 4) Dylan, “Only A Pawn in Their Game” 5) Dylan Movie 6) Springsteen, “Born in the U.S.A” 7) Springsteen, “The River” 8) Springsteen, “Nebraska” 9) Springsteen, “Reason to Believe” 10) Springsteen, “The Line” 11) Springsteen, “Galveston Bay” 12) Springsteen, “American Skin (41 Shots)” 13) Steinbeck, *The Grapes of Wrath* Chap. 28 14) Allen Ginsberg, “The Supermarket in California” 15) まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	春学期と同様
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	適宜、紹介する。
評価方法	レポートと授業への参加度。

09 年度以降	英語専門講読　I （認知言語学）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は、認知言語学の基本的な考え方を身につけること、英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、認知言語学の言語観を紹介する書物である。授業では、下記テキストの１章を読んでゆく予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は、鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよしというようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。	1. オリエンテーション、講義の概要 2. E-language and I-language 1 3. E-language and I-language 2 4. E-language and I-language 3 5. Studying E-language—not such a simple matter! 1 6. Studying E-language—not such a simple matter! 2 7. Studying E-language—not such a simple matter! 3 8. Corpora and their representativeness 1 9. Corpora and their representativeness 2 10. The BNC and linguistic experience 1 11. The BNC and linguistic experience 2 12. The World Wide Web 1 13. The World Wide Web 2 14. 春学期の講義のまとめ 15. 春学期の講義のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	あらかじめ指定された範囲の予習と復習は必須である。
テキスト	Taylor, John R. (2012) *The Mental Corpus*. Oxford University Press.（購入は要しない）
参考文献	斎藤純男・田口善久・西村義樹（編）(2015)『明解言語学辞典』東京：三省堂. 他
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	英語専門講読　II （認知言語学）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は、認知言語学の基本的な考え方を身につけること、英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、認知言語学の言語観を紹介する書物である。授業では、下記テキストの２章を読んでゆく予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は、鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよしというようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。	1. オリエンテーション、講義の概要 2. A rule-based approach to linguistic knowledge 1 3. A rule-based approach to linguistic knowledge 2 4. A rule-based approach to linguistic knowledge 3 5. The generative model in relation to data 1 6. The generative model in relation to data 2 7. The lexicon 1 8. The lexicon 2 9. The lexicon 3 10. Compositionality 1 11. Compositionality 2 12. Compositionality 3 13. In Conclusion 14. 秋学期の講義のまとめ 15. 秋学期の講義のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	あらかじめ指定された範囲の予習と復習は必須である。
テキスト	Taylor, John R. (2012) *The Mental Corpus*. Oxford University Press.（購入は要しない）
参考文献	斎藤純男・田口善久・西村義樹（編）(2015)『明解言語学辞典』東京：三省堂. 他
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	英語専門講読　I （通訳訓練のための原書講読）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得します。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることを目指します。 講義概要： 　1テーマを2週かけて取り上げます。各テーマに関する英字新聞やウェブサイト記事など幅広い素材を扱います。語彙力強化のため毎回単語テストなどを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回指示します。初回授業で詳細を説明しますので、必ず出席して下さい。継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。「通訳I」および「通訳II」の授業に応用できる訓練を行いますので、同時履修により学習効果の向上を期待します。	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　政治 3.　政治 4.　技術 5.　技術 6.　犯罪 7.　犯罪 8.　IT通信 9.　IT通信 10.　産業 11.　産業 12.　医療厚生 13.　医療厚生 14.　期末テスト 15.　春学期の総括

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で出される事前・事後課題に取り組んでください
テキスト	適宜資料を配布します
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）

09 年度以降	英語専門講読　II （通訳訓練のための原書講読）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得します。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることを目指します。 講義概要： 　春学期に学んだ方法を応用しながら1テーマを2週かけて取り上げます。各テーマに関して幅広い素材を扱います。語彙力強化のため毎回単語テストなどを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回指示します。初回授業で詳細を説明しますので、必ず出席して下さい。継続学習の重要性から春学期から続けて履修することが望ましいです。「通訳I」および「通訳II」の授業に応用できる訓練を行いますので、同時履修により学習効果の向上を期待します。	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　教育 3.　教育 4.　国際関係 5.　国際関係 6.　環境 7.　環境 8.　軍事 9.　軍事 10.　医学 11.　医学 12.　経済 13.　経済 14.　期末テスト 15.　秋学期の総括

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で出される事前・事後課題に取り組んでください
テキスト	適宜資料を配布します
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ【３・４年生対象】 （ツーリズム研究の基礎概念）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、観光研究における主要な概念や理論について、英語文献の読解を通じて、基礎的な理解を得ることを目的とする。 Sageの*key concepts in tourist studies*およびRoutledgeの*Tourism the key concepts*をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。このほか毎回コメント担当者が、当該トピックにかかわる問題提起を行い、それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要個所をコピーして配布する。	1、ガイダンス 2、発表方法について（講義） 3、Mass Tourism 4、Mobility 5、Hospitality 6、Experience Economy 7、Economics of Tourism 8、Transportation 9、Tour Operations 10、Accommodation Providers 11、Planning Tourism 12、Carrying Capacity 13、Urban Tourism 14、総合討論 15、まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当者以外も該当箇所を読了の上授業に参加のこと。
テキスト	Smith,　M.、N. Macleod and M. Robertson (2010) *key concepts in tourist studies.* Sage. Robinson, P. ed. (2012) *Tourism the key concepts.* Routledge
参考文献	授業内で紹介する。
評価方法	授業内発表 20%　授業内小課題 40%　期末試験 40% ※ただし授業内発表を行わない場合は単位を認めない

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ【３・４年生対象】 （ツーリズム研究の基礎概念）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、観光研究の対象となる諸事象について、基礎的な理解を得ることを目的とする。とくに、春学期に学んだ観光研究の基礎概念をもとに、近年関心が寄せられている主要な観光形態について批判的に考察することを目指したい。 Sageの*key concepts in tourist studies*およびRoutledgeの*Tourism the key concepts*をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。 各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。このほか毎回コメント担当者が、当該トピックにかかわる問題提起を行い、それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要個所をコピーして配布する。	1、ガイダンス 2、発表方法について（講義） 3、Tourist Gaze 4、Self and Other 5、Authenticity 6、Post Tourism 7、Sustainable Tourism 8、Eco Tourism 9、Heritage Tourism 10、Film and TV Tourism/ Literary Tourism 11、Sex / LGBT Tourism 12、Dark Tourism 13、Ethical Tourism 14、総合討論 15、まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当者以外も該当箇所を読了の上授業に参加のこと。
テキスト	Smith,　M.、N. Macleod and M. Robertson (2010) key concepts in tourist studies. Sage. Robinson, P. ed. (2012) Tourism the key concepts. Routledge
参考文献	授業内で紹介する。
評価方法	授業内発表 20%　授業内小課題 40%　期末試験 40% ※ただし授業内発表を行わない場合は単位を認めない

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ【３・４年生対象】 （Deconstructing “Japaneseness”）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
現代日本の社会や文化について、エスニシティやジェンダー、地域文化などを題材に考えてみたいと思います。 従来、日本社会についての諸研究は「日本人らしさ」や「国民性」などを所与のものとして扱うものが主流でしたが、この授業ではこうした視点を批判的に検討し、マルチカルチュラルな視点から現代日本の現状をとらえることを目指します。 教材として扱うのは、社会学者によって書かれた日本研究の基本的な（＝海外で日本研究を専攻する大学生向け）文献です。 授業の進め方は、受講生数によって適宜調整しますが、基本的にはグループ作業を基本とした演習形式で行ないます。そのため、ディスカッション等に積極的に参加することが履修・単位取得の条件となります。 なお、教材については、各自アマゾン等で購入するか、図書館で必要な箇所をコピーしてください。	1. 趣旨説明・グループ分け(初回授業で発表スケジュール等を決めるので、必ず出席すること。万が一、出席できない場合は、メールで履修の意思を担当教員に伝えること。) 2. 本授業で扱うテーマについての解説1（講義） 3. 本授業で扱うテーマについての解説2（講義） 4~14. テキストの内容紹介・ディスカッション 15. まとめ ※ この授業では、テキストの中から、以下の5つの章を扱います。 1. Japan Phenomenon and the Social Sciences 3. Geographical and Generational Variations 6. Gender Stratification and the Family System 7. Minority Groups: Ethnicity and Discrimination 9. Popular Culture and Everyday Life

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	一定の社会学的素養が求められるので、日本語で書かれた社会学の基本文献等を併せて読むことが望ましい。
テキスト	Sugimoto, Yoshio 2014. An Introduction to Japanese Society (Forth Edition). Cambridge University Press.
参考文献	随時、文献リストを配布する。
評価方法	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。 ただし、4 回以上の欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ【３・４年生対象】 （Deconstructing “Japaneseness”）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
長期間のフィールドワークにもとづいて書かれた民族誌（エスノグラフィ）の読解・議論を通じて、現代日本における多文化共生の可能性や課題について考えます。 班ごとにテーマを決め、在日コリアンやムスリム、日系ブラジル人、フィリピン人女性などについて書かれたテキストの内容紹介をしてもらいます。その上で、首都圏近郊のエスニック・タウンにて、プチ・フィールドワークを行ない、その成果を学期末に報告をしてもらいます。 授業の進め方は、受講者数によって適宜調整しますが、基本的にはグループ作業を基本とした演習形式で行ないます。そのため、ディスカッション等に積極的に参加することが履修・単位取得の条件となります。また、英語文献を教材として扱いますが、英文読解力の向上にとどまらず、グローバル化が加速化している今日的状況を「文化」という視点から考えるための文化人類学的・社会学的思考を養うことを目的とします。	1. 講義 2~14. テキストの内容紹介・ディスカッション 15.　総合討論・まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	日本の移民や難民を取り巻く状況について、新聞記事等で情報収集をしておこくこと。
テキスト	初回の授業で、論文リストを配布するので、担当グループは各自図書館でコピーすること。
参考文献	随時、文献リストを配布する。
評価方法	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。 ただし、4 回以上の欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

09 年度以降	英語専門講読　I （21 世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズ）	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
21世紀の今日の外交、国際問題、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について論じた各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。課題文献のテーマは、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこととする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにしたい。	1　文献 1 New York Times－① 2　文献 1 New York Times－② 3　文献 1 New York Times－③ 4　文献 2 NGO（OXFAM）報告書－① 5　文献 2 NGO（OXFAM）報告書－② 6　文献 2 NGO（OXFAM）報告書－③ 7　文献 3 UNHCR報告書－① 8　文献 3 UNHCR報告書－② 9　文献 3 UNHCR報告書－③ 10　文献 4 シンクタンク(CSIS)レポート－① 11　文献 4 シンクタンク(CSIS)レポート－② 12　文献 4 シンクタンク(CSIS)レポート－③ 13　文献 5 国連報告書－① 14　文献 5 国連報告書－② 15　文献 5 国連報告書－③

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題の事前学習（和訳レポートの作成）
テキスト	指定しない。プリントを配布する。
参考文献	課題文献のプリントを配布する。
評価方法	平常点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が 4 回に達すると評価対象にならないので、予め承知しておくこと。

09 年度以降	英語専門講読　II （21 世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズ）	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
21世紀の今日の外交、国際問題、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について論じた各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。課題文献のテーマは、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこととする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにしたい。	1　文献 1 Washington Post－① 2　文献 1 Washington Post－② 3　文献 1 Washington Post－③ 4　文献 2 NGO（Human Rights Watch）報告書－① 5　文献 2 NGO（Human Rights Watch）報告書－② 6　文献 2 NGO（Human Rights Watch）報告書－③ 7　文献 3 トランプ大統領演説－① 8　文献 3 トランプ大統領演説－② 9　文献 3 トランプ大統領演説－③ 10　文献 4 シンクタンク(Brookings)レポート－① 11　文献 4 シンクタンク(Brookings)レポート－② 12　文献 4 シンクタンク(Brookings)レポート－③ 13　文献 5 Foreign Affairs－① 14　文献 5 Foreign Affairs－② 15　文献 5 Foreign Affairs－③

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題の事前学習（和訳レポートの作成）
テキスト	指定しない。プリントを配布する。
参考文献	課題文献のプリントを配布する。
評価方法	平常点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が 4 回に達すると評価対象にならないので、予め承知しておくこと。

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ （オーストラリアの詩）	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
変化が目まぐるしい状況の中で、「**詩を学ぶ**」ことは、時代にそぐわないと感じる方もいらっしゃるかもしれません。もっと実用的な知識を身につけるべきだと。確かに資格等の実用的な知識をつけることは必要です。その方が幾分不安も少なくなるでしょう。しかし、ある意味、**詩を学ぶことも実用的**だと言えると思います。なぜかと言うと、詩を丁寧に読むと、「**言葉の力」を体感**することになるからです。そしてこの言葉の力は私たちの生き方に大きな影響を与えているからです。「**詩を学ぶ＝生き方を学ぶ**」と言えるかもしれません。 詩は娯楽だとか、生きる上で必須ではない、といった浮世離れしたイメージがあるとしたら、詩を一面的にみているのではないでしょうか。詩は、案外、もっと生活に密接していることを思い出していただきたいと思っています。（↓に続きます。）	1.　講義の概要 2.　履修確定の学生との確認、グループ＆担当箇所の決定、講義 3-4.　オーストラリアの歴史①② 5-6.　アボリジニの歴史①② 7-8.　アボリジニの神話・伝説①② 9-10.　英訳されたアボリジニの詩①② 11-14.　英語で書かれたアボリジニの詩①～⑤ 15.　講義のまとめ **第２回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。**

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、関連項目に関して各個人で資料を探し、議論できる状態にしておいてください。 ＊事後には、授業内で議論した内容を咀嚼し、新たな資料を見つけ、理解を深めてください。
テキスト	テキストはプリントして配布します。
参考文献	参考文献は授業で随時紹介いたします。
評価方法	＊提出物（レポート）70%、授業内での発表＆発言 30%　＊遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。 **欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。　**＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります**。

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ （オーストラリアの詩）	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
「**オーストラリアを学ぶ**」意義ですが、まず交流が深い国なのに研究や知識がまだ少ないこと。オーストラリアに旅行や留学する機会が昔よりも多くなったにも関わらず、歴史や精神史などを知らないのでは、真の意味での交流が難しいのではないでしょうか。 また、比較対象があって初めて己が見えてくるものです。オーストラリアを学ぶことによって、改めて自分について考える良い機会にしたいと考えています（例えば「オーストラリア人とは誰を指すか？」といった問いは、そのまま日本に当てはめた場合どうなるのか、など。） 講義目的をまとめて書くと、「**言葉の力を体感する**」「**オーストラリアをより知ることで真の交流を目指す**」「**オーストラリアを通して己を考える**」また、発表形式の授業ですので「**自分の言葉で考え、語る**」ことになります。それから、学生同士で話し合う機会を出来るだけ取り入れたいと考えています。「**自分の意見を他人に正確に伝える**」ことも学んでほしい大事なことです。	春学期ではアボリジニの詩を読みましたが、秋学期では入植者の血を引くものたちの詩を読みます。 春学期では「詩」よりもむしろ「オーストラリア」に焦点を当てた授業となりますが、秋学期ではいよいよ「詩」そのものを味わう機会が多くなります。 春学期同様、秋学期でもグループ単位で担当箇所を発表していただきます。授業前にも、グループの学生同士で、担当箇所をいろいろ議論した上で、発表してください。授業では、クラス全体で更に皆さんの意見を伺いたいと考えています。 1.　講義の概要 2～14.　オーストラリアの詩、精読 15.　講義のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、関連項目に関して各個人で資料を探し、議論できる状態にしておいてください。 ＊事後には、授業内で議論した内容を咀嚼し、新たな資料を見つけ、理解を深めてください。
テキスト	テキストはプリントして配布します。
参考文献	参考文献は授業で随時紹介いたします。
評価方法	＊提出物（レポート）70%、授業内での発表＆発言 30%　＊遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。 **欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。　**＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります**。

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ【３・４年生対象】 （ヨーロッパをめざす移民・難民）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の発表によれば、2015年に地中海を越えて海路ヨーロッパを目指した移民・難民は100万人を超え、そのうち4000人が溺死したとみられています。 www.unhcr.org/news/latest/2015/12/5683d0b56/million-sea-arrivals-reach-europe-2015.html（2018年１月22日最終アクセス） この授業では、合衆国(*The New York Times*)と連合王国(*The Guardian*)を代表するジャーナリストによるルポルタージュを教材に、ヨーロッパをめざす移民・難民について考えていきます。 （テクスト）　Anemona Hartocolis, “A Family Swept Up in the Migrant Tide” 22 October, 2015 NYT. Patrick Kingsley, *The New Odyssey: the Story of Europe's Refugee Crisis*. Guardian Books, 2016. ＊ディスカッション形式なので授業への積極的参加が必要です。	1.From Syria to Turkey 2.From Turkey to Greece 3.From Greece to Germany 4.Aquerius Rescue 5.A Birthday Interrupted 6.The Second Sea 7.Trading in Souls 8.SOS 9.Shipwreck 10.Promised Land? 11.Between the Woods and Water 12.To Sweden 13.A Gate Slangs Shut 14.Status Pending 15.Epilogue

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを精読し、毎授業前に英文の抄訳を作成すること。授業後にクラスのフェイスブック・グループに意見を投稿すること。社会歴史的背景について幅広く調べておくこと。
テキスト	*The New Odyssey* は購入、“A Family Swept Up in the Migrant Tide”は新聞社サイトからダウンロードしてください。
参考文献	パトリック・キングズレー（藤原朝子訳）『シリア難民』（ダイヤモンド社、2016）、他は適宜紹介します。
評価方法	予習復習の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（70%）、毎週のフェイスブックへの投稿（30%）。

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ【３・４年生対象】 （移民・難民について考える）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、元連合王国（イギリス）外相で、難民支援の国際NGOを率いるDavid Milibandと、日本でもよく知られている社会学者Zygmunt Baumanの著作を読み、移民・難民について考えます。 Milibandは*Rescue: Refugees and the Political Crisis of Our Time* (TED Books, 2017)で、難民支援への新しいアプローチを提唱しています。授業では彼のTED Talk （2017年6月）の映像、スクリプトと組み合わせて議論していきます。 Baumanの*Strangers at Our Door* (Polity, 2016)は哲学的な部分がやや難解ですが、日本語訳（『自分とは違った人たちとどう向き合うか』）が出ているので、比較、検討しながら進めます。 昨年、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）は世界の難民の数が6500万人を超えたと発表しました。難民は遠い国々の出来事のように考える傾向も日本にはありますが、全ての人々の安全と権利を守るため、私たちみんなが取り組むべきイシューです。 ＊ディスカッション形式なので授業への積極的参加が必要です。	1.イントロダクション 2.Miliband, Introduction 3.The Crisis 4.Why We Should Care 5.The Renewal of Rescue 6.Refugees Welcome 7.Miliband, TED Talk 8.Miliband, Conclusion 9.Bauman, Introduction 10.Migration Panic and its (Mis)uses 11.Together and Crowded 12.Troublesome, Annoying, Unwanted: Inadmissible 13.Floaing Insecurity in Search of an Anchor 14.On Strongmen's (or Strongwomen's) Trail 15.まとめのディスカッション

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを精読し、毎授業前に英文の抄訳を作成すること。授業後にクラスのフェイスブック・グループに意見を投稿すること。社会歴史的背景について幅広く調べておくこと。
テキスト	*Rescue* は購入してください。*Strangers at Our Door* は使用箇所だけコピーして使うことも可能です。
参考文献	ジグムント・バウマン（伊藤茂訳）『自分とは違った人たちとどう向き合うか』（青土社、2017）他は適宜紹介します。
評価方法	予習復習の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（70%）、毎週のフェイスブックへの投稿（30%）。

09 年度以降	英語専門講読　Ⅰ (Research interviewing: Intercultural learning 'at home')	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
【本講義は英語で行います。】 This course is designed to help students with advanced English language proficiency to develop both a concrete and conceptual understanding of research interviewing. Drawing on the literature of qualitative research methodology and international higher education, this course provides students with the opportunity to *conduct a small research project* on intercultural interactions between domestic and international students at Dokkyo University. Topics to be covered in the spring semester include: internationalisation of the student experience 'at home'; paradigms of qualitative and quantitative research; the place of the literature in qualitative research; pros and cons of interviewing; writing a research proposal; and ethics in human research. This course is highly recommended to students who want to learn the basics of qualitative/interview research, to internationalise their daily student life, and most importantly, to discover their unknown self through learning from/with 'the other'.	1. Introduction to course: 'Why can't we become friends?' 2. Internationalisation of the student experience 'at home' 3. Qualitative and quantitative research 4. 'Us' and 'them' separatism in the classroom 5. The use of the literature in qualitative research 6. Friendship networks of university students 7. Research interviewing: Pros and cons 8. Intercultural relationships 1: Critical incidents 9. Writing a research proposal 10. Intercultural relationships 2: A longitudinal approach 11. Ethics in human research 12. Intercultural friendship formation 13. Group presentation 1 14. Group presentation 2 15. Wrap-up 【受講生は毎週の課題として、5,000 語程度の英文資料を読み、200 語程度の英文を執筆することが求められます。教室では、この課題を基にさまざまな学習活動が展開されます。】

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 15 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including group research.
テキスト	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)
参考文献	To be introduced by the instructor
評価方法	Contribution to the class 10%, weekly essays 30%, group research presentation 30% and final paper 30%

09 年度以降	英語専門講読　Ⅱ (Research interviewing: Intercultural learning 'at home')	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
【本講義は英語で行います。】 This course is designed to help students with advanced English language proficiency to develop both a concrete and conceptual understanding of research interviewing. Drawing on the literature of qualitative research methodology and international higher education, this course provides students with the opportunity to *conduct a small research project* on intercultural interactions between domestic and international students at Dokkyo University. Topics to be covered in the fall semester include: keeping a research diary; interview variations; conducting an interview; transcribing an interview; data analysis; and writing up. This course is highly recommended to students who want to learn the basics of qualitative/interview research, to internationalise their daily student life, and most importantly, to discover their unknown self through learning from/with 'the other'.	1. Introduction to course 2. Keeping a research diary 3. Interview variations 4. Conducting an interview 5. Transcribing an interview 6. Using the literature 1 7. Using the literature 2 8. Data analysis 9. Using the literature 3 10. Writing up 11. Using the literature 4 12. Tutorial 13. Group presentation 1 14. Group presentation 2 15. Wrap-up 【受講生は毎週の課題として、5,000 語程度の英文資料を読み、200 語程度の英文を執筆することが求められます。教室では、この課題を基にさまざまな学習活動が展開されます。】

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 15 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including group research.
テキスト	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)
参考文献	To be introduced by the instructor
評価方法	Contribution to the class 10%, weekly essays 30%, group research presentation 30% and final paper 30%

09 年度以降	英語専門講読　I （Reading & Writing Stories）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】英米の短編小説を味わいながら読み、テクニックを学び、自分でも英語で物語を書く。そうすることで作家のテクニックを体感してみる。 【講義概要】 最初にイギリスの作家 Fay Weldon が書いた短編小説を読む。この小説は、一人称の語り手が何やら憑かれたように話し続けるという形式であり、その語りの中身をゆっくり吟味して読みたい。毎回、1ページ程度の訳文を各自作成してきて、授業中は訳文を検討したり、フレーズを取り出したり、ストーリーのディテールについて議論しあったりする。訳出が終わったら、それぞれ一人称の語り手を使って、自分でストーリーを英語で書いてみる。	1. イントロダクション 2. Fay Weldon, “Horrors of the Road” ① 訳出とディスカッション 3. -- ② 訳出とディスカッション 4. -- ③ 訳出とディスカッション 5. -- ④ 訳出とディスカッション 6. -- ⑤ 訳出とディスカッション 7. -- ⑥ 訳出とディスカッション 8. -- ⑦ 訳出とディスカッション 9. -- ⑧ 訳出とディスカッション 10. -- ⑨ 訳出とディスカッション 11. -- ⑩ 訳出とディスカッション 12. 中間まとめ 13. 創作をしてみよう 14. 作品を推敲する 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：授業の進度にしたがい、訳出や創作を行う。 復習：訳文や創作を見直す。
テキスト	プリントを配布。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	創作約３割、試験３割、その他の授業内外の課題約４割。 ＊ただし欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象としない。

09 年度以降	英語専門講読　II （Reading & Writing Stories）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】英米の短編小説を味わいながら読み、テクニックを学び、自分でも英語で物語を書く。そうすることで作家のテクニックを体感してみる。 【講義概要】 イギリスの作家 Penelope Lively と、アメリカの作家 James Thurber の二作品を読む。どちらも三人称の物語だが、前者はリアリズム風、後者は寓話風と、かなり書き方に違いがあるところを味わいたい。毎回、1ページ程度の訳文を各自作成してきて、授業中は訳文を検討したり、フレーズを取り出したり、ストーリーのディテールについて議論しあったりする。訳出が終わったら、リアリズム風か寓話風か、どちらかのスタイルで、三人称の物語を英語で書いてみる。	1. イントロダクション 2. Penelope Lively, “Next Term, We’ll Mash You” ① 3. -- ② 訳出とディスカッション 4. -- ③ 訳出とディスカッション 5. -- ④ 訳出とディスカッション 6. -- ⑤ 訳出とディスカッション 7. -- ⑥ 訳出とディスカッション 8. 中間まとめ 9. James Thurber, “The Tigress and Her Mate” ① 10. -- ② 訳出とディスカッション 11. 中間まとめ 12. 創作をしてみよう 13. 作品を推敲する 14. 作品をシェアする 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：授業の進度にしたがい、訳出や創作を行う。 復習：訳文や創作を見直す。
テキスト	プリントを配布。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	創作約３割、試験３割、その他の授業内外の課題約４割。 ＊ただし欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象としない。

09 年度以降	英語専門講読　I （インコタームズ®の貿易条件を学ぶ）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
インコタームズ®（Incoterms®）とは、国際商業会議所が制定した「貿易条件の解釈に関する統一規則」であり、1936年の初版以来、数次の改訂を経ながら長年にわたり貿易取引の迅速化・効率化に貢献してきました。現在、現行最新版のIncoterms®2010と旧版のIncoterms®2000がもっぱら実務に使用されています。この授業では、米国で出版された下記のテキストを使用して、インコタームズ®が規定する各々の貿易条件を徹底的に学習することにより、実践的な貿易条件の知識とスキルを身につけることを目的とします。春学期は、Incoterms®2000が規定する4類型・13条件について、売主と買主の手続き義務、費用負担の範囲（採算条件）、危険負担の分岐点（引渡し条件）適用可能な運送手段などの観点から詳細かつ正確に学習し、主要な貿易条件を用いた輸出価格および輸入価格の積算訓練も行います。	1. 春学期の授業内容と授業計画の説明 2. Incoterms®2000が規定する4類型・13条件の概略 3. E類型（出荷地条件）の概略とEXWの詳細 4. F類型（主要運賃買主負担条件）の概略 5. F類型の各貿易条件（FAS、FOB、FCA）の詳細 6. C類型（主要運賃売主負担条件）の概略 7. C類型の貿易条件のうち、CFRとCIFの詳細 8. C類型の貿易条件のうち、CPTとCIPの詳細 9. D類型（到着地条件）の概略 10. D類型の貿易条件のうち、DAF、DES、DEQの詳細 11. D類型の貿易条件のうち、DDUとDDPの詳細 12. Incoterms®2000と改正米国貿易定義（1941）の比較 13. 主要貿易条件を用いた輸出価格の積算 14. 主要貿易条件を用いた輸入価格の積算 15. 春学期の総復習と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するよう努めて下さい。
テキスト	**Catherine J. Petersen** (2011); *Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010:* , **Global Training Center**
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語専門講読　II （インコタームズ®の貿易条件を学ぶ）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
（上欄から続く） 秋学期は、Incoterms®2010が規定する2分類・11規則について、Incoterms®2000からの変更点を確認した後、各々の規則（貿易条件）を詳細かつ正確に学習します。各規則の学習が一通り終わった後には、売主と買主の立場から各々の貿易条件の長所と短所を検討し、いわゆるロジスティクス（logistic）の観点から、自社に有利な貿易条件を選択する戦略を考えます。また、実務の世界で貿易条件が誤用されている事例を紹介し、その問題点を検討します。 この授業は、特に貿易、国際物流、ロジスティクス等に興味があり、これらの業界への就職や就活を考えている学生諸君に対して、以上に有益で興味深い情報を提供できるものと確信しています。その反面、かなり専門的で高度な内容を扱いますので、学習のモチベーションが相当高くないと履修を継続するのが難しいかもしれません。	1. 秋学期の授業内容と授業計画の説明 2. Incoterms®2000からIncoterms®2010への主な変更点 3. Incoterms®2010が規定する2分類・11規則の概略 4. “Rules for Any Mode(s) of Transport”の概略 5. Rules for Any Mode(s)のうち、EXWとFCAの詳細 6. Rules for Any Mode(s)のうち、CPTとCIPの詳細 7. Rules for Any Mode(s)のうち、DAPとDATの詳細 8. Rules for Any Mode(s)のうち、DDPの詳細 9. 在来船専用の規則（貿易条件）の概略 10. 在来船専用の規則のうち、FASとFOBの詳細 11. 在来船専用の規則のうち、CFRとCIFの詳細 12. 各規則（貿易条件）の長所と短所の検討 13. 貿易条件の誤用事例の検討 14. ロジスティクス戦略と貿易条件の選択 15. 秋学期の総復習と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するよう努めて下さい。
テキスト	**Catherine J. Petersen** (2011); *Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010:* , **Global Training Center**
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語専門講読　I （現代イギリス小説）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、英国の作家ジョージ･オーエルの小説 Nineteen Eighty-four（1948年作品）を読む。 ここで描かれているのは、ビッグ･ブラザーと呼ばれる独裁者が君臨する極度に非人間的な全体主義的管理社会である。世界は３つの超大国によって分割され、いつ終わるとも知れない戦争が続いている。人々の私生活は細部まで当局に監視され、思想は管理され、愛情を持つことすら禁止されている。歴史は権力者の都合に合わせて常に改ざんされ続ける。当局に背いた者は拷問により洗脳された後に、公衆の面前で自らの罪を告白したうえで処刑される。 人間の肉体的精神的自由を否定し過去も未来も自在にコントロールしようとする権力の出現に対してオーエルが鳴らした警鐘は決して今でも色あせていない。受講生と共に、「人間らしく」あるとはどういうことかを考えたい。 **受講を希望する学生は初回の授業に必ず出席すること。**	初回の授業はイントロダクション、その後は１５回目まで、毎回講読を行う。講読の実際のやり方、進度については、参加者の様子をみて決定、調整する。 学期末課題を課す。 第１回　イントロダクション 第２回～１５回 上記の授業内容を毎回行う

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語は辞書を引いておくこと。事後は音読をして内容理解を深めること。
テキスト	George Orwell, *Nineteen Eighty-Four*. Penguin.
参考文献	特になし
評価方法	授業参加　４０％　期末課題　６０％　欠席が５回を越えると原則として単位は付与しない。

09 年度以降	英語専門講読　II （現代イギリス小説）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の続き	春学期の続き。初回から通常の授業を行う。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語は辞書を引いておくこと。事後は音読をして内容理解を深めること。
テキスト	George Orwell, *Nineteen Eighty-Four*. Penguin.
参考文献	特になし
評価方法	授業参加　４０％　期末課題　６０％　欠席が５回を越えると原則として単位は付与しない。

09 年度以降	英語専門講読　I （Conflict and Development）	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「Conflict and Development」をテーマとした専門書を読み進めながら、様々な角度から紛争と開発、特に冷戦終焉後の国内紛争と国際社会の関与に関わる課題を学ぶと共に、討論を通じて課題への理解を深めることを目的とします。 1. 授業は、英語または日本語のプレゼンテ―ションと討論形式で進めます。 2. 学年混合の主体的なグループ作業によってプレゼンの準備・発表を行います。 授業は、グループ分け・プレゼン内容（章）の決定⇒グループ準備作業⇒授業でのプレゼン⇒ディスカッションのサイクルで行います。授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。 紛争と開発、平和構築に対する関心と意欲のある学生を歓迎します。	1. Orientation 2. Introduction chapter 3. The evolution of development theory 4. The evolution of conflict theory 5. Poverty, profit and the political economy of conflict 1 6. Poverty, profit and the political economy of conflict 2 7. Poverty, profit and the political economy of conflict 3 8. Institutions: hardware and software 1 9. Institutions: hardware and software 2 10. Institutions: hardware and software 3 11. People: participation, civil society and gender 1 12. People: participation, civil society and gender 2 13. People: participation, civil society and gender 3 14. Review of the studied chapters 1 15. Review of the studied chapters 2

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章を読んで授業に臨み、積極的にディスカッションに参加してください。発表担当グループは、プレゼン準備としてパワポを作成します。
テキスト	MacGinty and Williams (2016) *Conflict and Development*. Oxon. Routledge. 詳細は授業で説明します。
参考文献	適宜、授業内で紹介します。
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表４０％　＆　授業中討論への参加度６０％

09 年度以降	英語専門講読　II （Conflict and Development）	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「Conflict and Development」をテーマとした専門書を読み進めながら、様々な角度から紛争と開発、特に冷戦終焉後の国内紛争と国際社会の関与に関わる課題を学ぶと共に、討論を通じて課題への理解を深めることを目的とします。 1. 授業は、英語または日本語のプレゼンテ―ションと討論形式で進めます。 2. 学年混合の主体的なグループ作業によってプレゼンの準備・発表を行います。 授業は、グループ分け・プレゼン内容（章）の決定⇒グループ準備作業⇒授業でのプレゼン⇒ディスカッションのサイクルで行います。授業の最後には学生にスピーチを課します。授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。紛争と開発、平和構築に対する関心と意欲のある学生を歓迎します。	1. Orientation 2. Review of the spring semester 3. Conflict transformation and development 1 4. Conflict transformation and development 2 5. Conflict transformation and development 3 6. Post-conflict reconstruction and democratization 1 7. Post-conflict reconstruction and democratization 2 8. Post-conflict reconstruction and democratization 3 9. Development, aid and violent conflict 1 10. Development, aid and violent conflict 2 11. Development, aid and violent conflict 3 12. Conclusion 13. Review of the studied chapters 14. Speech on related topics 1 15. Speech on related topics 2

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章を読んで授業に臨み、積極的にディスカッションに参加してください。発表担当グループは、プレゼン準備としてパワポを作成します。
テキスト	MacGinty and Williams (2016) *Conflict and Development*. Oxon. Routledge. 詳細は授業で説明します。
参考文献	適宜、授業内で紹介します。
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表４０％　＆　授業中討論への参加度（スピーチを含む）６０％

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	Ｅ．Ｊ． ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will build on the foundation established by earlier writing courses. Students will have the opportunity to research topics that interest them and apply research skills to produce longer papers. There will be in class tasks designed to practice the academic skills necessary for writing a longer paper. There will be one mid-term paper of about 600 words and a final paper of over 1,000 words. An important part of academic writing is editing and rewriting after receiving feedback from other students as well as the teacher, so time will be given in class for this.	1 Introduction to the course 2 Workshop – what is academic writing? 3 Library and internet-based research skills 4 Paraphrase and summary skills 1 5 Paraphrase and summary skills 2 6 Narrowing the topic -mid-term paper 7 The structure of a longer paper 8 Citation and reference skills 9 Editing and proofreading a longer essay 10 Combining sources –final paper 11 Making a questionnaire/ case study 12 Revisiting introductions and conclusions 13 Editing and proofreading 14 Presenting research 15 Sharing the final product

到達目標	「Writing Skills Ⅰ～Ⅳ」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students must review materials before and after class, submit assignments by the deadlines and revise them
テキスト	Materials will be provided by the instructor
参考文献	Reference materials will be introduced on the first day of class
評価方法	Students will be evaluated on assignments, 30%; mid-term paper 30%; final paper and presentation 40%

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	Ｅ．Ｊ． ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will build on the foundation established by earlier writing courses. Students will have the opportunity to research topics that interest them and apply research skills to produce longer papers. There will be in class tasks designed to practice the academic skills necessary for writing a longer paper. There will be one mid-term paper of about 600 words and a final paper of over 1,000 words. An important part of academic writing is editing and rewriting after receiving feedback from other students as well as the teacher, so time will be given in class for this.	1. Introduction to the course 2. Workshop – what is academic writing? 3. Library and internet-based research skills 4. Paraphrase and summary skills 1 5. Paraphrase and summary skills 2 6. Narrowing the topic – the mid-term paper 7. The structure of a longer paper 8. Citation and reference skills 9. Editing and proofreading a longer essay 10. Combining sources - the final paper 11. Making a questionnaire/ case study 12. Revisiting introductions and conclusions 13. Editing and proofreading 14. Presenting research 15. Sharing the final product

到達目標	「Writing Skills Ⅰ～Ⅳ」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students must review materials before and after class, submit assignments by the deadlines and revise them
テキスト	Materials will be provided by the instructor
参考文献	Reference materials will be introduced on the first day of class
評価方法	Students will be evaluated on assignments, 30%; mid-term paper 30%; final paper and presentation 40%

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Business) Academic Writing	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to provide opportunities to practice business writing skills to help students in their future workplace. We will use a course book in business English with reading and writing materials to give context and introduce genre-specific vocabulary so that students can learn to write the kinds of communications needed in business situations. By the end of the course you will have put together a folder of memos, emails, letters and reports which will be used for assessment. We will do half the units in the book in the spring term.	1. Introduction to the course 2. Consolidation 3. Newspaper business page 4. Mergers: writing a press release 5. Meetings: writing a memo 6. Technology: writing a formal email 7. Negotiating: writing a letter 8. Review and writing a report 9. Investment: writing a letter 10. Company finance: writing a recommendation 11. Banking: writing a policy choice letter 12. Consulting: writing a formal email 13. Business quiz and writing a report 14. Review 15. Feedback

到達目標	「Writing Skills Ⅰ～Ⅳ」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparing vocabulary and readings: 30 minutes. Writing task each week: one hour.
テキスト	*Intelligent Business Coursebook Upper Intermediate* by Tonya Trappe and Graham Tullis.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on class participation (40%) and your folder of work (60%). Not coming every week from day one will impact your grade.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Business) Academic Writing	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this course are the same as in the spring course and the procedures largely similar. It will in effect be a parallel course using the half of the textbook not used in the spring. For anyone wanting to do a whole year they can get extensive practice without repeating the same material	1. Introduction to the course 2. Consolidation 3. Newspaper business page 4. Projects: writing an informal email 5. Information: writing a letter 6. Advertising: writing a fax 7. Brands: writing a formal email 8. Review and writing a report 9. Energy: writing an email 10. Competition: writing a press release 11. Company training: writing an email 12. Review and writing a report 13. Business quiz 14. Review 15. Feedback

到達目標	「Writing Skills Ⅰ～Ⅳ」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparing vocabulary and readings: 30 minutes. Writing task each week: one hour.
テキスト	*Intelligent Business Coursebook Upper Intermediate* by Tonya Trappe and Graham Tullis.
参考文献	—
評価方法	Grades will be based on class participation (40%) and your folder of work (60%). Not coming every week from day one will impact your grade.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K．エラ

講義目的、講義概要	授業計画
The goals of the Research Writing course are to refine the writing skills students should have developed in their previous writing courses in order to write academic essays by enhancing reading, critical thinking, and research skills. Students will be taught how to analyze, evaluate, and synthesize diverse sources and viewpoints to develop persuasive and academic essays. When writing academic essays, learning how to summarize, paraphrase, and draft revisions will be emphasized. APA style will be used. (one semester course)	1. Course Introduction 2. Paragraph/Essay Review 3. Introduction to the Research Essay 4. Choosing Topics, Brainstorming, Outlining 5. Gathering Sources, Draft Writing 6. Summarizing and Paraphrasing 7. Plagiarism 8. Using Citations 9. Draft Writing and Revision 10. The Reference Page 11. Draft Writing and Revision 12. Draft Writing and Revision 13. Draft Writing and Revision 14. Research Essay due 15. Course wrap-up

到達目標	「Writing Skills Ⅰ～Ⅳ」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Introduction and Completion of Steps to Research Writing
テキスト	*Academic Writing Skills,* Book 3 Chin, Peter, et.al., Cambridge, 2013
参考文献	—
評価方法	Classwork, Homework, and Essays

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K．エラ

講義目的、講義概要	授業計画
The goals of the Research Writing course are to refine the writing skills students should have developed in their previous writing courses in order to write academic essays by enhancing reading, critical thinking, and research skills. Students will be taught how to analyze, evaluate, and synthesize diverse sources and viewpoints to develop persuasive and academic essays. When writing academic essays, learning how to summarize, paraphrase, and draft revisions will be emphasized. APA style will be used. (one semester course)	1. Course Introduction 2. Paragraph/Essay Review 3. Introduction to the Research Essay 4. Choosing Topics, Brainstorming, Outlining 5. Gathering Sources, Draft Writing 6. Summarizing and Paraphrasing 7. Plagiarism 8. Using Citations 9. Draft Writing and Revision 10. The Reference Page 11. Draft Writing and Revision 12. Draft Writing and Revision 13. Draft Writing and Revision 14. Research Essay due 15. Course wrap-up

到達目標	「Writing Skills Ⅰ～Ⅳ」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Introduction and Completion of Steps to Research Writing
テキスト	*Academic Writing Skills,* Book 3 Chin, Peter, et.al., Cambridge, 2013
参考文献	—
評価方法	Classwork, Homework, and Essays

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Creative) Academic Writing	担当者	Ｂ．Ｄ．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course will offer students an opportunity to look at and produce creative writing. We will look at some examples of creative writing, considering the features of various genres and the benefits of writing creatively. The class will workshop students' own pieces, refining and improving their style, while working towards a final piece of written work.	1. Introductions and course outline 2. Getting to know you - conversation activities 3. Writing and you. The creative process. 4. Creative space. 5. Narratives. 6. Forms of creative writing. 7. Workshop - peer review. 8. Aspects of genre. 9. The creative process 2. 10. Workshop - peer review. 11. Building ideas. 12. First draft peer review. 13. Second draft peer review. 14. Final portfolio submission and course review. 15. Exam period.

到達目標	「Writing Skills Ⅰ～Ⅳ」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to write at home before classes, and review and edit after classes.
テキスト	None
参考文献	—
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and a final portfolio of work (80%)

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Creative) Academic Writing	担当者	E．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
The course is designed to provide students the opportunity to write in a variety of genres, including poetry, narratives, short stories, memoir, autobiography, and descriptive pieces. Students will learn about characterization, descriptive writing techniques and figurative language, style and point of view. The students will be provided opportunities to produce multiple kinds of creative writing with an emphasis on revision and editing skills. There is also a cooperative aspect to the course,therefore students should expect to do pair/group work.	Week 1 Introduction to Course/Why Creative Writing? Week 2 Types of Creative Writing Week 3 Starting with Yourself (Memoir) Week 4 Descriptives & Figurative Language Week 5 Enriching Your Memoir Week 6 Types of Poetry Week 7 Poetry (cont'd) Week 8 Where I Am From Poem Week 9 Where I am From Poem Presentation Week 10 Narrative Structure Week 11 Characterization Week 12 Point of View Week 13 Scripted Language/Writing Dialogues Week 14 Reader's Theater Week 15 Reader's Theater Performances

到達目標	「Writing Skills Ⅰ～Ⅳ」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation
テキスト	There is no text for this course
参考文献	Materials will be provided by the instructor
評価方法	Homework and In-class participateon (40%), Revisions of Writing Projects (20%), Mid-term and Final Writing Assignments (40%)

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Creative) Academic Writing	担当者	J．J．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is intended as a broad-based introduction to various forms of creative writing, such as short fiction, nonfiction, and poetry. Students are also given an opportunity to write in these genres and explore their creative strengths. The class is usually comprised of technique and style discussions, reading assignments and writing exercises. Students will be introduced to the concept of a writing workshop, wherein they share pieces with peers in order to give and receive feedback.	Week 1: Introduction. Week 2: The concept of creativity. Week 3: Where and how to get ideas. Week 4: Short fiction readings. Week 5: Short fiction writing. Week 6: Rewriting a story Week 7: Proper formatting. Week 8: Nonfiction readings. Week 9: Nonfiction writing. Week 10: Editing writing. Week 11: Text organization. Week 12: Appreciating poetry. Week 13: Creating poetry. Week 14: Sharing poetry. Week 15: Review and consolidation.

到達目標	「Writing Skills Ⅰ～Ⅳ」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete any assigned reading and/or written homework (approximately 90 minutes) in preparation for class participation.
テキスト	Handouts
参考文献	Presented on a case-by-case basis
評価方法	Grades are based on in-class participation (20%) and weekly assigned work (20%), and submission of final portfolio of work (60%).

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	M．L．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating, and using diverse sources. They will have opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.	1. Course Introduction 2. What is research? 3. Introduction to first research topic. 4. Sourcing Information 5. Draft 1 mid-term paper – sharing and critiquing. 6. Avoiding plagiarism: Citing and Quoting Sources. 7. Mid-term paper due. Choosing a new topic. 8. Introductions and Conclusions 9. Writing the body 10. Citations and bibliography 11. Draft 1 final-paper – sharing and critiquing. 12. Grammar checks and preparing for presentation 13. Presentation and Peer Evaluation 14. Final paper due. Longer term research projects 15. Final paper evaluations and course review.

到達目標	「Writing Skills Ⅰ～Ⅳ」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト	Kluge, D. E., Taylor, M. A. (2007) *Basic Steps to Writing Research Papers,* Cengage Learning K.K
参考文献	—
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	M．L．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating, and using diverse sources. They will have opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.	1. Course Introduction 2. What is research? 3. Introduction to first research topic. 4. Sourcing Information 5. Draft 1 mid-term paper – sharing and critiquing. 6. Avoiding plagiarism: Citing and Quoting Sources. 7. Mid-term paper due. Choosing a new topic. 8. Introductions and Conclusions 9. Writing the body 10. Citations and bibliography 11. Draft 1 final-paper – sharing and critiquing. 12. Grammar checks and preparing for presentation 13. Presentation and Peer Evaluation 14. Final paper due. Longer term research projects 15. Final paper evaluations and course review.

到達目標	「Writing Skills Ⅰ～Ⅳ」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト	Kluge, D. E., Taylor, M. A. (2007) *Basic Steps to Writing Research Papers,* Cengage Learning K.K
参考文献	—
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one semester only course. You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words　using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay. Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class. Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence	1　Course introduction / review of the basics 2　Essay 1 select topic / general v specific information 3　Introduction & conclusion technique 4　Introduction to internet research (part 1) 5　How to write the body / referencing 6　Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due 7　Editing essay 1 draft 8　Internet research (part2) / essay 1 final due 9　Paraphrasing, summarizing & plagiarism 10　How to write an essay plan page in note style 11　How to write a bibliography 12　Essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps 13　Editing essay 2 draft 14　Essay 2 final due / problem areas discussion 15　Essay 2 – collect essay / man-to man　: final review of strong & weak points of essay 2

到達目標	「Writing Skills　Ⅰ～Ⅳ」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	The teacher will inform students on a weekly basis of any pre or post lesson preparation, homework, or assignments
テキスト	No textbook . All materials provided by the teacher.
参考文献	Electronic dictionary is OK
評価方法	Your course grade is based only on your essay grades

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one semester only course. You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words　using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay. Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class. Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence	1　Course introduction / review of the basics 2　Essay 1 select topic / general v specific information 3　Introduction & conclusion technique 4　Introduction to internet research (part 1) 5　How to write the body / referencing 6　Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due 7　Editing essay 1 draft 8　Internet research (part2) / essay 1 final due 9　Paraphrasing, summarizing & plagiarism 10　How to write an essay plan page in note style 11　How to write a bibliography 12　Essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps 13　Editing essay 2 draft 14　Essay 2 final due / problem areas discussion 15　Essay 2 – collect essay / man-to man　: final review of strong & weak points of essay 2

到達目標	「Writing Skills　Ⅰ～Ⅳ」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	The teacher will inform students on a weekly basis of any pre or post lesson preparation, homework, or assignments
テキスト	No textbook . All materials provided by the teacher.
参考文献	Electronic dictionary is OK
評価方法	Your course grade is based only on your essay grades

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The issue for the second essay is selected by students from a list of choices. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Essay assignments involve research, outlining, drafting, detailed revision and editing.	1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Developing body paragraphs 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review test 15. Return of essays/Self-reflection

到達目標	「Writing Skills Ⅰ～Ⅳ」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and writing preparation for next class
テキスト	No textbook is required
参考文献	No reference book
評価方法	Work in progress and final essay submissions (90%), and academic skills writing test (10%)

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The issue for the second essay is selected by students from a list of choices. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Essay assignments involve research, outlining, drafting, detailed revision and editing.	1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Developing body paragraphs 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review test 15. Return of essays/Self-reflection

到達目標	「Writing Skills Ⅰ～Ⅳ」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and writing preparation for next class
テキスト	No textbook is required
参考文献	No reference book
評価方法	Work in progress and final essay submissions (90%), and academic skills writing test (10%)

09 年度以降	College Grammar（月３）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されている英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・移動が関与する構文（１） ４・移動が関与する構文（２） ５・移動が関与する構文（３） ６・補部と付加部の区別（１） ７・補部と付加部の区別（２） ８・補部と付加部の区別（３） ９・条件の副詞節（１） 10・条件の副詞節（２） 11・条件の副詞節（３） 12・Be動詞の機能（１） 13・Be動詞の機能（２） 14・Be動詞の機能（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（前期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。 ※　同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト	初回授業にて指示します。
参考文献	『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	College Grammar（月３）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されている英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・解釈の曖昧性（１） ４・解釈の曖昧性（２） ５・SVOC構文の下位区分（１） ６・SVOC構文の下位区分（２） ７・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（１） ８・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（２） ９・一般動詞の意味特性（１） 10・一般動詞の意味特性（２） 11・一般動詞の意味特性（３） 12・情報構造（１） 13・情報構造（２） 14・情報構造（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（後期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。 ※　同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト	初回授業にて指示します。
参考文献	『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	College Grammar	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 読み・書き・話し・聞くという英語による全ての言語活動の基礎となっている英語の文の仕組みとしての英文法をきちんと身に付けることを目的とする. **講義概要**: 英文法を学習する際に, トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である. 文全体から句, 句から語という方式をとりながら, 春学期ではまず, 英文法の基本的な事項のうち, 文とはどのようなものがあるかを考える. 文は基本的な文, 拡張的な文, 派生的な文の三種類に分けられ, 基本的な文は5文型によって説明され, 拡張的な文は一つの文に二つ以上の節(主語＋述語)を含む文から構成される重文や複文として学習する. さらに, 文の種類として, 疑問文, 感嘆文, 命令文などを学習する. それを踏まえて, 文を構成する要素として, 名詞, 形容詞, 副詞などを扱う.	1. 文 (1) :主部を欠く文,「主部 + 述部」, 節・句・語 2. 文 (2) :主部の要素と述部の要素 3. 文型:5文型, 5文型の拡張, 7文型 4. 述語動詞 (1) :述部, 述語動詞の種類, 等位叙述型, 補語 5. 述語動詞 (2) :自動詞型, 他動詞型, 他動詞型の述部 6. 文の種類:中心文型の文, 文の種類, 重文と複文 7. 文の種類:疑問文, 感嘆文, 命令文, 否定文 8. 名詞の種類 (1) : 可算名詞, 不可算名詞 **〈中間試験〉** 9. 名詞の種類 (2) : 集合名詞, 名詞の所有格 10. 代名詞の種類 (1) : 人称代名詞, 再帰代名詞 11. 代名詞の種類 (2) : 指示代名詞, 不定代名詞 12. 形容詞 (1) : 形容詞の種類と用法 13. 形容詞 (2) : 形容詞の語順, 数詞 14. 冠詞, 不定冠詞, 定冠詞, 無冠詞の用法 15. 副詞, 副詞の種類, 副詞の用法, 副詞の位置 **《期末試験》**

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために, 英語例文の日本語訳を含め, 必ず予習すること.
テキスト	安井稔 (1986) *A Shorter Guide to English Grammar*（開拓社）
参考文献	安井稔 (1996)『英文法総覧 (改訂版)』(開拓社)
評価方法	出席は単位認定の前提とし, 授業での発表(10%)と中間試験(45%)と期末試験(45%)に基づいて評価する.

09 年度以降	College Grammar	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 読み・書き・話し・聞くという英語による全ての言語活動の基礎となっている英語の文の仕組みとしての英文法をきちんと身に付けることを目的とする. **講義概要**: 秋学期ではまず, 文を構成する要素のなかの助動詞, 関係代名詞, 関係副詞を学習する. 次に, 時制を含まない節として, 不定詞・分詞・動名詞を学習する. 不定詞と動詞のing分詞(いわゆる現在分詞)いずれにも, 名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があることを学習する. また, 英語の文の構成に重要な, 時制, 比較表現, 否定表現, 強調表現, 仮定法の用法を学習する. さらに, 複文に関わる現象として時制の一致や話法について学習する. 最後に, 強調・省略・挿入といった言語表現の情報構造に関わる構文を学習する.	1. 助動詞, 助動詞として用いられる語 2. 不定詞, 分詞, 動名詞 (1) 3. 不定詞, 分詞, 動名詞 (2) 4. 関係代名詞, 関係副詞 5. 時制 (1) :現在時制の用法) 6. 時制 (2) :過去時制の用法 7. 現在完了の用法, 過去完了の用法, 進行形の用法 8. 能動態と受動態 **〈中間試験〉** 9. 呼応と時制の一致 10. 仮定法, 直説法と仮定法 11. to 不定詞・前置詞・接続詞を用いた仮定表現 12. 話法, 直接話法と間接話法 13. 比較, 原級の用法, 比較級の用法, 最上級の用法 14. 否定, 部分否定と全体否定, 否定語の位置, 二重の否定 15. 文の主語と情報構造, 強調, 省略・挿入 **《期末試験》**

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために, 英語例文の日本語訳を含め, 必ず予習すること.
テキスト	安井稔 (1986) *A Shorter Guide to English Grammar*（開拓社）
参考文献	安井稔 (1996)『英文法総覧 (改訂版)』(開拓社)
評価方法	出席は単位認定の前提とし, 授業での発表(10%)と中間試験(45%)と期末試験(45%)に基づいて評価する.

09 年度以降	College Grammar（月５）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されている英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・移動が関与する構文（１） ４・移動が関与する構文（２） ５・移動が関与する構文（３） ６・補部と付加部の区別（１） ７・補部と付加部の区別（２） ８・補部と付加部の区別（３） ９・条件の副詞節（１） 10・条件の副詞節（２） 11・条件の副詞節（３） 12・Be動詞の機能（１） 13・Be動詞の機能（２） 14・Be動詞の機能（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（前期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。 ※　同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト	初回授業にて指示します。
参考文献	『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	College Grammar（月５）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されている英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・解釈の曖昧性（１） ４・解釈の曖昧性（２） ５・SVOC構文の下位区分（１） ６・SVOC構文の下位区分（２） ７・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（１） ８・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（２） ９・一般動詞の意味特性（１） 10・一般動詞の意味特性（２） 11・一般動詞の意味特性（３） 12・情報構造（１） 13・情報構造（２） 14・情報構造（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（後期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。 ※　同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト	初回授業にて指示します。
参考文献	『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	College Grammar	担当者	倉林　秀男

講義目的、講義概要	授業計画
言語は語からフレーズ、フレーズから文、そして文から文章（そして会話）へと広がる。本巻では、文の構造について認知言語学的方法で分析する。語用論や比較対象言語学へとテーマを広げていく。英語力の基盤となる「文法力」を身につけることを目的としています。そのときに闇雲に文法用語や文法事項を暗記するのではなく、「なるほど」と理解をしながら身につけていくことで、英語という言語の仕組みだけではなく、英語を話している人たちがどのように物事を捉えているかまで理解することができるのです。 授業は授業計画に従って、講義とグループワークを組み合わせて行っていきます。 なお、授業連絡はTwitter @kura_class　にて発信しています。	1. オリエンテーション 2. 事態把握 3. アスペクト 4. 因果連鎖とビリヤードモデル 5. 構文の多様性 6. イディオム 7. ことばと文化：する型となる型 8. 意味論的意味 9. 行為遂行動詞 10. テクスト性 11. 情報構造 12. 指示 13. ダイクシス 14. 現象文 15. まとめ

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業内で出される課題は次回に提出する。
テキスト	テキスト：瀬戸賢一著『解いて学ぶ認知構文論』（大修館書店、2017 年）
参考文献	参考文献：田中茂範著『わかるから使えるへ　表現英文法』（コスモピア、2017 年）
評価方法	定期試験　80 パーセント、授業内課題 20 パーセント

09 年度以降	College Grammar	担当者	倉林　秀男

講義目的、講義概要	授業計画
言語は語からフレーズ、フレーズから文、そして文から文章（そして会話）へと広がる。本巻では、文の構造について認知言語学的方法で分析する。語用論や比較対象言語学へとテーマを広げていく。英語力の基盤となる「文法力」を身につけることを目的としています。そのときに闇雲に文法用語や文法事項を暗記するのではなく、「なるほど」と理解をしながら身につけていくことで、英語という言語の仕組みだけではなく、英語を話している人たちがどのように物事を捉えているかまで理解することができるのです。 授業は授業計画に従って、講義とグループワークを組み合わせて行っていきます。 なお、授業連絡はTwitter @kura_class　にて発信しています。	1. オリエンテーション 2. 事態把握 3. アスペクト 4. 因果連鎖とビリヤードモデル 5. 構文の多様性 6. イディオム 7. ことばと文化：する型となる型 8. 意味論的意味 9. 行為遂行動詞 10. テクスト性 11. 情報構造 12. 指示 13. ダイクシス 14. 現象文 15. まとめ

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業内で出される課題は次回に提出する。
テキスト	テキスト：瀬戸賢一著『解いて学ぶ認知構文論』（大修館書店、2017 年）
参考文献	参考文献：田中茂範著『わかるから使えるへ　表現英文法』（コスモピア、2017 年）
評価方法	定期試験　80 パーセント、授業内課題 20 パーセント

09 年度以降	College Grammar	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
受講者はTOEIC®900点以上の取得者からplay guitarとplay the guitarの使い分けのできない人までさまざまいたかもしれませんが、この授業の狙いは、(認知) 言語学の最近の研究成果を踏まえ、英語の母語話者(native speakers)が頭の中に収めている英語の仕組の本当の姿がどのようなものかを探り、それをできるだけ「なるほど！」と理屈のうえで理解できるようしっかり身につけてもらうことにあります。 ということでこの授業内容は、これまでに習ってきた表現について「なぜそうは言えるのに、こうは言えないの？」という素朴な疑問に対する「納得！」のいく解答を見つけ出すことに力が注がれます。したがって、この授業を受ければ、I will/am going to be 20 next monthの違いや、Love is a/the reason to get marriedの違いや、be surprisedはatをとってもwithは取らないけれど、be pleasedはatもwithもとることが分かるようになります。	1. モノの捉え方と表現の仕方 2. 不定冠詞 vs. はだか名詞 3. 英語の情報構造 4. 情報の新旧と冠詞 5. 前置詞の意味 ① 6. 前置詞の意味 ② 7. 時制（現在と過去）とアスペクト（進行相と完了相） 8. BE 受動文と GET 受動文の使い方 9. 再帰代名詞の使い方 10. 動詞の意味と構文（結果構文） 11. 動詞の意味と構文（二重目的語構文･ほか） 12. 自動詞構文と他動詞構文 13. 否定の意味 14. 助動詞の使い方 15. 存在を表す there 構文とはだか存在文

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習（プリントを読んで質問内容を整理）し、学習内容をノートにまとめる等の復習を行う。なお、授業に関する連絡はツイッター（semantics@gamba_dokkyo ）を通じて行います。
テキスト	Google ドライブを通じてダウンロード配付するプリント
参考文献	田中茂範『わかるから使えるへ 表現英文法【増補改訂第 2 版】』コスモピア株式会社
評価方法	定期試験 7 割、小テストと課題および授業における参加度 3 割による。変更のある場合は第 1 回目の授業で説明します。

09 年度以降	College Grammar	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は、従来の記憶･暗記型の文法学習から脱却するにはどうすればよいのかという観点から「教育英文法」のあるべき姿を考えます。 「ドアをノックする」を英語で何と言うかと尋ねると、多くの学生が knock the door と回答します。正解は knock on the door ですが、ではなぜそうなるのかと問うと、「そう習ったから」としか答えない学生がほとんです。しかし、実はどうして on が必要なのかというような問い掛けこそが native speaker 並の英語の勘を養う上でとても重要なことなのです。 そしてこの問にたいする答（＝理屈）に「なるほど、そうなのか！」と納得することができれば、英語を学ぶことの知的好奇心を満たすことになり、それがひいては英語学習の強い動機づけにつながります。そうやって動機づけられた学習者は、「そういえば、あれも同じ原理なのではないだろうか」という思考を通じ、例えば、「鉛筆を噛まないで」もDon't chew your pencil.ではなくonが必要になること、「雨に降られた」をIt rained on me.と言うことも自然にわかるようになります。	1. 基本動詞(break/ take/speak/talk/tell/say)の意味世界 2. 前置詞 (at/on/ほかの前置詞と句動詞)の意味世界 3. 続き 4. 新しい教育英文法：① make, give, have, be 等 5. 同：② 完了形、have 使役構文と所有の have の共通性 6. 同：③-ing のはたらき、進行相、分詞構文 7. 同：④ to 不定詞と動名詞と that 節 8. 同：⑤ 冠詞とはだか名詞の意味機能 9. 続き 10. 英文法指導法アラカルト 11. 新しい教育英文法：⑥ 語順と情報構造 12. 続き 13. 同：⑦「それ・あれ」と this、that、it 14. 同：⑧ <スル>的英語―他動性の世界 15. 続き

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習（プリントを読んで質問内容を整理）し、学習内容をノートにまとめる等の復習を行う。なお、授業に関する連絡はツイッター（semantics@gamba_dokkyo ）を通じて行います。
テキスト	Google ドライブを通じてダウンロード配付するプリント
参考文献	田中茂範ほか『英語感覚が身につく実践的指導』大修館書店
評価方法	定期試験 7 割、小テストと課題および授業における参加度 3 割による。変更のある場合は第 1 回目の授業で説明します。

09 年度以降	College Grammar（水４）	担当者	水口　学

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。 **【講義概要】**本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成文法論などの最近の言語学研究で得られた知見を積極的に取り込みながら、講義を進めていく。春学期は文の構成を中心に講義し、大枠となる文の種類、構成や文型、品詞の考察から始めて、動詞、時制、法助動詞、未来表現など文の骨格となる要素に焦点を当てる。その上で、受動態などの文の発展事項へと移り、文構成への理解を深めていくことにする。講義の前提として、英語学入門程度の知識があることが望ましい。	1. 講義の説明、英文法への導入 2. 文の構成(1) 3. 文の構成(2) 4. 文の構成(3) 5. 動詞と時制(1) 6. 動詞と時制(2) 7. 動詞と時制(3) 8. 法助動詞(1) 9. 法助動詞(2) 10. 法助動詞(3) 11. 未来表現(1) 12. 未来表現(2) 13. 受動態(1) 14. 受動態(2) 15. 春学期のまとめ ※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレヴューすること。
テキスト	水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社、その他、ハンドアウトを配布して使用する。
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。
評価方法	期末試験（100%）に、授業への取り組みを加味して最終評価を決定する。なお、単位認定の上で授業回数の 2/3 以上に出席していることが必要である。

09 年度以降	College Grammar（水４）	担当者	水口　学

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。 **【講義概要】**本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成文法論など、最近の言語学研究で得られた知見を積極的に取り込みながら、講義を進めていく。秋学期は従属節構造や関係詞など、文の埋め込み構造を中心に講義し、埋め込み節の特徴を概観し、考察する。それと関連して名詞や形容詞、副詞や否定など、埋め込み構造を理解する上で重要となる要素もできるだけ扱うことにし、英文法に対する幅広い理解を得られるようにしたい。講義の前提として、英語学入門程度の知識があることが望ましい。	1. 講義の説明、英文法への導入 2. 仮定法(1) 3. 仮定法(2) 4. 命令法 5. 節構造(1) 6. 節構造(2) 7. 節構造(3) 8. 関係節(1) 9. 関係節(2) 10. 関係節(3) 11. 比較構文(1) 12. 比較構文(2) 13. 否定(1) 14. 否定(2) 15. 秋学期のまとめ ※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレヴューすること。
テキスト	水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社、その他、ハンドアウトを配布して使用する。
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。
評価方法	期末試験（100%）に、授業への取り組みを加味して最終評価を決定する。なお、単位認定の上で授業回数の 2/3 以上に出席していることが必要である。

09 年度以降	College Grammar（水５）	担当者	水口　学

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。 **【講義概要】**本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成文法論などの最近の言語学研究で得られた知見を積極的に取り込みながら、講義を進めていく。春学期は文の構成を中心に講義し、大枠となる文の種類、構成や文型、品詞の考察から始めて、動詞、時制、法助動詞、未来表現など文の骨格となる要素に焦点を当てる。その上で、受動態などの文の発展事項へと移り、文構成への理解を深めていくことにする。講義の前提として、英語学入門程度の知識があることが望ましい。	1. 講義の説明、英文法への導入 2. 文の構成(1) 3. 文の構成(2) 4. 文の構成(3) 5. 動詞と時制(1) 6. 動詞と時制(2) 7. 動詞と時制(3) 8. 法助動詞(1) 9. 法助動詞(2) 10. 法助動詞(3) 11. 未来表現(1) 12. 未来表現(2) 13. 受動態(1) 14. 受動態(2) 15. 春学期のまとめ ※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレヴューすること。
テキスト	水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社、その他、ハンドアウトを配布して使用する。
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。
評価方法	期末試験（100%）に、授業への取り組みを加味して最終評価を決定する。なお、単位認定の上で授業回数の 2/3 以上に出席していることが必要である。

09 年度以降	College Grammar（水５）	担当者	水口　学

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。 **【講義概要】**本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成文法論など、最近の言語学研究で得られた知見を積極的に取り込みながら、講義を進めていく。秋学期は従属節構造や関係詞など、文の埋め込み構造を中心に講義し、埋め込み節の特徴を概観し、考察する。それと関連して名詞や形容詞、副詞や否定など、埋め込み構造を理解する上で重要となる要素もできるだけ扱うことにし、英文法に対する幅広い理解を得られるようにしたい。講義の前提として、英語学入門程度の知識があることが望ましい。	1. 講義の説明、英文法への導入 2. 仮定法(1) 3. 仮定法(2) 4. 命令法 5. 節構造(1) 6. 節構造(2) 7. 節構造(3) 8. 関係節(1) 9. 関係節(2) 10. 関係節(3) 11. 比較構文(1) 12. 比較構文(2) 13. 否定(1) 14. 否定(2) 15. 秋学期のまとめ ※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレヴューすること。
テキスト	水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社、その他、ハンドアウトを配布して使用する。
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。
評価方法	期末試験（100%）に、授業への取り組みを加味して最終評価を決定する。なお、単位認定の上で授業回数の 2/3 以上に出席していることが必要である。

09 年度以降	College Grammar	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
皆さんは中学・高校で英文法の体系を一通り学んできたと思いますが、その過程で「なぜこの単語はこんな意味で使われるのか？」「なぜこんな語順になるのだろう？」といった疑問を数多く抱かれてきたと思います。しかし、受験という大目標を前にして、とりあえず諸用法を丸暗記することでしのいできたのではないでしょうか？　受験から解放されている大学生は、こうした疑問について徹底的に考えることが許されます。本講義では、誰もが抱く英文法の疑問の中から主に動詞に関する問題を取り上げて、解明することを試みます。英和辞典に網羅的に記述されている、英語の様々な文型、表現、語法の例をたたき台にして、「なぜ」について考えていきましょう。英文法の諸現象にはまだ十分に説明されていないものが沢山あります。1語1語について考え抜くことで、皆さんなりの説明を見つけましょう。	1. 主要な文法体系（認知文法、生成文法、伝統文法など） 2. 文のタイプ 3. 自動詞と他動詞 4. アスペクトによる動詞の分類 5. 本動詞、助動詞としての be, do, have 6. 時制 7. 完了形 8. 進行形 9. 法助動詞(can, will) 10. 法助動詞(may, should) 11. 仮定法 12. to 不定詞 13. 過去分詞 14. 現在分詞と動名詞 15. まとめ

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には、テーマ表現を自分なりに分析し、事後は、授業で提示された説明を批判的に検証すること。
テキスト	教員が作成した教材を教室、または Web 上で配布する。
参考文献	認知言語学に関する文献。特に David Lee, *Cognitive Linguistics: An Introduction* など
評価方法	小テスト（20%）、授業への参加姿勢（20%）、期末試験（60%)の配分で成績を算出する。

09 年度以降	College Grammar	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、英文法について多くの学生が抱きながら、明確な説明を得られないままになっている諸問題について検討し、納得できる説明を得られることを目指します。英和辞典に網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、表現、語法の例をたたき台にして、「なぜ」について考えていきたいと思います。たとえば、仮定法ではなぜ時制が過去方向にずれるのでしょうか？　多くの前置詞は、なぜ空間と時間の両方の文脈で用いることができるのでしょうか？　名詞の可算用法と不可算用法はどのように区別されているのでしょうか？　notとnoにはどのような相違があるのでしょうか？　こうした疑問に対して、こちらから特定の説明法を押し付けることはしませんので、授業での解説を鵜呑みにするのではなく、さまざまな文法体系の視点を参考にしながら、皆さんなりの解答を見つけてください。	1. 春学期の内容を概観 2. metaphor 3. metonymy 4. 接続詞 5. 関係詞 6. 前置詞 7. 名詞 8. 冠詞 9. 代名詞 10. 形容詞 11. 副詞 12. 比較 13. 否定(完全否定、部分否定、準否定) 14. 否定(not と no の相違、鯨の構文) 15. まとめ

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には、テーマ表現を自分なりに分析し、事後は、授業で提示された説明を批判的に検証すること。
テキスト	教員が作成した教材を教室、または Web 上で配布する。
参考文献	認知言語学に関する文献。特に David Lee, *Cognitive Linguistics: An Introduction* など
評価方法	小テスト（20%）、授業への参加姿勢（20%）、期末試験（60%)の配分で成績を算出する。

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles that students choose themselves. Each student presents two or three news articles during the semester to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate opinions, and logical reasoning effectively in English.	1. Introduction to course and class 2. Discussing an example news article 3. Developing mind map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Students present articles to whole class/discussion 15. Speaking test

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and discussion preparation for next class
テキスト	No textbook is required
参考文献	No reference book
評価方法	Active class participation (60%), oral reports/presentations, book reports (30%), speaking tests (10%)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles that students choose themselves. Each student presents two or three news articles during the semester to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate opinions, and logical reasoning effectively in English.	1. Introduction to course and class 2. Discussing an example news article 3. Developing mind map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Students present articles to whole class/discussion 15. Speaking test

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and discussion preparation for next class
テキスト	No textbook is required
参考文献	No reference book
評価方法	Active class participation (60%), oral reports/presentations, book reports (30%), speaking tests (10%)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Beat the Monday morning blues by studying in this dynamic class. All students, who are prepared to try hard, are most welcome. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak and discuss a variety of issues in English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. At the end of the course if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. Student who have previously studied in the class are welcome - the content will be changed from last year.	Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. The order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. First Semester Topics Weeks 1 - 2 Introduction to the course of studies. Weeks 3 - 6 Why learn English. Weeks 7 - 10 Caring for kids. Weeks 11 - 14 Death from overwork. Week 15 - Evaluations. A change may be made to the exact content of this class especially if previous students return.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.
参考文献	Students will be guided to relevant internet websites for research purposes.
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Beat the Monday morning blues by studying in this dynamic class. All students, who are prepared to try hard, are most welcome. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak and discuss a variety of issues in English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. At the end of the course if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. Student who have previously studied in the class are welcome - the content will be changed from last year.	Each topic area will take between 3 to 4 weeks to cover. The order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. Second Semester Topics: Weeks 1 - 2 Brief introduction/welcome back to class. Weeks 3 - 6 Computers and society. Weeks 7 - 11 Ageing Society. Weeks 12 -14 The Automobile. Week 15 - Evaluations. A change may be made to the exact content of this class especially if previous students return.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.
参考文献	Students will be guided to internet websites for research purposes.
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this class is to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussions on various topics. Students will also have opportunities to develop their abilities to speak in front of the class by using notes to express their opinions. The typical class will consist of small group discussions on a unit from the textbook To build their vocabulary, students will be required to complete weekly vocabulary exercises for homework. Students who are enthusiastic to improve their speaking skill are welcome.	Week 1: Course Introduction Week 2: Unit 1 – Cosmetic surgery Week 3: Unit 1 continued Week 4: Unit 4 – Parents & teen conflicts Week 5: Unit 4 continued Week 6: Unit 9 – Extreme fashion Week 7: Unit 9 continued Week 8: Presentation preparation Week 9: Presentations Week 10: Unit 10 – Parasite singles Week 11: Unit 10 continued Week 12: Unit 11 – Sexual harassment Week 13: Practice presentation skills Week 14: Presentations Week 15: Review & feedback

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read and listen to the conversation before class. After class make entries on the vocabulary sheet.
テキスト	Impact Issues 3 Richard R. Day Pearson/Longman ISBN 978-962-01-9932-5
参考文献	None.
評価方法	Quizzes 40% Presentations 40% Vocabulary sheets 10% Participation 10%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this class is to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussions on various topics. Students will also have opportunities to develop their abilities to speak in front of the class by using notes to express their opinions. The typical class will consist of small group discussions on a unit from the textbook To build their vocabulary, students will be required to complete weekly vocabulary exercises for homework. Students who are enthusiastic to improve their speaking skill are welcome.	Week 1: Course Introduction Week 2: Unit 1 – Cosmetic surgery Week 3: Unit 1 continued Week 4: Unit 4 – Parents & teen conflicts Week 5: Unit 4 continued Week 6: Unit 9 – Extreme fashion Week 7: Unit 9 continued Week 8: Presentation preparation Week 9: Presentations Week 10: Unit 10 – Parasite singles Week 11: Unit 10 continued Week 12: Unit 11 – Sexual harassment Week 13: Practice presentation skills Week 14: Presentations Week 15: Review & feedback

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read and listen to the conversation before class. After class make entries on the vocabulary sheet.
テキスト	Impact Issues 3 Richard R. Day Pearson/Longman ISBN 978-962-01-9932-5
参考文献	None.
評価方法	Quizzes 40% Presentations 40% Vocabulary sheets 10% Participation 10%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（火１） Communicative English	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to **international** communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)***, in English. Pair practice. Final student presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
参考文献	—
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%).. These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（火１） Communicative English	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answers to "What are you thankful for?" Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations. Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February & March Break.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.
参考文献	—
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	Ｒ．Ｊ．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
UK Culture & Society This is an intermediate-level content based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.	UK Culture I 1. Introductory Class 2. Introduction to Britain 3. British Pop 4. London 5. The Train 6. Heathrow Airport 7. William Shakespeare 8. Tea 9. Climbers 10. Sherlock Holmes 11. The Purple Violin 12. British Universities 13. An English Summer 14. Review 15. Evaluation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary preview (30 minutes) & Topic Preview will be required before each class (30 minutes)
テキスト	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary or smartphone is also required
参考文献	An electronic or smartphone dictionary is required at every class
評価方法	30 % Classwork, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	Ｒ．Ｊ．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
UK Culture & Society This is an upper-intermediate content based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 – 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.	UK Culture II 1. Preview 2. The Seven Wonders of Britain 3. Wales 4. BBC World Service 5. The Mini 6. The Village 7. Agatha Christie 8. Charles Dickens 9. The Sea 10. Taxi 11. Public School 12. WOMAD 13. A British Christmas 14. Review 15. Evaluation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary preview (30 minutes) & Topic Preview will be required before each class (30 minutes)
テキスト	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary or smartphone is also required.
参考文献	An electronic or smartphone dictionary is required at every class
評価方法	30 % Classwork, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	Ｂ．Ｄ．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
In this class we will look at contemporary issues from persuasive perspectives. Students will develop their abilities to form and present cohesive opinions and arguments while responding to the opinions and ideas of others. The discussion topics will be chosen by the teacher and the students and presented in written (article) and verbal form.	1. Introductions and course outline. 2. Getting to know you - conversation activities. 3. Narrative fictions - lying and describing. 4. Happiness. 5. Fear. 6. Structuring debates. 7. Persuasive language. 8. Student topics for debates. 9. Analyzing perspectives. 10. Student topics for debates. 11. Sadness. 12. Presentation preparation. 13. Presentations and discussion. 14. Presentations and discussion. 15. Exam period.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.
テキスト	None
参考文献	—
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (50%) and final presentations (50%)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ウィルコックス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. Overall Objectives 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions.	Weeks 1. Course introduction 2. Text Unit 1 3. Text Unit 2 4. Discussion Test Prep 5. Discussion Tests 6. Unit 3 7. Unit 4 8. DVD 9. DVD 10. Individual Presentations 11. Group Discussions 12. Group Discussions 13. Discussion Tests 14. Final Presentations 15. Final Presentations

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments
テキスト	Text: Presenting Different Opinions
参考文献	—
評価方法	Written reports 30%, Discussion tests 35%, Presentations 35%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ウィルコックス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. Overall Objectives 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions.	Weeks 1. Course Introduction 2. Text Unit 7 3. Text Unit 8 4. DVD 5. Group Presentation Preparation 6. Group Presentations 7. Text Unit 9 8. Text Unit 10 9. DVD 10. DVD 11. Text Unit 11 12. Text Unit 12 13. Presentation Preparation 14. Final Presentations 15. Course Review

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments
テキスト	Text: Presenting Different Opinions
参考文献	—
評価方法	Written reports 30%, Presentations 35%, Classroom activities 35%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
Overall Objectives 1. To use persuasive language and communicative skills (assertion of one's opinion or assertion of one's opposition to an opinion/belief) in order to affect a desired outcome 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts 3. To encourage experimentation with advanced visual and multimedia techniques 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas, opinions, and beliefs	1: Orientation 2: Issue 1 & forming/expressing an opinion 3: Issue 2 & forming/expressing an opinion 4: Issue 3 & forming/expressing an opinion 5: Issue 4 & forming/expressing an opinion 6: Issue 5 & debating skills 7: Issue 6 & debating skills 8: Issue 7 & debating skills 9: Issue 8 & debating skills 10: Persuasive presentation 11: Persuasive presentation 12: Persuasive presentation 13: Persuasive presentation 14: Persuasive presentation 15: Course summary & survey

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Participation & in-class performance; Homework; Presentation

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	D．M．ヴァンヴィーレン

講義目的、講義概要	授業計画
Overall Objectives 1. To use persuasive language and communicative skills (assertion of one's opinion or assertion of one's opposition to an opinion/belief) in order to affect a desired outcome 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts 3. To encourage experimentation with advanced visual and multimedia techniques 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas, opinions, and beliefs	1: Orientation 2: To be decided (TBD) 3: TBD 4: TBD 5: TBD 6: TBD 7: TBD 8: TBD 9: TBD 10: TBD 11: TBD 12: TBD 13: TBD 14: TBD 15: Course summary & survey

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.
テキスト	None
参考文献	None
評価方法	Participation & in-class performance; Homework; Presentation

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to learn to use language and communication skills for informing, persuading, and influencing others about current topics that affect society.　A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class.	Week 1: Orientation, introduction to topic discussion Week 2: Good observation, making pros and cons Week 3: Writer point of view, background influences Week 4: Making effective visual aids Week 5: Good discussion questions Week 6: Small group discussion workshop Week 7: Small group discussion group 1 Week 8: Small group discussion group 2 Week 9: Small group discussion group 3 Week 10: Small group discussion group 4 Week 11: Making effective topic presentations Week 12: Presentation workshop: Student Survey Presentation Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Review and consultation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership and a class multimedia presentation, likely four hours outside of class preparation
テキスト	No class textbook—handout will be provided by the teacher
参考文献	Explained in class
評価方法	40% small group presentation, 40% multimedia presentation, 20% class participation

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society.　A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. The class structure and goals will be the same as the spring semester, but materials for the fall semester will be different.	Week 1: Orientation, introduction to topic discussion Week 2: Good observation, making pros and cons Week 3: Writer point of view, background influences Week 4: Making effective visual aids Week 5: Good discussion questions Week 6: Small group discussion workshop Week 7: Small group discussion group 1 Week 8: Small group discussion group 2 Week 9: Small group discussion group 3 Week 10: Small group discussion group 4 Week 11: Making effective topic presentations Week 12: Workshop: Investigative Research Presentation Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Review and consultation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership and a class multimedia presentation, likely four hours of preparation outside of class
テキスト	No class textbook—handout will be provided by the teacher
参考文献	Explained in class
評価方法	40% small group presentation, 40% multimedia presentation, 20% class participation

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木２） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to **international** communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)***, in English. Pair practice. Final student presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
参考文献	—
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%).. These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木２） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answers to "What are you thankful for?" Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations. Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February & March Break.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.
参考文献	—
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木３） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to **international** communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?"; **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)*** in English. Pair practice. Final student presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
参考文献	—
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%).. These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木３） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answers to "What are you thankful for?" Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations. Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February & March Break.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.
参考文献	—
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one term, semi-elective course aims to further develop and build on language skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. Overall Objectives 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster the presentation of one`s own ideas.	Week 1-Course introduction Week 2- How the wealthy hide riches Week 3- Naoki Matayoshi`s literary win Week 4- Russia`s culture of sports cheating Week 5- African refugees enter Europe Week 6- Syrian migrants enter Norway Week 7- Day care and birthrate problems in Japan Week 8-Student presentations Week 9- iPS eye parts are created Week 10- Deep Blue – IBM Supercomputer Week 11- Japan`s multicultural Olympians Week 12- Japanese win Nobel prizes in medicine and physics Week 13- Brexit Week 14- Boko Haram Week 15- Final Examination

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	The students are expected to read the textbook before coming to class. If an assignment such as a presentation is given to students, they are expected to prepare it before class. The students are encouraged to review the material that we cover in class after each lesson.
テキスト	15 Selected Units of English through the News Media, M. Takahashi, N. Itoh, R. Powell, Asahi Press
参考文献	—
評価方法	Classroom Participation: 40%, Presentations: 30%, Final Exam: 30%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one term, semi-elective course aims to further develop and build on language skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. Overall Objectives 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster the presentation of one`s own ideas.	Week 1-Course introduction Week 2- How the wealthy hide riches Week 3- Naoki Matayoshi`s literary win Week 4- Russia`s culture of sports cheating Week 5- African refugees enter Europe Week 6- Syrian migrants enter Norway Week 7- Day care and birthrate problems in Japan Week 8-Student presentations Week 9- iPS eye parts are created Week 10- Deep Blue – IBM Supercomputer Week 11- Japan`s multicultural Olympians Week 12- Japanese win Nobel prizes in medicine and physics Week 13- Brexit Week 14- Boko Haram Week 15- Final Examination

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	The students are expected to read the textbook before coming to class. If an assignment such as a presentation is given to students, they are expected to prepare it before class. The students are encouraged to review the material that we cover in class after each lesson.
テキスト	15 Selected Units of English through the News Media, M. Takahashi, N. Itoh, R. Powell, Asahi Press
参考文献	—
評価方法	Classroom Participation: 40%, Presentations: 30%, Final Exam: 30%

09 年度以降	Discussion	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.	Week 1- Course introduction Week 2- First Impressions Week 3- Traffic Jam Week 4- Who Needs the Local Language Week 5- Getting Ahead Week 6- Forever Single Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- What are Friends For? Week 9- What's for Dinner? Week 10- Cyber Bullying Week 11- Taking Care of Father Week 12- Why Go To School? Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Final Examination Week 15- Final Examination

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	The students are expected to read the textbook before coming to class. If an assignment such as a presentation is given to students, they are expected to prepare it before class. The students are encouraged to review the material that we cover in class after each lesson
テキスト	Impact Issues – Book 2, Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka
参考文献	—
評価方法	It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class -30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination. -40%

09 年度以降	Discussion	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.	Week 1- Course Introduction Week 2- An International Relationship Week 3- Too Little, Too Late Week 4- Ben and Mike Week 5- Government Control Week 6- Living Together Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- Size Discrimination Week 9- Who Will Help Them? Week 10- Finding the Right One Week 11- Dress for Success Week 12- A Mother's Story Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Final Examination Week 15- Final Examination

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	The students are expected to read the textbook before coming to class. If an assignment such as a presentation is given to students, they are expected to prepare it before class. The students are encouraged to review the material that we cover in class after each lesson
テキスト	Impact Issues – Book 2, Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka
参考文献	—
評価方法	It isnecessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class-30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination -40%

09 年度以降	Discussion	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, the students will be provided with ample opportunity to use English and express themselves through a combination of　speaking activities, group discussions and presentaions. Students will do plenty of speaking in this class.	Week 1: Introduction Week 2-4: Someone you admire Week 5-8: My passion Week 9-11: Music Presentation Week 12-14: Movie presention Week 15: Summer Discussion

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will need to do approximately 90 minutes of homework per class.
テキスト	The instructor will provide all materials necessary for this class.
参考文献	—
評価方法	Discussions 50% Presentations 50%

09 年度以降	Discussion	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
Same as above	Week 1: Introduction Week 2-4: Travel Week 5-8：Halloween Week 9-11: Poster Presentation Week 12-14: Christmas/New Year Week 15: Looking Forward/Looking Back

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Same as above
テキスト	Same as above
参考文献	—
評価方法	Same as above

09 年度以降	Discussion	担当者	Ｊ．Ｅ．　マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to: (1) build students' confidence in English speaking skills: from sentence to presentation (2) improve students' skills in academic speaking strategies: organized and logical (3) build students' confidence in formulating speeches Attendance Policy: 1. If you have four (4) unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three (3) times it will count as one absence. 2. Turn off your cell phones in class. 3. Report your absence in advance whenever possible. 4. NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).	1. Hisaye Yamamoto 2. Hisaye Yamamoto 3. Alice Munro 4. Alice Munro 5. Maxine Hong Kingston 6. Maxine Hong Kingston 7. Bruce Chatwin 8. Midterm Exam 9. Toni Morrison 10. Toni Morrison 11. Kate Chopin 12. Kate Chopin 13. Sylvia Plath 14. Sylvia Plath 15. Final Exam

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	—
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)

09 年度以降	Discussion	担当者	Ｊ．Ｅ．　マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to: (1) build students' confidence in English speaking skills: from sentence to presentation (2) improve students' skills in academic speaking strategies: organized and logical (3) build students' confidence in formulating speeches Attendance Policy: 1. If you have four (4) unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three (3) times it will count as one absence. 2. Turn off your cell phones in class. 3. Report your absence in advance whenever possible. 4. NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).	1. Kazuo Ishiguro 2. Kazuo Ishiguro 3. Ralph Ellison 4. Ralph Ellison 5. Joy Kogawa 6. Joy Kogawa 7. Sherman Alexie 8. Midterm Exam 9. Isabel Allende 10. Isabel Allende 11. Upton Sinclair 12. Upton Sinclair 13. Julian Barnes 14. Julian Barnes 15. Final Exam

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.
参考文献	—
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)

09 年度以降	Discussion	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This is a course designed for those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It is said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions. Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 1 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 2 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 3 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 4 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare Discussion points and conduct prior research. Post material online.
テキスト	Material will be provided.
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

09 年度以降	Discussion	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This is a course designed for those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It is said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions. Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 1 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 2 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 3 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 4 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare Discussion points and conduct prior research. Post material online.
テキスト	Material will be provided.
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

09 年度以降	Discussion	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is for students with ideas and a desire to discuss them in English. Students will learn target discussion skills and then practice them in groups. There is a strict English only policy as in the future students will need to interact in situations in which the only common language is English. The course will begin with topics introduced by the teacher but will quickly move to topics introduced by different students each week. The students introducing the topics are expected to summarize the discussion. We will have more practice with topics introduced by the teacher before the second round of student topics. The students introducing the topics are expected to summarize the discussion.	1. Class introduction 2. Discussion skills 1 3. Discussion skills 2 4. Discussion skills 3 5. Student Topics Round 1 6. Student Topics Round 1 7. Student topics Round 1 8. Common problems 9. Exchanging articles and discussion 10. Exchanging articles and discussion 11. Problem solving 12. Student topics Round 2 13. Student topics Round 2 14. Student topics Round 2 15. Wrap up

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview assigned materials before class and complete tasks assigned by the instructor
テキスト	All materials will be provided by the instructor.
参考文献	—
評価方法	In class participation 40%; Individual topics 40%; assignments 20%

09 年度以降	Discussion	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is for students with ideas and a desire to discuss them in English. Students will learn target discussion skills and then practice them in groups. There is a strict English only policy as in the future students will need to interact in situations in which the only common language is English. The course will begin with topics introduced by the teacher but will quickly move to topics introduced by different students in the first round of student topics. The students introducing the topics are expected to summarize the discussion. We will have more practice with topics introduced by the teacher before the second round of student topics. The students introducing the topics are expected to summarize the discussion.	1. Class introduction 2. Discussion skills 1 3. Discussion skills 2 4. Discussion skills 3 5. Student Topics Round 1 6. Student Topics Round 1 7. Student topics Round 1 8. Common problems 9. Exchanging articles and discussion 10. Exchanging articles and discussion 11. Problem solving 12. Student topics Round 2 13. Student topics Round 2 14. Student topics Round 2 15. Wrap up

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview assigned materials before class and complete tasks assigned by the instructor
テキスト	All materials will be provided by the instructor.
参考文献	—
評価方法	In class participation 40%; Individual topics 40%; assignments 20%

09 年度以降	Discussion	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice. The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups. The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.	1. Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic # 1 2. Discussion, listening Topic # 2 3. Discussion, listening Topic # 3 4. Discussion, listening Topic # 4 5. Discussion, listening Topic # 5 6. Discussion, listening Topic # 6 7. Discussion, listening Topic # 7 8. Library research project task 1 9. Discussion, listening Topic # 8 10. Discussion, listening Topic # 9 11. Discussion, listening Topic # 10 12. Discussion, listening Topic # 11 13. Discussion, listening Topic # 12 14. Discussion, listening Topic # 13 15. Library research project task 2

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Topic discussion and target skills research, speaking, asking opinions, reasons, clarification, confirmation, agreeing, disagreeing and negotiating skills research from the internet.
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week
評価方法	1. Class participation & target skills 40% 2. Weekly class activities & discussion 60%

09 年度以降	Discussion	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice. The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups. The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.	1. Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic # 1 2. Discussion, listening Topic # 2 3. Discussion, listening Topic # 3 4. Discussion, listening Topic # 4 5. Discussion, listening Topic # 5 6. Discussion, listening Topic # 6 7. Discussion, listening Topic # 7 8. Library research project task 1 9. Discussion, listening Topic # 8 10. Discussion, listening Topic # 9 11. Discussion, listening Topic # 10 12. Discussion, listening Topic # 11 13. Discussion, listening Topic # 12 14. Discussion, listening Topic # 13 15. Library research project task 2

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Topic discussion and target skills research, speaking, asking opinions, reasons, clarification, confirmation, agreeing, disagreeing and negotiating skills research from the internet.
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week
評価方法	1. Class participation & target skills 40% 2. Weekly class activities & discussion 60%

09 年度以降	Public Speaking　I	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking. Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.	1. Introduction: Public speaking, why where when. It's not conversation. 2. What listeners need. What speakers do. 3. Topic: Explain a future plan. Ideas, research, homework! 4. Write and edit 5. Decide how to do it, "props", visuals, practice 6. Presentations, evaluation, feedback. 7. Topic： teaching people how to do something. Ideas, research, homework! 8. (as Week 4) 9. (as Week 5) 10. Presentations, evaluation, feedback. 11. Topic: making a persuasive argument. Ideas, research, homework! 12. (as Week 4) 13. (as Week 5) 14. Presentations, evaluation, feedback. 15. Presentations, evaluation, feedback.

到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will have research work preparing for, and then practicing presentations.
テキスト	There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.
参考文献	—
評価方法	There is no final exam. This is a performance course. The teacher's evaluation will be according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).

09 年度以降	Public Speaking　I	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking. Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.	1. Introduction: Public speaking, why where when. It's not conversation. 2. What listeners need. What speakers do. 3. Topic: Explain a future plan. Ideas, research, homework! 4. Write and edit 5. Decide how to do it, "props", visuals, practice 6. Presentations, evaluation, feedback. 7. Topic： teaching people how to do something. Ideas, research, homework! 8. (as Week 4) 9. (as Week 5) 10. Presentations, evaluation, feedback. 11. Topic: making a persuasive argument. Ideas, research, homework! 12. (as Week 4) 13. (as Week 5) 14. Presentations, evaluation, feedback. 15. Presentations, evaluation, feedback.

到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will have research work preparing for, and then practicing presentations.
テキスト	There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.
参考文献	—
評価方法	There is no final exam. This is a performance course. The teacher's evaluation will be according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).

09 年度以降	Public Speaking　I	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
Speeches This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches and presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches. Students will then give their own speeches, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.	1　Orientation 2-3　Elements of public speaking 4-5　Effective speeches—examples and discussion 6-8　Student speeches 9-11　Effective speeches—examples and discussion 12-14　Student speeches 15　Reflection and summary

到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to conduct background research. (4 hours homework each week.)
テキスト	Reading materials will be distributed in class.
参考文献	Distributed in class.
評価方法	Speech preparation and speech delivery = 60%. Participation = 40%

09 年度以降	Public Speaking　II	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
Poster Presentation & Presentation This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of several presentations. Students will then give their own poster presentations and presentations. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.	1. Effective Public Speaking: skills & strategies 2. Effective Public Speaking: skills & strategies 3. Poster presentations--orientation 4. Poster presentations--analysis 5. Poster presentations--preparation 6. Poster presentations--preparation 7. Poster presentations 8. Individual presentations--orientation 9. Individual presentations--anaylsis 10. Individual presentations--preparation 11. Individual presentations--preparation 12. Individual presentations 13. Individual presentations 14. Individual presentations 15. Reflection and summary

到達目標	様々な形態や状況を想定して、「Public Speaking　I」より高いレベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to conduct background research. (4 hours homework each week.)
テキスト	Reading materials will be distributed in class.
参考文献	Distributed in class.
評価方法	Presentation preparation and presentation delivery = 60%. Participation = 40%

09 年度以降	Debate　I	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This class is designed with two goals in mind 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues, and 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Students are required to have a notebook in which articles from the news will be pasted and described. These will serve as a foundation for our warm-up debates. We will watch some of the famous debates in Western history, evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 1 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 2 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 3 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 4 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations

到達目標	討論という状況で、リサーチを基にして、中級レベルの英語で思考し、討論できるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare for the debates, conduct research, and complete notebook requirement.
テキスト	Material will be provided.
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

09 年度以降	Debate　II	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This course is a continuation of Debate I, but will address topics of greater domestic & world importance. It is designed with two goals in mind 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues, and 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Students are required to have a notebook in which articles from the news will be pasted and described. These will serve as a foundation for our warm-up debates. We will watch some of the famous debates in Western history, evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 1 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 2 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 3 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 4 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations

到達目標	「Debate I」より高いレベルで、討論という状況で、リサーチを基にして、英語で思考し討論できるようにする。
事前・事後学修の内容	Prepare for the debates, conduct research, and complete notebook requirement.
テキスト	Material will be provided.
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

13 年度以降	Academic Lecture	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
Japanese Art History This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. Supplemental readings and associated exercises will be provided to ensure comprehension of specialized terms and to facilitate an understanding of historical and cultural context. By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal painting styles and their features and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.	1. Course Introduction 2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History 3. Principles and Materials of Japanese Painting 4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan" 5. Paintings and Artists of the Tosa school（土佐派） 6. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 7. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 8. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 9. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school（文人画・南画） 11. Paintings of Itō Jakuchū 伊藤若冲 12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 13. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 14. Museum Exhibition Trip 15. Review and Final Assessment

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.
テキスト	Lecture outlines and supplementary reading materials will be provided by the instructor.
参考文献	A comprehensive reading list will be distributed in class.
評価方法	Evaluations will be based on participation (15%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (45%).

13 年度以降	Academic Lecture	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
Japanese Art History This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. Supplemental readings and associated exercises will be provided to ensure comprehension of specialized terms and to facilitate an understanding of historical and cultural context. By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal painting styles and their features and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.	1. Course Introduction 2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History 3. Principles and Materials of Japanese Painting 4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan" 5. Paintings and Artists of the Tosa school（土佐派） 6. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 7. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 8. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 9. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school（文人画・南画） 11. Paintings of Itō Jakuchū 伊藤若冲 12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 13. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 14. Museum Exhibition Trip 15. Review and Final Assessment

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.
テキスト	Lecture outlines and supplementary reading materials will be provided by the instructor.
参考文献	A comprehensive reading list will be distributed in class.
評価方法	Evaluations will be based on participation (15%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (45%).

13 年度以降	Academic Lecture	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
（Understanding International Relations） As societies have become more “globalized” in the recent years, we often come across the term “international relations”. Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations. As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester.　In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.	1. Introduction 2. Why Study International Relations? 3. Nation-State and International Relations 4. Theories of International Relations (1) 5. Theories of International Relations (2) 6. Various Aspects of International Relations 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination/ The Cold War: A Brief Introduction 9. The Cold War: How it began 10. The Cold War: The 1950s 11. The Cold War: The 1960s 12. The Cold War: The 1970s 13. The Cold War: The 1980s 14. The Cold War: How it ended 15. Course Review

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	To be announced.
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (40%), and final examination (60%). Details will be explained by the instructor in the first class.

13 年度以降	Academic Lecture	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
（Understanding International Relations） As societies have become more “globalized” in the recent years, we often come across the term “international relations”. Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations. As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester.　In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.	1. Introduction 2. Why Study International Relations? 3. Nation-State and International Relations 4. Theories of International Relations (1) 5. Theories of International Relations (2) 6. Various Aspects of International Relations 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination/ The Cold War: A Brief Introduction 9. The Cold War: How it began 10. The Cold War: The 1950s 11. The Cold War: The 1960s 12. The Cold War: The 1970s 13. The Cold War: The 1980s 14. The Cold War: How it ended 15. Course Review

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	To be announced.
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (40%), and final examination (60%). Details will be explained by the instructor in the first class.

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水３）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 本講義では英語の楽曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞には中には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものが多く見られる。授業では一回につき一つ、音声特徴が楽譜（音符）と対応している楽曲を取り上げ、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。尚、リスニング力の強化としてNetAcademy2 の素材を用いたディクテーション、及び楽曲の背景を説明したオーディオ教材を使用する。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を漫然と聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠である。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learning への取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『This Land Is Your Land』強拍/弱拍のメリハリ 5. 『My Grandfather’s Clock』日本人の苦手な音① 6. 『Moon River』日本人の苦手な音② 7. Web 上の音声教材によるリスニング・発音の強化 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『We Will Rock You』シラブルの“格差” 10. 『Top Of The World』押韻を意識する 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. 『楽曲未定』英語の音変化 13. イントネーションとメロディーの関係 14. 期末テスト・録音② 15. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト	指定教科書なし（毎回授業で資料を配布します）
参考文献	必要に応じて文献やウェブサイトを紹介します
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合的に評価します

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水３）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 本講義では英語の楽曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞には中には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものが多く見られる。授業では一回につき一つ、音声特徴が楽譜（音符）と対応している楽曲を取り上げ、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。尚、リスニング力の強化としてNetAcademy2 の素材を用いたディクテーション、及び楽曲の背景を説明したオーディオ教材を使用する。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を漫然と聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠である。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learning への取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『This Land Is Your Land』強拍/弱拍のメリハリ 5. 『My Grandfather’s Clock』日本人の苦手な音① 6. 『Moon River』日本人の苦手な音② 7. Web 上の音声教材によるリスニング・発音の強化 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『We Will Rock You』シラブルの“格差” 10. 『Top Of The World』押韻を意識する 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. 『楽曲未定』英語の音変化 13. イントネーションとメロディーの関係 14. 期末テスト・録音② 15. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト	指定教科書なし（毎回授業で資料を配布します）
参考文献	必要に応じて文献やウェブサイトを紹介します
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合的に評価します

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水５）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 本講義では英語の楽曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞には中には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものが多く見られる。授業では一回につき一つ、音声特徴が楽譜（音符）と対応している楽曲を取り上げ、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。尚、リスニング力の強化としてNetAcademy2 の素材を用いたディクテーション、及び楽曲の背景を説明したオーディオ教材を使用する。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を漫然と聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠である。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learning への取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『This Land Is Your Land』強拍/弱拍のメリハリ 5. 『My Grandfather’s Clock』日本人の苦手な音① 6. 『Moon River』日本人の苦手な音② 7. Web 上の音声教材によるリスニング・発音の強化 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『We Will Rock You』シラブルの“格差” 10. 『Top Of The World』押韻を意識する 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. 『楽曲未定』英語の音変化 13. イントネーションとメロディーの関係 14. 期末テスト・録音② 15. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト	指定教科書なし（毎回授業で資料を配布します）
参考文献	必要に応じて文献やウェブサイトを紹介します
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合的に評価します

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水５）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 本講義では英語の楽曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞には中には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものが多く見られる。授業では一回につき一つ、音声特徴が楽譜（音符）と対応している楽曲を取り上げ、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。尚、リスニング力の強化としてNetAcademy2 の素材を用いたディクテーション、及び楽曲の背景を説明したオーディオ教材を使用する。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を漫然と聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠である。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learning への取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『This Land Is Your Land』強拍/弱拍のメリハリ 5. 『My Grandfather’s Clock』日本人の苦手な音① 6. 『Moon River』日本人の苦手な音② 7. Web 上の音声教材によるリスニング・発音の強化 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『We Will Rock You』シラブルの“格差” 10. 『Top Of The World』押韻を意識する 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. 『楽曲未定』英語の音変化 13. イントネーションとメロディーの関係 14. 期末テスト・録音② 15. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト	指定教科書なし（毎回授業で資料を配布します）
参考文献	必要に応じて文献やウェブサイトを紹介します
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合的に評価します

13 年度以降	英語の音声	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
音声コミュニケーションを考えたときに，音声がどのように作られ，伝わり，聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では，英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について，その基礎を体系的に学ぶ。日本語や他の言語の音声との比較も交えて，英語音声をよりよく理解し，実践できるようになることを目指す。また，音声や言語の様々な面について触れることにより，ことばの知の面白さを紹介し，これ以降の音声・言語関係の科目への導入とする。 ＜メッセージ＞ ・貴方の英語，「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか? メッセージ自体が料理なら，音声はそれを運ぶ器のようなもの。 音声について，一度しっかり学んでみませんか。 ・「英語らしさって何?」，「なぜ言えない，聞き取れない?」等，初めて学べば目からウロコ。 ・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声は教えられないよ…」という声をよく聞きます。知らなければ，この先ずっと知らない「音声」について，今! この機会に学んでほしい。 ・初回(4/10 火４限)から参加してください。特にゼミ検討者,履修を!	1. Lingua Francaとしての英語，学習者/指導者として 2. セグメントとプロソディ、音声が運ぶ情報 3. 第2章 音声算出のメカニズム 4. 第4章 英語の母音 (1) 基本母音、母音の分類 5. 英語の母音 (2) 日本語との比較 6. 第5章 英語の子音 (1) 子音の分類 7. 英語の子音 (2) 日本語との比較 8. 第3章 音素と異音 日本語の干渉 9. 第6章 音節 音節構造と強勢と母音 10. 第7章 語強勢 強勢と母音、第二強勢 11. リズム フット、弱化と圧縮 12. 第8章 音縮小、第9章 同時調音 13. 第10章 イントネーション (1) 音調核 14. イントネーション (2) 意味/文法/意図との関係 15. 音声教育、その他の応用

到達目標	英語の音声に関して概括的知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	英語音声学の基礎を学習し，練習する。知識習得には積み重ね学習が重要となる。学生は事前または事後にテキストの指定部分を読み，練習問題などの課題をやってくることが必須となる。
テキスト	佐藤寧・佐藤努（1997)『現代の英語音声学』 金星堂
参考文献	その他　配布資料
評価方法	授業参加（準備・参加）：約 15%，クイズ・課題：約 15%，試験：約 70%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる

13 年度以降	英語の音声	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
音声コミュニケーションを考えたときに，音声がどのように作られ，伝わり，聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では，英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について，その基礎を体系的に学ぶ。日本語や他の言語の音声との比較も交えて，英語音声をよりよく理解し，実践できるようになることを目指す。また，音声や言語の様々な面について触れることにより，ことばの知の面白さを紹介し，これ以降の音声・言語関係の科目への導入とする。 ＜メッセージ＞ ・貴方の英語，「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか? メッセージ自体が料理なら，音声はそれを運ぶ器のようなもの。 音声について，一度しっかり学んでみませんか。 ・「英語らしさって何?」，「なぜ言えない，聞き取れない?」等，初めて学べば目からウロコ。 ・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声は教えられないよ…」という声をよく聞きます。知らなければ，この先ずっと知らない「音声」について，今! この機会に学んでほしい。 ・初回(9/25 火４限)から参加してください。特にゼミ検討者,履修を!	1. Lingua Francaとしての英語，学習者/指導者として 2. セグメントとプロソディ、音声が運ぶ情報 3. 第2章 音声算出のメカニズム 4. 第4章 英語の母音 (1) 基本母音、母音の分類 5. 英語の母音 (2) 日本語との比較 6. 第5章 英語の子音 (1) 子音の分類 7. 英語の子音 (2) 日本語との比較 8. 第3章 音素と異音 日本語の干渉 9. 第6章 音節 音節構造と強勢と母音 10. 第7章 語強勢 強勢と母音、第二強勢 11. リズム フット、弱化と圧縮 12. 第8章 音縮小、第9章 同時調音 13. 第10章 イントネーション (1) 音調核 14. イントネーション (2) 意味/文法/意図との関係 15. 音声教育、その他の応用

到達目標	英語の音声に関して概括的知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	英語音声学の基礎を学習し，練習する。知識習得には積み重ね学習が重要となる。学生は事前または事後にテキストの指定部分を読み，練習問題などの課題をやってくることが必須となる。
テキスト	佐藤寧・佐藤努（1997)『現代の英語音声学』 金星堂
参考文献	その他　配布資料
評価方法	授業参加（準備・参加）：約 15%，クイズ・課題：約 15%，試験：約 70%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる。

09 年度以降	通訳　I（水１）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。さらに日本語力・英語力を基礎とする異文化コミュニケーション力の向上と幅広い背景知識の構築を目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身につけることを目標とします。 講義概要： テキストの題材に基づきながら世界情勢をとらえ、英日・日英の通訳演習を通して通訳の基礎技術を習得します。幅広い分野の教材から語彙力強化と英文理解力の向上を目指します。多様な題材を通じて英日両言語で情報収集を行い、効率的なリサーチ方法も獲得していきます。教養を深めることを主眼とし、自立した学習者になることを目標とします。語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。授業は英日両言語で行います。 準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. News 01&02 4. News 03&04 5. News 05&06 6. News 07&08 7. News 09&10 8. 前半の総括 9. News 11&12 10. News 13&14 11. News 15&16 12. News 17&18 13. News 19&20 14. 期末テスト 15. 春学期の総括 ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	CNN English Express 編集部『CNN ニュース・リスニング 2017［春夏］』（朝日出版社、2017 年）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳　I（水１）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。さらに日本語力・英語力を基礎とする異文化コミュニケーション力の向上と幅広い背景知識の構築を目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身につけることを目標とします。 講義概要： 春学期に学んだことを応用し、テキストの題材に応じて精度のより高い英日・日英通訳を目指します。日本語・英語の運用能力の強化を図り、語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。春学期同様、効率的なリサーチ方法の習得も目指すと同時に学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。授業は英日両言語で行います。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. News 01&02 4. News 03&04 5. News 05&06 6. News 07&08 7. News 09&10 8. 前半の総括 9. News 11&12 10. News 13&14 11. News 15&16 12. News 17&18 13. News 19&20 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括 ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	CNN English Express 編集部『CNN ニュース・リスニング 2017［秋冬］』（朝日出版社、2017 年）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳　I（水２）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。さらに日本語力・英語力を基礎とする異文化コミュニケーション力の向上と幅広い背景知識の構築を目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身につけることを目標とします。 講義概要： テキストの題材に基づきながら世界情勢をとらえ、英日・日英の通訳演習を通して通訳の基礎技術を習得します。幅広い分野の教材から語彙力強化と英文理解力の向上を目指します。多様な題材を通じて英日両言語で情報収集を行い、効率的なリサーチ方法も獲得していきます。教養を深めることを主眼とし、自立した学習者になることを目標とします。語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。授業は英日両言語で行います。 準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. News 01&02 4. News 03&04 5. News 05&06 6. News 07&08 7. News 09&10 8. 前半の総括 9. News 11&12 10. News 13&14 11. News 15&16 12. News 17&18 13. News 19&20 14. 期末テスト 15. 春学期の総括 ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	CNN English Express 編集部『CNN ニュース・リスニング 2017［春夏］』（朝日出版社、2017 年）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳　I（水２）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。さらに日本語力・英語力を基礎とする異文化コミュニケーション力の向上と幅広い背景知識の構築を目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身につけることを目標とします。 講義概要： 春学期に学んだことを応用し、テキストの題材に応じて精度のより高い英日・日英通訳を目指します。日本語・英語の運用能力の強化を図り、語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。春学期同様、効率的なリサーチ方法の習得も目指すと同時に学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。授業は英日両言語で行います。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. News 01&02 4. News 03&04 5. News 05&06 6. News 07&08 7. News 09&10 8. 前半の総括 9. News 11&12 10. News 13&14 11. News 15&16 12. News 17&18 13. News 19&20 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括 ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	CNN English Express 編集部『CNN ニュース・リスニング 2017［秋冬］』（朝日出版社、2017 年）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳　I（木１）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。さらに日本語力・英語力を基礎とする異文化コミュニケーション力の向上と幅広い背景知識の構築を目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身につけることを目標とします。 講義概要： テキストの題材に基づきながら世界情勢をとらえ、英日・日英の通訳演習を通して通訳の基礎技術を習得します。幅広い分野の教材から語彙力強化と英文理解力の向上を目指します。多様な題材を通じて英日両言語で情報収集を行い、効率的なリサーチ方法も獲得していきます。教養を深めることを主眼とし、自立した学習者になることを目標とします。語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。授業は英日両言語で行います。 準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. News 01&02 4. News 03&04 5. News 05&06 6. News 07&08 7. News 09&10 8. 前半の総括 9. News 11&12 10. News 13&14 11. News 15&16 12. News 17&18 13. News 19&20 14. 期末テスト 15. 春学期の総括 ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	CNN English Express 編集部『CNN ニュース・リスニング 2017［春夏］』（朝日出版社、2017 年）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳　I（木１）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。さらに日本語力・英語力を基礎とする異文化コミュニケーション力の向上と幅広い背景知識の構築を目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身につけることを目標とします。 講義概要： 春学期に学んだことを応用し、テキストの題材に応じて精度のより高い英日・日英通訳を目指します。日本語・英語の運用能力の強化を図り、語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。春学期同様、効率的なリサーチ方法の習得も目指すと同時に学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。授業は英日両言語で行います。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. News 01&02 4. News 03&04 5. News 05&06 6. News 07&08 7. News 09&10 8. 前半の総括 9. News 11&12 10. News 13&14 11. News 15&16 12. News 17&18 13. News 19&20 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括 ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	CNN English Express 編集部『CNN ニュース・リスニング 2017［秋冬］』（朝日出版社、2017 年）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳　Ⅱ	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳業務への理解を深め、通訳の応用技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とします。異文化コミュニケーション力を向上させて教養を深め、自立した学習者になることを目指します。 講義概要： テキストの題材に基づきながら世界情勢をとらえ、英日・日英の通訳演習を通して通訳の応用技術を習得し、文化的背景も踏まえた訳出法を学びます。幅広い分野の教材から語彙力強化と英文理解力の向上を目指します。多様な題材を通じて英日両言語で情報収集を行い、効率的なリサーチ方法も獲得していきます。教養を深めることを主眼とし、自立した学習者になることを目標とします。語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。授業は英日両言語で行います。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. News 01&02 4. News 03&04 5. News 05&06 6. News 07&08 7. News 09&10 8. 前半の総括 9. News 11&12 10. News 13&14 11. News 15&16 12. News 17&18 13. News 19&20 14. 期末テスト 15. 春学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙を増やし、同時通訳や長時間通訳といった上級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	アルク出版編集部『VOA ニュースフラッシュ 2017 年度版』（アルク、2017 年）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳　Ⅱ	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳業務への理解を深め、通訳の応用技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とします。異文化コミュニケーション力を向上させて教養を深め、自立した学習者になることを目指します。 講義概要： 春学期に学んだことを応用し、テキストの題材に応じて効果的なコミュニケーションや文化的背景を踏まえた精度のより高い英日・日英通訳を目指します。語彙力強化のため単語テストを毎回実施します。春学期同様、効率的なリサーチ方法の習得を目指すと同時に学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。授業は英日両言語で行います。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. News 21&22 4. News 23&24 5. News 25&26 6. News 27&28 7. News 29&30 8. 前半の総括 9. News 31&32 10. News 33&34 11. News 35&36 12. News 37&38 13. News 39&40 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙を増やし、同時通訳や長時間通訳といった上級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト	アルク出版編集部『VOA ニュースフラッシュ 2017 年度版』（アルク、2017 年）
参考文献	適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）

09 年度以降	翻訳	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を挙げながら、翻訳の可能性について実践的に探ります。 授業では、主として新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。 また、履修人数にもよりますが、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。	第1回　ガイダンス　辞書について 第2回　翻訳の難しさと面白さについて 第3回　機械翻訳の可能性について 第4回　翻訳の実例比較検討 第5回　復習テスト 第6～8回 翻訳テキスト分析と発表内容チェック 第9~14回 学生による翻訳プレゼンテーションとコメント交換 第15回　まとめと復習テスト

到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	翻訳発表のための準備およびパワーポイント作成
テキスト	プリント配布
参考文献	—
評価方法	分析コメント２０％、プレゼンテーション２０％、翻訳実習３０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	翻訳	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。 なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。	第1回　前期テストの講評および後期授業のガイダンス 第2回　日英および英日翻訳の実例検討　その１ 第3回　日英および英日翻訳の実例検討　その２ 第4～5回　翻訳テキスト分析および発表のテーマ設定検討 第6回　復習テストと発表内容確認 第7～9回　翻訳テキスト分析および発表内容チェック 第10~14回 学生による翻訳プレゼンテーションおよびディスカッション 第15回　まとめと復習テスト

到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	翻訳発表のための準備およびパワーポイント作成
テキスト	プリント配布
参考文献	—
評価方法	分析コメント２０％、プレゼンテーション２０％、翻訳実習３０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	翻訳	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスでは、英語から日本語への翻訳を扱います。翻訳の基礎は、翻訳する対象が何であれ同じ。いわゆる業務文書も、報道文も、文学作品も、抽象度の高い評論文も、正確に原文を理解し、適切な日本語に置き換えていく、そのことにつきます。単純といえば単純なのですが、「正確な英文理解」には何が必要なのか、どうすれば「適切な日本語」に置き換えられるのか、具体的に考えていくと、いくつも解決すべき問題に出会います。 問題を明瞭に意識し、効果的に翻訳力をつけるため、授業では、「英文を理解する」プロセスと「日本語で表現する」プロセスとを分かちがたいものと捉えたうえで、敢えて別々に焦点をあてて訓練を積んでいきます。 受講生に求める英語力のレベルは、たとえば *Guardian* 紙のトップ記事が、辞書を使って単語を調べれば理解できること。特に文法的な構造がしっかりと理解できること。(時事的な内容が理解できなくても、文章を「翻訳」できなくてもかまいません) そこに達していない方は、「翻訳」を勉強する前に基礎英語力をつけてください。授業内では原則として基礎的な文法の指導は行いません。	＊授業はひとつの教材について次の流れで行います。 教材の紹介（授業 1）→教材を読んで不明点を洗い出す＋翻訳開始（課題 1）→不明点を解決する（授業 2）→訳了＋提出（課題 2）→添削返却＋解説（授業 3）。 *ひとつの教材について 3 回の授業で完了となります。3 回目以降は、上記の(授業 1)、（授業 2）、（授業 3）の三つのプロセスが同時進行します。 ＊紙幅の都合によりここに提示できない詳細については、1 回目の授業で説明します。 _____15 回の授業は以下のとおり_____ 1. 導入とトライアル（短い教材を対象に、上記の全プロセスの作業を行う）＋教材 1 の紹介 2～15. 様々な性質のテクスト（ニュース、使用説明書、学術書、短編小説など）を教材としてとりあげ、徹底した読解と訳文解説を行います。

到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	実際に読み、翻訳に取り組む授業ですので、事前学習が必須です。また翻訳力をつけるには、授業後にポータルに掲載されるモデル文などを使い復習してください。
テキスト	ハンドアウトを用意します。
参考文献	—
評価方法	授業への貢献　20%、課題の総合　80%

09 年度以降	翻訳	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいわけではありません。適切な英文読解に加え、作品自体を味わい、文化的背景を読み込む必要もあります。受験英語的な「和訳」でも、行き過ぎた「意訳」でもなく、日本語のみを読んで原作と同様の魅力を味わえる「翻訳」を目指します。課題文には短編小説や長編小説中の短いチャプターを使用します。まず全体に目を通してから翻訳に取り掛かってください。授業中も一語一語しつこく丁寧に読んでいきます。 授業では、事前提出してもらう翻訳課題をセレクトした抜粋資料を配布します。自分の翻訳と読み比べより良い翻訳を模索するために、積極的な参加と発言が求められます。学期の中盤からグループまたはペアで発表します。その際俳句の英訳も行い、母語から外国語への翻訳感覚を味わいます。言葉のブラッシュアップを楽しみましょう。	1　イントロダクション 2　演習 3　演習 4　演習 5　演習 6　演習 7　演習 8　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 9　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 10　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 11　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 12　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 13　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 14　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 15　演習（ペア・グループによる共訳の発表）

到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修として、課題を提出し疑問点などをリストアップする。事後学修として、返却された課題を読み直しリバイズする。
テキスト	課題作品を授業時に配布。
参考文献	*Longman Dictionary of Contemporary English*. *Pearson*. (2014) 978-1447954200
評価方法	課題・授業参加度（25%）、発表（25%）、レポート（50%）通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。

09 年度以降	翻訳	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいわけではありません。適切な英文読解に加え、作品自体を味わい、文化的背景を読み込む必要もあります。受験英語的な「和訳」でも、行き過ぎた「意訳」でもなく、日本語のみを読んで原作と同様の魅力を味わえる「翻訳」を目指します。課題文には短編小説や長編小説中の短いチャプターを使用します。まず全体に目を通してから翻訳に取り掛かってください。授業中も一語一語しつこく丁寧に読んでいきます。 授業では、事前提出してもらう翻訳課題をセレクトした抜粋資料を配布します。自分の翻訳と読み比べより良い翻訳を模索するために、積極的な参加と発言が求められます。学期の中盤からグループまたはペアで発表します。その際俳句の英訳も行い、母語から外国語への翻訳感覚を味わいます。言葉のブラッシュアップを楽しみましょう。	1　イントロダクション 2　演習 3　演習 4　演習 5　演習 6　演習 7　演習 8　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 9　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 10　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 11　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 12　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 13　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 14　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 15　演習（ペア・グループによる共訳の発表）

到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修として、課題を提出し疑問点などをリストアップする。事後学修として、返却された課題を読み直しリバイズする。
テキスト	課題作品を授業時に配布。
参考文献	*Longman Dictionary of Contemporary English*. *Pearson*. (2014) 978-1447954200
評価方法	課題・授業参加度（25%）、発表（25%）、レポート（50%）通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。

09 年度以降	翻訳（木３）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 (1)掛かり方を示す構文分析　(2)一語一句おろそかにしない解説　(3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」　(4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」　(5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 また英検１級、通訳ガイド試験、TOEIC®高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。 二年(春、秋×2)かけて全100題を終了します。今・春学期は51番から75番を扱います。	1　翻訳という仕事① 2　イギリス人① 3　イギリス人② 4　イギリス人③ 5　イギリス人④ 6　中年の思いごと 7　目の見える有難さ 8　機械と人間 9　忘れっぽさ 10　友情論 11　幸福論 12　外国語を学ぶ効用① 13　外国語を学ぶ効用② 14　日本人論 15　翻訳のための文法① ＊各回、他に1題を扱います

到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと　事後：重要ポイントを復習し納得すること
テキスト	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。
参考文献	参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。

09 年度以降	翻訳（木３）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 (1)掛かり方を示す構文分析　(2)一語一句おろそかにしない解説　(3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」　(4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」　(5)一般的受講生の答案添削例、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 また英検1級、通訳ガイド試験、TOEIC®高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。　二年(春、秋×2)かけて全100題を終了します。今・秋学期は76番から100番を扱います。	1　翻訳という仕事② 2　試練に立つ文明 3　文体と内容 4　技師の親指 5　過激の効用 6　正確さへのこだわり 7　独立独歩 8　詩人の役割 9　文化の伝達 10　孤独の楽しさ 11　若者への教訓 12　偏愛の危険 13　歴史の皮肉 14　自分なりの価値基準 15　翻訳のための文法② ＊各回とも上記ほか1編を扱う

到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと　事後：重要ポイントを復習し納得すること
テキスト	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。
参考文献	参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。

09 年度以降	翻訳（木４）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、さまざまなジャンルの比較的やさしい英文を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれますが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。 今回から文章力練磨のため、市販の翻訳書の誤訳・悪訳部分を訂正する訓練を取り入れます。 木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。英語と表現力の基礎を固めたい人は、ここから入って下さい。 秋学期同時限（木４）の、中級向けの出版翻訳クラスにつながります。	1、英語の規則　① 2、英語の規則　② 3、訳文校正　① 4、訳文校正　② 5、訳文校正　③ 6、児童文学「不思議の国のアリス」Ⅰ 7、児童文学「不思議の国のアリス」Ⅱ 8、子供百科「フクロウの目」 9、子供百科「恐竜」 10、子供百科「宇宙」 11、ミュージカル「オクラホマ」 12、詩「虹の歌」 13、小説「マダム・ロゼット」 14、歴史「トロイ戦争」 15、歴史「ミノタウロス」

到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと　事後：重要ポイントを復習し納得すること
テキスト	テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。
参考文献	参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤読みやすい日本語か、を見ます。

09 年度以降	翻訳（木４）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座では、さまざまな分野の書籍の抜粋部分(600ワード程度)を精読したうえで､「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の聴講を期待します。 木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。翻訳現場の厳しさを実感したい人の受講を期待します。 抽選に落ちた学生でも、意欲のある人は歓迎します。聴講を希望する方は相談してください。	1、辞書の引き方 2、小説「ミセス・ビクスビーと大佐のコート」① 3、小説「ミセス・ビクスビーと大佐のコート」② 4、スポーツ「1959年合衆国アマチュアチャンピオン」 5、美術「古代の芸術」 6、ゴルフ「ジャック・ニコラウス自伝」 7、ドキュメンタリー「生き残りし者」 8、科学「重力の問題」 9、造形「心の庭」 10、音楽「オーケストラを指揮する」 11、評伝「二都物語」 12、動物「人間と動物の絆」 13、歴史「そして水は引かなかった」 14、観光「コルシカへの招待」 15、アンドとカンマ

到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと　事後：重要ポイントを復習し納得すること
テキスト	テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。
参考文献	参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤読みやすい日本語か、を見ます。

09 年度以降	翻訳（水４）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course during the first semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from English to Japanese. Particular attention will be given to common mistranslations and translation strategies. The materials used will mainly include poems (by Robert Frost, et al.), novels (Mark Twain's "Huckleberry Finn," etc.)newspaper and magazine articles (mainly from Newsweek and Newsweek Japan), along with English-language movies (Japanese subtitles). The format of the course will consist of lectures in Japanese presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.	1 Introduction 2 Document #1 (see list at left for examples) 3 Document #2 4 Document #3 5 Document #4 6 Document #5 7 Document #6 8 Document #7 9 Document #8 10 Document #9 11 Document #10 12 Document #11 13 Document #12 14/15 Final Examination and Self-Evaluation

到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の例文を復習 配られた文章を予習
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	—
評価方法	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation50% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	翻訳（水２）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course during the second semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from Japanese to English. Particular attention will be given to vocabulary nuance and word order. The materials used will include English translations of novels and essays by famous Japanese authors (including Matsuo Basho, NatsumeSoseki, Yasunari Kawabata, Junichiro Tanizaki, Yukio Mishima, Shusaku Endo, Kobo Abe, Haruki Murakami, Banana Yoshimoto, et al.), along with movies based on those authors' works, and Japanese animated features(looking at the English and Japanese subtitles). The format of the course will consist of lectures in Japanese presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.	1 Introduction 2 Author #1 (see list at left for examples) 3 Author #2 4 Author #3 5 Author #4 6 Author #5 7 Author #6 8 Author #7 9 Author #8 10 Author #9 11 Author #10 12 Author #11 13 Author #12 14/15 Final Examination and Self-evaluation

到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の例文を復習 配られた文章を予習
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	—
評価方法	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation 50% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	翻訳	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　翻訳と英語学習で使われている英文和訳とは、大きく違います。翻訳はその違いをしっかりと認識することから始まります。この講義では目的に応じて等価の翻訳をするための枠組みを学び、実践に役立つ翻訳の基本姿勢を身につけます。 講義概要 　パソコンを活用して多様なテキストの翻訳演習を行い、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通して、さまざまな角度から翻訳の要諦を学んでいきます。 　テキストはオリエンテーションで指示しますので必ず出席してください。	1.　オリエンテーション 2.　翻訳演習 3.　翻訳演習 4.　翻訳演習 5.　翻訳演習 6.　翻訳演習 7.　翻訳演習 8.　翻訳演習 9.　翻訳演習 10.　翻訳演習 11.　翻訳演習 12.　翻訳演習 13.　翻訳演習 14.　翻訳演習 15.　総括

到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、指示に従って指定された箇所を事前に精読（または訳出）しておいてください。原則として、訳文は次回授業時に提出してください。
テキスト	初回に指示します。
参考文献	必要に応じ適宜プリントを配布します。
評価方法	課題・レポート、授業参加態度を総合的に評価する。（期末レポート 30%）

09 年度以降	翻訳	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　英文和訳と翻訳とはどう違うのか。翻訳の心がまえを学び、概念としての理解にとどまらず、実践的に翻訳に取り組む力を養います。 講義概要 　パソコンを活用して多様なテキストの翻訳演習を行い、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通して、さまざまな角度から翻訳の要諦を学んでいきます。 　テキストはオリエンテーションで指示しますので必ず出席してください。	1.　オリエンテーション 2.　翻訳演習 3.　翻訳演習 4.　翻訳演習 5.　翻訳演習 6.　翻訳演習 7.　翻訳演習 8.　翻訳演習 9.　翻訳演習 10.　翻訳演習 11.　翻訳演習 12.　翻訳演習 13.　翻訳演習 14.　翻訳演習 15.　総括

到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、指示に従って指定された箇所を事前に精読（または訳出）しておいてください。原則として、訳文は次回授業時に提出してください。
テキスト	初回に指示します。
参考文献	必要に応じ適宜プリントを配布します。
評価方法	課題・レポート、授業参加態度を総合的に評価する。（期末レポート 30%）

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水３）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。英検準1級程度のレベル。 １．英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。 ２．ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。 受講レベル：英検準1級程度 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1　授業内容と評価方法などのガイダンス 2　ビジネス現場に必要とされる英語力 3　ビジネス現場のコミュニケーション 4　マーケットの特性（クイズ１） 5　日本企業の国際依存度 6　アジア市場の重要性 7　ASEAN等の理解（クイズ２） 8　進化する中国のビジネス展望 9　貿易取引の理解 10　サービス産業（映画、アニメ） 11　国際通貨の理解（クイズ３） 12　国際金融と為替の理解 13　TPP､FTAとは 14　まとめ 15　期末テスト

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テレビ、インターネットでの経済ビジネスニュースの視聴
テキスト	テキストは使用せず、DVD を使用
参考文献	必要に応じて指示する。
評価方法	期末テスト 40%､クイズと課題 30%、授業への参加度 30%

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水３）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。英検準1級程度のレベル。 １．英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。 ２．ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。 受講レベル：英検準1級程度 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1　授業内容と評価方法などのガイダンス 2　ビジネス現場に必要とされる英語力 3　ビジネス現場のコミュニケーション 4　マーケットの特性（クイズ１） 5　日本企業の国際依存度 6　アジア市場の重要性 7　ASEAN等の理解（クイズ２） 8　進化する中国のビジネス展望 9　貿易取引の理解 10　サービス産業（映画、アニメ） 11　国際通貨の理解（クイズ３） 12　国際金融と為替の理解 13　TPP､FTAとは 14　まとめ 15　期末テスト

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テレビ、インターネットでの経済ビジネスニュースの視聴
テキスト	テキストは使用せず、DVD を使用
参考文献	必要に応じて指示する。
評価方法	期末テスト 40%､クイズと課題 30%、授業への参加度 30%

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水４）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。英検準1級程度のレベル。 １．英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。 ２．ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。 受講レベル：英検準1級程度 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1　授業内容と評価方法などのガイダンス 2　ビジネス現場に必要とされる英語力 3　ビジネス現場のコミュニケーション 4　マーケットの特性（クイズ１） 5　日本企業の国際依存度 6　アジア市場の重要性 7　ASEAN等の理解（クイズ２） 8　進化する中国のビジネス展望 9　貿易取引の理解 10　サービス産業（映画、アニメ） 11　国際通貨の理解　（クイズ３） 12　国際金融と為替の理解 13　TPP､FTAとは 14　まとめ 15　期末テスト

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テレビ、インターネットでの経済ビジネスニュースの視聴
テキスト	テキストは使用せず、DVD を使用
参考文献	必要に応じて指示する。
評価方法	期末テスト 40%､クイズと課題 30%、授業への参加度 30%

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水４）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。英検準1級程度のレベル。 １．英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。 ２．ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。 受講レベル：英検準1級程度 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1　授業内容と評価方法などのガイダンス 2　ビジネス現場に必要とされる英語力 3　ビジネス現場のコミュニケーション 4　マーケットの特性（クイズ１） 5　日本企業の国際依存度 6　アジア市場の重要性 7　ASEAN等の理解（クイズ２） 8　進化する中国のビジネス展望 9　貿易取引の理解 10　サービス産業（映画、アニメ） 11　国際通貨の理解　（クイズ３） 12　国際金融と為替の理解 13　TPP､FTAとは 14　まとめ 15　期末テスト

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テレビ、インターネットでの経済ビジネスニュースの視聴
テキスト	テキストは使用せず、DVD を使用
参考文献	必要に応じて指示する。
評価方法	期末テスト 40%､クイズと課題 30%、授業への参加度 30%

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木１）	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、本格的なビジネスレターの書き方を分かりやすく解説する、実践的なBusiness Writingの講義です。将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象にしています。 具体的には、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までの貿易の基本的なプロセスに沿って、それぞれの段階における英文ビジネスレターの書き方を学びます。また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も習得していきます。 なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. ビジネスレターの形式&練習問題 3. 効果的なビジネスレターの書き方(1)＆練習問題 4. 効果的なビジネスレターの書き方(2)＆練習問題 5. 取引の申込み&練習問題 6. 取引申込みに対する応答＆練習問題 7. 引合い（具体的な問い合わせ）＆練習問題 8. 中間試験、復習 9. オファー（売手からの申込み）＆練習問題 10. オファーに対する応答＆練習問題 11. 信用状&練習問題 12. 積出し&練習問題 13. クレーム&練習問題 14. クレームに対する応答＆練習問題 15. まとめ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。
テキスト	海老沢達郎著『BUSINESS WRITING－英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版）
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則５回まで。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木１）	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、本格的なビジネスレターの書き方を分かりやすく解説する、実践的なBusiness Writingの講義です。将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象にしています。 具体的には、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までの貿易の基本的なプロセスに沿って、それぞれの段階における英文ビジネスレターの書き方を学びます。また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も習得していきます。 なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. ビジネスレターの形式&練習問題 3. 効果的なビジネスレターの書き方(1)＆練習問題 4. 効果的なビジネスレターの書き方(2)＆練習問題 5. 取引の申込み&練習問題 6. 取引申込みに対する応答＆練習問題 7. 引合い（具体的な問い合わせ）＆練習問題 8. 中間試験、復習 9. オファー（売手からの申込み）＆練習問題 10. オファーに対する応答＆練習問題 11. 信用状&練習問題 12. 積出し&練習問題 13. クレーム&練習問題 14. クレームに対する応答＆練習問題 15. まとめ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。
テキスト	海老沢達郎著『BUSINESS WRITING－英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版）
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則５回まで。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木２）	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象に、ビジネス英文メールの書き方を中心に、ビジネス英語に馴染のない学生に英文Business Writingの基本を分かりやすく解説し、指導していきます。 具体的には、テキストに沿ってPart1「大手旅行会社の世界支店長会議を想定した社内連絡メールの作成」、Part2「食料品専門商社とアメリカのワインメーカーとの商取引を想定した社外向けメールの作成」、Part3「大手製造業の国際展示会出展の準備を想定した社内外向けメールの作成」を１年を通して習得しますが、春期はそのうちPart1とPart2の前半を学びます。 また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も習得していきます。 なお、授業計画は、多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. (Part1)ビジネス英文メールの形式 3. 世界主要支社長会議開催のお知らせ&練習問題 4. 世界主要支社長会議への出席通知&練習問題 5. 販売本部長の営業報告&練習問題 6. 宣伝部長報告&練習問題 7. 企画部長報告&練習問題 8. 中間試験、復習 9. 議事録送付 10. (Part2)カリフォルニアワイン見本輸入&練習問題 11. 見本商品の発送通知&練習問題 12. 引き合い&練習問題 13. オファー&練習問題 14. カウンター・オファー&練習問題 15. まとめ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。
テキスト	海老沢達郎・功力義雄著『ENGLISH FOR BUSINESS』（DTP 出版、2014）
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。欠席は原則５回まで。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木２）	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
講義は、将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象に、ビジネス英文メールの書き方を中心に、ビジネス英語に馴染のない学生に英文Business Writingの基本を分かりやすく解説し、指導していきます。 具体的には、テキストに沿ってPart1「大手旅行会社の世界支店長会議を想定した社内連絡メールの作成」、Part2「食料品専門商社とアメリカのワインメーカーとの商取引を想定した社外向けメールの作成」、Part3「大手製造業の国際展示会出展の準備を想定した社内外向けメールの作成」を１年を通して習得しますが、秋期は春期に引き続きPart2の後半とPart3を学びます。 また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も習得していきます。 なお、授業計画は、多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. カウンター・オファー受託通知&練習問題 3. 信用状開設準備&練習問題 4. 船積通知&練習問題 5. クレーム&練習問題 6. クレームの解決&練習問題 7. (Part3)国際展示会及び営業会議招待&練習問題 8. 中間試験、復習 9. 国際展示会及び営業会議への出席通知&練習問題 10. 営業会議出席者の宿泊等の申し込み&練習問題 11. 有力販売店主の工場視察&練習問題 12. ホテルへの苦情&練習問題 13. 顧客のホテル苦情への返信&練習問題 14. 有力販売店主の工場長宛礼状練習問題 15. まとめ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。
テキスト	海老沢達郎・功力義雄著『ENGLISH FOR BUSINESS』（DTP 出版、2014）
参考文献	都度、紹介
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則５回まで。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木３）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（春学期は Unit1~12）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)、および専門語彙（technical terms）を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳)と作成（和文英訳）の訓練を行います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	1. 春学期の授業内容と授業計画の説明 2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的等 3. Unit1（市況） 4. Unit2（取引先の発見） 5. Unit3（取引の申込み） 6. Unit4（信用照会） 7. Unit5（引合い） 8. Unit6（引合いに対する返信） 9. Unit7（オファー） 10. Unit8（カウンター・オファー） 11. Unit9（注文） 12. Unit10（注文の受諾） 13. Unit11（注文の謝絶） 14. Unit12（成約） 15. 春学期の総復習と質疑応答

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	各 Unit の Sample Email および解説を熟読するとともに、Exercises を解いて学習成果を必ず確認して下さい。また、Vocabulary（関連語彙集）と Related Expressions（関連表現集）を利用して語彙力と表現力の拡充に努めて下さい。
テキスト	杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講（四訂版)』(三恵社、2016 年)
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木３）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（秋学期は Unit13~21）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)、および専門語彙（technical terms）を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳)と作成（和文英訳）の訓練を行います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	1. 秋学期の授業内容と授業計画の説明 2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的等 3. Unit13（信用状の開設と訂正） 4. Unit14（海上保険） 5. Unit15（輸出手配） 6. Unit16（船積み） 7. Unit17（決済） 8. Unit18（輸入手配） 9. Unit19（クレーム） 10. Unit20（クレーム調整） 11. Unit21の1（会社社交文①：推薦状） 12. Unit21の2（会社社交文②：案内状） 13. Unit21の3（会社社交文③：礼状） 14. Unit21の4（会社社交文④：見舞い状） 15. 秋学期の総復習と質疑応答

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	各 Unit の Sample Email および解説を熟読するとともに、Exercises を解いて学習成果を必ず確認して下さい。また、Vocabulary（関連語彙集）と Related Expressions（関連表現集）を利用して語彙力と表現力の拡充に努めて下さい。
テキスト	杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講（四訂版)』(三恵社、2016 年)
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木４）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、モノ（貨物）・カネ（決済資金）・カミ（情報）の流れを理解することに尽きます。この授業は、このうちの「カミ」、すなわち貿易関係書類および関連する英語のビジネス文書の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得することを目標とします。 春学期は、契約書等の法律文書に用いられる英語の特徴（法文体、legalese）についての基礎知識を学習した後、レター・オブ・インテント、スポット売買契約書、長期売買契約書などのサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点等、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、仕上げにそれらの書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。また、英語圏（特に米国）のPlain English Actに適合した英文取扱説明書（マニュアル）を作成する方法も検討します。	1. 春学期の授業内容と授業計画の説明 2. 法律英語の文体の特徴 3. レター・オブ・インテントのサンプル検討 4. レター・オブ・インテントの作成演習（1回目） 5. レター・オブ・インテントの作成演習（2回目） 6. スポット売買契約書のサンプル検討（タイプ条項） 7. スポット売買契約書のサンプル検討（裏面約款） 8. スポット売買契約書のサンプル検討（書式の戦い） 9. 長期売買契約書のサンプル検討（実質条項） 10. 長期売買契約書のサンプル検討（一般条項） 11. 長期売買契約書のサンプル検討（定義条項ほか） 12. “Plain English Act”の趣旨と具体的内容 13. 英文取扱説明書作成上の注意点 14. 英文取扱説明書の作成演習 15. 春学期の総復習と質疑応答

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、実習で作成した貿易関連書類や関連文書は必ず提出して下さい。
テキスト	当方で用意する和文と英文の資料プリント
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木４）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、モノ（貨物）・カネ（決済資金）・カミ（情報）の流れを理解することに尽きます。この授業は、このうちの「カミ」、すなわち貿易関係書類および関連する英語のビジネス文書の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得することを目標とします。 秋学期は、貿易取引の履行および決済の段階に登場する代表的な書類として、商業送り状、船荷証券、保険証券、原産地証明書等の船積書類（Shipping Documents; S/D）、為替手形（draft）、信用状（letter of credit; L/C）などを学びます。また、基本的な通関実務の演習も行い、実際に輸出申告書と輸入（納税）申告書を作成する機会ももうけます。 なお、右記の授業計画は、春学期、秋学期ともに、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	1. 秋学期の授業内容と授業計画の説明 2. 各種の船積書類の意義と目的 3. 商業送り状と包装明細書のサンプル検討 4. 商業送り状と包装明細書の作成演習 5. 船荷証券のサンプル検討 6. 船荷証券の読解演習 7. 保険証券のサンプル検討 8. 保険証券の読解演習 9. 原産地規則の概要と原産地証明書のサンプル検討 10. 輸出通関と輸入通関の基礎知識 11. 輸出申告書のサンプル検討と作成演習 12. 輸入（納税）申告書のサンプル検討と作成演習 13. 荷為替信用状による決済の仕組みの概要 14. 荷為替信用状のサンプル検討とディスクレの対処法 15. 秋学期の総復習と質疑応答

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、実習で作成した貿易関連書類や関連文書は必ず提出して下さい。
テキスト	当方で用意する和文と英文の資料プリント
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス（logistics）に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。 具体的には、春学期は、貿易の基本概念に加え、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に 6 つのステージに区分して、右記のように、その前半（貿易マーケティングの段階、取引関係創設の段階、成約段階）に属するテーマを詳しく学習します。 履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	1. 春学期の授業内容および授業計画の説明 2. 貿易の基本概念(1)：貿易の意義、貿易の主体など 3. 貿易の基本概念(2)：貿易実務の遂行手順の概観 4. 貿易の基本概念(3)：種々の貿易形態、貿易関係機関 5. 貿易の基本概念(4)：貿易管理制度、関係法令など 6. 貿易マーケティングの段階(1)：海外市場調査 7. 貿易マーケティングの段階(2)：販売戦略調査 8. 取引関係創設の段階(1)：取引先選定と引合い 9. 取引関係創設の段階(2)：信用照会 10. 成約段階(1)： 一般取引条件の取り決め 11. 成約段階(2)： オファーと承諾、注文と受注 12. 成約段階(3)： 品質と数量に関する条件 13. 成約段階(4)： 価格と決済に関する条件 14. 成約段階(5)： 船積みと保険に関する条件 15. 春学期の授業の総復習および質疑応答

到達目標	英語ビジネス・コミュニケーション実務能力を習得し、英語で貿易実務ができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するように努めて下さい。
テキスト	当方で用意する和文と英文の資料プリント
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス（logistics）に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。 具体的には、秋学期は、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に 6 つのステージに区分して、右記のように、その後半（履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階）に属するテーマを詳しく学習します。 履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更あるかもしれません。	1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明 2. 履行段階(1)：”Incoterms 2010”の各貿易条件の概観 3. 履行段階(2)：外為法に基づく輸出許可と輸出承認 4. 履行段階(3)：輸出通関手続き 5. 履行段階(4)：海上運送に関する実務知識と手続き 6. 履行段階(5)：航空運送に関する実務知識と手続き 7. 履行段階(6)：複合運送に関する実務知識と手続き 8. 履行段階(7)：貨物海上保険に関する実務知識と手続き 9. 履行段階(8)：輸出 PL 保険に関する実務知識と手続き 10. 履行段階(9)：各種運送書類 11. 履行段階(10)：為替リスクの種々の回避法 12. 決済段階(1)：荷為替信用状による決済の仕組み 13. 決済段階(2)：信用状によらない決済の仕組み 14. クレームおよびクレーム調整の段階:クレームの種類、クレームの予防、クレームの解決法など 15. 秋学期の授業の総復習および質疑応答

到達目標	英語ビジネス・コミュニケーション実務能力を習得し、英語で貿易実務ができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するように努めて下さい。
テキスト	当方で用意する和文と英文の資料プリント
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	メディア英語　I	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE or a movie. Music, movies, and world events may also be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic 4/Presentation of Video 9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/ Presentation. 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic 6/ Presentation. 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants
参考文献	—
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation

09 年度以降	メディア英語　I	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE or a movie. Music, movies, and world events may also be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. As in the Spring term, students will submit homework by email and the contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic 4/Presentation of Video 9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/ Presentation. 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic 6/ Presentation. 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants
参考文献	—
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation

09 年度以降	メディア英語　I	担当者	A．ジェネス

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to develop critical thinking skills by giving students a chance to study issues related to the media, as they might experience in a media studies course in an English speaking country. Articles discussing themes such as freedom of speech, censorship, advertising, social media, and privacy will be presented, and students will be taught a framework to critically analyze these articles. In addition, students will be expected to research current news topics related to each of these themes, and present them in class. At the end of the course, students will take on the role of investigative journalists in a critical thinking case study.	1. Course introduction 2. Theme 1: Free speech (article analysis) 3. Theme 1: Free speech (research presentations) 4. Theme 2: Privacy (article analysis) 5. Theme 2: Privacy (research presentations) 6. Theme 3: Censorship (article analysis) 7. Theme 3: Censorship (research presentations) 8. Theme 4: Social media (article analysis) 9. Theme 4: Social media (research presentations) 10. Theme 5: Advertising (article analysis) 11. Theme 5: Advertising (research presentations) 12. Critical Thinking Case Study 13. Critical Thinking Case Study 14. Critical Thinking Case Study 15. Final Class (Presentations)

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will need to read articles before attending class, research and present contemporary news topics, and write a final report.
テキスト	All materials will be provided in class.
参考文献	Provided in class
評価方法	Quizzes 20%, Research presentations 40%, Critical thinking case study & final report 40%

09 年度以降	メディア英語　I	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、BBCニュースや*The Guardian*、*The New York Times*から厳選した素材をもとに、世界で起きている様々な出来事について学び、世界各国の文化や社会について知識を深めることを目的とする。 授業はプレゼンテーション形式で進める。	1. オリエンテーション 2. Japan-Themed *Vogue* Shoot 3. Pet Animals Act 4. A Chip under the Skin 5. Using SNS to Relieve Eating Disorders 6. Blurring Gender Lines in Japan 7. English for Muslim Women Immigrants 8. Aging Population 9. AI 10. Paternity Leave 11. Gay Marriage 12. Child Soldiers 13. Home-Schooling 14. Anti-tourism 15. Whaling

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト	初回の授業にて指示する。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)

09 年度以降	メディア英語　I	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期は、私たちの日々の生活に直接関わる諸問題を、様々な「メディア」を介して検討していきます。今学期では、「テロ」「食」「金融」「エネルギー問題」が主な議題となります。また、２つの国（スイス、南アフリカ）の歴史等、背景知識を学んだ上で、今後日本との関係を検証していきます。 この授業の目的を以下のように設定します。 ＊可能な限り、多種多様な情報に目を通す （極端な考えに偏らないようにするため） ＊↑をもとに、自分の考えを創りだす ＊自分の考えを他人に正確に伝える ＊他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。 （議論はより良い考えに至るためのもの。 人格攻撃にならないようにする。） ＊行動を起こす それでは、熱意ある方、お待ちしております！	1.　講義の概要 2.　履修決定の学生との確認、グループ作り＆担当箇所決定 3.　9.11：なぜ「歴史的事件」となったのか？ 4-5.　再生可能エネルギーの可能性 6-7.　大企業化①：食品業界 8-9.　大企業化②：金融業界 10-11.　スイス：「平和」とは何か？ 12-13.　南アフリカ：「共存」への道 14.　メディアとの付き合い方を考える 15.　春学期授業のまとめ 講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士で議論し、意見を発表していただくこともあります。 **第２回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。** **必ず参加してくださいね。**

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、各個人で関連項目に関するメディアの記事を探し、議論できるようにしておいて下さい ＊事後には、発表者や教員が提示したメディアの記事に再度目を通し、理解を深めて下さい。
テキスト	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
参考文献	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
評価方法	＊提出物（レポート）６０％、授業内での発表 ＆ 発言４０％　＊遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。 **欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。**＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります**

09 年度以降	メディア英語　I	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、「日本」をテーマに授業を進めていきます。主に英語圏の「メディア」からの検証となりますが、海外ではどのように日本の出来事が報道されているのかを学んでいきます。特定の意見のみに偏らないよう、様々な立場からの資料を、学生の皆様と共に出来る限り集め、あらゆる角度から問題を考察していきます。 この授業の目的を以下のように設定します。 ＊可能な限り、多種多様な情報に目を通す （極端な考えに偏らないようにするため） ＊↑をもとに、自分の考えを創りだす ＊自分の考えを他人に正確に伝える ＊他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。 （議論はより良い考えに至るためのもの。 人格攻撃にならないようにする。） ＊行動を起こす	1.　講義の概要 2.　履修決定の学生との確認、グループ作り＆担当箇所決定 3-4.　3.11：海外ではどう報道されたか？日本との比較 5-6.　日本のアニメと漫画 7-8.　靖国問題 9-10.　国の借金：本当に深刻なのか？ 11.　海外での和食の評価 12-13.　沖縄の歴史 14.　これから日本はどう世界と関わっていくのか？ 15.　秋学期授業のまとめ 講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士で議論し、意見を発表していただくこともあります。 **第２回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。** **必ず参加してくださいね　！**

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、各個人で関連項目に関するメディアの記事を探し、議論できるようにしておいて下さい ＊事後には、発表者や教員が提示したメディアの記事に再度目を通し、理解を深めて下さい。
テキスト	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
参考文献	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
評価方法	＊提出物（レポート）６０％、授業内での発表 ＆ 発言４０％　＊遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。 **欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。**＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります**

09 年度以降	メディア英語　I	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、ツーリズムや航空業界に関する新聞や業界誌の英文記事を読み解くことによって、Reading力を養うと同時に、業界の最新の動向を学び、業界への理解を深めていくことを目的としています。 期中に、業界の旬の話題である訪日観光客とLCCをテーマにした演習を行います。これは、授業で習得した業界の知識に基づき、全員がインターネットなどで情報を収集しながらテーマに沿った企画を策定し、それをグループで相互に発表し合う演習です。その後、各グループでディスカッションを行いグループの代表作品を決め、グループ対抗のプレゼンテーションを経て、全員の投票で最優秀作品を選びます。 なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. ツーリズムに関する英文記事の読解 ① 3. ツーリズムに関する英文記事の読解 ② 4. ツーリズムに関する英文記事の読解 ③ 5. ツーリズムに関する英文記事の読解 ④ 6. ツーリズムに関する英文記事の読解 ⑤ 7. 演習「訪日客ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ・ﾂｱｰ企画」 I 8. 演習「訪日客ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ・ﾂｱｰ企画」 II 9. 航空産業に関する英文記事の読解 ① 10. 航空産業に関する英文記事の読解 ② 11. 航空産業に関する英文記事の読解 ③ 12. 航空産業に関する英文記事の読解 ④ 13. 演習「LCCで行く海外旅行企画」 I 14. 演習「LCCで行く海外旅行企画」 II 15. まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に配布されるプリントを十分予習してください。また、2 回の演習時は予めそれぞれの企画を策定する宿題を出しますので、ディスカッションの日に提出できるようにしてください。
テキスト	プリントを使用
参考文献	都度、紹介
評価方法	演習 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則５回まで。

09 年度以降	メディア英語　I	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、ツーリズムや航空業界に関する新聞や業界誌の英文記事を読み解くことによって、Reading力を養うと同時に、業界の最新の動向を学び、業界への理解を深めていくことを目的としています。 期中に、業界の旬の話題である訪日観光客とLCCをテーマにした演習を行います。これは、授業で習得した業界の知識に基づき、全員がインターネットなどで情報を収集しながらテーマに沿った企画を策定し、それをグループで相互に発表し合う演習です。その後、各グループでディスカッションを行いグループの代表作品を決め、グループ対抗のプレゼンテーションを経て、全員の投票で最優秀作品を選びます。 なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. ツーリズムに関する英文記事の読解 ① 3. ツーリズムに関する英文記事の読解 ② 4. ツーリズムに関する英文記事の読解 ③ 5. ツーリズムに関する英文記事の読解 ④ 6. ツーリズムに関する英文記事の読解 ⑤ 7. 演習「訪日客ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ・ﾂｱｰ企画」 I 8. 演習「訪日客ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ・ﾂｱｰ企画」 II 9. 航空産業に関する英文記事の読解 ① 10. 航空産業に関する英文記事の読解 ② 11. 航空産業に関する英文記事の読解 ③ 12. 航空産業に関する英文記事の読解 ④ 13. 演習「LCCで行く海外旅行企画」 I 14. 演習「LCCで行く海外旅行企画」 II 15. まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に配布されるプリントを十分予習してください。また、2 回の演習時は予めそれぞれの企画を策定する宿題を出しますので、ディスカッションの日に提出できるようにしてください。
テキスト	プリントを使用
参考文献	都度、紹介
評価方法	演習 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則５回まで。

09 年度以降	メディア英語　I （金１）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include “Hiroshima” (BBC) and “The Cove.” As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.	1　Documentary (or article) #1 2　Documentary (or article) #1 3　Essay or Presentation #1 4　Documentary (or article) #2 5　Documentary (or article) #2 6　Essay or Presentation #2 7　Documentary (or article) #3 8　Documentary (or article) #3 9　Essay or Presentation #3 10　Documentary (or article) #4 11　Documentary (or article) #4 12　Essay or Presentation #4 13　Final preparation 14/15　Final presentation, Self-evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	—
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit.　4回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	メディア英語　I （金１）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories from around the world, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions. Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.	1　Documentary (or article) #1 2　Documentary (or article) #1 3　Essay or Presentation #1 4　Documentary (or article) #2 5　Documentary (or article) #2 6　Essay or Presentation #2 7　Documentary (or article) #3 8　Documentary (or article) #3 9　Essay or Presentation #3 10　Documentary (or article) #4 11　Documentary (or article) #4 12　Essay or Presentation #4 13　Final preparation 14/15　Final presentation, Self-evaluation ※　同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	—
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit.　4回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	メディア英語　I （金２）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories from around the world, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions. Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.	1　Documentary (or article) #1 2　Documentary (or article) #1 3　Essay or Presentation #1 4　Documentary (or article) #2 5　Documentary (or article) #2 6　Essay or Presentation #2 7　Documentary (or article) #3 8　Documentary (or article) #3 9　Essay or Presentation #3 10　Documentary (or article) #4 11　Documentary (or article) #4 12　Essay or Presentation #4 13　Final preparation 14/15　Final presentation, Self-evaluation ※　同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	—
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit.　4回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	メディア英語　Ⅱ	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, or world events will be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. The use of email to submit homework is COMPULSORY. Those who cannot nor will not need not apply to this class. The contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic 4/Presentation of Video 9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/ Presentation. 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic 6/ Presentation. 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants
参考文献	—
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation

09 年度以降	メディア英語　Ⅱ	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, or world events will be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. As in the Spring term, students will submit homework by email and the contents of the course are subject to change	1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic 4/Presentation of Video 9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/ Presentation. 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic 6/ Presentation. 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants
参考文献	—
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation

09 年度以降	メディア英語 Ⅱ	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、毎週、*The New York Times*から最新のニュース記事を読む。 トピックは主として学生の興味・関心に応じて厳選する。加えて、日本に関する報道にも注目してみたい。 授業はプレゼンテーション形式で進める。	第1回 オリエンテーション 第2回 担当の分担 第3回～第14回 2回めの授業にて指示する。 第15回 まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト	初回の授業にて指示する。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)

09 年度以降	メディア英語　Ⅱ（金２）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English II is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include “Hiroshima” (BBC) and “The Cove.” As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year, and vice versa.	1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14/15 Final presentation, Self-evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.
参考文献	—
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	メディア英語　Ⅱ	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
イギリスの公共放送ＢＢＣのニュース映像を教材化した教科書を使って、テレビニュースで使われている生きた英語を学ぶ。毎回、予習をして来たことを確認するための単語テストを行い、その平均点で成績を付ける。主にリスニング力および語彙力の養成を目指す。授業はテキストに従って進める。原則、毎回１章ずつ扱う。不足する１回分については課題を課す。受講生は下記の３点を守ること。15回目の内容については課題を課す。 １．必ず初回の授業に出席すること。 ２．毎回、予習をして来ること。 ３．内職はしないこと。	第1回　オリエンテーション 第2回　ヘイスティングズの戦い 第3回　教室で靴を脱いだら学力向上？ 第4回　女性が活躍する「ヴィンテージDJ」とは？ 第5回　横断歩道をストリート・アートに 第6回　職場でのハイヒール強要に反対運動 第7回　教育現場で「コミュニティ言語」の需要が急増中 第8回　ヴァーチャル・リアリティで対人恐怖症を治療 第9回　養殖サーモンの健康効果は？ 第10回　DNAで社員のルーツを探る 第11回　格差社会がもたらす子供たちの未来への影響 第12回　EU離脱でロンドン市長が懸念を表明 第13回　EU離脱後のイギリス企業の展望は？ 第14回　国民的飲料にも価格上昇の波？ 第15回　イギリス最優秀建築賞の行方は？

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語を調べ、問題をやっておく。事後に映像を繰り返し映像を観て、音読練習をする。
テキスト	『映像で学ぶイギリス公共放送の英語５』　金星堂　２０１８年
参考文献	特になし
評価方法	小テストの平均　９０％　課題　１０％

09 年度以降	シネマ英語	担当者	A．ジェネス

講義目的、講義概要	授業計画
The aim is to give students a course in “film and and American culture”, as they might experience at a university in an English speaking country. The course examines 20th century American culture and society through film. Time will be spent in class watching and critically analyzing films, as a window onto American culture and society. We will cover two themes over the semester: “the American Dream” and “ethnicity and racial identity in the United States”, and watch films from a variety of genres in relation to these themes. Films will be show in class in English without subtitles. The films provided on the schedule are a tentative list and may be changed during the course.	1. Course introduction 2. Theme 1: American dream (An American Tail) 3. Theme 1: American dream (Rain Man) 4. Theme 1: American dream (They live) 5. Theme 1: American dream (American Beauty) 6. Theme 1: American dream (American Beauty) 7. Theme 1: American dream (American beauty) 8. Theme 2: Racial identity (The Birth of a Nation) 9. Theme 2: Racial identity (Malcolm X) 10. Theme 2: Racial identity (Hairspray) 11. Theme 2: Racial identity (Far from heaven) 12. Theme 2: Racial identity (Do the right thing) 13. Theme 2: Racial identity (Do the right thing) 14. Theme 2: Racial identity (Do the right thing) 15. Final Class: course review

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will need to make a presentation about a film of their choice. There will be readings assigned and students need to write film reviews and reports for films shown in class.
テキスト	All materials will be provided in class.
参考文献	Provided in class
評価方法	Presentation 20%, Film reviews (x2) 20% Reports (x2) 40%, Class participation 20%

09 年度以降	シネマ英語（火３）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。履修人数にもよりますが、前期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。 火曜日３，４時限目とも扱う内容は基本的に同じです。 重複受講はできません。	第１回　ガイダンス　サイレントからトーキーへ 第２回　ミュージカル映画について 第３回　映画に見られるテーマと表現分析その１ 第４回　テーマと表現分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テストと発表テーマ確認 第８～１０回　　学生プレゼンテーションの内容確認 第１１～１４回　プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト	プリント配布
参考文献	―
評価方法	分析コメント２０％、ワークシート３０％、プレゼンテーション２０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	シネマ英語（火３）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、テーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。 履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。 火曜３，４時限目とも扱う内容は基本的に同じです。 重複受講はできません。	第１回　ガイダンス 第２回　映画に描かれる日本人について 第３回　映画に見られるエスニシティとジェンダー テーマと表現　分析その１ 第４回　テーマと表現　分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現　分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現　分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テスト　プレゼンテーションのテーマ チェック 第８～１０回　　プレゼンテーション内容チェック 第１１～１４回　学生プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト	プリント配布
参考文献	―
評価方法	分析コメント２０％、ワークシート３０％、プレゼンテーション２０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	シネマ英語（火４）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。履修人数にもよりますが、前期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。 火曜日３，４時限目とも扱う内容は基本的に同じです。 重複受講はできません。	第１回　ガイダンス　サイレントからトーキーへ 第２回　ミュージカル映画について 第３回　映画に見られるテーマと表現分析その１ 第４回　テーマと表現分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テストと発表テーマ確認 第８～１０回　　学生プレゼンテーションの内容確認 第１１～１４回　プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト	プリント配布
参考文献	—
評価方法	分析コメント２０％、ワークシート３０％、プレゼンテーション２０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	シネマ英語（火４）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、テーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。 履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。 火曜３，４時限目とも扱う内容は基本的に同じです。 重複受講はできません。	第１回　ガイダンス 第２回　映画に描かれる日本人について 第３回　映画に見られるエスニシティとジェンダー テーマと表現　分析その１ 第４回　テーマと表現　分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現　分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現　分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テスト　プレゼンテーションのテーマ チェック 第８～１０回　　プレゼンテーション内容チェック 第１１～１４回　学生プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト	プリント配布
参考文献	—
評価方法	分析コメント２０％、ワークシート３０％、プレゼンテーション２０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	シネマ英語	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期では、様々なジャンルの映画（「ＳＦ」「ミュージカル」「歴史」「生死」）を取り上げます。テーマは取り扱う映画によって異なりますが、授業では映画を丁寧に詳細に鑑賞し、分析、そして批評することを目的とします。 １回の授業で１本の映画を分析する講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士で議論し、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。授業中は、基本的に英語の字幕をつけた状態で映画を観ます。時間の関係上、授業内で映画１本をノーカットで鑑賞するのは難しく、（断腸の思いで）割愛しなくてはならない名シーンも数多くあります。あらかじめ映画を鑑賞した上で、授業に参加していただくとより理解が深まるかと思います。 前に春学期のこの授業を受講して下さった学生の方は、申し訳ありませんが、以前取り上げた映画と数多く重複しておりますので、受講をご遠慮して頂くようお願いいたします。	1. 講義の概要 2.『*GHOST IN THE SHELL/* 攻殻機動隊』(1995) 3. *The Matrix* (1999)：他メディアからの影響も検証する 4. *Star Wars IV*(1977)：神話学者曰く「現代の神話」 5. *Gattaca* (1997)：自然出産者 vs デザイナーベイビー 6. *Slumdog Millionaire* (2008)：インドの現実？ 7. *Invictus* (2009)：南アフリカでのスポーツと政治 8. *Ten Commandments* (1956)：十戒を学んでみよう 9. *The Truman Show* (1998)：メディアに操られる世界 10. *Chicago* (2002)：殺人事件も娯楽になる？ 11. *Moulin Rouge!* (2001)：ラブソングの変遷を追う 12. *Hedwig and the Angry Inch* (2002)：不完全な私を受け入れるまで 13. *Dead Poet Society* (1989)：「いまを生きる」とは？ 14. 議論の時間 15. 春学期授業のまとめ

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、次回の授業で取り上げる映画を鑑賞してきてください。 ＊事後には、再度授業で取り上げた映画を英語の字幕なしで鑑賞してみてください。
テキスト	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
参考文献	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
評価方法	＊提出物（レポート）７０％、授業の参加度３０％　＊遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。 **欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。**＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります。**

09 年度以降	シネマ英語	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期では名優たちの映画&ドラマを取り上げます。授業では映画&ドラマを丁寧に詳細に鑑賞し、分析、そして批評することを目的とします。 １回の授業で１本の映画&ドラマを分析する講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士でディスカッションし、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。授業中は、基本的に英語の字幕をつけた状態で映画&ドラマを観ます。時間の関係上、授業内で映画１本をノーカットで鑑賞するのは難しく、（断腸の思いで）割愛しなくてはならない名シーンも数多くあります。あらかじめ映画を鑑賞した上で、授業に参加していただくとより理解が深まるかと思います。 前に秋学期のこの授業を受講して下さった学生の方は、申し訳ありませんが、以前取り上げた映画と数多く重複しておりますので、受講をご遠慮して頂くようお願いいたします。	1. 講義の概要 2. 履修決定の学生との確認、講義&ディスカッション 3. *Rain Man* (1988): Dustin Hoffman, Tom Cruise 4. *Blade Runner* (1982): Harrison Ford 5. *Indiana Jones and the Last Crusade* (1989): Harrison Ford 6. *One Flew Over the Cuckoo's Nest* (1975): Jack Nicholson 7. *The Devil Wears Prada* (2006): Meryl Streep 8. *Patch Adams* (1998): Robin Williams 9. *Roman Holiday* (1953): Audrey Hepburn 10. *The Shawshank Redemption* (1994): Morgan Freeman 11. *The Great Dictator* (1940): Charlie Chaplin 12. *Good Will Hunting* (1997): Matt Damon, Robin Williams 13. *Friends* (1994-2004): Jennifer Aniston, etc. 14. *The Big Bang Theory* (2007-) 15. 後期授業のまとめ

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、次回の授業で取り上げる映画を鑑賞してきてください。 ＊事後には、再度授業で取り上げた映画を英語の字幕なしで鑑賞してみてください。
テキスト	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
参考文献	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
評価方法	＊提出物（レポート）７０％、授業の参加度３０％　＊遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。 **欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。**＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります。**

09 年度以降	国際ツーリズム論	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
ツーリズムによる国際的な人間の流動は、経済・社会・文化の幅広い領域に関る複合的な現象である。本講義では、ツーリズム全般に関る基礎的な事象や概念を学び、個別のツーリズム関連産業や観光地について理解するために必要な知識や視座を習得する。 講義では、まずツーリズムに関る基礎的な用語や概念について解説し、次に現代ツーリズムを支える諸産業・メディアについて概説する。その上で、ツーリズムが地域社会に与える経済的、社会的・文化的影響について学ぶ。ゲストスピーカーによる授業を行うこともある。	1、ガイダンス：なぜツーリズムを学ぶのか？ 2、ツーリズムとは何か：諸概念の整理 3、ツーリズムの歴史 4、ツーリズムを支える諸産業① 5、ツーリズムを支える諸産業② 6、ツーリズムと情報／メディア 7、ツーリストのまなざし論 8、ツーリストと観光行動 9、ツーリズムとオーセンティシティ 10、ツーリズムの経済効果 11、ツーリズムの社会的文化的インパクト① 12、ツーリズムの社会的文化的インパクト② 13、観光地計画と観光政策① 14、観光地計画と観光政策② 15、まとめ

到達目標	国際ツーリズムに関して専門知識を習得し、経済、社会、文化、教育、環境などの分野における影響や変化について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内の指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト	指定しない。
参考文献	前田勇編著『新現代観光総論』学文社　大橋昭一ほか編『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20%　期末試験 80%

16 年度以降 15 年度以前	国際ツーリズム各論 特別セミナー（国際ツーリズム各論）	担当者	増田　由香子

講義目的、講義概要	授業計画
（アメリカの国立公園と環境教育） アメリカの国立公園は国内外から多くのビジターが訪れる人気の観光スポットです。全米で400カ所以上ある公園には800カ所以上のビジターセンターや魅力的なレンジャープログラムがあり、ハード面のみならずソフト面のコンテンツが充実しています。 また、国立公園は観光のみならず、アメリカの貴重な「自然・文化・歴史資源の保護保全」の役割を担っており、「環境教育」や「インタープリテーション（自然や歴史文化と人との橋渡し）」の重要な現場でもあります。 本講義ではアメリカの国立公園の歴史、組織の理念やシステム、環境教育とインタープリテーションについての概念や基礎知識を理解・習得し、なぜ国立公園が「America's best idea」と称されるのか、課題やグループディスカッション等を通して考察します。履修者の主体的な授業への参加が求められます。	1. イントロダクション&オリエンテーション 2. アメリカの国立公園の歴史・理念・組織① 3. アメリカの国立公園の歴史・理念・組織② 4. アメリカの国立公園の歴史・理念・組織③ 5. アメリカの国立公園の魅力と特徴① 6. アメリカの国立公園の魅力と特徴② 7. アメリカの国立公園の魅力と特徴③ 8. アメリカの国立公園の魅力と特徴④ 9. 日本の国立公園 10. 環境教育とは？インタープリテーションとは？ 11. 国立公園におけるインタープリテーションと環境教育 12. 国立公園のブランディングとエコツーリズム 13. 国立公園の役割と意義、課題と展望① 14. 国立公園の役割と意義、課題と展望② 15. 講義全体のまとめと課題レポートについて

到達目標	「国際ツーリズム論」で得た知見を深め、国際ツーリズムにおける諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと
テキスト	授業内で適宜資料を配付
参考文献	授業中に適宜示す
評価方法	平常点 70%（授業への参加度、受講姿勢、毎回のふりかえりシート、中間レポート）、期末レポート 30%。第 1 回目の授業において注意点等を説明する。 4 回以上の欠席は評価の対象にならない。

16 年度以降 15 年度以前	世界ブランド論 特別セミナー（世界ブランド論）	担当者	水本　義彦 （コーディネーター）

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの暮らす社会では、いつの時代にも言語、宗教、国境の壁を越え、世界の人々を魅了するモノや文化が生み出されてきました。こうした世界の人々に憧れられ、愛され続けてきたものを、私たちは「世界ブランド」として認知しています。 本講義では英語学科教員がリレー形式で、さまざまな分野の「世界ブランド」の創生、興亡の物語を論じていきます。一般的に「ブランド商品」として知られている宝飾品、ファッションに加え、金融、アニメーション、音楽、食文化、学術の世界で世界ブランド化した人物や企業などに注目し、その独創的なアイディアと戦略、成功と苦難の過程を学びます。今日急速に進展するグローバル化の現象は、国境と文化を超えた新たなブランドの創造過程でもあります。「世界ブランド」の考察を通して、われわれが暮らす現代世界の実相に迫ります。	1 ブランドの誕生①：Ｌヴィトン、ティファニー、トワイニング 2 ブランドの誕生②：ファッション、ツーリズム、エアライン、ホテル 3 アニメとブランド①：ディズニー映画 4 アニメとブランド②：ジブリ映画 5 広告コミュニケーション①：香水のブランド戦略 6 広告コミュニケーション②：PCのブランド戦略 7 最強の金融機関：ゴールドマン・サックス 8 社史で読みとくゴールドマン・サックス 9 世界を席巻する飲食ブランド①：ファーストフード文化 10 世界を席巻する飲食ブランド②：カフェ文化 11 世界ニセブランド論 12 学歴というブランド①：海外留学奨学金制度 13 学歴というブランド②：世界大学ランキング 14 セシル・ローズ：デビアス、ローズ奨学金制度 15 総括

到達目標	選択したコースでは学ぶことができない世界ブランドに関する専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各担当教員が紹介する文献等の講読。
テキスト	指定しない。
参考文献	各担当教員が紹介する文献
評価方法	各担当教員による小テスト（合計８回）の成績を集計して、総合評価を決定する。

16 年度以降 15 年度以前	ポップカルチャー・スタディーズ コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
ウォルト・ディズニーおよび彼が興したエンターテインメント企業は、後世に残る数々のアニメ映画作品を世に送り出してきただけでなく、それらを核として、壮大なディズニー文化を築いてきた。これは、いまやアメリカの（そして日本を含めた世界の）ポップカルチャーを語る上では避けて通ることのできないものである。 この授業では、20世紀初めから半ばまでのディズニーの歴史をたどりながら、その文化の諸相を、スケプティカルな視点から考察していくものとする。	1. オリエンテーション 2. 「蒸気船」ウィリー 3. 「シリー・シンフォニー」のシリーズ 4. 初の長編アニメーションへの挑戦 5. リアリズムとマルチ・プレーンカメラ 6. リアリズムと実写映像 7. リアリズムと特殊効果 8. 『ピノキオ』と人間至上主義 9. 戦争と労働争議 10. ウォルトのイデオロギーと戦時協力映画 11. 『ダンボ』と黒人差別問題 12. 更なるリアリズムの追求：『バンビ』 13. カルト映画『ふしぎの国のアリス』 14. 先住民の扱い『ピーターパン』と『ポカホンタス』 15. まとめと試験

到達目標	選択したコースでは学ぶことができないポップカルチャーに関する専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	扱われる映画作品をできる限り予め視聴しておくこと。また、20 世紀のアメリカ史について、基本的事項を繰り返し確認しておくこと。授業後は十分な復習が必要である。凡そ 4 時間の学修時間になる。
テキスト	なし
参考文献	授業中適宜紹介する
評価方法	欠席回数が 4 回までの受講者を評価対象とし、期末試験の成績で評価する。

16 年度以降 15 年度以前	フィルム・スタディーズ コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
ディズニー映画の好き嫌いを問うと、多くの学生が「好き」という答えを返してくれる。しかし、さらにその理由を問うと、キャラクターが「かわいいから」という表面的な思いをこえた考えが聞き出せないこともまた多い。この授業では、20世紀半ばから現在までに公開されたディズニーのアニメ映画―主として「ディズニー・クラシックス」と称される一連の長編映画―を、さまざまな変化や、背景にあるものを考えながら辿っていく。受講者には、例えばシンデレラとラプンツェルを比較しアカデミックなコメントができる基礎知識とスケプティカルな姿勢を身に着けて欲しい。 50年代以降急速に拡大した他部門（実写、TV番組、テーマパーク等）など、アニメ映画と不可分の周辺文化についても、当然詳しく扱っていくものとする。	1. オリエンテーション 2. 困難を乗り越える結婚：種の境界を越える 3. 困難を越える結婚：身分を越える 4. 育ちか、生まれか：『王様の剣』『ジャングルブック』 5. 育ちか、生まれか：『ポカホンタス』と『アナ雪』 6. 暗黒の時代：ウォルト亡き後の作品 7. ディズニーを救えキャンペーン 8. 経営交代と新生ディズニーの発足 9. ディズニーの第2黄金期 10. アレン・メンケンとハワード・アシュマン 11. 新しい幸せの定義：『アナ雪』 12. 戦う女の子：『ムーラン』他 13. 女同士の友情 14. ローカライゼーション：テーマパークを事例に 15. まとめと試験

到達目標	選択したコースでは学ぶことができない映画などに関する専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	扱われる映画作品をできる限り予め視聴しておくこと。また、20 世紀のアメリカ史について、基本的事項を繰り返し確認しておくこと。授業後は十分な復習が必要である。凡そ 4 時間の学修時間になる。
テキスト	なし
参考文献	授業中適宜紹介する
評価方法	欠席回数が 4 回までの受講者を評価対象とし、期末試験の成績で評価する。

16 年度以降 15 年度以前	ステージ・パフォーマンス 特別セミナー（ステージ・パフォーマンス）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的――　英米の舞台ミュージカル台本の抜粋（英文）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに示されているかについて考察する。 英米や時代にかかわらず、さまざまな作品や話題の作品をとりあげて、社会と文化の洞察をはかる。 実際に劇場に観に行って、ミュージカルは楽しいステージ・パフォーマンスであることを知り、舞台芸術への理解を深める。 講義概要――　West EndやBroadwayでの話題作品の台本（抜粋英文プリント）を精読する。映像化された作品がある場合は、その一部を教室で上映する。 日本語に翻訳した台本を音読するパフォーマンスを、実施する。 注意事項――　テキストの英文はTOEIC600点程度かそれ以上の英語力が前提です。600点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて準備してください。	1. 導入 2. ミュージカル作品1　3. ミュージカル作品2 4. ミュージカル作品3　5. ミュージカル作品4 6. ミュージカル作品5　7. ミュージカル作品6 8. ミュージカル作品7　9. ミュージカル作品8 10. ミュージカル作品9　11. ミュージカル作品10 12. ミュージカル作品11　13. ミュージカル作品12 14. ミュージカル作品13　15. まとめ 作品例――Beauty and the Beast、A Little Night Music、Mozart!、Woman of the Year、Kiss Me, Kate、Evita、Ghost、A Chorus Line、Titanic、Marie Antoinetteなど。 ＊実際に上演される作品がある場合は、上記の作品をその作品に変更する場合があります。

到達目標	選択したコースでは学ぶことができないステージ・パフォーマンスに関する専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、劇作品の台本抜粋の英文を日本語訳し、それをノートに用意して出席してください。
テキスト	舞台ミュージカル作品の台本抜粋（B5 で 4 ページ程度）を毎回配布します。
参考文献	授業中に言及する予定です。
評価方法	毎回の vocabulary と comprehension のテストで 50%、ステージ・レポート（700～800 字）2 編で 50%。レポートは 2 編必修。2 編提出しない場合、授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めない。学期末定期試験はなし。

16 年度以降 15 年度以前	海外留学と国際理解 特別セミナー（海外留学と国際理解）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
【本講義は、原則として英語で行います。教材・資料の約９割は英語、約１割は日本語です。アクティブ・ラーニングの手法を用いますので、活発な授業参加が必須です。】 This course is designed to help students to generate both a concrete and conceptual understanding of studying at a foreign university. Grounded in recent scholarship in educational and intercultural studies, this course provides students with opportunities to *reflect* on their recent or future study abroad experience and to *develop* further their intercultural competence through many collaborative activities. Topics to be covered include: goals and motivation; academic challenges; making local friends; discrimination; identity and agency; personal growth; life after study abroad; and Japanese universities in the global context. This course is highly recommended to students who have already studied at a foreign university or students who have a keen interest in study abroad. The workload is heavy and comparable to international standards.	1. Introduction to course 2. Why study abroad? 3. The Colonial Student in the 21st century 4. Different cultures of learning 5. Bioecological model of human development 6. Culture shock and adjustment 7. Study abroad as self-formation 8. Intercultural relationship development 9. Prejudice and discrimination 10. Intercultural competence and employability 11. Life after study abroad 12. Japanese higher education in the global context 13. Group presentation 1 14. Group presentation 2 15. Wrap-up 【受講生は毎週の課題として、5,000語程度の英語論文を読み、200語程度の英文を執筆することが求められます。教室では、この課題を基にさまざまな学習活動が展開されます。】

到達目標	選択したコースでは学ぶことができない海外留学と国際理解に関する専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 15 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including group research.
テキスト	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)
参考文献	To be introduced by the instructor
評価方法	Group research presentation 30%, group research paper 30%, weekly essays 30%, and contribution to the class 10%

16 年度以降 15 年度以前	Global Studies 1 特別セミナー（Global Studies 1）	担当者	Ｅ．ホフ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will examine the projection of Japanese culture internationally, perspectives from within Japan and its global reception. A focus will be on youth culture and how young people interact with content from Japan around the world. From the postwar period to the wide range of products available such as cars, electronics and software, Japan maintains an image around the world which is at times different from those within the country. Through interactive activities in class these perspectives will be explored for a deeper understanding of the nation we think we know.	Week 1: Course Introduction and Objectives Week 2: Japan and Technology - Postwar Development Week 3: Electronics Industry Week 4: Fashion and Design Week 5: Youth Fashion and Subculture Week 6: Anime and Manga Week 7: Otaku Related Content Week 8: Japan's Music Industry Week 9: J-Pop and the World Week 10: Video Games Beginnings Week 11: Japan and the Gaming Industry Week 12: Pop Culture and Soft Power Week 13: Final Presentations Week 14: Final Presentations Week 15: Final Presentations

到達目標	選択したコースでは学ぶことができない世界情勢に関する講義を英語で受け、専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	30 minutes should be set aside for reading before each class and homework will be assigned. Preparation for the final presentation will take more time.
テキスト	Handouts are provided by the instructor
参考文献	—
評価方法	In-class participation 20%, final presentation 30%, In-class quizzes 30%, Homework 20%

16 年度以降 15 年度以前	Global Studies 2 特別セミナー（Global Studies 2）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
Prejudice and Discrimination in Contemporary Japan 【本科目を受講するためには、最低でも TOEFL-iBT61 以上、TOEFL-ITP500 以上、IELTS6.0 以上、TOEIC700 以上、実用英語技能検定英検準 1 級以上の英語力が必要です。】 This course is designed to help students to develop both a concrete and conceptual understanding of prejudice and discrimination in contemporary Japan. Drawing on the literature of intercultural/intergroup contact, this course provides students with opportunities to *feel* the world of persons who are subjected to prejudice as well as to *analyse* its psycho-social dimensions. Students are also invited to the world of the 'Human Library', in which they will listen informally to people susceptible to prejudice in society (e.g. people with disabilities, sexual minorities, refugees, disaster victims) in order to gain different perspectives on prejudice and life in general. This course is highly recommended to students who want to (re)discover Japan from a co-cultural perspective and with global implications, and more importantly, to discover their unknown self through dialogue.	1. Introduction 2. Getting better acquainted 3. (Post-)multicultural perspective of Japan 4. The nature of prejudice and discrimination 5. Case study 1: Coming out in Japan 6. Case study 2: Adjunct instructors of English in Japan 7. The reduction of prejudice 8. Theory of listening 9. Anti-discrimination strategies 1: Human Library 10. Anti-discrimination strategies 2: Blue Eyes/Brown Eyes 11. (Anti-)multiculturalism in Japan 12. Tutorial 13. Group presentation 1 14. Group presentation 2 15. Wrap up *** This course will be taught in English. The workload is heavy and comparable to international standards.**

到達目標	選択したコースでは学ぶことができない世界情勢に関する講義を英語で受け、専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 15 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including group research.
テキスト	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)
参考文献	To be introduced by the instructor
評価方法	Group research presentation 30%, group research paper 30%; weekly essays 30%, and contribution to the class 10%

09 年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
英国スパイ・アクション映画のブランド「００７」シリーズを、鑑賞しながら、授業を進めます。テキストを併用し、情報もしっかりと獲得します。 このスパイ映画に登場する世界の主要都市、世界のブランド、そして当時の国際関係を解説します。ポイントは、インテリジェンスの視点から世界を眺めることです。 スパイ映画「００７」シリーズは、１９６０年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる５０年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。 映画の中では、イギリスが世界に誇る多くのブランド品が登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。“世界ブランド論”の授業の一翼を担います。	１　スパイ映画「００７ スカイフォール」世界のいま ２　　同上 ３　スパイ映画「００７」―１９９０年代の世界 ４　スパイ映画「００７」―１９９０年代の世界 ５　　同上 ６　スパイ映画「００７」―１９８０年代の世界 ７　スパイ映画「００７」―１９８０年代の世界 ８　　同上 ９　スパイ映画「００７」―１９７０年代の世界 １０　　同上 １１　スパイ映画「００７」―１９６０年代の世界 １２　スパイ映画「００７」―１９６０年代の世界 １３　　同上 １４　原作者イアン・フレミングの世界 １５　ミュージカル映画「チキ・チキ・バン・バン」

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画・パワーポイント資料の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト	『グローバル社会論資料集』
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

09 年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
英国スパイ・アクション映画のブランド「００７」シリーズを、鑑賞しながら、授業を進めます。テキストを併用し、情報もしっかりと獲得します。 このスパイ映画に登場する世界の主要都市、世界のブランド、そして当時の国際関係を解説します。ポイントは、インテリジェンスの視点から世界を眺めることです。 スパイ映画「００７」シリーズは、１９６０年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる５０年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。 映画の中では、イギリスが世界に誇る多くのブランド品が登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。“世界ブランド論”の授業の一翼を担います。	１　スパイ映画「００７ スカイフォール」世界のいま ２　　同上 ３　スパイ映画「００７」―１９９０年代の世界 ４　スパイ映画「００７」―１９９０年代の世界 ５　　同上 ６　スパイ映画「００７」―１９８０年代の世界 ７　スパイ映画「００７」―１９８０年代の世界 ８　　同上 ９　スパイ映画「００７」―１９７０年代の世界 １０　　同上 １１　スパイ映画「００７」―１９６０年代の世界 １２　スパイ映画「００７」―１９６０年代の世界 １３　　同上 １４　原作者イアン・フレミングの世界 １５　ミュージカル映画「チキ・チキ・バン・バン」

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画・パワーポイント資料の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト	『グローバル社会論資料集』
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

09 年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあって、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。現在の国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか。本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自グローバル社会を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。 なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週のグローバル・イシューズ」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心を喚起したい。	1　はじめに 2　行為主体（1）主権国家、主権国家体制 3　行為主体（2）国際組織 4　行為主体（3）ＮＧＯ、多国籍企業 5　地域主義・地域協力（1）ヨーロッパ統合の歩み 6　地域主義・地域協力（2）ＡＳＥＡＮ 7　戦争と平和（1）戦争、勢力均衡、同盟 8　戦争と平和（2）レジーム、制度、規範 9　戦争と平和（3）予防外交、人道的介入、平和構築 10　人間の安全保障 11　グローバリゼーションとは何か 12　グローバル・イシューズ（1）貧困 13　グローバル・イシューズ（2）地球環境問題 14　グローバル・イシューズ（3）人権、民主化 15　まとめ

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の講読
テキスト	指定しない
参考文献	初回講義で参考文献リストを配布する
評価方法	コメント点 20%、試験 80%

09 年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあって、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。現在の国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか。本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自グローバル社会を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。 なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週のグローバル・イシューズ」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心を喚起したい。	1　はじめに 2　行為主体（1）主権国家、主権国家体制 3　行為主体（2）国際組織 4　行為主体（3）ＮＧＯ、多国籍企業 5　地域主義・地域協力（1）ヨーロッパ統合の歩み 6　地域主義・地域協力（2）ＡＳＥＡＮ 7　戦争と平和（1）戦争、勢力均衡、同盟 8　戦争と平和（2）レジーム、制度、規範 9　戦争と平和（3）予防外交、人道的介入、平和構築 10　人間の安全保障 11　グローバリゼーションとは何か 12　グローバル・イシューズ（1）貧困 13　グローバル・イシューズ（2）地球環境問題 14　グローバル・イシューズ（3）人権、民主化 15　まとめ

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の講読
テキスト	指定しない
参考文献	初回講義で参考文献リストを配布する
評価方法	コメント点 20%、試験 80%

09 年度以降	英語圏の国際関係 a	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、オーストラリアの歴史をイギリスの植民地時代から第二次世界大戦終結時まで振り返り、現代オーストラリア理解の一助とすることである。 多くの日本人が観光客、留学生として訪問し、また経済的にも日本と繋がりが深い国でありながら、オーストラリアがどのような歴史をたどってきたのかを知る者はおどろくほど少ないのが現状である。また知りたいと思っても、日本では情報がそもそも少なく、オーストラリアを知る機会はおのずと限られてしまっている。 本講義では、イギリス人が18世紀後半に入植して、6つの植民地がそれぞれ発展を遂げ、それが1901年にオーストラリア連邦として独立し、そして20世紀前半の二つの世界大戦を経験するまでの、オーストラリアの歴史を、イギリス（英帝国、英連邦）やアメリカ、アジア地域（日本や中国、東南アジア）との関係性の中で振り返って行く。 本講義ではアウトラインを提示したレジメを配付する。なお2回程度、理解度確認テストを実施する予定。	第1回：イントロダクション～オーストラリアを学ぶ意義 第2回：植民地オーストラリア①～植民地の誕生 第3回：植民地オーストラリア②～植民地の発展 第4回：大英帝国・英連邦とオーストラリア① ～国のなかのオーストラリア 第5回：大英帝国・英連邦とオーストラリア② ～英連邦、コモンウェルスのなかのオーストラリア 第6回：ゴールドラッシュと白豪主義政策 第7回：多文化主義社会オーストラリア 第8回：講義前半の総括と質疑応答 第9回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア ～「二つのナショナリズム」 第10回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とアンザック精神 第11回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とオーストラリア国内社会 第12回：第二次世界大戦～アジア国際関係と黄禍論 第13回：2つの捕虜収容所～アンボンとカウラ 第14回：対日講和問題とオーストラリア 第15回：総括と質疑応答

到達目標	英語圏の国際関係に関して専門知識を習得し、歴史的背景を踏まえながら英語圏諸国の国際関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。
テキスト	永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。
参考文献	講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布
評価方法	不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。

09 年度以降	英語圏の国際関係 b	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
日本にとって、オーストラリアとの関係は極めて重要である。石炭・天然ガス・鉄鉱石など天然資源の供給地として、民主主義・人権など政治的価値観を共有する国家として、さらにはアジア太平洋における安全保障協力のパートナーとして、オーストラリアは日本にとって重要な国家である。 それにも関わらず、観光地としてのイメージはあっても、私たちのあいだでオーストラリアに対する全般的理解は浅い。本講義では、戦後のアジア太平洋国際関係においてオーストラリアがどのような外交を展開してきたのかを概観し、受講者には21世紀の国際関係において日本が学ぶべきものは何かを考えてもらいたい。 本講義では、第二次世界大戦後のオーストラリアの外交・安全保障を中心に見ていく。オーストラリアは、第二次世界大戦を契機に、イギリスからアメリカ合衆国へと自らの安全保障の拠り所を変換させ、さらに日本を含めたアジアとの関係を深化させていった。こうした流れに沿いながら、オーストラリア外交の歴史を概観していく。 本講義ではアウトラインを提示したレジメを配付する。なお2回程度、理解度確認テストを実施する予定。	第1回：イントロダクション～オーストラリア外交を見る眼 第2回：チフリー労働党政権の外交～新たな国際関係構築の模索 第3回：アンザス同盟の実現 第4回：冷戦下のアジア① ～中国の誕生、マラヤ暴動、朝鮮戦争、第一次インドシナ危機 第5回：冷戦下のアジア② ～イギリスのアジアの戦争「対決政策」 第6回：冷戦下のアジア③ ～アメリカのアジアの戦争「ベトナム戦争」 第7回：ポストベトナムのオーストラリア外交 第8回：講義前半の総括と質疑応答 第9回：冷戦末期から冷戦後のオーストラリア外交 ～オーストラリアの「アジア化」 第10回：ミドルパワー外交①その定義 第11回：ミドルパワー外交②その実践 第12回：アジア太平洋地域の経済統合 第13回：日豪関係の歴史的展開①～戦後から 70 年代 第14回：日豪関係の歴史的展開②～80 年代以降 第15回：21世紀オーストラリア外交の行方＆質疑応答

到達目標	英語圏の国際関係に関して専門知識を習得し、歴史的背景を踏まえながら英語圏諸国の国際関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。
テキスト	永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。
参考文献	講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布
評価方法	不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。

13 年度以降 12 年度以前	グローバル・ヒストリーa 国際関係特殊講義 a	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦（The Cold War)」の展開を考察する。 春セメスターでは、ヨーロッパ、地中海周辺地域、アフリカにおける米ソ冷戦の展開とヨーロッパ諸国の冷戦政策に加え、西ヨーロッパ諸国による脱国家的な地域統合（今日の欧州連合）の試み、イギリス、フランス等のヨーロッパ諸国の帝国の解体・脱植民地化と冷戦の関連について考察する。また、国際機関やNGO、市民運動による国際的、またはトランスナショナルな連帯がヨーロッパの冷戦の進展、変容、終焉に及ぼした影響にも注目する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。	1　はじめに 2　第二次世界大戦の展開：大戦の起源・展開 3　ヨーロッパ冷戦の起源 4　ヨーロッパ分断体制の形成（1） 5　ヨーロッパ分断体制の形成（2） 6　「危機の時代」の米ソ関係とヨーロッパ 7　ヨーロッパ植民地支配の終焉：アフリカ 8　冷戦構造の多極化とデタント 9　米ソ・デタントとヨーロッパ・デタント 10　デタントの崩壊 11　新冷戦とヨーロッパ 12　冷戦の終焉（1）：ゴルバチョフ、東欧革命 13　冷戦の終焉（2）：ドイツ統一、ソ連崩壊 14　冷戦後のヨーロッパ：民主化、市場経済化 15　まとめ

到達目標	グローバル社会の歴史に関する専門知識を習得し、その背景事情、および未来の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の講読
テキスト	指定しない
参考文献	初回講義で参考文献リストを配布する
評価方法	コメント点 20%、試験 80%

13 年度以降 12 年度以前	グローバル・ヒストリーb 国際関係特殊講義 b	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦(The Cold War)」の展開を考察する。 秋セメスターでは、アジア・中東における米ソ冷戦、米中対立の展開のほか、日本および欧米諸国のアジア、中東における帝国解体とそれに伴う第三世界諸国による世界大での独立戦争、非同盟・中立運動、また、70年代以降のアジア国際関係の構造転換・地域紛争、経済発展、民主化などについて議論する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。	1　はじめに 2　第二次世界大戦の展開：日中戦争、日米戦争 3　大戦の終結と占領：日本帝国の解体 4　朝鮮戦争とアジア国際秩序の変容 5　脱植民地化（1）：南アジア、東南アジア 6　脱植民地化（2）：中東 7　非同盟・中立運動 8　アジア冷戦における中ソ対立 9　ベトナム戦争 10　米中和解 11　1970年代の地域紛争 12　新冷戦とアジア 13　経済発展と民主化 14　冷戦の終焉とアジア 15　まとめ

到達目標	グローバル社会の歴史に関する専門知識を習得し、その背景事情、および未来の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の講読
テキスト	指定しない
参考文献	初回講義で参考文献リストを配布する
評価方法	コメント点 20%、試験 80%

09 年度以降	国際開発論（世界のエアライン・ホテル）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、「国際」と「開発」をキーワードに、エアライン、ホテル、リゾートなどツーリズム産業を扱います。 シンガポールでは、強力な政府が国策会社テマセクを設立し、シンガポール航空、ラッフルズ・ホテル、有力な民間企業の大半を傘下に置いてきました。小国シンガポールが生き延び、そして豊かな先進国として成長し続けるために、国家主導で開発政策を導入したのです。 常に顧客のニーズを考え、誰にも負けない比較優位を実現することで、シンガポール航空は世界ナンバーワン・クラスのエアラインへと飛躍しました。 ビデオ映像、パワーポイント資料を活用し、テキストを使用しながら授業を進めます。	1　世界のエアライン・ホテル・リゾート 2　世界のエアライン：ＴＯＰ　１０ 3　世界のエアライン：ＴＯＰ　１０ 4　世界のエアライン：ランキングで見る特色 5　世界のエアライン：ランキングで見る特色 6　世界の国際空港　エアポート：ＴＯＰ　１０ 7　海洋リスク 8　　同上 9　　同上 10　小さなスイスが「観光大国」へ変身、その謎を解く 11　世界のホテル 12　世界のホテル 13　世界のホテル 14　日本のツーリズム：ＪＴＢ、国際観光ホテル、東京 15　日本のツーリズム：ＪＴＢ、国際観光ホテル、東京

到達目標	国際開発に関して専門知識を習得し、開発途上国が直面する課題とその解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画・パワーポイント資料の時代背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト	竹田いさみ『世界を動かす海賊』（ちくま新書）など。
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

09 年度以降	国際協力論	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、開発途上国の開発をめぐる国際協力を中心に、その歴史、仕組み、変化、課題を検討します。講義は３つのシリーズから構成されます。 第１の「国際協力の歴史」では、植民地期から現在までを時代ごとに区分し、それぞれの時期の国際協力の特徴を多面的に描きながら、その変化を捉えます。 第２の「開発途上国の開発と国際協力」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、それを後押ししてきた国際援助のあり方とその影響について考えます。 第３の「グローバル化時代の開発と国際協力」では、グローバル化時代の特徴・影響や開発のトレンドを探りつつ、MDGsなどを例に新たな開発と国際協力の方向性について検討します。	１．イントロダクション：国際協力、国際開発、開発援助 **＜国際協力の歴史＞** ２．開発の格差を生んだ要因：植民地支配 ３．欧米諸国の植民地政策とその功罪 ４．日本の植民地支配と戦後の国際協力 ５．冷戦期の国際関係と国際協力 ６．ポスト冷戦時代の国際協力 **＜開発途上国の開発と国際協力＞** ７．経済開発の基本形と途上国の実態 ８．工業化の段階と国際協力 ９．高度経済成長の要因と弊害 10．高度成長の弊害としての貧富の格差（中国） 11．経済格差の社会・文化的要因（カースト制度） **＜グローバル化時代の開発と国際協力＞** 12．グローバル化時代の特徴と開発協力 13．グローバル化がもたらす開発途上国への影響 14．新たなテーマとMDGs／SDGs 15．国際協力／開発援助

到達目標	国際協力に関して専門知識を習得し、国際協力に関連した事例、および国際協力の実態や新たな展開などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるので、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。
テキスト	授業ごとに配布するレジュメ資料を使用します。特定の文献をテキストとして指定することはしません。
参考文献	講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。

09 年度以降	国際交流論	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の狙いは、学生が国際交流の基本的な考え方を学び、現代のグローバル社会において様々な形での国際交流・国際貢献にチャレンジする基盤を作ることです。 授業は2つのパートから構成されます。前半のパートでは異文化コミュニケーションを中心とした国際交流の考え方について学術的、及び実証的な観点から学び、国際的活動への基礎を固めます。後半のパートでは、実際に行われている文化交流や国際協力等の事例を取り上げ、それらの成果を考えると共に、活動に関与している人材が抱える課題等も検討します。 授業では、積極的に発言することが求められます。将来に向けて、国際交流力を付けてグローバルに活動したいと考えている意欲のある学生の受講を歓迎します。	1. 講義の概要 2. 世界とつながる（歴史と現代） 3. 日本人の苦手意識（文化） 4. コミュニケーション 4 つのステップ 5. 共感力を鍛える(1) 6. 共感力を鍛える(2) 7. 過剰な意識を手放す 8. 総合力を養う 9. 対応力を鍛える 10. 国際交流の実践：青年の船&ボランティア 11. 国際協力の実践：青年海外協力隊の活動 12. 国際協力の実践：人道援助・開発援助 13. 国際協力の実践：国際公務員 14. 講義のまとめ (1) 15. 講義のまとめ (2)

到達目標	国際交流に関して専門知識を習得し、分野ごとの文化交流事業、文化交流政策、文化交流目的などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各自、事前に教科書を読んで授業に臨んでください。その他の資料は、随時、ポータルサイトにアップロードします。
テキスト	石川幸子著『世界のどこでも誰とでもうまくいく共感コミュニケーション』（同文館、2017 年 4 月）
参考文献	石川幸子著『敵をもファンに変える超一流の交渉術』（実務教育出版、2016 年）
評価方法	定期試験 80%、授業内レポート 20%

09 年度以降	国際ＮＧＯ・ボランティア論	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化、開発途上国の多極化といった現象が進むなか、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。また、国際協力を担う主体も、国家、国際機関、企業などに加え、非政府組織（NGO）やボランティア組織にも注目が集まっています。本講義では、途上国への開発支援におけるODAやNGOの役割に注目しながら、開発協力の諸問題について考えます。本講義は３つのシリーズから構成されます。 第１の「開発援助の仕組みと展開」では、援助の主流をなしてきた政府開発援助（ODA）の現状を把握します。 第２の「NGOの役割と課題」では、NGOの歴史、位置付け、実態、役割などを捉えるとともに、開発とNGOの関係を具体的なケースを取り上げながら考えます。 第３の「開発援助の新たなテーマ」では、開発援助に関して現在起こっている新しい動きを捉えます。	１．イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO **＜開発援助の仕組みと展開＞** ２．ODA の仕組みとトレンド ３．日本の ODA の特徴 ４．日本の援助実績 ５．開発援助の問題点 ６．ODA の課題と改革 ７．国際援助の新たなトレンドと NGO **＜NGO の役割と課題＞** ８．NGO の定義と歴史的経緯 ９．NGO の機能と途上国での役割 10．開発と NGO：ケーススタディ・バングラデシュ 11．日本における市民活動の歴史と国際協力 NGO 12．日本の国際協力 NGO の実績と課題 **＜開発援助の新たなテーマ＞** 13．マイクロクレジットという方法 14．中国による「ODA」の特徴と問題点 15．開発援助とNGOの将来

到達目標	国際 NGO・ボランティアに関して専門知識を習得し、現代の国際社会が抱える開発協力の諸課題とその解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるので、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。
テキスト	授業ごとに配布するレジュメ資料を使用します。特定の文献をテキストとして指定することはしません。
参考文献	講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。

13 年度以降 12 年度以前	国際リスク・海洋論（ディズニー映画） 国際関係特殊講義 b	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
W・ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」を鑑賞しながら、世界史に登場した「海賊（パイレーツ）」の正体に迫ります。 毎回の授業では、前半にディズニー映画などを取り上げ、授業の後半で、テキストを参照して、知識を獲得します。 この授業では「ツーリズム」を「移動すること」と解釈し、移動のリスクを冒して暴れ回った海賊、パイレーツに光をあてます。世界ブランドになったコーヒー、紅茶、スパイスの世界史も触れます。英国初のブランド・ビジネスは、パイレーツと縁が深いのです。 （注意）既に同担当者の「国際関係特殊講義」を修得済みの場合は履修不可とします。	１　ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」 ２　ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」 ３　ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」 ４　英雄としての海賊 ５　　同上 ６　映画「エリザベス」＜パイレーツ女王＞ ７　海洋覇権のゆくえ――パイレーツの役割 ８　スパイス争奪戦――パイレーツの「東インド会社」 ９　スパイス争奪戦 １０　ディズニー映画「カリブの海賊＜ワールド・エンド＞」 シンガポール、「東インド貿易会社」 １１　コーヒーから「午後の紅茶」へ １２　コーヒーから「午後の紅茶」へ １３　ディズニー映画「カリブの海賊」関連 １４　　同上 １５　まとめ

到達目標	国際紛争、海洋問題に関して専門知識を習得し、その解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画・パワーポイント資料の時代背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト	竹田いさみ『世界史をつくった海賊』（ちくま新書）など。
参考文献	授業中にお知らせします。
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

09 年度以降	国際関係特殊講義 a	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
本講義ではイギリス帝国の誕生、発展、そして解体までの歴史を、当時の国際関係（構造やプロセス）と関連づけながら概観していく。まずは帝国、帝国主義、脱植民地化の定義や国際政治上の意味について説明した上で、イギリス帝国の歴史を概観する。続いて、より詳細にイギリス帝国の誕生と発展のプロセスを振り返り、最後に東南アジア、南アジア、中東、南太平洋における脱植民地化の進展を具体的に検証していく。 講義を進めるにあたっては、帝国とはいったい何か、そして帝国と当時の国際関係にはどのような関係が存在したのか、さらには帝国の解体、脱植民地化と戦後の国際関係（冷戦）がどのように影響を及ぼしあったのか、などを念頭に置きながら、イギリス帝国の歴史を振り返っていく。 イギリス帝国の歴史を振り返ることを通じて、イギリス帝国についての理解を深めるだけでなく、帝国の存在やその解体（を考えること）が現代国際関係にどのようなインプリケーションを持っているのか、自分なりの考え方を持つことができるであろう。	1. オリエンテーション（本講義の目的と概要） 2. 国際政治と帝国・脱植民地化① 3. 国際政治と帝国・脱植民地化② 4. 国際政治と帝国・脱植民地化③ 5. 国際政治と帝国・脱植民地化④ 6. 国際政治と帝国・脱植民地化⑤ 7. 前半の授業のまとめと質疑応答 8. イギリス帝国の誕生と発展①～英帝国の誕生（その１） 9. イギリス帝国の誕生と発展②～英帝国の誕生（その２） 10. イギリス帝国の誕生と発展③～英帝国の再編（その１） 11. イギリス帝国の誕生と発展④～英帝国の再編（その２） 12. イギリス帝国の誕生と発展⑤～英帝国の発展（その１） 13. イギリス帝国の誕生と発展⑥～英帝国の発展（その２） 14. イギリス帝国の解体、脱植民地化（総論） 15. 授業の総括

到達目標	国際関係に関して学際的な専門知識を習得し、歴史学、国際関係論、地域研究などについてさまざまな観点から分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までに授業内容と疑問点をまとめておくこと。
テキスト	川北稔・木畑洋一編『イギリスの歴史　帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000 年。（図書館所蔵）
参考文献	講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布します。
評価方法	リアクションペーパーの提出（40%）と学期末試験（論述形式、60%）による。

09 年度以降	国際関係特殊講義 b	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、「紛争・平和と国際協力」をテーマとして、理論(conflict theories)と国際社会における実践を考察しながら、平和を実現するために国際社会が歩んできた歴史を理解するとともに、現代、国際社会が直面する課題とその解決策について考えます。 講義は3つのパートから構成されます。まず、パート１で、紛争・平和の歴史と理論を学んだ後、パート２で平和実現に向けた国際社会の活動を、国際機構、法、軍事介入、人道援助、並びに開発援助の5つの観点から考察し、それぞれの分野での成果と課題を検討します。パート３では、日本の政府開発援助(開発協力)で実施されてきた平和構築支援について、その政策と実践について学びます。事例研究として、カンボジアやフィリピン（ミンダナオ）等の具体的な平和構築活動を紹介し、平和実現のための国際協力の考え方が各国の事例においてどのように反映されているかを検討します。	1.　講義の概要 2.　紛争の歴史と変容 3.　冷戦後の新しい紛争(1) 4.　冷戦後の新しい紛争(2) 5.　平和のための国際機構(1) 6.　平和のための国際機構(2) 7.　平和のための法 8.　人間の安全保障の考え方(1) 9.　人間の安全保障の考え方(2) 10.　軍事介入（保護する責任） 11.　人道援助 12.　開発援助（開発協力） 13.　開発援助（開発協力）の事例研究 14.　開発援助（開発協力）の事例研究 15.　講義のまとめ

到達目標	国際関係に関して学際的な専門知識を習得し、歴史学、国際関係論、地域研究などについてさまざまな観点から分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ポータルサイトに授業の資料をアップロードしますので、事前に各自でダウンロード後、目を通してから講義に臨んでください。
テキスト	適宜、授業内で紹介します。
参考文献	適宜、授業内で紹介します。
評価方法	定期試験　100%

09 年度以降	国際関係特殊講義 b	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は講義形式で進める。サブ・サハラ・アフリカ（SSA）に着目し、歴史、政治、経済、社会などの側面から国際社会におけるアフリカの果たしうる役割について考察する。 数多くのアフリカ諸国が独立を果たした1960年は「アフリカの年」と呼ばれる。独立から半世紀以上が経過した現在、アフリカはこれまでの援助の対象としての立場から脱却し、豊富な天然資源、一部でみられる順調な経済成長、労働人口の増加などに着目し、世界最後のフロンティアとして国際社会の関心を集めるようになった。実情はどうだろうか。 この授業では、アフリカを取り巻く国際関係を理解するのに必要な視点また情報を提供する。映像資料を積極的に用い、地理的・心理的に未だ遠いアフリカを身近に感じてもらいたい。	1. 講義概要の説明 2. 多様なアフリカ 3. つくられたアフリカ像 4. 奴隷貿易の歴史・影響 5. 植民地支配の歴史 6. 植民地支配の影響 7. 冷戦とアフリカ 8. 国際支援と国家建設 9. 経済的条件付けと自由貿易 10. 政治的条件付けと民主化 11. 蔓延る貧困 12. 食糧問題 13. 環境問題 14. 地域統合 15. 授業総括

到達目標	国際関係に関して学際的な専門知識を習得し、歴史学、国際関係論、地域研究などについてさまざまな観点から分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で用いる資料をポータルサイトに掲載する。予習・復習を怠らないこと。
テキスト	適宜配布する。
参考文献	適宜配布する。
評価方法	レポート 30%、学期末試験 70%

13 年度以降 12 年度以前	国際関係文献セミナーa 国際関係文献研究 a	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、国際関係に関わる日本語と英語の両方の文献を用いて国際情勢を分析し、多角的な視点を身に付けることを目的とする。具体的には、国際支援、持続可能な開発目標（SDGs)、人の移動、食糧安全保障など国際社会が直面する事象をテーマとして扱う。資料としては、新聞記事、論文、国連決議、国際機関の発行する報告書などを用いる。 この授業を通じて、文献（一次資料・二次資料）調査方法、レポート執筆方法を身に付けてもらいたい。またディスカッションの時間も設ける。学期完結の授業であり、授業効率化のため、毎回の授業で課題を課す。	1. 授業概要の説明 2. レポート・プレゼンテーション方法 3. 文献調査方法 4. 広がる不平等 5. 核拡散 6. 持続可能な開発目標（SDGs） 7. 国際支援の形–伝統的ドナー 8. 国際支援の形–新ドナー 9. 人の移動–移民 10. 人の移動–ディアスポラ・コミュニティ 11. 食糧安全保障–土地争奪 12. 食糧安全保障–水問題 13. 自由貿易 14. 地域統合の行方 15. 授業総括

到達目標	文献研究を通じて、国際関係に関する特定分野について専門知識と理論を習得し、国際社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で用いる資料をポータルサイトに掲載するので、予習・復習を怠らないこと。
テキスト	適宜配布する。
参考文献	適宜配布する。
評価方法	課題 20%、授業貢献度 20%、小テスト 20%、学期末レポート 40%

13 年度以降 12 年度以前	国際関係文献セミナーa 国際関係文献研究 a	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「人間の安全保障（human security）」のコンセプトの基礎を理解した上で、東アジア各国において人間の安全保障がどのように理解され、実践されているかについて国別の論文を読み解きながら、各国の比較研究を行います。 1. 授業は、グループによるプレゼン(英語または日本語)とクラス討論形式で進めます。 2. 学年混合の主体的なグループ・ワークによってプレゼンの準備・発表を行います。 授業の流れは、プレゼン内容（対象国・論文）の決定→グループ準備作業→授業でのプレゼン→全体での討論・まとめ。学期の最後には５分間の課題スピーチを行います。 授業内容・教材の詳細は、最初の授業で説明します。東南アジア各国の情勢に関心のある学生の参加を歓迎します。	1. Orientation 2. Introduction: Lecture on human security 1 3. Introduction: Lecture on human security 2 4. Human security in Japan 5. Human security in Cambodia 1 6. Human security in Cambodia 2 7. Human security in Indonesia 1 8. Human security in Indonesia 2 9. Human security in Malaysia 1 10. Human security in Malaysia 2 11. Human security in Myanmar 1 12. Human security in Myanmar 2 13. Review of the studied papers 14. Speech on human security 15. Speech on human security

到達目標	文献研究を通じて、国際関係に関する特定分野について専門知識と理論を習得し、国際社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の論文を読んで授業に臨み、積極的にディスカッションに参加してください。 発表担当グループは、プレゼン準備としてパワポを作成します。
テキスト	JICA 研究所のワーキング・ペーパー・シリーズ “Human Security in Practice: East Asian Experience” 詳細については、最初の授業で説明します。
参考文献	適宜、授業内で紹介します
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表４０％　＆　授業中討論への参加度(スピーチを含む)　６０％

13 年度以降 12 年度以前	国際関係文献セミナーb 国際関係文献研究 b	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「人間の安全保障（human security）」のコンセプトの基礎を理解した上で、東アジア各国において人間の安全保障がどのように理解され、実践されているかについて国別の論文を読み解きながら、各国の比較研究を行います。 1. 授業は、グループによるプレゼン(英語または日本語)とクラス討論形式で進めます。 2. 学年混合の主体的なグループ・ワークによってプレゼンの準備・発表を行います。 授業の流れは、プレゼン内容（対象国・論文）の決定→グループ準備作業→授業でのプレゼン→全体での討論・まとめ。学期の最後には５分間の課題スピーチを行います。 授業内容・教材の詳細は、最初の授業で説明します。東南アジア各国の情勢に関心のある学生の参加を歓迎します。	1. Orientation 2. Review of the concept of human security 3. Human security in Philippines 1 4. Human security in Philippines 2 5. Human security in Singapore 1 6. Human security in Singapore 2 7. Human security in Thailand 1 8. Human security in Thailand 2 9. Human security in Vietnam 1 10. Human security in Vietnam 2 11. Human security in South Korea 12. Human security in China 13. Review of the studied papers 14. Speech on human security 15. Speech on human security

到達目標	文献研究を通じて、国際関係に関する特定分野について専門知識と理論を習得し、国際社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の論文を読んで授業に臨み、積極的にディスカッションに参加してください。 発表担当グループは、プレゼン準備としてパワポを作成します。
テキスト	JICA 研究所のワーキング・ペーパー・シリーズ “Human Security in Practice: East Asian Experience”
参考文献	適宜、授業内で紹介します
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表４０％　＆　授業中討論への参加度(スピーチを含む)　６０％

16 年度以降 15 年度以前	異文化コミュニケーション論 異文化間コミュニケーション論 a	担当者	佐々木　輝美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 【目的1】異文化コミュニケーションに関する用語や概念を説明することができる。 【目的2】文化の多様性を学び、その学びに基づいた適切なコミュニケーションができる。 講義概要 　異文化コミュニケーションの基本的要素を学んだ後、異文化コミュニケーションの重要な諸テーマ（自己の発見、日本的表現方法と欧米的表現方法、自民族中心主義と多文化主義、カルチャーショックと適応、非言語コミュニケーションなど）について学んでいく。	1. 授業の概要とねらいを説明後、グループ分け 2. 異文化コミュニケーションと他のコミュニケーション領域との関係について 3. 異文化コミュニケーションの諸要素、自己の発見（ジョハリの窓） 4. 文化の定義と多様性 5. 日本的表現方法と西洋的表現方法の諸要因と歴史的背景 6. グローバルな表現方法とは何か？ 7. グローバル表現法を使ったスピーチ【スピーチ実践】 8. コミュニケーションと行動の変化 9. 対立のコミュニケーション 10.自民族中心主義と多文化主義 11.カルチャーショックと適応、および人間的成長 12.非言語コミュニケーションの諸要因 13.異文化コミュニケーションに関するDVD視聴【ミニレポート】 14.賢い異文化コミュニケーターに必要な要素について 15.まとめ

到達目標	異文化コミュニケーション研究に関して総論的な専門知識を習得し、様々な視点から文化とコミュニケーションの関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、ミニレポートや発表に備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと。
テキスト	テキスト：プリント配布予定
参考文献	参考文献：石井敏他著『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書, 2013. 矢代京子他著『異文化コミュニケーション・ワークブック』三修社, 2001.
評価方法	授業中の学習活動への参加 30%、スピーチ実践とミニレポート 30%、最終レポート 40%

16 年度以降 15 年度以前	異文化コミュニケーション論 異文化間コミュニケーション論 a	担当者	佐々木　輝美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 【目的1】異文化コミュニケーションに関する用語や概念を説明することができる。 【目的2】文化の多様性を学び、その学びに基づいた適切なコミュニケーションができる。 講義概要 　異文化コミュニケーションの基本的要素を学んだ後、異文化コミュニケーションの重要な諸テーマ（自己の発見、日本的表現方法と欧米的表現方法、自民族中心主義と多文化主義、カルチャーショックと適応、非言語コミュニケーションなど）について学んでいく。	1. 授業の概要とねらいを説明後、グループ分け 2. 異文化コミュニケーションと他のコミュニケーション領域との関係について 3. 異文化コミュニケーションの諸要素、自己の発見（ジョハリの窓） 4. 文化の定義と多様性 5. 日本的表現方法と西洋的表現方法の諸要因と歴史的背景 6. グローバルな表現方法とは何か？ 7. グローバル表現法を使ったスピーチ【スピーチ実践】 8. コミュニケーションと行動の変化 9. 対立のコミュニケーション 10.自民族中心主義と多文化主義 11.カルチャーショックと適応、および人間的成長 12.非言語コミュニケーションの諸要因 13.異文化コミュニケーションに関するDVD視聴【ミニレポート】 14.賢い異文化コミュニケーターに必要な要素について 15.まとめ

到達目標	異文化コミュニケーション研究に関して総論的な専門知識を習得し、様々な視点から文化とコミュニケーションの関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、ミニレポートや発表に備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと。
テキスト	テキスト：プリント配布予定、
参考文献	参考文献：石井敏他著『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書, 2013. 矢代京子他著『異文化コミュニケーション・ワークブック』三修社, 2001.
評価方法	授業中の学習活動への参加 30%、スピーチ実践とミニレポート 30%、最終レポート 40%

16 年度以降 15 年度以前	メディア文化論 異文化間コミュニケーション論 b	担当者	松本　健太郎

講義目的、講義概要	授業計画
クリフォード・ギアツは、人間とは自らが紡ぎ出した“意味の網の目”に支えられた動物であると捉え、その“意味の網の目”こそが「文化」であると規定した。コミュニケーションを媒介するメディアが技術的に進歩し、またそれが社会的文脈において位置づけられていく一連の過程をつうじて、メディア文化を構成する“意味の網”は刻々と更新されていく。とくに各種のデジタルメディアやソーシャルメディアが台頭したことによって、文化という“意味の網”が変換されていく速度は格段に上昇したようにも感じられる。 本講義では管理社会、防犯カメラの心霊動画、ショッピングモール、漢字の図像性、グーグルストリートビュー、クラブミュージックなどを題材としてとりあげながら、現代におけるメディア文化の実相を理論的に考察するための視点を学習する。	１　ガイダンス――本講義をつうじて学んでほしいこと ２　メディアが形成する現実① ３　メディアが形成する現実② ４　メディアが形成する現実③ ５　メディアが形成する現実④ ６　「管理社会」としての現代① ７　「管理社会」としての現代② ８　デジタルメディアと心霊表象 ９　「意味の帝国」としてのショッピングモール １０　漢字の視覚的イメージをめぐる想像力の変容 １１　拡大される細部：ＧＳＶを題材とするアート作品 １２　技術的にシミュレートされた「移動」の真正性 １３　複製技術と著作権① １４　複製技術と著作権② １５　総括

到達目標	メディア研究に関して総覧的な専門知識を習得し、様々な視点からメディアと文化形成などの関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習することが求められる。
テキスト	松本健太郎ほか編　『メディア文化論［第２版］』（ナカニシヤ出版、　２０１７年）
参考文献	授業時に指示する。
評価方法	平常点　50%、　期末試験　50%

16 年度以降 15 年度以前	メディア文化論 異文化間コミュニケーション論 b	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
英語圏（主に米国）の様々なメディア事象を文化の問題として分析し、日本のメディア文化状況に関連する提言を含んだ講義を行います。 注意事項： １．グループ単位の即興口頭発表課題が時々出されます。 ２．小テストのスコアが３割以上で研究発表に進めます。	1. ガイダンス：講義概要と基本概念の開設 2. メディア・リテラシー教育：英語圏の取り組み 3. メディアと現実①：声の文化と文字の文化 4. メディアと現実②：マスメディアの日米関係史 5. メディアと現実③：パソコン・スマフォ文化の形成と意味 6. メディアと管理社会① :“You are what you ___” 7. メディアと管理社会② :“Post-consumerism”を中心に 8. 音楽とメディア：蓄音機発明前の「歌うアメリカ人」 9. ポピュラー映画と現実認識：ディズニー映画などを例に 10. ノスタルジア映画と歴史認識 :“Back to the future”再訪 11. アートとメディア：Mary Miss などを例に 12. ミュージアムとメディア：スミソニアン博物館などを例に 13. イデオグラフ：　「前向き」のレトリック 14. 総括と小テスト、発表準備 15. 研究発表と総評

到達目標	メディア研究に関して総覧的な専門知識を習得し、様々な視点からメディアと文化形成などの関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回の講義に関する資料を事前及び事後に目を通すことが求められます。
テキスト	なし（適宜プリントを配布する予定）
参考文献	遠藤 英樹 他編 『メディア文化論 ― 想像力の現在』 第 2 版、ナカニシヤ出版
評価方法	小テスト：20%　　研究発表：80%（グループワーク 40%＋発表 40%）

16 年度以降 15 年度以前	マス・コミュニケーション論 メディア・コミュニケーション論 a	担当者	佐々木　輝美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　コミュニケーションおよびマスメディアの諸モデルを理解し、それらの理解に基づきマス・コミュニケーションが現実社会に与える影響を分析できるようになる。 講義概要 　まずコミュニケーションの諸モデルを学んだ後、マスメディアに関する主要4理論（弾丸理論、限定効果モデル、適度効果モデル、強力効果モデル）を学ぶ。 　また、学習内容を定着させるために、ビデオ視聴内容に関するミニレポートの作成を行う。	1. 導入＆メディアとは 2. コミュニケーションの諸領域について 3. コミュニケーションの諸モデル１ 4. コミュニケーションの諸モデル２ 5. コミュニケーションの効果の概念、他 6. マスメディアの順機能と逆機能 7. メディアの文化伝承・娯楽機能とディズニー映画 8. ビデオ視聴【ビデオ内容分析のミニレポート提出】 9. マスメディアに関する効果モデル：弾丸理論 10. マスメディアに関する効果モデル：限定効果モデル 11. マスメディアに関する効果モデル：適度効果モデル 12. マスメディアに関する効果モデル：強力効果モデル 13. ビデオ視聴【ビデオ内容分析のミニレポート提出】 14. メディアリテラシーの必要性 15. まとめ

到達目標	マス・コミュニケーション研究に関する諸理論を習得し、分析を行い、現代メディアを批判的に読み解くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト(プリント)内容の予習を行い、ミニレポートに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと
テキスト	テキスト：プリント配布予定
参考文献	参考文献：『マスコミュニケーション効果研究の展開』（北樹出版）
評価方法	授業内学習活動への参加度 30%、ミニレポート 30%、最終レポート 40%

16 年度以降 15 年度以前	メディア・スタディーズ メディア・コミュニケーション論 b	担当者	佐々木　輝美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 【目的1】メディアの影響に関する理論を理解する。 【目的2】メディアコンテンツが人々に与える影響を測定できるようになる。具体的には、仮説の設定、調査票の作成、調査の実施、調査データの分析・解釈ができるようになる。 講義概要 　まず、ディズニー映画等を例にしながら、メディアの影響に関する4理論（カタルシス、観察学習、脱感作、カルティベーション）を学ぶ。 　さらに、メディア研究方法（KJ法、χ2検定、相関係数）を学んだ上で、クラス内で調査を実施し、調査によって得られたデータを分析して発表する	1. 導入、独立変数と従属変数、仮説の設定方法 2. 理論1：カタルシス理論とディズニー映画 3. 理論2：観察学習理論とディズニー映画 4. 理論3：脱感作理論とディズニー映画 5. 理論4：カルティベーション理論とディズニー映画 6. ディズニー映画分析【授業内ミニレポート提出】 7. メディア研究方法：班分け＆統計手法（KJ法） 8. メディア研究方法：統計手法（手計算でχ2検定、エクセル統計で相関係数） 9. 調査票作成法および調査票作成のための班内議論 10. 調査票作成（各班内で） 11. 調査票完成（各班内で） 12. 調査実施（クラス受講者を調査対象者として） 13. 調査データ分析（エクセルにデータを入力・分析） 14. 調査結果のまとめ 15. 【各班による調査結果の発表】、まとめ

到達目標	メディアとコミュニケーションの関係に関する諸理論を習得し、分析を行い、現代メディアを批判的に読み解くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト(プリント)内容の予習を行い、発表に備えて学習内容を定着させるための復習を行うこと。
テキスト	テキスト：プリント配布予定
参考文献	参考文献：『メディアと暴力』（勁草書房）、『教育・心理統計と実験計画』（教育出版）
評価方法	授業内学習活動への参加度 30%、ミニレポートおよび各班による調査結果発表 30%、最終レポート 40%

16 年度以降 15 年度以前	イメージ文化論 スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	松本　健太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、複数の分野における学問的知見を習得することにより、私たちと映像表象との関係について考察を深めることにある。とくに映像表象・メディア表象を研究するために有用な方法論として、記号論・メディア論・視覚文化論・ナラトロジーなどの複数の分野の知見を紹介していく。さらに、そこで学ぶ理論的視座に立脚したうえで、遠近法・写真・映画・テレビゲーム等の様々な題材を取りあげながら、「映像表象」とその受容者の「視点」について理解を深めていく予定である。	1　ガイダンス：本講義をつうじて学んでほしいこと 2　言語表現と映像表現の差異と関係性 3　映画を解釈する：『薔薇の名前』の鑑賞 4　映画を解釈する：『薔薇の名前』の分析 5　映像メディアと視点①:遠近法 6　映像メディアと視点②:テクノ画像としての写真 7　映像メディアと視点③:テクノ画像としての映画 8　映像メディアと視点④:デジタルイメージ 9　「ゲーム化する世界」の文化論 １０　コンピュータゲームの歴史：カジュアル革命の影響 １１　スポーツゲームの組成 １２　プレイヤーと代理行為者の等価性 １３　一人称的な触覚性と三人称的な視覚性の縫合 １４　カウンターマシンとしてのコンピュータゲーム １５　総括

到達目標	イメージのコミュニケーション研究に関する諸理論を習得し、分析を行い、コミュニケーション現象を批判的に読み解くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習することが求められる。
テキスト	谷島貫太・松本健太郎編『記録と記憶のメディア論』（ナカニシヤ出版、２０１７）
参考文献	授業時に指示する。
評価方法	平常点　50%、　期末試験　50%

16 年度以降 15 年度以前	視覚コミュニケーション論 スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、視覚イメージによるコミュニケーションの批判的読み方を、映画やビデオ、写真、絵画など様々な映像メディアを使って学習します。映像という視覚イメージに組み込まれた文化的諸力の問題を主題として解説していきます。映像表現や構造、映像の技術的語りなどを批判的に解釈することで、表象＝イメージがいかなるものかを考察し、そのメディア性の批判を展開していくことになります。 メディアの批判的アプローチでは、見えてしまっているという自明の事実を問い直すことが最も大切です。そもそも自分がなぜ見えるのかという経験そのものを考えなおすことがなければ、批判とは言いません。この批判は常に己に向けられます。映像をつぶさに考察することで発見される見方が、これまで思い込みで見えていた世界とは異なる、新たな視覚をもたらす分析をしていきます。見えること、見えてしまっていることを根本的に問い直す為の視座と立ち位置を様々な批判的アプローチと共に探っていきます。	1　オリエンテーション 2　ポストモダンの探偵・テレビドラマ『古畑任三郎』 3　自己アイデンティティの葛藤 4　記号の実在性と現実（界） 5　空間の広告化、広告の空間化 6　家族の（非）存在 7　ジェンダーと階級と知の権力 8　記号・モノとしての身体 9　テクノロジーと言葉（1） １０　テクノロジーと言葉（2） １１　ヴァーチャルなものの精神分析 １２　多文化主義と越境される国境（1） １３　多文化主義と越境される国境（2） １４　遠近法的視覚空間の成立 １５　総括

到達目標	視覚コミュニケーション研究に関する諸理論を習得し、分析を行い、コミュニケーション現象を批判的に読み解くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	必要な予習及び映画等のスクリーニングは、各自の事前学習として必須となります。授業後に講義内容も必ず復習してください。
テキスト	テキストは適宜紹介します。
参考文献	池田理知子編『現代コミュニケーション学』有斐閣、2006.
評価方法	講義内小課題、及び定期試験又はレポートによって評価します。

16 年度以降 15 年度以前	コミュニケーション論 スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
コミュニケーション学は古代ギリシアのレトリック研究に起源を持ちます。本講義では、２０世紀以降折々の思想に影響を受けて変容してきた様々なレトリック理論を理論家ごとに学んでいきます。そして、それぞれの理論家がひも解く、コミュニケーションや言葉、レトリックとは何かを理解することを目的とします。 ギリシア時代に弁論術として開花したレトリック理論ですが、その対象範囲は弁論のような音声記号だけに留まることは決してなく、様々な文化や技術変容に伴い、２０世紀以降は視覚や身体的触覚なども射程にいれ、今では我々と世界を媒介するメディア論として更なる展開が進行しています。 このような現代の文化的影響も踏まえつつ、コミュニケーションとは何か、文化とは何か、メディアとは何かを批判的に考察した、２０世紀に台頭した構造主義以降の思想をコミュニケーション論として講義します。この批判理論の学習によって、現代の世界で実践されるコミュニケーションにまつわる複雑な社会・文化状況を改めて識別していくことが求められます。	1　オリエンテーション／フェルディナン・ド・ソシュールと記号論（1） 2　フェルディナン・ド・ソシュールと記号論（2） 3　ハイデガーと存在論 4　ルードヴィヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム 5　精神分析とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・バーク（1） 6　精神分析とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・バーク（2） 7　精神分析とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・バーク（3） 8　ミシェル・フーコー、表象、言説（1） 9　ミシェル・フーコー、表象、言説（2） １０ ミシェル・フーコーの権力論（1） １１ ミシェル・フーコーの権力論（2） １２ エドワード・サイードとオリエンタリズム（1） １３ エドワード・サイードとオリエンタリズム（2） １４ スチュアート・ホールと文化研究（1） １５ スチュアート・ホールと文化研究（2）

到達目標	コミュニケーション研究に関する諸理論を習得し、分析を行い、コミュニケーション現象を批判的に読み解くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布物等がある場合には必ず予習しておいてください。授業後の講義内容の復習は必須です
テキスト	授業中に適宜紹介します。
参考文献	授業中に適宜紹介します。
評価方法	講義内小課題、及び定期試験又はレポートによって評価します。

16 年度以降 15 年度以前	スピーチ・コミュニケーション論 スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
様々な「スピーチ」（発言、発話表現）を多角的・複眼的に捉えるための理論を色々な実例と実演を通じて学びます。この講義では「スピーチ」を広義に捉え、それを個人技の成果というよりも、むしろ「合作」「多声混在体」及び新たなコミュニケーションを起こす「一手」のようなものと捉えます。その上で、英語圏や日本の実践例として挙げながら、「スピーチ」が展開しようとした様々なコミュニケーションを分析します。 注意事項： １．グループ単位の即興口頭発表課題が時々出されます。 ２．小テストのスコアが３割以上で研究発表に進めます。	1. 概要説明、研究グループ編成、始動的活動 2. スピーチは合作である：個人技からプロジェクトへ 3. 議論という協働：トゥールミン・モデル 4. ドラマティズム：「劇的」「ペンタッド」 5. スピーチとしての音楽：海外 6. スピーチとしての音楽：日本 7. スピーチとしての音楽：ＰＶ 8. スピーチとしての広告：商品販促・サービス・ＣＩ 9. スピーチとしての広告：公共・意見・キャンペーン 10. スピーチとしての映画：*Worlds Apart*、他 11. スピーチとしての映画：*Piper*、他 12. スピーチとしての映画：ドキュメンタリー 13. スピーチとしての演劇：Blue Man Show、他 14. まとめ、質疑応答、小テスト、コンサルテーション 15. グループ実演課題と講評

到達目標	発話を中心としたコミュニケーションに関する諸理論を習得し、分析を行い、批判的に読み解くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料はもちろんのこと、参考文献等が紹介されたら直ぐに目を通すようにしてください。
テキスト	授業で資料を配布します。
参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	実演課題（準備・実演・評価）：80%、小テスト：20%（上記の注意事項２も参照）

09 年度以降	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
騙し絵のレトリックを考えるにあたり、さしあたりその範囲を１５世紀ルネッサンス以降、とりわけ１７世紀の西洋絵画に重点をおき、絵画の歴史的および文化的な視覚性を考察していきます。考察する視覚論の基軸となるのは遠近法や視覚技術の問題ですが、その歴史を踏まえつつ、絵画が構成する視覚の文化的空間を描きだしていきたい。遠近法箱（perspective box）やカメラ・オブスクラ等、様々な技術との関わりの中で変容する絵画の視覚性を歴史的に辿っていくことになります。絵画の視覚領野の中にいかなるルネサンスや透視画法への抵抗があるのかを理論的に考察していきます。	1. オリエンテーション 2. 視覚技術としての遠近法（透視画法） 3. 視覚技術の変容と視覚の言説（クレーリーの視覚メディア論） 4. 美術史のバロック問題：ルネッサンスからマニエリズム、そしてバロックへ 5. 美術史のバロック問題：ルネッサンスからマニエリズム、そしてバロックへ 6. ベラスケス：バロックと古典主義時代（17-18 世紀）の表象 7. バロックとしてのアナモルフォーズ：キルヒャー、ニセロン 8. バロックとしてのアナモルフォーズ：キルヒャー、ニセロン 9. 北方ルネッサンスと描写術：フェルメール、デ・フリース、遠近法 10. 北方ルネッサンスと描写術：フェルメール、デ・フリース、遠近法 11. ファン・ホーホストラーテン：騙し絵、遠近法箱、視覚のレトリック 12. ファン・ホーホストラーテン：騙し絵、遠近法箱、視覚のレトリック 13. ヘイスブレヒツ：騙し絵（トロンプルイユ）のレトリック 14. ヘイスブレヒツ：騙し絵（トロンプルイユ）のレトリック 15. まとめ

到達目標	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に鑑賞が必要な絵画や配布物等がある場合、予習をしてください。授業後の講義内容の復習は必須です。
テキスト	授業で適宜紹介します。
参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	講義内小課題、及び定期試験又はレポートによって評価します。

09 年度以降	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
【視覚文化論】 春学期に、視覚文化論の１アプローチである騙し絵のレトリックを学習したことを踏まえて、秋学期ではその内容を前提としつつ、理論的な背景を展開していきます。 現在、視覚文化論はコミュニケーション学で最も注目される分野の一つであり、その諸相を歴史と多用なアプローチと共に扱っていきます。１９８０年代に米国で台頭した視覚文化論は、絵画芸術を中核とする美術（史）の分野に加えて、メディア論やコミュニケーション論、比較文学等の隣接領域を包みつつ、視覚的表象の文化的次元を扱う新たな領域として認知されています。秋学期の講義では、視覚文化論が射程とする様々なトピックを取り上げ、写真、映画、絵画、技術、身体、空間等の視覚性を検討していくことになります。 我々を取り巻く現代世界は、テレビや映画を始め、写真や広告映像等の視覚的なコミュニケーションで溢れています。本講義は、そのような視覚コミュニケーションを理解し分析するのに必要な視覚文化論の知を学ぶことを目的としています。	1. オリエンテーション 2. 視覚文化論とは 3. 視覚技術と身体 4. 視覚技術と身体 5. 視覚技術と身体 6. メディアとしての視覚の変容 7. 視の制度（scopic regime）と視覚の専制的力への批判 8. 視の制度（scopic regime）と視覚の専制的力への批判 9. 眼差しと視線 10. 眼差しと視線 11. 言葉とイメージ 12. 言葉とイメージ 13. イメージのレトリック 14. イメージのレトリック 15. 総括

到達目標	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に鑑賞が必要な絵画や配布物等がある場合、予習をしてください。授業後の講義内容の復習は必須です。
テキスト	授業で適宜紹介します。
参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	講義内小課題、及び定期試験又はレポートによって評価します。

09 年度以降	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	松本　健太郎

講義目的、講義概要	授業計画
人間とはコミュニケーションする動物である。初歩的な記号表現から複雑なテクノメディアに至るまで、人間はこれまで様々なタイプのコミュニケーション手段を考案してきた。人間にとってコミュニケーションとは不可避であり、それを媒介するメディアなしに文化的活動を営むことはできない。 本講義では、わたしたち人間にとって重要な意味をもつ「メディア・コミュニケーション」の本質に迫るために、コミュニケーション研究やメディア論における基本的な考え方を、現代社会にあふれる豊富な具体例とともに解説してゆく。さらにそのうえで「空間とメディア」の諸相に目を向け、わたしたちをとりまく記号世界、あるいはメディア環境の組成を分析的に把握するためのリテラシー獲得を目指すことになる。	１　ガイダンス――本講義をつうじて学んでほしいこと ２　コミュニケーションの諸相① ３　コミュニケーションの諸相② ４　コミュニケーションの諸相③ ５　コミュニケーションの諸相④ ６　メディアの媒介作用と延長作用① ７　メディアの媒介作用と延長作用② ８　メディアの媒介作用と延長作用③ ９　メディアの媒介作用と延長作用④ １０　メディアの媒介作用と延長作用⑤ １１　ポスト・ヒューマンの肖像① １２　ポスト・ヒューマンの肖像② １３　ポスト・ヒューマンの肖像③ １４　ポスト・ヒューマンの肖像④ １５　総括

到達目標	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習することが求められる。
テキスト	池田理知子・松本健太郎編　『メディア・コミュニケーション論』（ナカニシヤ出版、２０１０年）
参考文献	授業時に指示する。
評価方法	平常点　50%、　期末試験　50%

09 年度以降	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	松本　健太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では記号論における基礎的な考え方を、わたしたちの身近にある様々な事例とともに解説していく。それによってホモ・シグニフィカンスとも称される人間の固有性や、人間の記号活動の集積として構築されるコミュニケーション文化の組成を理解していくことが本講義の目的となる。 本講義ではソシュール、バルト、丸山圭三郎らの記号論的な思想をとりあげる。さらに所定の教科書に準拠し、様々な分野の学問的言説を援用しながら、ビデオゲーム、ショッピングモール、デジタル地図、お笑いなど、幅広い事象を分析の俎上に載せていくことになる。そのうえで「記号」と「メディア」の現代的な関係性を理論的に考察することを目標とする。	１　ガイダンス――記号論の成り立ち ２　ソシュールの言語観① ３　ソシュールの言語観② ４　バルトの記号観①――ステレオタイプと神話 ５　バルトの記号観②――言語記号と映像記号 ６　バルトの記号観③――その写真論と日本論の共通点 ７　バルトの記号観④――言語活動の外部へ ８　バルトの記号観⑤――記号とメディアの間隙 ９　丸山圭三郎の人間観――その言語哲学の可能性 １０　カジュアル革命と、スポーツ化するスポーツゲーム １１　ビデオゲームにおける没入のメカニズム １２　ゲームは現実の何を模倣して成立するか １３　ＧＳＶにおける写真的現実の歪み １４　産業的資源としての「意識」をめぐる諸問題 １５　総括

到達目標	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習することが求められる。
テキスト	松本健太郎編　『理論からよむメディア文化』（新曜社、２０１６年）
参考文献	授業時に指示する。
評価方法	平常点　50%、　期末試験　50%

13 年度以降 12 年度以前	コミュニケーション論文献セミナーa コミュニケーション論文献研究 a	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
イメージが氾濫する現代において、＜見る＞とは何かを考察した視覚文化論の古典、ジョン・バージャーの *Ways of Seeing* と *About Looking* の一部を題材として、視覚とは何かを考えていく。 バージャーの *Ways of Seeing* は、中世絵画から現代を取り巻く広告メディアや写真等を射程として、＜見る＞とは何かを考え直す名著である。視覚文化論の古典とも言える本著は、美術史の大きな流れを踏まえつつ、我々がものを見るとはどのようなことかを考察している。バージャーは見ることの中に隠された階級やジェンダー等の文化的価値観を、イメージの言語として視覚的題材に読むことでえぐり出す。その読みを丹念に踏まえることで、いかにイメージは見られるのかを理解することが可能となる。*About Looking* は写真と絵画に関する短編集であり、その短い論考の中にも彼の批判的主張が読み取れる。 イメージの批評的な分析と考察を深めていく本講義においては、以下の３点が探求の目的となる。１）現代のイメージと古典絵画との歴史的な関係を踏まえること、２）視覚文化批評とは何かを理解すること、３）イメージのコミュニケーション論とは何かを理解すること。これら３点について、その批評的意義を探っていく。	1. Course Orientation 2. Reading *Ways of Seeing* (Chapter 1) 3. Reading *Ways of Seeing* (Chapter 1, 2) 4. Reading *Ways of Seeing* (Chapter 3) 5. Reading *Ways of Seeing* (Chapter 3, 4) 6. Reading *Ways of Seeing* (Chapter 5) 7. Reading *Ways of Seeing* (Chapter 5, 6) 8. Reading *Ways of Seeing* (Chapter 7) 9. Reading *Ways of Seeing* (Chapter 7, 8) 10. Reading *About Looking* (Paul Strand) 11. Reading *About Looking* (Uses of Photography) 12. Reading *About Looking* (Francis Bacon and Walt Disney) 13. Reading *About Looking* (Courbet and the Jura) 14. Reading *About Looking* (Magritte and the Impossible) 15. Wrap up

到達目標	各種のコミュニケーション論を主題とする文献研究によりコミュニケーションの諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習及び発表の為の準備は、各自の事前学習として必須です。授業後は当該の章を必ず復習してください。
テキスト	John Berger. *Ways of Seeing*. (Penguin Books Ltd., 1972)　*About Looking* については、プリントを配布する。
参考文献	—
評価方法	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻２回は欠席１回に相当）等から総合的に評価します。

13 年度以降 12 年度以前	コミュニケーション論文献セミナーb コミュニケーション論文献研究 b	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
西洋近代の文化史において、視覚技術はカメラの発明から映画技術として発展したと考えるのが一般的である。しかし、視覚コミュニケーション論においては、この近代化と共に発想された歴史的変遷と技術決定論は批判の対象となっている。この歴史的な分岐点となるのは１９世紀であり、新たな知の条件によって、近代的な観察者が生まれる。この視覚技術の変遷と同時に発生する近代の観察者はいかに生まれたのか。当時の視覚技術の主体となる観察者の構成が課題となる。 本授業では、当時の歴史的状況を踏まえつつ、視覚コミュニケーション論において重要な絵画や図版を主な題材として、近代の観察者の歴史的な誕生を分析した、ジョナサン・クレーリーの *Techniques of the Observer* を読んでいく。 単なる視覚技術の発展ではない、知の条件の変容が視覚メディアとして近代的な観察者を産み出す際、様々な出来事や力の諸相が絡み合う様子を把握していく。	1. Course Orientation 2. Modernity and the Problem of the Observer 3. Modernity and the Problem of the Observer 4. Modernity and the Problem of the Observer 5. The Camera Obscura and Its Subject 6. The Camera Obscura and Its Subject 7. The Camera Obscura and Its Subject 8. The Camera Obscura and Its Subject 9. Subjective Vision and the Separation of the Senses 10. Subjective Vision and the Separation of the Senses 11. Subjective Vision and the Separation of the Senses 12. Techniques of the Observer 13. Techniques of the Observer 14. Techniques of the Observer 15. Visionary Abstraction / Wrap up

到達目標	各種のコミュニケーション論を主題とする文献研究によりコミュニケーションの諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習及び発表の為の準備は、各自の事前学習として必須です。授業後は当該の章を必ず復習してください。
テキスト	Jonathan Crary. *Techniques of the Observer: On Vision and Modernity in the Nineteenth Century*. (Cambridge, MA: MIT Press, 1992).
参考文献	—
評価方法	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻２回は欠席１回に相当）等から総合的に評価します。

13 年度以降 12 年度以前	コミュニケーション論文献セミナーa コミュニケーション論文献研究 a	担当者	松本　健太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本講義のテキストとして選定する『空間とメディア―場所の記憶・移動・リアリティ』は、テーマパーク、サイバースペース、境界、風景、デジタル地図、震災、祭、観光、鉄道など、多様な切り口から現代の「空間」を読み解くための論集である。 本講義では、まず本書の内容について講義形式での解説を加えたうえで、グループごとにテキストに関するレジュメ発表をおこなってもらう。さらに学期の後半には、それまでのレジュメ発表をつうじて学習したことをもとに、グループごとに研究発表をおこなってもらう予定である（その形式面を含めた詳細に関しては初回授業時に指示する）。	１　概要説明、プレゼンテーション担当者決定 ２　空間とメディアについて【講義】 ３　空間とメディアについて【講義】 ４　テキストを読む【講読】 ５　テキストを読む【講読】 ６　テキストを読む【講読】 ７　テキストを読む【講読】 ８　テキストを読む【講読】 ９　テキストを読む【講読】 １０　研究発表 １１　研究発表 １２　研究発表 １３　研究発表 １４　研究発表 １５　総括

到達目標	各種のコミュニケーション論を主題とする文献研究によりコミュニケーションの諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストをもちいた予習。および、配布資料をもちいた復習。
テキスト	遠藤英樹・松本健太郎編『空間とメディア―場所の記憶・移動・リアリティ』（ナカニシヤ出版、２０１５）
参考文献	なし
評価方法	平常点　40%、　プレゼンテーション　30%、　レポート　30%

13 年度以降 12 年度以前	コミュニケーション論文献セミナーb コミュニケーション論文献研究 b	担当者	松本　健太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本講義のテキストとして選定する『ポケモンＧＯからの問い―拡張される世界のリアリティ』は、一時おおきな話題となり、様々な社会問題を惹起した当該ゲームに関して、哲学、美学、文学理論、観光学、監視社会論、コンテンツツーリズムなど、様々な領域の研究者がそれぞれの視角から議論を展開した論集である。 本講義では、まず本書の内容について講義形式での解説を加えたうえで、グループごとにテキストに関するレジュメ発表をおこなってもらう。さらに学期の後半には、それまでのレジュメ発表をつうじて学習したことをもとに、グループごとに研究発表をおこなってもらう予定である（その形式面を含めた詳細に関しては初回授業時に指示する）。	１　概要説明、プレゼンテーション担当者決定 ２　デジタル地図とゲームについて【講義】 ３　デジタル地図とゲームについて【講義】 ４　テキストを読む【講読】 ５　テキストを読む【講読】 ６　テキストを読む【講読】 ７　テキストを読む【講読】 ８　テキストを読む【講読】 ９　テキストを読む【講読】 １０　研究発表 １１　研究発表 １２　研究発表 １３　研究発表 １４　研究発表 １５　総括

到達目標	各種のコミュニケーション論を主題とする文献研究によりコミュニケーションの諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストをもちいた予習。および、配布資料をもちいた復習。
テキスト	松本健太郎ほか編『ポケモンＧＯからの問い―拡張される世界のリアリティ』（新曜社、２０１８）
参考文献	なし
評価方法	平常点　40%、　プレゼンテーション　30%、　レポート　30%

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文学・文化 a 英語圏の文学・文化	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
English Literature on Screen 映画化されたイギリス文学作品の中から12作品を取り上げ、それぞれの原作の内容、文体、作品成立の背景について理解を深めることを目指す。取り上げる作品は16世紀から20世紀まで、幅広い時代にわたっている。それぞれの作品についての理解とともに、近代英国の歴史についても知識を広げることを目的とする。	1. 近代文学の始まり 2. The Merchant of Venice 3. Hamlet 4. 市民社会とイギリス小説 5. Robinson Crusoe 6. Gulliver's Travels 7. Pride and Prejudice 8. Wuthering Heights 9. Great Expectations 10. A Room with a View 11. 20世紀のイギリス文学 12. Pygmalion 13. Animal Farm 14. The Remains of the Day 15. Anonement

到達目標	英語圏の文学・文化に関して総論的な専門知識を習得し、文化・社会・政治的知識と関連づけながら鑑賞・分析を行い、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたプリントの英文をあらかじめ読んでおくこと。 原作を少なくとも一つ読み、映画と比較すること。
テキスト	授業中にプリントを配布する。
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	毎回のコメントカード 30%、学期末試験 70%

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文学・文化 b 英語圏の文学文化	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的――アイルランドの文学と文化についての理解を図る。 講義概要――　アイルランドに視点を据えて、この島の歴史や文化を、人間と宗教・人種・言葉・社会との関わり考えていきます。 　イギリスからの視点一辺倒だったイギリス観、アメリカ観、アイルランド観が変わると思います。 注意事項――　テキストにする英文はTOEIC600点程度かそれ以上の英語力が前提です。600点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて準備してください。 *2017年度「英語圏の文学・文化特殊講義a」と重複する内容があります。	1.　導入：アイルランドの地理、気候など 2.　2500年前の アイルランドのヒトについて 3.　アイルランドの古代民族と巨石遺跡群の謎 4.　ケルト人以前の文化とHallowe'enの始まり 5.　民族のルーツ：ケルト人とHarry Potter 6.　妖精伝説と怪談と小泉八雲 7.　キリスト教：聖パトリックとホワイトハウス 8.　イギリスの支配：ヘンリー8世など 9.　独立運動：アイルランド映画のモチーフ 10.　北アイルランド紛争とアメリカの公民権運動 11.　IRAとUVF：和平交渉とノーベル平和賞 12.　じゃがいも飢饉とビートルズ 13.　アメリカへの移民：大統領、W. ディズニーなど 14.　貧困、バブル経済、復活 15.　アイルランド音楽

到達目標	英語圏の文学・文化に関して総論的な専門知識を習得し、文化・社会・政治的知識と関連づけながら鑑賞・分析を行い、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、英文資料の日本語訳をノートに用意して出席してください。
テキスト	英文資料（B5 で 4 ページ程度）を毎回配布します。
参考文献	授業中に言及する予定です。
評価方法	毎回授業開始時に行う語彙 quiz で 50%、授業終了前の内容把握の確認 quiz で 50%。学期末の定期試験はしません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文学・文化・批評 a 英語圏の小説 a	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
混成の英国 混成の英国の現在と、そこに至った過程を文学文化表現を軸としてみていく。特定の時代と社会を生きた人々の生活や意識にフォーカスすることで、自分たち自身の「いまとここ」も考えたい。 授業の流れは以下のとおり。まず多人種・多文化社会として公式な自己を定義しようとしている現在のイギリスの姿を確認する。そのうえで、現在の混成状態を醸成した帝国の歴史を、18世紀に遡って振り返る。その後、二次世界大戦後、旧植民地からの移民の到来によって、いやおうなく多人種・多文化社会へとなっていったイギリスのここ半世紀の姿を追う。 文学・文化表現を通して社会の変化をみつめることで、文学と社会の関係性についても考察していこう。	1. 21世紀.混成の英国：Zadie Smith, White Teeth 2. 混成の日常: Stephen Kelman, Pigeon English 3. 18世紀、混成の英国：Daniel Defoe 4. 帝国の拡大：‘Rule Britannia’ 5. British Empire at a Glance 6. 富は外からやってくる?：Victorian Novels 7. 陰りゆく帝国：‘Mad Dogs and Englishmen.’ 8. ‘England Your England’　George Orwell 9. English/British Identity 10. よそ者たちの到来：A Change Irreversible 11. 第二世代とポストコロニアル文学 12. 変わりゆく英国社会：We are here to stay 13. 文化とジェンダー 14. 人種を越えるもの?：Love&Money 15. ふたたび混成の英国

到達目標	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で使う文学テクストからの抜粋は事前に配布もしくはポータルにアップするので。あらかじめ目を通しておくこと。事後学習用のチェックシートを用意するが（３回)、それ以外にも自分で復習すること。
テキスト	ハンドアウトを配布、あるいはポータルにアップする。その他の参考文献については授業時に紹介する。
参考文献	授業時に紹介する。
評価方法	授業内提出物 35%、定期試験 65%（パーセンテージは変更される可能性もある）

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文学・文化・批評 a 英語圏の小説 a	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
英文のテクストを読み、自ら意見を発表できる英語力の養成と、アメリカ合衆国を中心とする英語圏の文化について背景知識を習得します。ヴェトナム戦争を題材とした文学、演劇、映画、記念碑について学びます。	1. ヴェトナム戦争の歴史的背景 2. ミュージカル『ミス・サイゴン』（1） 3. ミュージカル『ミス・サイゴン』（2） 4. 『ミス・サイゴン』とオリエンタリズム5. 5. Tim O’Brien, “The Things They Carried” 6. 映画『フルメタル・ジャケット』（1） 7. 映画『フルメタル・ジャケット』（2） 8. Michael Herr, *Dispatches*（1） 9. Michael Herr, *Dispatches*（2） 10. ヴェトナム戦争と映画 11. ヴェトナム戦争と文学 12. ヴェトナム戦争と演劇 13. ヴェトナム帰還兵記念碑（1） 14. ヴェトナム帰還兵記念碑（2） 15. ヴェトナム戦争と日本

到達目標	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを十分に読んで予習し、事後はテクストだけでなく、歴史、文化、社会的側面についても復習をする
テキスト	Tim O’Brien, “The Things They Carried”、 Michael Herr, *Dispatches* から抜粋、ほか
参考文献	マリタ・スターケン、『アメリカという記憶―ベトナム戦争、エイズ、記念碑的表象』ほか
評価方法	学期中の小レポート（20%×2）、学期末レポート（40%）、クラス・フェイスブックでの毎週の議論（20%）

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文学・文化・批評 b 英語圏の演劇 b	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考察する。 英米や時代にかかわらず、さまざまな作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげて、社会と文化の洞察をはかる。 実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知り、演劇文化への理解を深める。 講義概要 なるべく実際の上演を観られる戯曲をとりあげ、台本抜粋を精読する。映像化された作品がある場合は、その一部を上映する。 日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施する。	1. 導入　2. 戯曲作品1 3. 戯曲作品2　4. 戯曲作品3 5. 戯曲作品4　6. 戯曲作品5 7. 戯曲作品6　8. 戯曲作品7 9. 戯曲作品8　10. 戯曲作品9 11. 戯曲作品10　12. 戯曲作品11 13. 戯曲作品12　14. 戯曲作品13 15. まとめ 注意事項―― テキストにする英文はTOEIC600点程度かそれ以上の英語力が前提です。600点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて準備してください。

到達目標	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、劇作品の台本抜粋の英文を日本語訳し、それをノートに用意して出席してください。
テキスト	英米の劇作品の台本抜粋（B5 で 4 ページ程度）を毎回配布します。
参考文献	授業中に言及する予定です。
評価方法	毎回の vocabulary テストと comprehension テストで 50%、観劇レポート（700～800 字）2 編で 50%。レポートは 2 編必修。2 編提出しない場合、授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。学期末定期試験はなし。

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の社会・思想・歴史 a 英語圏の社会と思想 a	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】日本のジェンダーギャップ指数は144カ国中114位。男女平等が世界でも「遅れて」いる国ということになります。どこが「遅れて」いて、どう変わると、より男女平等に近づくのでしょうか。ジェンダー問題を考える一つの方法は、フェミニズム思想を紐解き、先人たちの努力に学ぶこと。この講義では、日本での議論と、海外おもに英米での議論を踏まえながら、現代のいくつかの争点を考えます。担当者がすべての事象を網羅できるわけではありませんが、イギリス文学とジェンダーを研究してきた立場から言えることをお話しします。 【講義概要】講義では一とおりフェミニズムの歴史を概観したうえで、現代の争点となっているトピックについて、歴史的に掘り下げながら考えます。海外と日本への言及の度合いは回によって変わります。受講者には発言やコメントを通し、積極的に授業に参加してもらいます。	１．　イントロダクション ２．　集団運動としてのfeminisms ３．　多様な思想としてのfeminisms ４．　フェミニズムとLGBTIQA運動 ５．　仕事(1)：家庭と外 ６．　仕事(2)：ジェンダーと仕事 ７．　性と生殖(1)：バース・コントロール運動 ８．　性と生殖(2)：妊娠中絶とリプロダクティブ・ライツ ９．　性と生殖(3)：性教育 １０．#Me Too １１．ジェンダーと戦争(1) １２．ジェンダーと戦争(2) １３．ジェンダーと書くこと １４．“We should all be feminists” １５．まとめ

到達目標	英語圏の社会、思想、歴史に関して専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：次回の英文を訳せるようにしておくこと。 復習：レジュメを読み返し、自分でも本を読むなどして知識を深めること。
テキスト	レジュメを配布。
参考文献	ピルチャー&ウィラハン『ジェンダー・スタディーズ』など（その他、授業中に適宜紹介する）。
評価方法	授業内レポート約３割、定期試験約７割。 ただし授業回数の 1/3 を越えて欠席した場合は評価対象としない。

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の社会・思想・歴史 b 英語圏の社会と思想 b	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ：ロンドン・オリンピック開会式を読み解く 2012年夏のロンドン・オリンピックの開会式のテーマは” Isles of Wonder” と題されていた。Shakespeareの*The Tempest*から想を得たこの開会式には、Shakespeare以来の様々なイギリスの文化記号が組み合わされて利用されていた。 それらの文化記号を読み解き、イギリスの文化遺産がいかに資産として再活用され続けているか、それら文化記号によってどのような矛盾が隠され、あるいは逆に露呈しているか、またそれらがイギリス内外でどのように評価されたかを考える。	1. Introduction 2. Green and Pleasant Land 3. Pandemonium 4. Happy and Glorious 5. Neverland 6. GOSH 7. Chariots of Fire 8. British youth culture 9. Cool Britannia 10. BBB: Bond, Beckham, Beatles 11. 2005 London Bombing 12. “Multicultural crap”? 13. Review (1) 14. Review (2) 15. Wrap-up

到達目標	英語圏の社会、思想、歴史に関して専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に配布するプリントにある英文テクストを事前に読解する。 授業中に指示された参考文献を学期末までに少なくとも２冊は読む。
テキスト	授業中にプリントを配布する。
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	授業への参加（小テスト、リアクション・ペーパー）：30% 学期末試験：70%

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の社会・思想・歴史 b 英語圏の歴史 b	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。 各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。 こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。 下記二冊のテキストにそってアメリカの反ユダヤ主義とそれを生み出した要因のひとつとなるユダヤ人側の経済的成功について学ぶ。	1. アメリカ経済のユダヤ・パワー；同族人脈ネットワークと資金力 2. ユダヤ人大富豪が集中する最新の稼ぎ場；情報・通信とメディア産業 3. 貧しいユダヤ移民の資産形成の花道；不動産、小売業 4. 業界シェアの過半を占める伝統的ユダヤ・ビジネス；玩具、化粧品、カジノ、観光業 5. ウォール街の顔役たち；金融ビジネスのユダヤ人 6. なぜ彼等は成功したのか、ユダヤ人大富豪の人使い 7. ユダヤ教とユダヤ人の歴史的体験は彼等の企業家的成功とどの様なかかわりがあるのか 8. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 9. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件 10. 大都市移民ゲットーのエスニック・コンフリクト 11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン 12. 甦る儀式殺人告発、20世紀アメリカで復活した中世ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義 13. 公民権闘争期のユダヤ教会堂爆破 14. ミネアポリス、「反ユダヤ主義の都」 15. まとめ

到達目標	英語圏の社会、思想、歴史に関して専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書　740 円） 仮題『アメリカのユダヤ大富豪』佐藤唯行（PHP 研究所電子書籍版 1120～560 円）
参考文献	—
評価方法	評価は筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストの持ち込み可。 12 択 20 問の Quiz 形式。

09 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
多民族社会米英を舞台にユダヤ系を中心に、黒人その他の集団との関係史を学ぶ。 下記二冊のテキストにそって英米の人種関係史をユダヤ系を主軸にして考察する。	1. 中世英国のユダヤ人金融。 2. 西洋キリスト教世界初の一国規模のユダヤ人追放が行われた原因を探る。 ―1290年のイングランド― 3. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656年。 4. 千年王国思想とユダヤ人再入国。 5. 17～18世紀英国の外国貿易とユダヤ人。 6. 英国人地主貴族社会への同化現象。 7. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム。 8. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ。 9. 8%の有色人種人口を抱える現代英国社会。 10. 高等教育機関におけるユダヤ人排斥。 11. 公民権闘争期の黒人・ユダヤ人関係史。 12. 黒人の反ユダヤ主義。 13. 英労働党の反ユダヤ主義。 14. 在英ムスリム社会の反ユダヤ主義。 15. パレスチナ難民の救援とパレスチナへの送り出し。

到達目標	英語圏の文学、文化、歴史、社会に関して学際的な専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書　740 円） 『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995 年 講談社選書　1600 円）
参考文献	―
評価方法	評価はクイズ形式による筆記試験（12 択 20 問）によってのみ決定する。試験はテキストの持込み可。出席はとらない。

09 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
This course is intended as a comprehensive survey of American history and culture, introducing students to the diversity of this large country. Materials to be used in class include documentaries, movies, songs, TV programs, audio recordings, primary sources, and other historical materials. The language used for the lectures will be college-level English. This course will start out with an introduction to pre-European North America, followed by the period through independence, with an introduction to various colonial powers. After that, we will look at how the United States developed as a nation, with emphasis placed on different ethnic groups and cities across the land. Technological innovation played a big part in America's development, so that will also be introduced. Music from each period will also be presented so as to give students a more visceral feel of the changing and diverse culture of the United States through the times.	1. Introduction, The First Americans 2. Columbus and the Conquistadors 3. The First British in America 4. War and Independence 5. Building a New Nation 6. Civil War Splits the Country 7. Trains Everywhere, Uniting the Coasts 8. European Immigrants Pour In 9. Agriculture: Amber Waves of Grain 10. Industrialists, Inventors, Tycoons 11. Black Culture in America 12. Imperial World Capital 13. Postwar Good Life & The Sunbelt 14. America the Beautiful 15. Final Test (Essay)

到達目標	英語圏の文学、文化、歴史、社会に関して学際的な専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約 小クイズ（抜き打ち）の準備
テキスト	Materials will be handed out in class.
参考文献	―
評価方法	Class performance 20%, final project 30%, final test (essay) 50%. Tardiness over 30 minutes late will not be accepted. Three times tardy equals one absence. Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 Moby-Dick（1851)で著名な19世紀アメリカ小説の巨匠Herman Melvilleの短編(中編)小説 “Bartleby, the Scrivener” を読み、彼の文学とそこから読み解かれるアメリカ文化の特質について考察します。 講義概要 代表作Moby-Dickのエイハブ船長は白鯨・真理を超人的なまでに追求する生き方を選びますが、その対極にあるのが、Wall Streetの弁護士事務所に職を求めて現れた物静かな青年写字者のバートルビーです。 授業は、あらかじめ指示された範囲についての課題(質問表)を予習してきて、質問に答えてもらいます。講義形式だけではなく、質疑応答、希望者によるプレゼン形式などもとりいれる予定です。	1：Herman Melvilleと“Bartleby, the Scrivener”について 2-14：“Bartleby, the Scrivener”の指定された範囲についての質問表の答えを考えてきてもらい、質問について意見交換や討論をしてもらったあと解説します。 15：まとめ

到達目標	英語圏の文学・文化の特定分野に関して専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習。授業後は、授業内容をまとめ、各質問で話題となったポイントを整理しておく。
テキスト	Herman Melville, “Bartleby, the Scrivener: A Story of Wall Street” (プリントを配布します)
参考文献	授業で随時紹介
評価方法	学期末の試験 80%、授業内小テストおよび授業・討論への貢献度 20%

09 年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】「LGBTIQA」という言葉を聞いたことがありますか？　セクシュアル・マイノリティにあたる人たちとその支援者を指す呼び名です。実はこれらの呼称は19世紀後半から「作られて」きたものです。どんな事情があって作られ、これらの呼称にあたる人たちは、これらの呼称とどんな関係を結んできた／結んでいるのでしょうか？また、これらの呼称にあたらない人たちにとってはどうでしょうか？　この授業では、LGBTIQAの人たちをめぐる歴史をたどりながら、同時代の文学作品を手がかりに、各時代の人々の生き方について考えます。 【講義概要】イギリス・アメリカを中心にLGBTIQAの歴史をたどりながら、文学者たちとその作品について解説します。受講者にはA4で１～２ページの作品の抜粋（英語）を読んできてもらいます。	1. イントロダクション 2. Oscar Wildeとその時代 3. Oscar Wilde, “The Happy Prince” 4. E.M. Forster, *Maurice* (1) 5. E.M. Forster, *Maurice* (2) 6. Radclyffe Hall, “Miss Ogilvy Finds Herself” 7. Radclyffe Hall, “Miss Ogilvy Finds Herself” 8. Rita Mae Brown, *Rubyfruit Jungle* (1) 9. Rita Mae Brown, *Rubyfruit Jungle* (2) 10. Michael Cunningham, *The Hours* (1) 11. Michael Cunningham, *The Hours* (2) 12. Rachel Gold, *Being Emily* (2012) 13. Rachel Gold, *Just Girls* (2014) 14. Rachel Gold, *Nico & Tucker* (2017) 15. まとめ （タイトルは変更することがあります。）

到達目標	英語圏の文学・文化の特定分野に関して専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：作品抜粋を読み、問題に答えてくること。 復習：レジュメをよく見返し、抜粋を理解しておくこと。
テキスト	レジュメを配布します。
参考文献	授業中に適宜紹介します。
評価方法	授業内レポート約３割、定期試験約７割 （欠席が授業回数の 1/3 を越える場合は評価対象外とします。）

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文学・文化文献セミナーa 英語圏の文学・文化文献研究 a	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
シェイクスピアの『ソネット集』を精読します。初回は教員が『ソネット集』について解説します。2回目からは、参加者が順番に毎回割りあてられたソネットをひとつずつ自分で翻訳して解説をします。学期の最後に日本語4000字程度のレポートを課します。特別な事情がない限り、次の点が守れることが履修の条件です。 １．　初回の授業に参加すること。事情があって参加出来ない場合は、必ず事前に教員に相談して下さい。（fwhn1847@mb.infoweb.ne.jp） ２．　指定されたテキストを速やかに入手すること。 ３．　自分が解説を担当するソネットだけでなく、他のソネットについても、予習をしてくること。	第1回　『ソネット集』について 第2回以降は毎回４つ程度のソネットを担当した学生の発表を中心に授業を進める。授業で扱うソネットについては、教室で指示する。15回目の内容については課題を課す。

到達目標	文献研究を通じて、英語圏の文学・文化に関する特定分野について専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に予習、発表の準備をし、事後には音読を繰り返して作品を暗記し、時代背景を学び理解を深める。
テキスト	川西進編注　『ソネット集』音羽書房鶴見書店　1971 年
参考文献	教室で指示する
評価方法	授業参加：60%　期末レポート：40%

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文学・文化文献セミナー b 英語圏の文学・文化文献研究 b	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 英語圏の文学・文化に関するポスト構造主義の批評文献を読み、近年の批評理論についての理解を深めます。 講義概要 授業はあらかじめ配布したプリントを予習してきてもらい、毎回順番に文献を輪読してもらい、不明な点があれば、解説します。希望があれば、希望者によるプレゼン形式などもとりいれる予定です。	1：はじめに：授業の進め方と構造主義以降の批評理論の紹介 2-14：文献の輪読と解説 15：まとめ

到達目標	文献研究を通じて、英語圏の文学・文化に関する特定分野について専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業までに、配布されたプリントの指示された範囲を予習し、内容を発表できるように準備する。授業後は、その日の授業の要約や和訳などをノートなどにまとめておく。
テキスト	プリント
参考文献	授業で随時紹介
評価方法	学期末の試験 80%、輪読(プレゼン)の質や授業への貢献度 20%

16 年度以降 15 年度以前	言語学の世界 英語学の世界	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、B. L. ウォーフ（Benjamin Lee Whorf）の言う「好まれる言い回し」（“fashions of speaking”）という観点から英語と日本語を比較対照し、両者の間に存在する共通点と相違点を捉える枠組みを構築することを目指すものである。 その足がかりとして、英語と日本語の異同に関する多くのデータを取り上げることになるが、これらを個々に覚えることそのものが目的ではないことに注意されたい。一見したところ無秩序にも思えるデータの背後に、法則ないし傾向を見てとる目を養うことが目的である。 そのような理解の仕方をして初めて、表現のレベルでも流暢な英語を身につけられるであろうし、多くの者にとっての母語である日本語への自覚も芽生えることであろう。 【主要参考文献】西村義樹・長谷川明香（2016）「語彙、文法、好まれる言い回し―認知文法の視点―」	1. オリエンテーション、講義の概要 2. 好まれる言い回し（“fashions of speaking”） 3. 人間中心 対 状況中心 4. 人間の全体 対 人間の一部 5. 所有表現 対 存在表現 6. 移動表現 対 推移表現 7. 知覚表現 対 存在表現 8. 他動詞構文 対 自動詞構文 9. 受動構文 対 自動詞構文 10. 個体への注目 対 状況全体への注目 11. 結果志向 対 過程志向 12. 「する」的言語 対 「なる」的言語 13. 客観的把握 対 主観的把握 14. 公的自己 対 私的自己 15. まとめ

到達目標	言語学に関する基礎知識を習得し、言語データを分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	あらかじめ指定された範囲の予習と復習は必須である。
テキスト	授業は板書や配布資料による。
参考文献	上記の他、Hinds, John (1986) *Situation vs. Person Focus*. Tokyo: Kurosio.など。
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

16 年度以降 15 年度以前	言語学の世界 英語学の世界	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、B. L. ウォーフ（Benjamin Lee Whorf）の言う「好まれる言い回し」（“fashions of speaking”）という観点から英語と日本語を比較対照し、両者の間に存在する共通点と相違点を捉える枠組みを構築することを目指すものである。 その足がかりとして、英語と日本語の異同に関する多くのデータを取り上げることになるが、これらを個々に覚えることそのものが目的ではないことに注意されたい。一見したところ無秩序にも思えるデータの背後に、法則ないし傾向を見てとる目を養うことが目的である。 そのような理解の仕方をして初めて、表現のレベルでも流暢な英語を身につけられるであろうし、多くの者にとっての母語である日本語への自覚も芽生えることであろう。 【主要参考文献】西村義樹・長谷川明香（2016）「語彙、文法、好まれる言い回し―認知文法の視点―」	1. オリエンテーション、講義の概要 2. 好まれる言い回し（“fashions of speaking”） 3. 人間中心 対 状況中心 4. 人間の全体 対 人間の一部 5. 所有表現 対 存在表現 6. 移動表現 対 推移表現 7. 知覚表現 対 存在表現 8. 他動詞構文 対 自動詞構文 9. 受動構文 対 自動詞構文 10. 個体への注目 対 状況全体への注目 11. 結果志向 対 過程志向 12. 「する」的言語 対 「なる」的言語 13. 客観的把握 対 主観的把握 14. 公的自己 対 私的自己 15. まとめ

到達目標	言語学に関する基礎知識を習得し、言語データを分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	あらかじめ指定された範囲の予習と復習は必須である。
テキスト	授業は板書や配布資料による。
参考文献	上記の他、Hinds, John (1986) *Situation vs. Person Focus*. Tokyo: Kurosio. など。
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

16 年度以降 15 年度以前	コーパス言語学 a 言語情報処理 I a	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目的とします。 コーパス言語学aでは、「コーパス（=言語データ）とは何か？」という基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか？」、「コーパスをどのように分析するのか？」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題(Research question(s))をたて、実際にコーパスデータを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。 授業では、教科書（下記参照）に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思います。	1. ガイダンス・第1章「コーパス言語学への招待」 2. 第2章「コーパスとは何か」 3. 第3章「さまざまなコーパス」 4. 第5章「コーパス検索の技術」 5. 第6章「コーパス頻度の処理」 6. 第7章「コーパスと語彙」(1) 7. 第7章「コーパスと語彙」(2) 8. 第8章「コーパスと語法」(1) 9. 第8章「コーパスと語法」(2) 10. 第9章「コーパスと文法」(1) 11. 第9章「コーパスと文法」(2) 12. プレゼンテーション準備(1):RQを検討 13. プレゼンテーション準備(2):データ分析 14. プレゼンテーション準備(3):資料作成 15. プレゼンテーション

到達目標	コーパス言語学に関して専門知識を習得し、各種ソフトを用いて言語情報を分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、オンラインで提出する。
テキスト	『ベーシックコーパス言語学』（石川慎一郎著 ひつじ書房）
参考文献	英語コーパス研究シリーズ（ひつじ書房）
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み（60%）、最終プレゼンテーション（40%）

16 年度以降 15 年度以前	コーパス言語学 b 言語情報処理 I b	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
「日本人英語学習者のコーパス」を扱います。究極的な研究課題(Research question)は、「日本人英語学習者の話す/書く英語の特徴にはどのようなものがあるか？」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する(あるいはしない)文法項目、誤り(error)などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まってくるに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおかしてしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心か?強い人に向いている内容と言えます。 授業では、演習が中心になります。コーパス言語学aを履修していなくても構いません。	1. ガイダンス・学習者コーパスとは何か 2. 学習者の言語データと第二言語習得 3. 学習者コーパスの仕組み 4. 学習者データの収集(1) 5. 学習者データの収集(2) 6. 学習者データの入力 7. 学習者データの加工 8. 学習者コーパスの語彙分析 9. 学習者コーパスの文法分析 10. 学習者コーパスの流暢さ分析 11. 学習者コーパスの誤り分析 12. プレゼンテーション準備(1):RQを検討 13. プレゼンテーション準備(2):データ分析 14. プレゼンテーション準備(3):資料作成 15. プレゼンテーション

到達目標	コーパス言語学に関して専門知識を習得し、各種ソフトを用いて言語情報を分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、オンラインで提出する。
テキスト	テキストは使用せず。PPt スライドを提示する。
参考文献	英語コーパス研究シリーズ（ひつじ書房）
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み（60%）、最終プレゼンテーション（40%）

16 年度以降	英語教育研究	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、英語教育および第2言語の習得に関わるさまざまな現象について、調査・研究する視点とその方法論を学ぶことを目的とする。たとえば、「早期英語教育の効果は本当にあるのか？」、「文脈を利用した語彙学習は効果的か？」、「リーディング前にどのような活動（pre-reading activity）を行うと、読解がうまくいくのか？」といった具体的な研究テーマを取り上げ、それらを調査した先行研究を参考にしながら、受講者が新たな調査・研究方法を考える。 学期中にはグループで「ミニリサーチ」を実行し、実際にデータを採り、分析を行い、その結果を発表する演習も行う。自発的・積極的に取り組むことを期待する。	1. ガイダンス 2. 英語教育研究とは 3. 英語教育に関わる諸問題（1） 4. 英語教育に関わる諸問題（2） 5. 英語教育研究例（1）：早期英語教育の効果 6. 英語教育研究練習（1）：早期英語教育の効果 7. 英語教育研究例（2）：効果的な語彙学習 8. 英語教育研究練習（2）：効果的な語彙学習 9. 英語教育研究例（3）：リーディング前活動の効果 10. 英語教育研究練習（3）：リーディング前活動の効果 11. ミニリサーチ：テーマの検討 12. ミニリサーチ：研究方法の検討（1） 13. ミニリサーチ：研究方法の検討（2） 14. ミニリサーチ：データ分析と解釈 15. ミニリサーチ：プレゼンテーション

到達目標	言語習得や外国語教授についての専門知識を習得し、分析のうえ、見解の提示ができるようにする。
事前・事後学修の内容	与えられた文献を読み、それに基づいた研究方法を十分に考えてくる。ミニリサーチを実行する。
テキスト	英語教育研究論文を配布する。
参考文献	『はじめての英語教育研究』（2016）浦野研他. 研究社.
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み（50%）、ミニリサーチの実行とプレゼンテーション（50%）

16 年度以降	英語教育教材論	担当者	E．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
How do you develop materials for language teaching? How do you evaluate them effectively? How do you produce materials? This course offers a practical introduction for students to some basic concepts and methodologies related to the development and implementation of materials for language learning and teaching. In addition to the general fundamental principles of materials development that will be covered, this course will also focus on materials developed, produced, and adapted for the Japanese English education classroom. Once students are familiar with the basic concepts, processes, tools, and techniques in materials development, they will then be asked to design materials for use in a practical teaching context.	Week 1: Introduction Week 2: What is Materials Development? Week 3: Input and Output in LL Materials Week 4: Awareness-raising and LL Materials Week 5: Pedagogy and ELT Materials Week 6: English Language Teaching Coursebooks Week 7: Materials Evaluation and Adaptation Week 8: Materials for the Technological Environment Week 9: Materials to Develop Reading Skills Week 10: Materials to Develop Listening Skills Week 11: Materials to Develop Speaking Skills Week 12: Materials to Develop Writing Skills Week 13: Materials for Vocabulary Week 14: Materials for Teaching Grammar Week 15: Consolidation and Conclusion

到達目標	英語教育において用いる教材についての専門知識を習得し、分析のうえ、独創的な教材案を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation
テキスト	Mishan, F & Timmis, I. Materials Development for TESOL. (Edinburgh Univ. Pr., 2015)
参考文献	Other materials will be provided by the instructor
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (40%), projects and presentations (40%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

09 年度以降	音声・音韻論 a	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
「英語の音声」で学んだことをさらに発展させ，英語と日本語を中心に様々な音の特徴や変化についてそのしくみや法則を考え，ことばの知について学ぶ。 音声には音声的な側面と音韻的な側面が表裏一体となって存在する。“音声”とは音波という具体物で、常に変化する“量的”なものである。一方，“音韻”は脳内にある抽象体で、音声に付けるA or B，有or無，高or低などの“質的”な記号である。授業では音の特徴や変化の法則性（音韻）を見ていくが、折に触れその音声実態の多様性を紹介し、音声と音韻の表裏一体性について導入を試みる。 各論は，英語や日本語の様々な音の現象について具体的に学ぶ。英語好きの疑問や何となく感じていた事象について解き明かす。 ＜メッセージ＞ ・「英語の音声」が既習であること。または、困難ではあるが、今学期（火４）並行履修であること。 ・初習“入門”ではなく、“中級”レベルの専門科目であるので、初習者への導入や補足は限定的となる。各自の補足が必要。	1. Introduction，第1章 音と文字　（音声学と音韻論） 2. 第3章 母音の調音 (1)　（自由/抑止，長/短，単/二重） 3. 母音の調音 (2)　（大母音推移，母音と有標性） 4. 第2章 子音の調音 (1) 5. 子音の調音 (2)（グリムの法則，子音の有標性） 6. Exercises 7. 第4章 音と意味 (1) 8. 音と意味 (2)　（音素と異音） 9. 第6章 音節と音の並び (1)　（音韻/音声的分節，分綴） 10. 音節と音の並び (2) 11. 第10章 語強勢　（第二強勢，無ｱｸｾﾝﾄ） 12. 句アクセント (2)　（日英語句ｱｸｾﾝﾄ，外来語ｱｸｾﾝﾄ） 13. 音節とモーラ (1)　（略語と音節） 14. 音節とモーラ (2)（日本語/英語の音節/モーラの違い） 15. Review Exercises

到達目標	英語の音声・音韻論に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	学生は毎回の事前または事後の読み課題や練習問題課題をこなして理解を深める。予習、授業参加，提出などに積極的な参加が求められる。
テキスト	川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館　(1999)　(ISBN4-469-21232-6)
参考文献	窪薗晴夫（1998)『音声学・音韻論』くろしお出版（ISBN-10: 4874241565) P.ローチ著，島岡・三浦訳（1996)『英語音声学・音韻論』大修館（ISBN-10: 4469243922)
評価方法	授業参加（準備・参加）：約 15%，クイズ・課題：約 15%，試験：約 70%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる。

09 年度以降	音声・音韻論 b	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 春学期に同じ。 講義概要 春学期に同じ。 ＜メッセージ＞ ・秋学期からの受講もあり得るが、科目の性質上，春学期の内容が前提とならざるを得ない。よって，秋学期のみ履修する場合は，各自，春学期分の補足が必要になる。 （春に足し算を学んで、秋に掛け算を学ぶとしても、秋に足し算なしでは問題が解けないようなもの)。 ・秋学期からの履修の場合も、「英語の音声」が既習であること。	1. Review, Supplemental reading 2. 第11章 リズムとイントネーション (1) 3. イントネーション (2)（除アクセントと意味） 4. 第5章　音声特徴 5. 音韻素性（弁別/余剰）　（弁別/余剰素性） 6. 第7章　音韻現象を探る 7. 音韻交替 Exercises　（音と形態の作用） 8. 第8章　同化現象 (1) 9. 同化現象 (2) Exercises　（言語の余剰性） 10. 第9章　形態音素 (1) 11. 形態音素 (2) Exercises　（言語変化の途中） 12. 音と統語構造/意味構造とのインターフェイス 13. 音韻表示と音声実現 14. 音声と音韻のインターフェイス 15. Review Exercises

到達目標	英語の音声・音韻論に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	学生は毎回の事前または事後の読み課題や練習問題課題をこなして理解を深める。予習、授業参加，提出などに積極的な参加が求められる。
テキスト	川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館　(1999)　(ISBN4-469-21232-6)
参考文献	窪薗晴夫（1998)『音声学・音韻論』くろしお出版（ISBN-10: 4874241565) P.ローチ著，島岡・三浦訳（1996)『英語音声学・音韻論』大修館（ISBN-10: 4469243922)
評価方法	授業参加（準備・参加）：約 15%，クイズ・課題：約 15%，試験：約 70%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる。

09 年度以降	シンタクス a	担当者	船越　健志

講義目的、講義概要	授業計画
皆さんは中高６年間英語を学び、かなりの文法知識を持っていることと思います。しかし、いざ英語でまとまった文章を書いたり、家庭教師として英文解釈の説明をしようとすると、その知識のあやふやさに気づくことがあるのではないでしょうか。この授業では、生成文法理論に基づいて英語の構造を分析的に理解していきます。分析的に英語を見直していくことによって、実用的な英語力が高まるだけでなく、私たちが無意識に使っている日本語とも多くの共通性があることを知ることになるでしょう。さらに、何語であれ言語は私たちの知的活動に不可欠なものなので、英語のシンタクスを学ぶことにより、人間の本質に迫ることも期待できます。 ＊「シンタクスa, b」では生成文法統語論の基礎を学ぶので、これから統語論関係の専門科目を履修したい、あるいは統語論関係のゼミに入りたいと考えている人（特に2年生）は、なるべく早い段階で本授業を履修することをお勧めします。	1. オリエンテーション 2. 生成文法とは？ 3. 品詞 4. 構成素 5. 樹形図 6. 句構造規則 7. 前半まとめ 8. 構造関係１：支配関係と先行関係 9. 構造関係２：C統御と文法関係 10. 束縛理論１：束縛原理A 11. 束縛理論２：束縛原理Bと束縛原理C 12. X-bar理論１：中間投射 13. X-bar理論２：X-barスキーマ 14. X-bar理論３：補部、付加部、指定部 15. 後半まとめ

到達目標	英語のシンタクスに関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	復習課題に取り組み、授業内容を復習すること
テキスト	ハンドアウトを毎回配布します。
参考文献	Carnie, Andrew (2013) *Syntax: A generative introduction* (3rd ed.). Wiley-Blackwell
評価方法	定期試験７０％＋授業への参加度・貢献度３０％

09 年度以降	シンタクス b	担当者	船越　健志

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的及び概要はシンタクスaと同様です。同一講師の「シンタクスa」（春学期）の履修を前提にして授業を進めるので、連続して履修してください。 「シンタクスa」で学んだことに基づいて、移動現象を中心に議論していきます。	1. オリエンテーション 2. 機能範疇 3. シータ理論 4. 助動詞 5. 主要部移動 6. DP移動１：繰り上げ 7. DP移動２：受動化 8. 前半まとめ 9. Wh移動１：wh疑問文と関係節 10. Wh移動２：島の制約 11. Wh移動３：最小連結条件 12. 二重目的語構文 13. 繰り上げとコントロール 14. 空範疇 15. 後半まとめ

到達目標	英語のシンタクスに関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	復習課題に取り組み、授業内容を復習すること
テキスト	ハンドアウトを毎回配布します。
参考文献	Carnie, Andrew (2013) *Syntax: A generative introduction* (3rd ed.). Wiley-Blackwell
評価方法	定期試験７０％＋授業への参加度・貢献度３０％

09 年度以降	意味論 a	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は，言語学・英語学における意味論と呼ばれる分野の基本的な考え方を身につけることである。これにより，英語に対する理解が深まり，間違いのない英語から英語らしい英語へと関心の持ち方が変わるはずである。また，英語に対する深い理解は，同時に，多くのものにとっての母語である日本語に対する理解をも深めることになるであろう。 授業では，下記テキストの第1章「ことばと意味」，第2章「語彙の中の意味関係」，第3章「文法と意味」及び第4章「意味とコンテクスト」の前半部分の内容を講義する予定である。	１．オリエンテーション ２．ことばと意味１ ３．ことばと意味２ ４．ことばと意味３ ５．語彙の中の意味関係１ ６．語彙の中の意味関係２ ７．語彙の中の意味関係３ ８．文法と意味１ ９．文法と意味２ １０．文法と意味３ １１．文法と意味４ １２．意味とコンテクスト１ １３．意味とコンテクスト２ １４．意味とコンテクスト３ １５．意味とコンテクスト４

到達目標	英語の意味論に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	あらかじめ指定された範囲の予習と復習は必須である。
テキスト	池上嘉彦 (2006)『英語の感覚・日本語の感覚―〈ことばの意味〉のしくみ』東京：日本放送出版協会.
参考文献	池上嘉彦 (1995)『〈英文法〉を考える』東京：筑摩書房.
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	意味論 b	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は，言語学・英語学における意味論と呼ばれる分野の基本的な考え方を身につけることである。これにより，英語に対する理解が深まり，間違いのない英語から英語らしい英語へと関心の持ち方が変わるはずである。また，英語に対する深い理解は，同時に，多くのものにとっての母語である日本語に対する理解をも深めることになるであろう。 授業では，下記テキストの第4章「意味とコンテクスト」の後半部分，第5章「意味の変化のダイナミズム」，第6章「言語の普遍性と相対性」及び第7章「ことばの限界を越えて」の内容を講義する予定である。	１．オリエンテーション ２．意味とコンテクスト１ ３．意味とコンテクスト２ ４．意味とコンテクスト３ ５．意味の変化のダイナミズム１ ６．意味の変化のダイナミズム２ ７．意味の変化のダイナミズム３ ８．言語の普遍性と相対性１ ９．言語の普遍性と相対性２ １０．言語の普遍性と相対性３ １１．言語の普遍性と相対性４ １２．ことばの限界を越えて１ １３．ことばの限界を越えて２ １４．ことばの限界を越えて３ １５．ことばの限界を超えて４

到達目標	英語の意味論に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	あらかじめ指定された範囲の予習と復習は必須である。
テキスト	池上嘉彦 (2006)『英語の感覚・日本語の感覚―〈ことばの意味〉のしくみ』東京：日本放送出版協会.
参考文献	池上嘉彦 (1995)『〈英文法〉を考える』東京：筑摩書房.
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

16 年度以降 15 年度以前	言語・教育特殊講義 a 英語学特殊講義 a	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、ことば（英語と日本語）の背後に存在する法則の一部を明らかにすること及びそのような法則に対して与えうる根拠を探求することである。これと合わせて、言語学で用いられる典型的な論証の型を身に付けることを目指したい。 拠って立つ理論的枠組みは広義の認知主義に基づく言語学である。その基本的な考え方については講義で解説するが、英語学入門で学んだであろう事柄は前提としたい。 テキストを補足するための資料には英語の文献も含まれることになるので、予習は必須である。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。成績評価のための試験は、日本語による論述式の予定である。	1. オリエンテーション、講義の概要 2. 概念意味論（Jackendoff 1991）1 3. 概念意味論（Jackendoff 1991）2 4. 概念意味論（Jackendoff 1991）3 5. Jackendoff (1991)の分析の拡張 1 6. Jackendoff (1991)の分析の拡張 2 7. Jackendoff (1991)の分析の拡張 3 8. 認知意味論 1 9. 認知意味論 2 10. 認知意味論 3 11. 同じ種類のモノと異なる種類のモノ 1 12. 同じ種類のモノと異なる種類のモノ 2 13. 同じ種類のモノと異なる種類のモノ 3 14. 春学期のまとめ 15. 春学期のまとめ

到達目標	言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	あらかじめ指定された範囲の予習と復習は必須である。
テキスト	西村義樹（編）(2018)『シリーズ認知言語学入門第４巻　認知文法論 I』東京：大修館書店.
参考文献	辻幸夫（編）(2013)『新編 認知言語学キーワード事典』東京：研究社.
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

16 年度以降 15 年度以前	言語・教育特殊講義 b 英語学特殊講義 b	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、ことば（英語と日本語）の背後に存在する法則の一部を明らかにすること及びそのような法則に対して与えうる根拠を探求することである。これと合わせて、言語学で用いられる典型的な論証の型を身に付けることを目指したい。 拠って立つ理論的枠組みは広義の認知主義に基づく言語学である。その基本的な考え方については講義で解説するが、英語学入門で学んだであろう事柄は前提としたい。 テキストを補足するための資料には英語の文献も含まれることになるので、予習は必須である。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。成績評価のための試験は、日本語による論述式の予定である。	1. オリエンテーション、講義の概要 2. 同じ種類のコトと異なる種類のコト 1 3. 同じ種類のコトと異なる種類のコト 2 4. 同じ種類のコトと異なる種類のコト 3 5. 認知文法論 1 6. 認知文法論 2 7. 認知文法論 3 8. 素性分析の問題点 1 9. 素性分析の問題点 2 10. 素性分析の問題点 3 11. 合計を表す文と数を数える能力 1 12. 合計を表す文と数を数える能力 2 13. 合計を表す文と数を数える能力 3 14. 秋学期のまとめ 15. 秋学期のまとめ

到達目標	言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	あらかじめ指定された範囲の予習と復習は必須である。
テキスト	西村義樹（編）(2018)『シリーズ認知言語学入門第４巻　認知文法論 I』東京：大修館書店.
参考文献	辻幸夫（編）(2013)『新編 認知言語学キーワード事典』東京：研究社.
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

16 年度以降 15 年度以前	言語・教育特殊講義 a 英語学特殊講義 a	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、先ず中高で習うSVOなどの英語の単文構造を見直し、仮主語をとる構文を加え、複文構造に拡張する。この統語分析の基礎を踏まえ、日英語を中心とした比較分析を行なっていく。例えば、日本語の母語話者にとって、英語や他のヨーロッパの言語の冠詞・指示詞や時制節と不定詞節の使い分けなどを習得するのはやっかいである。「この本」の「この」はthisに置き換えられるが、「私のこの本」をmyとthisを使ってmy this bookと言うことはできない。また、主節主語と従属時制節主語が一致する場合、英語では代名詞を使わねばならない(John admitted that he was wrong)が日本語は省略（ジョンは間違っていることを認めた）した方が自然である。このような違いは他の言語間にも見られるが、言語は制限無く無秩序に多様なのであろうか。非母語話者にとって複雑にみえる規則も、その言語を母語として子供が獲得するのは容易であることから、言語の多様性はある一定範囲に収まっていると仮定できる。この授業ではこの仮定に従って日英語、その他を比較分析していく。シンタクスa,bの既修もしくは併修が望ましいが、必要な基礎知識は適宜導入する。	1. 講義の概要 2. 英語の基本構文 3. 英語の複文構造と仮主語構文 4. 英語の名詞句の内部構造 5. 日英語の名詞句の比較 6. 英語とフランス語の冠詞の比較 7. 機能範疇と語彙範疇：DとN 8. 前半のまとめ 9. 英語の動詞句：必須要素と修飾要素 10. 節構造の見直し：SからTPへ 11. 英語の時制節：仮主語など 12. 日本語・イタリア語の時制節：主語の省略など 13. 日本語・イタリア語の主語の格 14. 比較統語論と普遍文法 15. 講義のまとめ

到達目標	言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布される論文の指定箇所を予習し、受講した講義内容を復習する。
テキスト	Zushi, M. (2005) “Deriving the similarities between Japanese and Italian” *Lingua* 115:711-752 他
参考文献	Freiden, R. (2012) *Syntax: Basic Concepts and Applications* (CUP), 中村捷・他 (1989)『生成文法の基礎』(研究社)
評価方法	毎回の授業での言語分析(30%)、試験(70%)

16 年度以降 15 年度以前	言語・教育特殊講義 b 英語学特殊講義 b	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
言語・教育特殊講義aと同様、言語の多様性は子供に獲得可能な範囲に収まっているという仮定を保持して、語順の自由度、時制解釈などについて分析する。具体的には(1)の意味を表すためには英語は(2)のように従属節の時制を過去にしなければならない。 (1) ジョンは間違っていることを認めた。 (2) John admitted that he was wrong. いわゆる「時制の一致」に英語は従うが、日本語は従わないと一般化されることが多い。ロシア語、ルーマニア語も時制の一致に従わないが、これらの言語に日本語との共通点はあるのだろうか。この授業では一見関連がない言語の節構造を精査することにより時制の一致現象の有無や語順の自由度に関する差などを導き出せることを見ていく。春学期の言語・教育特殊講義aの履修が望ましいが、必要な基礎知識は適宜導入する。	1. 講義の概要 2. 主節構造と現在時制 3. 英語の従属節マーカーthatと日本語の「と」の比較 4. 英語の語順の自由度 5. 日本語の語順の自由度 6. イタリア語・ルーマニア語の語順の自由度 7. 日本語の終助詞の文中用法 8. 前半のまとめ 9. 日英語の補文節の時制解釈の比較 10. 日英語の副詞節、関係節の時制解釈の比較 11. イタリア語とルーマニア語の時制解釈 12. ロシア語と日本語の時制解釈の比較 13. 時制の一致規則の破棄 14. 終助詞・時制解釈の分析の比較統語論に対する示唆 15. 全体のまとめ

到達目標	言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布される論文の指定箇所を予習し、受講した講義内容を復習する。
テキスト	Gennari, S.P. (2003) “Tense meanings and temporal interpretation” *J. of Semantics* 20:35-71. 他
参考文献	Freiden, R. (2012) *Syntax: Basic Concepts and Applications* (CUP), 中村捷・他 (1989)『生成文法の基礎』(研究社)
評価方法	毎回の授業での言語分析(30%)、試験(70%)

16 年度以降 13～15 年度 12 年度以前	言語・教育文献セミナーa 英語学文献セミナー a 英語学文献研究 a	担当者	船越　健志

講義目的、講義概要	授業計画
＊この授業は**生成文法統語論の基礎知識をかなり前提**にしています。特に「シンタクスa, b」を未履修の場合は、授業についてこられなくなる可能性が高いので気をつけてください。 この授業では、英語で書かれた専門的な文献を読み、生成文法統語論の知識を深めるとともに、内容をまとめて発表するために必要なプレゼン技術の習得を目指します。受講生の構成によって、以下の３つの本のいずれかを講読します。(i) Baker, M. (2001) "The Atoms of Language," (ii) Haegeman, L. (1991) "Introduction to Government & Binding Theory," (iii) Radford A. (1997) "Syntactic theory and the structure of English." (i)は原理とパラメターアプローチ、(ii)は統率束縛理論、(iii)は極小主義統語論の入門書です（「授業計画」は(ii)を読む場合を想定しています)。講師による講義もありますが、受講生によるプレゼンが中心になります。	1. オリエンテーション 2. プレゼンのための準備（講義） 3. イントロダクション: 生成文法統語論概略（講義） 4. 第１章：語と句、述語と項（講義） 5. 第１章：意味役割と投射原理（講義） 6. 第２章：句の構造（学生プレゼン） 7. 第２章：文の構造（学生プレゼン） 8. 第２章：講師によるまとめ（講義） 9. 第３章：構造格（学生プレゼン） 10. 第３章：受動化（学生プレゼン） 11. 第３章：講師によるまとめ（講義） 12. 第４章：照応系、代名詞、R表現（学生プレゼン） 13. 第４章：束縛理論（講義） 14. 第４章：講師によるまとめ（講義） 15. 春学期のまとめ（講義）

到達目標	文献研究を通じて、言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）について専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテキストの該当箇所を精読し、疑問点などを整理しておく。
テキスト	上記(i)~(iii)のいずれかを使うが、高価なので買う必要はない。テキストの入手方法は初回の授業でアナウンスする。
参考文献	Carnie, Andrew (2013) *Syntax: A generative introduction* (3rd ed.). Wiley-Blackwell
評価方法	プレゼン（５０%）＋授業への参加度・貢献度（５０%）

16 年度以降 13～15 年度 12 年度以前	言語・教育文献セミナー b 英語学文献セミナー b 英語学文献研究 b	担当者	船越　健志

講義目的、講義概要	授業計画
＊この授業は**生成文法統語論の基礎知識をかなり前提**にしています。特に「シンタクスa, b」を未履修の場合は、授業についてこられなくなる可能性が高いので気をつけてください。また、同一講師の「言語・教育文献セミナーa」（春学期）で読んだ文献の続きを読むので、**連続履修**をしてください。 講義目的・概要は「言語・教育文献セミナーa」と同様です。春学期の続きを講読します。	1. オリエンテーション 2. 第５章：不定詞節の主語とPRO（学生プレゼン） 3. 第５章：コントロール（学生プレゼン） 4. 第５章：講師によるまとめ（講義） 5. 第６章：NP移動（学生プレゼン） 6. 第６章：Burzioの一般化（学生プレゼン） 7. 第６章：標示のレベルと原理（講義） 8. 第７章：wh移動（学生プレゼン） 9. 第７章：島の制約と下接の条件（学生プレゼン） 10. 第７章：講師によるまとめ（講義） 11. 第８章：空範疇とECP（学生プレゼン） 12. 第８章：pro-dropパラメターと空演算子（学生プレゼン） 13. 第８章：寄生空所（講義） 14. 第８章：講師によるまとめ（講義） 15. 秋学期のまとめ（講義）

到達目標	文献研究を通じて、言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）について専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテキストの該当箇所を精読し、疑問点などを整理しておく。
テキスト	上記(i)~(iii)のいずれかを使うが、高価なので買う必要はない。テキストの入手方法は春学期初回の授業でアナウンスする。
参考文献	Carnie, Andrew (2013) *Syntax: A generative introduction* (3rd ed.). Wiley-Blackwell
評価方法	プレゼン（５０%）＋授業への参加度・貢献度（５０%）

交 流 文 化 論

09 年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているＬＣＣ（低コスト航空会社）の拡大、多様化など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的な知識の習得を目的としている。 講義概要： 　本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。また、様々なビジネス理論の解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。タイミングが合えば、航空関係者を招聘し特別講演を実施する。	１．オリエンテーション ２．最近の航空産業の動きなど ３．航空産業とキャリアデザイン ４．航空とは何か ５．航空の歴史 ６．ＬＣＣ（低コスト航空会社）が世界を変える ７．航空事業の特性と運賃 ８．米国チャプター１１（連邦破産法第１１章） ９．ＪＡＬの破綻と復活 １０．規制緩和とオープンスカイ政策 １１．航空機製造ビジネス １２．三菱リージョナルジェット（ＭＲＪ）飛翔 １３．空港 １４．国際航空法 １５．講義全体の“まとめ”

到達目標	国際航空業の仕組みや成り立ち、国際航空協定と航空ナショナリズムの流れに関する専門知識を習得し、わが国の空港行政の問題点や航空政策の現状と課題、及びLCCやアライアンス等の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習の実施
テキスト	教科書：『最新・航空事業論（第２版）』（２０１６年１２月、日本評論社）
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画３０％、最終試験７０％

13 年度以降	交流文化論（ツーリズム特殊講義 （紛争事例から学ぶ旅行契約法入門)）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、旅行契約に関わる具体的な紛争事例の解決策を検討することを通じて、旅行契約に関わる法（主に民法）のあり様と基本的な考え方を学びます。全部で３つの紛争事例を課題として取り上げる予定ですが、各事例の解決に向けて、グループで活動をしながら、課題の解決に必要な知識や技能、態度を協調的・自立的に学習していきます。最後に総仕上げとして、口頭発表会を開催して、各自（履修者数によってはグループごと）の学習成果を発表したうえ、それをレポートにまとめて提出します。 この授業を通じて、旅行契約において生じる法的問題のうち、少なくとも１つについて、法律学を学習したことのない人に対して、分かりやすく、自分の言葉で、簡潔に（口頭3分、文書1200字程度)、ただし法的思考の作法に従って、解答することができるようになることを目指します（これがこの授業の獲得目標の一つになります)。 具体的な授業の進め方や成績評価の方法などについては、第１回のオリエンテーションで詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第１回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。	1. オリエンテーション 2. ＰＢＬガイダンス 3. ＰＢＬ練習 4. 第１事例（その１） 5. 第１事例（その２） 6. 第１事例（その３） 7. 第２事例（その１） 8. 第２事例（その２） 9. 第２事例（その３） 10. 第３事例（その１） 11. 第３事例（その２） 12. 第３事例（その３） 13. 口頭発表会の準備 14. 口頭発表会 15. まとめと振り返り

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業３回に２回の割合で「予習メモ」、各事例の検討後は、グループでの検討結果をまとめたメモ（グループメモ）の提出を求めます。全事例の検討後は、受講者各自が授業全体を通じて学習した成果を口頭で発表のうえ、レポートにまとめて提出します。
テキスト	特になし。学習に必要な文献や資料は、原則として受講者自身が協力し合って調査・収集します。
参考文献	必要に応じて適宜、授業中に紹介します。
評価方法	出席率、宿題提出率、口頭発表と最終レポート提出の有無、及びラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の採点結果の組み合わせによって評価しますが、評価基準は複雑でこの欄に書き切れないため、第１回目のオリエンテーションで説明します。

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。 本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方について批判的視点を身につけることを目標とする。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。 講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。	1、 ガイダンス 2、 ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点 3、 ツーリズム商品の特徴②：イメージ消費と身体的行為 4、 パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 5、 パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 6、 パッケージツアー③：身体化される団体旅行 7、 パッケージツアー④：スピリチュアリティの商品化 8、 パッケージツアー⑤：商品企画における「知識の管理」 9、 空間の管理とテーマ化 10、 テーマ化された空間とハイブリッド消費 11、 感情労働 12、 テーマ化された空間に暮らす 13、 生活とツーリズム 14、 「ツーリズムの終焉」とツーリズム産業 15、 まとめ

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト	指定しない。
参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20%　期末試験 80%

09 年度以降	交流文化論（フィールドワーク論）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、東京の魅力やそれを支える文化的独自性について、実際に東京各所を歩き回ることを通じて考える実践的講義です。 まず、文化人類学や社会学、地理学、歴史学、建築史など様々な視点から書かれた雑多な「東京論」を講義形式で紹介します。その上で、実際に東京各地を縦横無尽に歩きます。 受講生には、担当教員が指定した6つのコースの中から1~2つ選択し、5月から6月の週末を使って、プチ・フィールドワークをしてもらいます（実費負担）。なお担当教員は、これらのプチ・フィールドワークにすべて同行し、基本的な解説を行ないます。しかしただ解説を聞くのではなく、受講生自身が、想像力と五感をフルに使って東京の文化的独自性やその「味わい方」を発見することが求められます。 街歩きにもとづく「発見」の成果については、学期末に班ごとに発表をし、レポートにまとめてもらいます。	1. 趣旨説明・グループ分け（1回） 2. 東京を「読む」ための方法論（講義） 3. コース解説1：山の手と下町（本郷・上野・浅草） 4. コース解説2：ウォーターフロント（深川、佃、月島） 5. コース解説3：「おばあちゃんの原宿」（巣鴨） 6. コース解説4：繁華街の過去・現在・未来（渋谷・原宿） 7. コース解説5：エスニック・タウン（新宿、新大久保） 8. コース解説6：ジブリ映画の舞台・ニュータウン（多摩） 9. 発表・議論1 10. 発表・議論2 11. 発表・議論3 12. 発表・議論4 13. 発表・議論5 14. 発表・議論6 15. まとめ

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	雑誌『東京人』等、東京を紹介する各種メディアの記事などを参照する。
テキスト	特に指定しない。
参考文献	随時、プリントや文献リストを配布する。
評価方法	発表・議論への参加度・フィールド実習でのパフォーマンス、学期末レポートなどを踏まえ、総合的に評価します。ただし、4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義（グローバリゼーションと子ども)）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
世界では約1億7000万人の子どもが児童労働に従事している。こうした子どもたちが抱える問題やその背景を理解すると同時に、グローバリゼーションや私たちがどのようにかかわっているのかを理解する。また、問題を解決するために、国際機関やNGOの取り組みについて理解する。 この授業を通じて、世界の子どもの問題について単に「かわいそう」というだけでなく、社会科学的に理解し説明できるようになります。また、「子どもの権利条約」を理解して、現状を分析し、解決方法について考えることができるようになります。また、国際社会の規範の変容における国連の役割、国家・社会の規範や政策の変容プロセスを理解し、説明することができるようになります。	1. ガイダンス（概要と、予習・復習について） 2. アジアの児童労働 3. タイのストリート・チルドレン 4. 赤ちゃんの値段－国際養子縁組問題 5. 女性と子どものヒューマン・トラフィック Part Ⅰ 6. 女性と子どものヒューマン・トラフィック Part Ⅱ 7. ヒューマン・トラフィック撲滅への取り組み 8. 日本の子どもの貧困 9. 在日外国人の子どもの問題（アクティブラーニング） 10. アフリカの子ども兵士 11. イラク戦争と子どもたち 12. 国連の安全保障と子どもの保護 13. 子どもの権利の実現に向けての国連の役割 14. 子どもと教育について 15. 今学期のまとめ（質疑応答など）

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと、授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組むこと
テキスト	テキスト　初瀬龍平・戸田真紀子・松田哲編『国際関係の中の子どもたち』（晃洋書房、2015 年）
参考文献	授業で適宜紹介します
評価方法	大福帳 15%、期末試験 85%

09 年度以降	交流文化論（トランスナショナル・メディア論）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。 この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。 メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。	1. ガイダンス:「トランスナショナル」と「メディア」とは？ 2. メディアの源流①：メディアとしての新約聖書 3. メディアの源流②：宗教戦争とナショナルな想像力 4. 近代とメディア①：ジャーナリズムとリテラシーの曙 5. 近代とメディア②：「個人」の誕生と「国家」の変容 6. 近代とメディア③：「日刊新聞」以前・以後 7. 近代とメディア④：ニューヨーク・タイムズの19世紀 8. 近代日本のトランスナショナル・メディア 9. 20世紀とメディア①：国際プロパガンダと「宣伝」 10. 20世紀とメディア②：ベトナム戦争と ニュー・ジャーナリズム 11. 20世紀とメディア③：湾岸・イラク戦争と”Media War” 12. 国際報道の現在形①：「ライブ」という問題 13. 国際報道の現在形②：ネット時代の「ニュース」 14. 国際報道の現在形③：トランスナショナル・メディアと現代 15. まとめ

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。
テキスト	各回講義で適宜提示します。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

09 年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
日本の敗戦から70年以上が経ち、戦争について語られる機会も少なくなりました。この授業では、メディアや学校、ミュージアムなどで、戦争がどのように記憶、表象されているかを調べ、記憶や表象の可能性について、受講生の皆さんと議論していきます。春学期は、2014年に『毎日新聞』に連載された記事「いま靖国から」を題材に、強制連行、慰安婦についても考えていきます。 1945年、秋田県の花岡鉱山で、中国から強制連行されていた人たちが蜂起し、鎮圧されて400人以上が犠牲になりました。蜂起のあった6月30日には毎年、慰霊祭が営まれています。今年は土曜日にあたるので、(ちょっと遠距離ですが) 現地で課外授業をおこない、慰霊祭への参加、平和記念館の見学などをする予定です。 課外授業は、その他に靖国神社、女たちの戦争と平和資料館(wam)などでも実施の予定です。少なくとも1回は課外授業に参加することが、単位取得の条件になります。	1. イントロダクション 2. 中国人強制連行の政策と思想 3. 花岡事件とは 4. 花岡事件と和解、記憶の継承 5. 課外授業準備 6. 「慰安婦」か「性奴隷」か 7. 「慰安婦」か「性奴隷」か 8. 「慰安婦」か「性奴隷」か 9. いま靖国から 10. いま靖国から 11. いま靖国から 12. 課外授業準備 13. 女たちの戦争と平和資料館 14. 靖国神社と遊就館 15. まとめのディスカッション

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを十分に予習し、また背景となる歴史や社会状況について調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。
テキスト	杉原達『中国人強制連行』(岩波新書、2002) ほか、『毎日新聞』の連載記事はプリントを配布します。
参考文献	NHK 取材班、『NHK スペシャル 幻の外務省報告書―中国人強制連行の記録』(NHK 出版、1994) ほか。
評価方法	予習復習の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（40%）、毎週のフェイスブックへの投稿（30%）、最終レポート（30%）＊授業はディスカッション型で、積極的な参加が求められます。

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
ツーリズムが社会にもたらす影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など多岐にわたっています。それゆえツーリズムを学術的に考察する際の方法論も多様です。 本講義では、特に文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶことを目的としています。 具体的には、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指します。同時に、ツーリズム研究に関連する現代人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めていきたいと思います。 受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ありませんが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となります。	1. 趣旨説明 2. 映画『海と大陸』 3. グローバリゼーションの民族誌1 4. グローバリゼーションの民族誌2 5. 旅と観光 6. ビデオ上映『深夜特急1』 7. 表象の政治学―情報資本主義と観光 8. メディアと観光―「楽園」ハワイの文化史 9. 植民地主義と観光―「神々の島」バリの誕生 10. 文化装置としてのホテル 11. 世界遺産の窮状―カンボジアの事例 12. セックス・ツーリズム―タイの事例 13. エスニック・ツーリズム―タイの事例 14. 先住民文化の商品化と著作権―北欧サーミの事例 15. 「記憶の場」と観光―広島および西アフリカの事例

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』『観光人類学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。
テキスト	特に定めない。
参考文献	『観光学キーワード』（有斐閣）、『よくわかる観光社会学』（ミネルヴァ書房）、『観光人類学』（新曜社）
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （東南アジアのナショナリズム、民主主義、平和)）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
2000年代に入り中国や東南アジアの成長はめざましい。中国はいまや世界第二位のGDPとなり、東アジアの平和のカギを握る存在となった。また、2015年に成立したASEAN共同体は6億人の巨大市場としても注目されている。また、インドもICT産業を牽引する国家である。みなさんは将来、出張先として、ビジネスパートナーとして中国、東南アジア、インドと向き合うことになる。したがって、この授業では、将来みなさんが向き合うことになるアジアの政治や社会―ナショナリズム、戦後の国民国家建設の歩み、そして紛争や平和の課題を理解し、日本との関係について、東南アジア地域研究の観点から考えることを目的とする。それはみなさんが将来、何らかの形でアジアと良い信頼関係を築き、東アジアの平和や安定を創り出す一端を担ってほしいからである。	1. ガイダンス（予習・復習）東南アジア地域の特徴 2. 近代以前の東南アジア 3. 帝国主義と植民地政策 4. 中国、ベトナム、インドのナショナリズム（民族運動） 5. 日本軍政と東南アジア 6. 冷戦と東南アジアの独立 7. 中国の文化大革命と改革開放 8. ベトナム戦争とアメリカ 9. ベトナム戦争とカンボジアのポルポト（大虐殺） 10. タイの国民国家―国王・軍・政治家・中間層 11. フィリピンの権威主義体制と民主化、NGO 12. インドネシアの権威主義体制とアジア通貨危機 13. マレーシア・シンガポールの国民統合と多文化主義 14. ASEANの地域統合と課題 15. 今学期のまとめ

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストを事前に熟読すること、復習については授業の最後で述べるポイントに従って、テキストを振り返ること
テキスト	中野亜里・遠藤聡ほか『入門　東南アジア現代史（改訂版)』福村出版、2016 年。
参考文献	授業で紹介します
評価方法	大福帳　15%、期末テスト　85%

09 年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　２０２０年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントの歴史、現状などについて学習する。 講義概要： 　オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議などについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか”などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。	１．オリエンテーション ２．イベント・コンベンションについて① ３．イベント・コンベンションについて② ４．国際博覧会 ５．２０２０年東京オリンピック・パラリンピック ６．障害者スポーツとパラリンピックについて ７．国際会議・イベントについての「ディスカッション」 ８．古代オリンピック ９．ビジネスの視点からのオリンピック① 10．ビジネスの視点からのオリンピック② 11．プレゼンテーション： 「２０２０年・東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」① 12．　〃　② 13．　〃　③ 14．　〃　④ 15．まとめ

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞、関連文献などを事前に読むこと。配布した資料の復習
テキスト	適宜個別資料を配布する
参考文献	特に指定無し
評価方法	授業での発言、受講姿勢、講義参画７０％、プレゼンテーションとレポート３０％

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的としている。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、グローバル化が進展する今日その重要性がさらに高まっている。このような現状を踏まえながらマーケティングの視点も含め多様な視点からツーリズム政策を分析する。同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。 講義概要： 　ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション等を通して受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して理解を深めていく。	１．オリエンテーション ２．ツーリズムの基本構造（１） ３．ツーリズムの基本構造（２） ４．マーケティングとは何か？ ５．ツーリズム政策とマーケティング理論 ６．ツーリズム政策の変遷 ７．ツーリズム政策における我が国の課題 ８．（ツーリズム政策に関する）ディスカッション ９．世界のツーリズム政策（シンガポール） １０．世界のツーリズム政策（北欧、ドイツ） １１．世界のツーリズム政策（スイス） １２．世界のツーリズム政策（フランス） １３．日本各地のツーリズム政策（地域振興など） １４．ツーリズムとキャリアデザイン １５．講義全体の“まとめ”

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞などメディアを通して、ツーリズムに関する情報を事前に予習しておくこと
テキスト	適宜個別資料を配布する
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』(丸善プラネット)
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画３０％、最終試験７０％

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をともなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ考察する。おみやげという身近な存在を通じて、グローバルな人とモノの移動と文化をめぐる動態について考える視野を身につけることを目標とする。 講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。	1、 ガイダンス 2、 ツーリズムにおけるモノの文化的消費 3、 おみやげとスーベニア 4、 観光みやげの近代 5、 「民芸品」をめぐるまなざし 6、 観光みやげと「ものがたり」 7、 観光みやげのギフト性 8、 観光みやげと真正性 9、 観光みやげの儀礼的倒錯性 10、 こけしと木彫り熊 11、 旅するマトリョーシカ① 12、 旅するマトリョーシカ② 13、 民芸品としてのアジアン雑貨 14、 アジアン雑貨が創る旅 15、 まとめ

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト	指定しない。
参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20%　期末試験 80%

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （移民・難民と日本社会)）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
「日本は単一民族国家だ」という人がいますが、間違いです。どんな社会も例外なく多民族で構成されていますし、今後はもっとそうなるでしょう。この授業では、文化多様性を尊重し、言語、宗教、文化の背景を異にする人たちが暮らしやすい社会をどのように作っていくか、受講生の皆さんと共に考えていきます。 （テクスト）①西日本新聞社編『新 移民時代：外国人労働者と共に生きる社会へ』（明石書店、2017）②塩原良和『共に生きる：多民族・多文化社会における対話』（弘文堂、2012)。昨年、早稲田ジャーナリズム大賞を受賞した①を題材に日本社会の現状に目を開き、②を使って文化多様性の理論を学びます。 課外授業を2回実施します。1回目はハンセン病の隔離療養施設だった多摩全生園で、日本の中のマイノリティー差別について考えます。2回目は群馬県館林市にあるロヒンギャ民族のコミュニティーを予定しています。 ＊昨年の授業とは内容が異なるので重複履修も可能です。	1. イントロダクション 2. 映画『あん』(2015）から考える差別の問題 3. 映画『あん』(2015）から考える差別の問題 4. 出稼ぎ留学生①より 5. 留学ビジネス：ネパールからの報告①より 6. 留学ビジネス：学校乱立の陰で①より 7. 働けど実習生①より 8. 変わる仕事場①より 9. 交差する人々①より 10. ともに生きる、近未来を歩く①より 11. 多民族・多文化社会としての日本②より 12. 日本人というマジョリティ②より 13. マイノリティーと差異②より 14. コスモポリタン多文化主義②より 15. ロヒンギャ民族と日本 ＊課外授業の日時、内容については初回の授業でお話します。また、課外授業の実施に伴い、授業計画に変更が生じる場合があります。

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを十分に予習し、また背景となる歴史や社会状況について調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。
テキスト	『新 移民時代』『共に生きる』とも売店(Duo)に発注ずみです。
参考文献	適宜、紹介します。図書館にあるものは指定書コーナーに配架されているので、利用してください。
評価方法	予習復習の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（40%）、毎週のフェイスブックへの投稿（30%）、最終レポート（30%）＊授業はディスカッション型で、積極的な参加が求められます。

13 年度以降 12 年度以前	交流文化論（ツーリズム特殊講義（ツーリズム地誌論）） 交流文化論（ツーリズム地誌論）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、野外民族博物館「リトルワールド」(愛知県犬山市)における1泊3日の研修旅行を通じて、世界各地の幅広い地誌学的・民族誌的知識を習得することを目指します。 リトルワールドには、世界の30以上の地域・民族の家屋・生活道具が移築・復元されています。受講生は、複数のグループに分かれ、そのなかから1つの地域・民族を選び、それぞれの地域・民族の文化や習慣について、事前に文献資料収集を行ないます。その上で、研修旅行では各々が「ガイド」となって、各展示を案内してもらいます。さらに、これら一連の作業を踏まえた上で、期末レポートとしてミニ・エスノグラフィを作成します。 本講義は、リトルワールドへの研修旅行を中心とした科目のため、研修旅行への参加が、履修の条件となります。またグループ・ワークなど演習形式の取り組みも多いため、グループ内の議論等に積極的に参加できる人のみ履修を認めます。なお，初回授業時にグループ分け等を行なうので、受講希望者は必ず出席すること。	1.　趣旨説明・グループ分け 2.　講義1：民族誌展示の歴史と現在1 3.　講義2：民族誌展示の歴史と現在2 4.　ビデオ上映（国立民族学博物館の取り組み） 5~14.　発表・議論 15.　まとめ ※研修旅行の日程は、12月中旬の週末を予定しています。詳細は、秋学期開始時までに教務課掲示板にてお知らせします。費用は、往路バス・復路新幹線利用、宿泊費込みで3万円程度です。

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	リトルワールドに展示されている諸地域・民族集団の民族誌を読むこと。
テキスト	山下晋司・船曳建夫（編）『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣
参考文献	随時、文献リストを配布する。
評価方法	研修旅行での案内、授業におけるプレゼンテーション、期末レポート、議論への参加度などをふまえ、総合的に評価する。ただし、4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義（グローバル経済とジェンダー)）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
経済のグローバル化が進展しているが、女性はどのような役割を果たし、影響を受けているのだろうか。それを知るためには、現在経済成長が著しいアジアに着目するとよいだろう。アジア開発銀行は『アジア2050－アジアの世紀の誕生』(2012）の中で、現在のアジアの成長が続けば、その名目GDPは世界全体の50%を超えるとし、21世紀はまさしくアジアの世紀だと述べた。授業では、このアジア経済の成長を牽引する中心に女性の労働があると位置づけ、グローバル経済の実態－古典的国際分業から今日のグローバル経済を構成している3つの新国際分業を再解釈する。 日本女性の労働の問題もその観点から考える。女性の労働の在り方を考えることは、男性の労働や家族との関係についても考えるきっかけとなると考えている。	1. ガイダンス－授業の内容、進め方、予習復習について 2. 古典的国際分業とグローバル経済 3. 新植民地主義について『バナナの逆襲』から考える 4. 今日のグローバル経済（1）新国際分業の成立 5. 新国際分業について『トゥルーコスト』から考える 6. 今日のグローバル経済（2）再生産領域の新国際分業 7. 香港の家事労働者受入れ政策とフィリピン女性 8. フィリピン女性の移住労働と家族の問題 9. 日本の“輝ける女性”の活躍とフィリピン家事労働者 10. 資本主義の発展と再生産領域についてのまとめ 11. 今日のグローバル経済（3）サービス業の新国際分業 12. インド、中国、フィリピンのBPOの国際比較 13. 日本女性の労働と男女雇用機会均等法 14. 日本女性の労働と非正規雇用 15. 授業のまとめと質疑応答など

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組み、予習復習する。
テキスト	授業でプリントを配布します
参考文献	堀芳枝編『学生のためのピース・ノート２』コモンズ、2014 年、ほか授業で適宜紹介します。
評価方法	大福帳 15%、期末テスト 85%

13 年度以降	交流文化論（ツーリズム特殊講義 （交流文化の思想を読み解く））	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、交流文化の思想を理解するうえで役立つ「古典」の精読を通じて、3・4年次生の研究に資する高度な読解力と思考力を育てるための技法を学びます。 「古典」は、授業や論文で言及されることが多い割に、学生が実際に読む機会は少ないと考えられます。しかし「古典」は「有名な学者が書いた本」ではなく、そこに時代の精神を捉える「問い」が活き活きと描かれているからこそ、多くの人々に読み継がれてきた良書であるといえます。そのため、筆者の「問い」を再現し、その思考を追体験することで、「古典」を精読する楽しみ（ワクワク感）を出席者とともに味わうことを目指します。 この授業は「反転授業」の方法で行います。全員がテキストを読解して出席していることを前提に、教員やレジュメ担当者が一方的に話すのではなく、逆に出席者の「ここが読めなかった」「ここはこういう意味か」等の質問からスタートし、全員で討論して、「われわれの読解」を練り上げることを試みます。 そのためこの授業は定員を30名に設定し、3・4年次での受講を推奨します。難解な文献を他の出席者と協力して積極的に読解し、その思想を深く理解する喜びを求める方の受講を歓迎します。	1. ガイダンス：読解の方法、各テキストの説明 2. ポストモダンとは何か①（J.F.リオタール） 3. ポストモダンとは何か②（J.F.リオタール） 4. ツーリズムと「まなざし」①（J. アーリ&J. ラースン） 5. ツーリズムと「まなざし」②（J. アーリ&J. ラースン） 6. ツーリズムと「まなざし」③（J. アーリ&J. ラースン） 7. 「まなざし」と主体性①（M. フーコー） 8. 「まなざし」と主体性②（M. フーコー） 9. 「まなざし」と主体性③（M. フーコー） 10. オリエンタリズムと文化多様性①（E. サイード） 11. オリエンタリズムと文化多様性②（E. サイード） 12. 「社会」という思想①（見田宗介） 13. 「社会」という思想②（見田宗介） 14. 「社会」という思想③（見田宗介） 15. 総括討論、まとめ

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストを毎回必ず複数回は精読して理解を深め、論点と疑問点を整理して授業に参加してください。 また授業後に 1 回はテキストを読み返してください。
テキスト	必要なテキスト（部分）を配布しますが、1～2 冊の文庫・新書は購入してもらう予定です。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	授業参加度 40%、発表 50%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義（「観る」ことの文化史)）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
旅するとき、人はなぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆にSNSへアップするためにフォトジェニックな場所へ旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています――いったい「撮る」という行為は、いかなる意味を持つのでしょうか？ 「じっさい、観光はたいていが、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アーリ＆ラースン、2011＝2014)。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。 そのためこの講義では､(1) 海外の研究成果を日本の社会文脈に導入し､(2) 写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、(3) また「自撮り（Selfie)」や「絶景」や「SNSフォト」など最近のトランスナショナルな社会現象を考えること、を試みます。そうして「観る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探り、近代社会におけるイメージとイマジネーションの諸問題を考えることを目的とします。	1. ガイダンス：「観る」ことと「まなざし」 2. 写真の歴史①：遠近法と写真術 3. 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化 4. 写真の歴史③：写真が「写真」になるとき 5. 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術 6. 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」 7. 海外の「まなざし」③： 天皇のイメージとイマジネーション 8. 「撮る」の政治学①：「動く画」の衝撃（映画の誕生） 9. 「撮る」の政治学②：映画が「映画」になるとき 10. 「撮る」の政治学③：ディズニー映画とdomestication 11. 「撮る」の政治学④：「まなざし」の政治と主体 12. 写真とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々 13. 写真とツーリズム②： 「自撮り」とセルフ・ポートレイト 14. 写真とツーリズム③： SNS時代の「観る」体験 15. まとめ

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。
テキスト	各回講義で適宜提示します。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

13 年度以降 12 年度以前	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義（パフォーマンス研究）） 交流文化論（パフォーマンス研究）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の授業「表象文化論」の後編になりますが、こちらだけ受講することも可能です。戦争の記憶がどのように表象されているかは、パフォーマンス研究にとっても重要なテーマです。 テクストの『忘却された支配』は、2015年の『毎日新聞』に連載記事「支配した国　強制の記憶」がベースになっていますので、元の記事も参照しながら議論を進めていきます。 秋学期は、日本の朝鮮植民地支配に焦点を当てますが、植民地支配の延長線上にある在日コリアンや沖縄の状況についても、学生の皆さんと議論していきたいと思います。また、舞台や映画のパフォーマンスという視点から、日本を代表する劇作家である平田オリザの『ソウル市民1919』や、植民地支配に関連した劇映画なども取り上げましょう。 日時、場所などは未定ですが、土日を利用して日帰りの課外授業をおこなう予定です。 ＊昨年の授業とは内容が異なるので重複履修も可能です。	1. イントロダクション 2. 強制を思い出す（宇部、北海道） 3. 骨と碑の戦後史（筑豊） 4. 追悼と謝罪の間（紀州） 5. 朝鮮人の特攻（万世・知覧） 6. 朝鮮ジェノサイド（四国） 7. 総督府官僚たち 8. 松代大本営（長野） 9. 端島（軍艦島、長崎） 10. 沖縄（その1） 11. 沖縄（その2） 12. 天皇の逝く国で 13. 平田オリザ『ソウル市民1919』 14. 朝鮮植民地支配と劇映画 15. まとめのディスカッション （授業内容は順番が前後することがあります）

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクストを十分に予習し、また背景となる歴史や社会状況について調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。 授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。
テキスト	伊藤智永『忘却された支配：日本のなかの植民地朝鮮』（岩波、2016）他にプリントを配布します。
参考文献	ノーマ・フィールド（大島かおり訳）『天皇の逝く国で』（みすず書房、2011）ほか、適宜、紹介します。
評価方法	予習復習の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（40%）、毎週のフェイスブックへの投稿（30%）、最終レポート（30%）＊授業はディスカッション型で、積極的な参加が求められます。

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義（シティズンシップ教育論)）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
シティズンシップ教育とは、citizenship（市民性)、すなわち、市民社会の一員としての知識、技能、態度や価値観を育む教育のことです。「主権者教育」と呼ばれることもあります。もっとも、そもそも「市民性」とは何かについては議論のあるところですし､主権者教育と同じなのかについても議論があります。さらには、法教育との関係も問題となります。それらの点も含めて、この授業では、シティズンシップ教育とは何か、どうあるべきか、その教育方法などについて、協同学習の手法の１つである「ＬＴＤ話し合い学習法」により学習していきます。そのうえで、最終的には、受講者が協同して、中学３年生生向けのシティズンシップ教育用教材（１時限分）を作成することを目指します。 第１回のオリエンテーションでは、授業の目的と概要、成績評価の方法などについて詳しく説明します｡受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第１回目のオリエンテーションに出席して､どのような授業か理解したうえで履修してください。	1. オリエンテーション 2. グループ分け、ＬＴＤを支える教育理論と技法 3. 予習及びミーティングの解説と練習 4. ＬＴＤウォーミングアップ（練習用教材使用） 5. ＬＴＤ（短縮型）（シティズンシップ教育論①） 6. ＬＴＤ（１）（シティズンシップ教育論②） 7. ＬＴＤ（１）の振り返り 8. ＬＴＤ（２）（シティズンシップ教育の課題） 9. ＬＴＤ（２）の振り返り 10. ＬＴＤ（３）（シティズンシップの授業） 11. シティズンシップ教育用教材作成（その１） 12. シティズンシップ教育用教材作成（その２） 13. シティズンシップ教育用教材作成（その３） 14. 教材発表会（受講者作成教材による模擬授業） 15. 授業全体のまとめと振り返り、ラーニング・ポートフォリオについて説明

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修では、ＬＴＤの方法に従って、教材となる文献につき予習ノートを作成します。事後学修では、授業でのＬＴＤミーティングの結果を受けてノートを整理します。また、教材作成では、素材の選定や原案の作成、発表会の準備などを授業外で行うことがあります。
テキスト	教材は、必要に応じてその都度配布します。
参考文献	ＬＴＤ話し合い学習法について予め知りたい人は、安永悟・須藤文『ＬＴＤ話し合い学習法』（ナカニシヤ出版、2014 年）を参照してください。
評価方法	出席率、宿題提出率、教材作成・模擬授業への参加の有無、及びラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の採点結果の組み合わせによって評価しますが、評価基準は、複雑でこの欄に書き切れないため、第 1 回目のオリエンテーションで説明します。

09 年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など）、航空事業、クルーズ事業のビジネスの現状と課題について学習する。 講義概要： 　旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらにオンライン旅行市場について学習する。宿泊産業においては、ホテル、旅館のビジネスの概要及び課題、さらに将来について学習する。航空事業、及び大きく成長しているクルーズ事業においては、最近の動向を中心に学習する。最後の「プレゼンテーション」では、各産業への提案を各自パワーポイント使用によって行う。	１．オリエンテーション ２．旅行産業について（１） ３．オンライン旅行市場 ４．旅行産業について（２） ５．ホテル、旅館等宿泊産業について（１） ６．ホテル、旅館等宿泊産業について（２） ７．ツーリズム産業におけるキャリアデザイン ８．ディスカッション（テーマ：各産業の課題等） ９．航空事業の最近の動向 １０．クルーズ事業の最近の動向 １１．プレゼンテーション① １２．プレゼンテーション② １３．プレゼンテーション③ １４．プレゼンテーション④ １５．講義全体の“まとめ”

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞や関連文献から各産業の最近の動向を事前に調べておくこと。講義内容の復習。
テキスト	適宜個別資料を配布する。
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）
評価方法	受講姿勢、発言、講義参画７０％、プレゼンテーションとレポート３０％

09 年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
オルタナティブ・ツーリズムとは、観光の大衆化（マス・ツーリズム）がもたらす様々な弊害(生活文化の形骸化や自然環境の破壊、新植民地主義等)を克服するために登場した「新しい」観光開発の理念です。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれた歴史的・社会的背景について概説します。その上で、エコツーリズムやコミュニティ・ベース・ツーリズム、場所性を取り入れたリゾートなどのオルタナティブな観光実践の現状について、主に文化人類学や社会学などの視点から検討し、その可能性について考えます。 本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたいと思います。その際に扱う事例としては、東南アジアをはじめとする「第三世界」や、先住民族や少数民族などの「第四世界」的状況の事例が中心となります。	1. 趣旨説明 2. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） 3. 場所性の商品化―アマンリゾーツの戦略 4. 環境主義の商品化―エコリゾート 5. 世界遺産と観光1―ラオス・ルアンパバンの事例 6. 世界遺産と観光2―中国・麗江の事例 7. 貧困の商品化―都市貧困とツーリズム 8. バックパッカーの歴史と現状 9. 先住民とアート―北米イヌイットの事例 10. 先住民とミュージアム―アイヌの事例 11. エコツーリズムと先住民1 12. エコツーリズムと先住民2 13. コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光 15. まとめ

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。
テキスト	特に定めない。
参考文献	『観光学キーワード』（有斐閣）、『よくわかる観光社会学』（ミネルヴァ書房）等。
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

09 年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	中野　美季

講義目的、講義概要	授業計画
始めに、味わうという行為を五感の仕組みから把握します。次に食の文化的側面についてイタリアをフィールドに考察します。イタリアにおける食の位置づけ、伝統食品の知恵、食の地域性と郷土料理について、写真資料とともに概観します。講義の参加者数、進度によりシラバスに記載の内容・順序は変更されます。	１．　講義の概要 ２．　食と五感１ ３．　食と五感２ ４．　おいしさとは何か ５．　イタリアの味覚教育 ６．　イタリアにおける食 ７．　生産物認証制度 ８．　伝統食品１ ９．　伝統食品２ １０．伝統食品３ １１．郷土と食１ １２．郷土と食２ １３．郷土と食３ １４．郷土と食４ １５．まとめと試験対策

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回リアクションペーパーを提出する
テキスト	定めない
参考文献	適宜紹介する
評価方法	定期試験（50%）、学期中課題（50%）

13 年度以降 12 年度以前	交流文化論（地域開発論） 交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	中野　美季

講義目的、講義概要	授業計画
「食と農によるイタリアの地域振興」 食と農を軸に近年のイタリアの地域振興を概観します。農業の持つ多面的機能を活かしたイタリア農村における経営多角化（アグリツーリズモ、教育農場、社会的農業)、スローフード運動、イタリアの地産地消、新たなフードネットワーク等、近年見られる地域性へと向かう動きを考察します。講義の参加者数、進度によりシラバスに記載の内容・順序は変更されます。	１．　講義の概要 ２．　イタリアの概要 ３．　イタリアの地域性 ４．　EUとイタリア ５．　イタリアの都市と農村 ６．　農業の多面的機能１（アグリツーリズモ） ７．　農業の多面的機能２（食育と教育農場） ８．　農業の多面的機能３（社会的農業） ９．　スローフード運動 １０．イタリアの社会的経済 １１．イタリアの地産地消１ １２．イタリアの地産地消２ １３．フードネットワーク１ １４．フードネットワーク２ １５．まとめと試験対策

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回リアクションペーパーを提出する
テキスト	定めない
参考文献	適宜紹介する
評価方法	定期試験（50%)、学期中課題（50%）

13 年度以降 12 年度以前	交流文化論（ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論）） 交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム）」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。 「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」や「観光くにづくり（観光立国）」のシンボルにもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的発展や地域再生などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を根本から造り替えたりすることがあります。 ここでは担当者が研究しているグアム、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性とメカニズムを検討します。	1. ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係 2. グアムから考える①：かつてグアムは日本の島だった 3. グアムから考える②：ツーリズムとメディアの「節合」 4. グアムから考える③：「日本人の楽園」が埋立てた記憶 5. 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする 6. ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック 7. ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化 8. ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者 9. 理論編②：真正性とアーティキュレーション 10. メディア・ツーリズム①：観光地とメディア 11. メディア・ツーリズム②：映画観光の特徴 12. メディア・ツーリズム③：「歴史」の観光資源化 13. 理論編③：複製技術時代の真正性と観光 14. 理論編④：メディア・ツーリズムのメカニズム 15. まとめ

到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。
テキスト	各回講義で適宜提示します。
参考文献	各回講義で適宜提示します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

外国語学部共通科目シラバス

08 年度以降	総合講座	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
人は何かが見えているとき、本当に何かを見ているのであろうか。何かが見えていることは純粋に世界の何かを経験していると疑いなく言えるのであろうか。見る以前に見るべきモノやコトが客観的にあると言えるのだろうか。何が人に、＜見える＞という経験を確信させるのであろう。その経験の明証性はどこからくるのであろうか。 これらの問いは、我々にとって＜見える＞という事実が自明であることから生じているようである。本講義では、このあまりに自明な＜見える＞という経験を問い直し、見えるという経験がいかに可能となるのかを考えてみたい。 どのように＜見える＞のか、どのように見ることが（不）可能になり、何を見ることが許され（ず）、何が強いられるのか。＜見える＞という経験を考察する多様な学問の中で、見ることをより根本的な仕方で捉え直す様々な視点を本講義で提示してみたい。 ＜見える＞という視覚経験は人間のさまざまな営みから形成される。化学や文学、芸術や文化、哲学や思想、メディア論やコミュニケーション論などの様々な学問のアプローチから、様々な＜見える＞ことの事例と共に、それらの事例に考察される＜見える＞とは何かを、講師がそれぞれの立場で講義していく。	1．イントロダクション ——「＜見える＞を問い直す」開講にあたり（柿田秀樹） 2．「パブリック・スクリーン」時代の視覚文化（菅野　遼） 3．空からパリを撮る——ナダールの写した19世紀（福田美雪） 4．ポスト写真時代のリアリティ： タッチパネル・スクリーンショット・ゲーム（松本健太郎） 5．「見る」と「観る」のメディア社会学（山口誠） 6．（暗室）箱の中の手——デヴィッド・ホックニーの逆遠近法（柿田秀樹） 7．像を拝むときひとは何を拝んでいるのか いくつかの事例から（森元庸介） 8．戦争と作家：ヴァージニア・ウルフの『三ギニー』を中心に（片山亜紀） 9．「能」における「見る・見えるもの」（柿沼義孝） １０．神の見え方を問い直す——宗教改革と聖画像の問題（青山愛香） １１．精神分析から「見える」を問い直す（若森栄樹） １２．ソマトフォビアと異性愛中心主義 —ホロコースト博物館の髪の毛展示論争から—（藤巻光浩） １３．視覚の文法—ヒトの脳は世界をどう表現するか—（安井美代子） １４．我々が知覚する世界はリアルと言えるか —プラトンの「イデア」をめぐって（M. ビティヒ） １５．まとめ（柿田秀樹）

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義の後で、授業やプリント等で紹介された文献を読み、関心を持ったテーマについて自分で調べて理解を深めてほしい。 必要な場合、事前の読書課題があるかもしれない。
テキスト	テキストは授業内で適宜指示する。
参考文献	参考文献は授業内で適宜指示する。
評価方法	各講義後コメントペーパーを試験解答として提出するため、出席と講義の内容の復習が不可欠である。 ７５分の講義の後、担当の先生の各テーマについて１５分ほどのテストを毎回行う。このテストをもとに成績を評価する。

09 年度以降	総合講座	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
「フィールドワーク」とは、研究対象が存在する環境の中で、研究者自身によって行われる実際的作業のことである。実験室や研究室ではなく、現場にある資料・データなどの調査や探索である。現場は大都市中心部、小部族の集落、会社、バスターミナルかもしれない。フィールドワーク作業は、対象への面談や観察を通しての人類学的・社会学的データの収集、対象言語の記述を目的としたデータ収集、あるいはアーカイブにある史料の書き写しなど実にさまざまである。人類学、社会学、言語学、民俗学、政治学、美術史学など広範囲の分野の研究者がフィールドワークを行う。フィールドワークは研究過程の中でもっとも興味深く価値ある部分であり、研究において、方法論的、創造的に研究の翼を広げ、独創的要素と経験的信頼性を証明できる機会である。 本講義では、さまざまな分野の研究者が実際に行ったフィールドワークについていろいろな角度から論じる。	1. 「フィールドワークの実践」開講にあたって（A. ゾーリンジャー） 2. 歩いて学ぶニューヨーク：パブリック・メモリーの考察（板場良久） 3. 未定（金井満/黒子葉子） 4. Research Interviews and Knowledge (Re)Production（工藤和宏） 5. 関わりながら知ること—民俗芸能の伝承と企業活動をめぐるフィールドワークの実践（鈴木涼太郎） 6. Gaining Access: More Than Just Walking Through the Door（E. 本橋） 7. 脆弱国家支援の考察—シエラレオネ（佐野康子） 8. From Classrooms to Cities: Adventures in Data Collection and Fieldwork（J. N.ウェンデル） 9. ことばを守るということ（田中善英） 10. ドイツ現代史とフィールドワーク —東ドイツ史研究の事例から（伊豆田俊輔） 11. 農村調査—フィリピンの農村でのフィールドワークの実践を中心に（堀芳枝） 12. 民俗学のフィールドワーク…民間の伝統的習俗（行事・祭礼・生活等）の調査と観察（飯島一彦） 13. 本ではわからない福祉の現場（尾玉剛士） 14. ドイツでの企業調査からの教訓（大重光太郎） 15. まとめ（A. ゾーリンジャー）

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布プリントや授業内で紹介された参考文献をもとに自分が関心を持ったテーマを調べ理解を深める。
テキスト	授業内で適宜指示する。
参考文献	授業内で適宜指示する。
評価方法	期末テストは行わず、毎回提出するコメントペーパーで評価する。

09 年度以降	総合講座	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
鍵盤音楽史① 　いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら音楽の歴史をたどっていく授業です。2018年度は、鍵盤楽器（ピアノ、オルガン、チェンバロ等）のための音楽に注目します。春学期は、古代から18世紀半ば頃までの音楽を扱う予定です。映像資料が少ないため、CD等の録音で鑑賞することが多くなると思いますが、ご了承ください。2015～2017年度に総合講座（西洋音楽史）を履修した方の重複履修も可能です。 ◇一度、外部講師による楽器説明の回を設ける予定です。 ◇注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。音楽の専門的な知識は必要ありませんが、楽譜を用いて説明することがありますので、予め了解しておいてください。	1. 導入・概観、評価方法の説明等 2. 鍵盤楽器について 3. 鍵盤楽器について、14～16世紀の鍵盤音楽 4. 16～18世紀のイベリア半島とイタリアの鍵盤音楽 5. 16～18世紀のイギリスの鍵盤音楽 6. 17～18世紀のフランスの鍵盤音楽 7. スウェーリンク、17世紀北ドイツの鍵盤音楽 8. 17世紀南ドイツの鍵盤音楽 9. J.S. バッハの生涯と鍵盤音楽 10. J.S. バッハのオルガン音楽 11. J.S. バッハのクラヴィーア音楽 12. J.S. バッハの鍵盤楽器を含む室内楽曲等 13. バッハの息子たちの世代 14. ハイドン 15. まとめ・授業内試験

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり（図書館 HP から「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を利用）、文献を読んだりしてください。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』や『ニューグローヴ世界音楽大事典』等を参照してください。
評価方法	授業への参加度 30%、試験 70%。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が評価の前提です。

09 年度以降	総合講座	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
鍵盤音楽史② 　いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら音楽の歴史をたどっていく授業です。2018年度は、鍵盤楽器（ピアノ、オルガン、チェンバロ等）のための音楽に注目します。秋学期は、18世紀後半から現代までの音楽を扱う予定です。春学期の内容を踏まえての授業になりますので、ご了承ください。2015～2017年度に総合講座（西洋音楽史）を履修した方の重複履修も可能です。 ◇注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。音楽の専門的な知識は必要ありませんが、楽譜を用いて説明することがありますので、予め了解しておいてください。	1. 18世紀中頃までの鍵盤音楽 2. モーツァルトの鍵盤音楽 3. ベートーヴェンの鍵盤音楽 4. シューベルトのピアノ音楽 5. 19世紀のピアノ音楽概観 6. ６ショパンのピアノ音楽 7. メンデルスゾーン、シューマンの鍵盤音楽 8. リスト、ブラームスのピアノ音楽 9. 国民楽派のピアノ音楽 10. ロシアのピアノ音楽 11. 1750年以降のオルガン音楽 12. 19世紀後半～20世紀のピアノ音楽 13. 20世紀のピアノ音楽 14. チェンバロの復興、20～21世紀のチェンバロ音楽 15. まとめ・授業内試験

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり（図書館 HP から「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を利用）、文献を読んだりしてください。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』や『ニューグローヴ世界音楽大事典』等を参照してください。
評価方法	授業への参加度 30%、試験 70%。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が評価の前提です。

09 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度情報化社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（1）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（2）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（3）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。さらに、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1. 講義の概要、データ表現、基数変換、論理演算 2. オペレーティングシステム（OS） 3. データ構造―リスト、スタック、キュー、2分木 4. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 5. プログラム言語 6. プログラミングの仕組み 7. コンピュータの構成要素 8. 自然言語とは 9. コンピュータによる言語情報処理技術（1） 10. コンピュータによる言語情報処理技術（2） 11. 人工知能と言語処理 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ

到達目標	コンピュータの基礎理論およびコンピュータ言語に関する知識を習得し、コンピュータの基本的操作ができるようになる。
事前・事後学修の内容	テキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。
テキスト	学内ネットに開示するテキストを使用します。
参考文献	特にありません。
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%です。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［総合］	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［総合］	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［英語］	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［英語］	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［ヨーロッパ言語］	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習）［ヨーロッパ言語］	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要： この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、ExcelおよびPowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要： この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際の発表（質疑応答も含む）を通じて、「わかりやすいプレゼンテーションとは何か」を考えていく半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、課題（演習）が締め切り日までに提出されなかったり、また提出はあっても、発表の準備をしていない場合は、実際の発表ができません。	1. ガイダンス 2. 基本知識と操作の確認 3. プレゼンテーションとは 4. スライドの作成法(1) 5. スライドの作成法(2) 6. 演習１：時間の意識 7. 発表(1) 8. 発表(2) 9. 演習２：配布資料の利用 10. 発表(1) 11. 発表(2) 12. 演習３：「言葉」の定義 13. 発表(1) 14. 発表(2) 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。
参考文献	随時紹介。
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 演習（作成・発表・振り返り）90%、平常点（練習問題等）10%。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。
テキスト	担当教員より指示する。
参考文献	担当教員より指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（Office 中級）	担当者	松山　恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、WordおよびExcel、PowerPointについて、より広い知識と活用法の習得を目的とする半期完結授業である。 個々のソフトの基本的操作だけでなく、ソフトの連携による活用ができる力を養成することを目的とする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 Word、Excel、PowerPointの基本を習得していることが望ましいが、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	１．　講義のガイダンス・基本操作の確認 ２．　Wordの基本操作の確認 ３．　Excelの基本操作（セル参照・関数）の確認（１） ４．　Excelの基本操作（関数・入力規則）の確認（２） ５．　Excelの基本操作（グラフ・抽出）の確認 ６．　WordとExcelの連携処理（１） ７．　WordとExcelの連携処理の確認テスト ８．　データベースの準備・作成 ９．　PowerPointの基本操作の確認 １０．フィルタによるデータ抽出 １１．プレゼンテーション資料作成（１） １２．プレゼンテーション資料作成（２） １３．プレゼンテーション実習（１） １４．プレゼンテーション実習（２） １５．レポートへのまとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の進行により随時指示する。
テキスト	『情報活用法とアカデミック・スキル』（共立出版株式会社、2018 年）
参考文献	授業中に紹介
評価方法	確認テスト 30%、授業内課題 20%、レポート 30%、プレゼンテーション実習 20%

09 年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML 初級）（月 5）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際のWebページの作成を通じて、Webページの仕組みとインターネットにおける情報の発信、著作権等について学んでいく半期完結授業である。 まず、コンピュータとネットワークの基本構成、ファイル・フォルダ・ドライブといったコンピュータに関する基本知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである「WWW（World Wide Web)」における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML（Hyper-Text Markup Language)」を学ぶ。更に自分自身のWebページ（ホームページ）も作成する。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 コンピュータの言語（Language）を習得するには、外国語を習得するのと同様に、「繰り返し（復習)」が極めて重要です。	1. ガイダンス 2. 基本知識と操作の確認、情報倫理 3. Webページとは、著作権 4. 文字中心のページ、リンク 5. 画像(1) 6. 画像(2)、表 7. FTP 8. 課題(1) 9. 課題(2) 10. 小鑑賞会、企画書の作成 11. CSS 12. 総合課題(1) 13. 総合課題(2) 14. 作品紹介のプレゼンテーション 15. 鑑賞会・まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。
参考文献	随時紹介。
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題（作品）40%、平常点（課題、著作権のレポート等）60%。

09 年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML 初級）（木 4）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際のWebページの作成を通じて、Webページの仕組みとインターネットにおける情報の発信、著作権等について学んでいく半期完結授業である。 まず、コンピュータとネットワークの基本構成、ファイル・フォルダ・ドライブといったコンピュータに関する基本知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである「WWW（World Wide Web)」における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML（Hyper-Text Markup Language)」を学ぶ。更に自分自身のWebページ（ホームページ）も作成する。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 コンピュータの言語（Language）を習得するには、外国語を習得するのと同様に、「繰り返し（復習)」が極めて重要です。	1. ガイダンス 2. 基本知識と操作の確認、情報倫理 3. Webページとは、著作権 4. 文字中心のページ、リンク 5. 画像(1) 6. 画像(2)、表 7. FTP 8. 課題(1) 9. 課題(2) 10. 小鑑賞会、企画書の作成 11. CSS 12. 総合課題(1) 13. 総合課題(2) 14. 作品紹介のプレゼンテーション 15. 鑑賞会・まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。
参考文献	随時紹介。
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題（作品）40%、平常点（課題、著作権のレポート等）60%。

09 年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML 中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、「情報科学各論（HTML初級)」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「HTMLを用いたWebページ作成技術を習得した人（FTPの理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページの作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 まず、コンピュータとネットワーク（インターネット）の基礎知識の確認、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意：授業内容や評価方法等を詳しく説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。原則として、HTML初級を履修済みであること。プログラミングの授業なので、特に欠席や遅刻はしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 抽象度が高いので、準備と復習をしっかり行い、こまめにメモを取ることが必須です。	1. ガイダンス 2. HTMLとFTPの復習(1) 3. HTMLとFTPの復習(2) 4. インタラクティブなページとは 5. プログラミングの基礎知識 6. JavaScript(1) 7. JavaScript(2) 8. JavaScript(3) 9. JavaScript(4) 10. JavaScript(5) 11. CGIの利用 12. 総合課題(1) 13. 総合課題(2) 14. 総合課題(3) 15. 鑑賞会・まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。
参考文献	随時紹介。
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題（作品）70%、平常点（課題等）30%。

09 年度以降	経済原論 a	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動①－効用の概念と予算制約 3. 家計の行動②－効用最大化 4. 家計の行動③－消費者余剰の概念 5. 企業の行動①－生産技術の決定 6. 企業の行動②－費用曲線と利潤最大化 7. 企業の行動③－生産者余剰の概念 8. 市場価格の決定 9. 不完全競争市場 10. 厚生経済学の基本定理 11. 市場の失敗 12. 所得分配の決定 13. 政府の役割①－規制および補助金政策 14. 政府の役割②－租税政策 15. まとめ

到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。
テキスト	特に指定しない。
参考文献	初回の講義にて紹介する。
評価方法	定期試験の成績（80%）に授業内での小テストの結果（20%）を加味して評価する。

09 年度以降	経済原論 b	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 企業投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. 財政政策の有効性 9. 金融政策の有効性 10. 国際収支と為替レートの決定要因 11. 開放マクロ経済下での経済政策 12. 公債発行と財政赤字 13. 経済成長の決定要因 14. 日本の公的債務と経済成長 15. まとめ

到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。
テキスト	特に指定しない。
参考文献	初回の講義にて紹介する。
評価方法	定期試験の成績（80%）に授業内での小テストの結果（20%）を加味して評価する。

09 年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず，他者と関わりを持ちながら生きている。その中で，他者から影響を受け，そして他者に影響を与えている。つまり，人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a，bでは，日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ，社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学aでは，個人の心の働きに主に焦点を当てる。	1. イントロダクション -「社会心理学」講義の前に 2. 社会心理学の概要 3. 社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4. 社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5. 社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6. 社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団からうまれる 7. 自己(1)：自分はどんな人間か 8. 自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9. 態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10. 社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11. 社会的影響(2)：規範的影響と情報的影響 12. 社会的影響(3)： 「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13. 社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14. まとめと振り返り 15. 社会的影響(5)：人間の力

到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回，事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について，授業後に自らの答えを出してくること。
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	亀田・村田『複雑さに挑む社会心理学（有斐閣，2000; スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』（新曜社，2017）
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 60%，その他 10%で評価する。なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

09 年度以降	社会心理学 b（金２）	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず，他者と関わりを持ちながら生きている。その中で，他者から影響を受け，そして他者に影響を与えている。つまり，人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a，bでは，日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ，社会心理学的に解釈していく。特に社会心理bでは，主に個人と社会との間の相互作用や，社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。	1. イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2. コミュニケーション(1)： 言語的・非言語的コミュニケーション 3. コミュニケーション(2)： コミュニケーションと対人行動 4. コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5. ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6. ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7. ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8. 信頼社会と安心社会 9. 社会的感情(1)：互恵性を生み出す感情～感謝 10. 社会的感情(2)：表情と感情 11. 社会的感情(3)：生死を分ける感情 12. 健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論 13. 健康行動と社会心理学(2)：感染予防のための挑戦 14. まとめと振り返り 15. 社会心理学の未来

到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回，事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について，授業後に自らの答えを出してくること。
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	亀田・村田『複雑さに挑む社会心理学（有斐閣，2000; スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』（新曜社，2017）
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 60%，その他 10%で評価する。なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

09 年度以降	社会心理学 b（金３）	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず，他者と関わりを持ちながら生きている。その中で，他者から影響を受け，そして他者に影響を与えている。つまり，人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a，bでは，日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ，社会心理学的に解釈していく。特に社会心理bでは，主に個人と社会との間の相互作用や，社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。	1. イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2. コミュニケーション(1)： 言語的・非言語的コミュニケーション 3. コミュニケーション(2)： コミュニケーションと対人行動 4. コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5. ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6. ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7. ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8. 信頼社会と安心社会 9. 社会的感情(1)：互恵性を生み出す感情～感謝 10. 社会的感情(2)：表情と感情 11. 社会的感情(3)：生死を分ける感情 12. 健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論 13. 健康行動と社会心理学(2)：感染予防のための挑戦 14. まとめと振り返り 15. 社会心理学の未来

到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回，事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について，授業後に自らの答えを出してくること。
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	亀田・村田『複雑さに挑む社会心理学（有斐閣，2000; スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』（新曜社，2017）
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 60%，その他 10%で評価する。なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

シラバス 英語学科

2018年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042　埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048-946-1656

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	